

役一者。以故出入罪論。云云。(卷二) (十二)

【頂戴】(一)禮裝、敬禮ノ義ニ用フ。梁武帝、文「頂戴奉持。終不捨離。」トアルハ其一例ナリ。(二)官吏ノ徽章ヲ曰フ。(三)清代ニハ官吏ノ帽頂ニ珠玉金石ヲ附シテ其品級ヲ區別ス之ヲ稱シテ「頂戴」ト曰フ。珊瑚、琥珀、青金石、水晶、碾碾、金ノ別アリ。

【頂馬】前驅ノ馬ヲ謂フ。【隨園隨筆】「今貴人街行。前有二騎馬者一二人。號稱頂馬。按三國語。越王勾踐親爲吳王前馬。前馬者。即今頂馬矣。」

【頂冒】法規ニ反シテ他人ト私ニ相約シ互ニ他人ノ名義ヲ利用スルコトニテ、例セバ牙行(間騙)ノ如キハ法律上私ニ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ。然ルテ私ニ甲乙間ニ於テ相約シ名義ヲ代ヘテ之ヲ利用スルノ類ナリトス。

【住】(部)首(遇)韻

【住址】住所ト云フニ同ジ。【政刑大觀】「盜犯總單。查其年親住址。最宜詳注。」

【住俸】(住)官吏ガ丁憂(父母ノ喪中)又ハ公務上ノ過失ニ因リテ處分セラレタル場合ニ其期間内、俸給ノ支給ヲ停止スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「官吏或丁憂。或別項處分。則核計其間缺之日。爲止停給俸銀。」

【柱】(部)首(遇)韻

【柱下史】周代ノ官名、史ヲ司ドルコトヲ任トス。老聃嘗テ「柱下史」ト爲ル。漢張蒼秦時ニ在リテ嘗テ柱下史タリ。柱下ハ殿柱ノ下ニ侍立スルニ因リテ名ヅク、即チ漢代ノ「侍御史」ナリ。【漢官儀】「侍御史爲柱下史。」

【柱後】柱後惠文冠ノ略ナリ。(冠)見ヨ

【柱後惠文冠】法官ノ用フル冠、故ニ法官ノ稱トス。漢蔡邕撰「獨斷」「柱後惠文冠。云云。【大學衍義補】丘濬曰「後世乃謂。儒生迂拘。止通三經術。而不不知法意。應有刑獄之

事。止任柱後惠文冠。而冠三章甫。衣三經被一者無與焉。」(卷百)是レ後漢ヨリ陳ニ至ル時代法官皆之ヲ冠ス。唐ニ至リ一角ヲ用キ鬚鬚ノ形ト爲シ之ヲ「鬚冠」ト謂フ。御史臺、監察以上之ヲ用フ。

【柱工】漢代、華蓋ノ柱ヲ作ル工人ナリ。【漢書】「禮樂志」柱工員二人。註「柱工。主華蓋之柱。」

【柱國】官名、上柱國ニ同ジ。戰國時代ヨリ起ル。後世ハ勳官ト爲ス。(柱)見ヨ

【柱史】老聃、周ノ「柱下史」ト爲ル。故ニ御史ヲ「柱史」ト稱ス。一説御史ノ冠ハ轂ヲ以テ梁柱ト爲ス。故ニ名ヅク。(文獻)通考

【柱石】國家ノ大臣ガ國ノ重任ヲ負フコト、猶ホ柱ノ梁ヲ支持シ石ノ柱ヲ承クルガ如キニ譬フ。【漢書】霍光傳「將軍爲二國柱石。」

【註考】或ル官衙ノ長官ガ、其部員屬官ノ勤惰ヲ考察シテ勤惰簿ニ記入スルコトヲ謂フ。

濟會典吏部、凡京察堂官察其屬之職。而註考焉。

【註册】官廳ニ備フル戶籍簿ヲ謂フ。

【註鎖開復】先キニ連帶罪ニ付セラレタル官吏(微根ニカメザ)後ニ租稅ノ徵收ニ努メテ功アルトキハ、册ニ記入セル罪ヲ取消シテ、原官ニ復スルコト、之ヲ「註鎖開復」ト謂フ。【六部成語註解】「先經帶罪之員。從來徵收有レ功。則將册上之罪註鎖。仍復其原官。」

【註疏】本文既ニ解釋アリ、之ヲ「註」ト爲ス。更ニ其上解釋ヲ加ヘテ之ヲ贊否シ又ハ補充スルヲ「疏」ト爲ス。註疏トハ二者ヲ合シタルモノ、即チ「十三經註疏」ノ如キハ之ヲ事實ノ上ニ示スモノナリ。

【誅】(部)首(虞)韻
【誅】(一)誅字ノ本義ヨリ言ヘバ或者ガ國事ニ關スル大罪ヲ犯シタルトキ、其一門ノ者ヲ殺スコトヲ謂フ。【釋名】「罪及三餘人。曰誅。」

誅。株也。如三株木根枝葉盡落也。トアルハ是ナリ。(二)答メ責ムルノ義ナリ。【論語】雍也篇「於予與。何誅。其他此類多シ。」

【誅夷】誅ハ罪ノ一門ニ連ナルコト、夷ハ殺ノ九族ニ及ブコトヲ謂フ。(文卷四)

【誅求】租稅ヲ苛酷ニ取立ツルコトヲ謂フ。【左傳】襄公三十一年「誅求無時。是以不取寧居。」云云。

【誅賞】一定ノ時期ニ於テ官吏ノ行績ヲ調査シ、功アル者ハ之ヲ賞シ功ナキ者又ハ不行績ノ者ハ之ヲ責罰スルコトヲ謂フ。今ノ官吏法ノ「賞罰」ト曰フニ當ル。【周禮】大宰之職「三歲。則大計群吏之治。而誅賞之。」後漢書「陳忠傳」選舉誅賞。一由「尚書」。

【誅逐】其罪ヲ責メテ國外ニ放逐スルコトヲ謂フ。【漢書】董仲舒傳「堯舜誅逐亂臣。務求賢聖。是以衆聖輔德。賢能佐職。教化大行。天下和洽。」

トヲ謂フ。【爾雅】高祖紀「以ニ上天之靈。助ニ勸定之力。便可ニ出師授律。應レ機誅殄。」

【誅放】其罪ヲ責メテ之ヲ放逐スルノ義ナリ。【書經】放逐爲「桀」惡自棄。故誅放。

【誅伐】國家ノ兵力ヲ以テ不法ヲ責メテ之ヲ伐ツコトヲ謂フ。【史記】律書「刑罰不レ可レ損。子國。誅伐不レ可レ假。于天下。」

【誅罰】此處ノ誅ハ責ムルノ義、國禁ヲ犯シタル罪ヲ責メテ之ヲ罰スルノ義ナリ。【周禮】「犯レ禁者。執而誅罰之。」

【駐】(部)首(遇)韻
【駐】駐ハ車馬ヲ停止スルノ義、延テ停留スルモノ皆駐ト曰フ。駐使「駐防」皆是ナリ。
【駐罕】天子ノ駕ヲ停ムルコトヲ謂フ。【王融文】「爾乃迴輿駐罕。云云。註「天子行有ニ駐

シ、三ツ「視」賦役薄厚「以稽」廉冒。ト爲シ
四ツ「視」案籍煩簡「以稽」聽斷。ト爲シ、五
ツ「視」囚繫盈虛「以稽」決滯。ト爲シ、六ツ
「視」盜盜有無「以稽」禁禦。ト爲シ、七ツ
「視」選舉衆寡「以稽」風光。ト爲シ、八ツ「視」
學校興廢「以稽」教導。ト爲ス。

(三)三科 一ツ茂才(秀才)ト爲シニツ賢良
ト爲シ三ツ幹蠱(賢能)ト爲ス。

(四)四賦 一ツ問「稼以養」稅ト爲シニツ
「度」產以養(差)征。ト爲シ三ツ「料」丁
壯「以計」庸。ト爲シ四ツ「占」商賈「以均」
利。ト爲ス。

(五)六德 一ツ「敬老」ト爲シニツ「慈幼」ト爲
シ三ツ「救」疾「ト爲シ」四ツ「恤」孤「ト爲シ」五
ツ「賑」貧窮「ト爲シ」六ツ「任」失業。ト爲
ス。

(六)五要 一ツ「廢」兵之冗食。ト爲シニツ
「獨」法之撓人。ト爲シ三ツ「省」官之不。急
ト爲ス、四ツ「去」物之無用。ト爲シ五ツ

「罷」事之非「要」ト爲ス。(大學衍義
補卷十九)

儲蓄(部首)(魚) 備荒儲蓄ノ義ナリ。【鹽鐵論】「豐年歲
登、則儲積以備」之絶。

儲蓄(部首)(魚) (一)婢僕ナリ。【尚書大傳】「愛」其人
者。愛「其」屋上之烏。憎「其」人。憎「其」儲蓄。

(二)儲蓄ノ義ナリ。【揚雄、賦】「木」擄「積」累「以爲」
儲蓄。(三)御苑ノコトヲ曰フ。【康熙字典】「儲
蓄」言「御苑」也。

儲蓄(部首)(魚) 儲蓄、時ハ備フルナリ。即チ穀物
其他ノ財物ヲ貯藏スルノ義、後世ノ倉庫ハ之
ヨリ出ツ。【晉書】刑法志、賊律、有「儲蓄」不
辨。是レハ漢律賊律篇内ニ「儲蓄」不辨ノ條
項アリタルコトヲ指ス。儲蓄不辨トハ倉庫
ノ官吏ガ倉庫ノ辦理ヲ失スルノ謂ナリ。

儲蓄不辨(部首)(魚) (前條ヲ
見ヨ)

儲蓄不辨(部首)(魚) (又「儲蓄」
ノ義)

儲蓄不辨(部首)(魚) 種種ノ意義アルモ本書ト密接ノ關係ア
ラズ

儲蓄不辨(部首)(魚) 種種ノ意義アルモ本書ト密接ノ關係ア
ラズ

ルモノヲ擧グレバ(一)晉、竹豫ノ切「チヨ」シナ
ルトキハ擧(アラハシ)又ハ著述ノ義ナリ。

【漢書】景帝紀「廷尉與丞相議著令。其註
「著」者作之著ノ類ナリ。(二)晉、直業ノ切
「チヤク」ナルトキハ命令ノ義ナリ。(例各部散
見)

著爲律(部首)(魚) (著シテ律)著ハ擧ノ義(命令ノ
キルトキハ晉)即チ前代ノ君主ニ於テ是ト爲
「チヤク」ナリ(即チ前代ノ君主ニ於テ是ト爲
ス所ノモノハ之ヲ擧シテ刑律ト爲シ後世子
孫ヲシテ遵奉セシムルノ謂ナリ。【史記】杜周
傳「周爲廷尉、其治大傲、張湯、而候、何上所
欲、擧者、因而陷之。上所「欲」釋者、久繫待
問。而微見「其」冤狀。客有「讓」周曰、君爲天子
決「平」。不「循」三尺法。專以「人」主意指「爲」獄。
獄者因如「是」乎。周曰、三尺安出哉。前主爲「是」
著爲「律」。後主所「是」。疑爲「令」。當時爲「是」。何古
之法乎。【唐律疏議卷
一】一名例參照)

著爲令(部首)(魚) (著シテ令) 一時的ノ必要ヨリ發シ

著爲令(部首)(魚) (著シテ令) 一時的ノ必要ヨリ發シ

著爲令(部首)(魚) (著シテ令) 一時的ノ必要ヨリ發シ

著爲令(部首)(魚) (著シテ令) 一時的ノ必要ヨリ發シ

著爲令(部首)(魚) (著シテ令) 一時的ノ必要ヨリ發シ

著爲令(部首)(魚) (著シテ令) 一時的ノ必要ヨリ發シ

タル詔勅ニシテ之ヲ永遠ニ存續スルノ必要ア
ルトキハ擧シテ令ニ加ヘ行政法トシテ其效
力ヲ確實ニス之ヲ「著爲令」ト謂フ。漢章帝元
和二年春正月ノ詔「賜」民貽養。著爲令。」
(大學衍義)蓋シ此三字ヲ結尾ニ附スルハ以後
(補卷十三)之ヲ以テ合ト爲スガ故ニ、公事ハ此ニ照シテ
辦理スベシトノ意ヲ示スモノナリ。【皇朝政治
學問答】問何謂「著爲令」。答爲「令爲例也。往
往上述結尾。有「此三字」亦交「派」臣下。以後公
事照「此」辦也。

著作(部首)(魚) 漢代ハ學士ヲシテ國史ヲ撰述セシ
ム。之ヲ「著作」ト曰フ。未ダ專任ノ官ヲ置カ
ズ。儒臣ヲシテ之ヲ兼掌セシム。魏代始メテ
專任ノ官ヲ置ク。之ヲ「著作郎」ト謂フ。【耶
見】但シ一説ニハ專ラ詩文ヲ撰述スル者ヲ「著
作」又ハ「文儒」ト曰ヒ、經書ヲ説ク者ヲ「世儒」
ト爲スト云フ。【論衡】「著作者爲「文儒」。説レ經
者。爲「世儒」。

著作局(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作局(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作局(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作局(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作局(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作局(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作佐郎(部首)(魚) 魏代始メテ「著作郎」及ビ「佐
著作郎」ヲ設ク、宋、齊以來任下ニ遷シテ「著
作佐郎」ト曰フ。其各種文書ノ草案起草ヲ掌ル
コトハ一ナリ。【事物紀原】魏代又置「佐著作
郎」。宋、齊以來遷任於下。曰「著作佐郎」。(五)

著作省(部首)(魚) 漢代ハ東宮(洛陽)圖書ハ總テ東觀
(宮中藏)ニ在リ。學士ヲシテ入直シテ國史ヲ
撰述セシム。之ヲ「著作」ト曰フ。魏代始メテ專官
ヲ置キ「著作郎」ト曰フ。之ヲ「中書」ニ屬セシ
ム。唐ハ改メテ之ヲ「秘書」ニ屬セシム。後ニ
省ヲ置キ之ヲ「著作省」ト謂フ。而モ猶ホ秘書
ニ屬セシメ其專官ヲ「大著作」ト稱シ、專ラ國
史ヲ掌ラシム。唐ハ改メテ「著作局」ト曰フ。宋
元之ニ因ル。明ニ至リテ廢ス。【著作郎」
見ヨ

著作曹郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

著作郎(部首)(魚) (著作郎)ト
見ヨ

人、又、秘書正字等ノ官アリ。唐ハ、著作局ト爲シ亦秘書省ニ屬ス。碑誌祝文祭文等ヲ撰スルコトヲ掌ル。宋ハ初メ兼官ト爲シタルガ元豐、正名始メテ實職ト爲ス。日曆、祭祀、祝辭等ヲ編纂スルコトヲ掌ル。元ハ唐制ニ因リテ著作局ト爲ス。亦秘書監ニ隸ス。(卷三)

【著手】 猶ホ力ヲ用キルト言フガ如シ。晋書「兵威已振。譬如破竹。數節之後。皆迎刃而解。無復著手者。」

【著述】 文章ヲ作り書籍ヲ撰述スルコトヲ謂フ。漢班固撰「答賓戲」一文「永平中爲郎。典校三祕書。專篤志於儒學。以著述爲業。或譏以無功。」

【著淺】 (淺キニ) 河底水淺クシテ船舶ガ砂上ニ著スルコトヲ謂フ。(清律工律篇)

【著落】 (一) 此義ハ既ニ「イ」ノ部「有著之」ニ略述セシガ、單ニ「著落ト云フ」トキハ命令即チ申シ付ケノ義ニ解スルヲ簡ニシテ明ナリトス。【編纂全書】 刊名「進德產變」ノ部「雜物變賣。例著官牙一估值發賣。勅限完價交」

官。其房屋著落該牙行總甲地方召買。田產著落該園里隣召買。但估報之價。不可不昂。云云。(卷二) 蓋シ此場合ハ落ハ助字ト看ルベシ。(二) 租稅ヲ上納スルトキ倉ニ赴キテ租稅ヲ納了スルコトヲ謂フ。(明律卷七、清律條) 物租徠ハ「タシカニ」ト譯ス(明律國條) 邦語ノ著落ト云フニ同ジ。【朱子語錄】「大抵看道理。要看得他八分合。各有著落。方是仔細。」

【家宰】 (部首) (職) 天官ノ長。内ハ百官ヲ統べ外ハ四方ヲ均クシテ天子ヲ輔佐スルヲ職トス。【書經】 周官篇「家宰掌邦治。統百官。均四海。」丘游ハ明代ノ吏部尙書ニ比ス。(大學衍義補卷五)

【家子】 太子、又ハ長子ノ稱トス。【禮記】「家子則太牢。」左傳「閔公二年。太子奉冢祀社稷之粢盛。以朝夕視君膳者也。故曰冢子。」

【冢嗣】 嫡長子ヲ稱ス。【唐書】肅宗諸子傳「帝曰。廣平既冢嗣。安用元帥。」

【冢人】 官名、公墓ノ地界ヲ掌ル。【周禮】冢人「掌公墓之地。」

【冢嫡】 冢督相續ノ嫡長子ヲ謂フ。【北史】李彪傳「明冢嫡之重見乎天。」

【冢婦】 嫡長子ノ婦人ヲ謂フ。【禮記】內則篇「介婦謂於冢婦。」

【勅】 (部首) (職) 勅ハ教ニ作り、又勅ニ作ル。(勅ハ) 其義ハ勅ト相通ジ警飭ノ義ナリ。【釋名】「勅飭也。使自警飭不致廢慢也。其始メテ皇帝ノ命令ノ一トシテ發表セラレタルハ漢代ナリ。後漢書「光武紀ノ註、漢制度曰。帝之下書。有レ四。一曰策書。二曰制書。三曰詔書。四曰敕教。敕教者。謂勅史太守。」漢代以前ニモ勅字ハアリタルモ皇帝ノ命令タル意義ヲ有セズ。故ニ三代以上ハ皇帝ノ命令トシテハ典、誥、訓、誓、命ノ六字ヲ用キ之ヲ稱シテ、書ト爲ス。【事物紀原】三代而上。王言有二典、誥、訓、誓、命凡六等。其總謂之書。漢初定儀則。四

云。(大學衍義補卷百三) 直 (部首) (職) 【直】 (一) 侍スルノ義、直宿、入直、當直ノ如シ。(二) 値ト通ズ。物價ヲ直ト曰フ。(三) 人ニ備ハレテ勞働シ賃銀ヲ受ケルヲ直ト曰フ。【直講】 (一) 官名、宋代親王府ニ「直講」ヲ置キ、以テ書義ヲ講述スルコトヲ謂フ。明、高拱ガ裕王ノ講官ト爲リテ四書ヲ講ズ。先ツ句讀ヲ訓シ、次ギニ大義ヲ敷陳ス。後ニ「日進直講」五卷ヲ作ル。【直學士】 宋制、學士中、資淺キ者(官吏ト爲リテ未ダ歲月ヲ經)ヲ「直院」ト爲シ名ツケテ「直學士」ト爲ス。學士俱ニ閣ケタルトキハ他官ヲ以テ暫ク文書事務ヲ行ハシム。之ヲ稱シテ權直ト謂フ。【直躬證父】 (躬ヲ直クシ) 是ハ「莊子」盜跖

品。其四曰勅勅。今勅是也。自此帝王命令始稱勅。至唐顯慶中。始云不經鳳閣鸞臺。不得稱勅。勅之名。遂定於此。(卷) 蓋シ漢代以後其意義漸ク嚴格ト爲ルト共ニ特定ノ意義ヲ生ズ。一言之ヲ蔽ヘバ官吏ヲ戒飭シテ職務ニ勵精セシムルノ義ナリ。清ノ初修【會典】「申明職守」曰「勅」。ト曰ヒ、又「皇朝政治學問答」ニモ同様ノ解ヲ爲セリ。是レ勅ガ詔ト其義ヲ異ニスル所ナリ。

【勅授】 清制、凡ソ六品以下ノ官、單恩予封シ(條ヲ見ヨ)ニ遇フトキ其本人ニ予フルノ封ヲ「勅授」ト曰ヒ、曾祖父母、祖父母及ヒ妻子ノ生存スル者ニ與フル封ヲ「勅封」ト曰ヒ、死亡セル者ニ予フル封ヲ「勅贈」ト曰フ。(會典) 【勅贈】 (勅授) (ヲ見ヨ) 【勅賜】 勅賜ノ門札ヲ謂フ。【白居易詩】「守門勅賜金字書」

【勅封】 (勅授) (ヲ見ヨ) 【勅命】 特定ノ人ニ對スル恩命ノ義ナリ。【嘉慶會典】ノ註、勅ニ對外藩單恩封贈六品以下官。及世爵有襲次。曰勅命。

【勅諭】 (一) 皇帝直接使ヲ以テ諭スノ義ニ用フ。【漢書】東平王傳「奉三壺書勅諭之。」(二) 清制ハ外藩及ヒ外任官ニ勅シテ諭告スルコトヲ謂フ。【嘉慶會典】ノ註、諭ニ皆外藩。及外任官坐名勅。傳勅曰勅諭。

【勅令格式】 唐ハ律ノ外ニ令、格、式アリ、故ニ「律令格式」ト稱ス。宋初メ之ニ因ル。神宗ニ至リテ其目ヲ更ヘテ「勅令格式」ト曰フ。明ハ聖祖登極ノ初、即チ洪武元年ニ「大明令」一百四十五條ヲ編成ス。其制ニ曰ク「惟律令者治天下之法也。令以教之於先。律以齊之於後。云云。蓋シ勅ハ律ノ性質ヲ有シ令ハ行政法、格ハ單行の刑法、式ハ手續法ナリ。丘濬曰ク「夫律者刑之法也。令者法之意也。法具、則意寓。乎其中。方草創之初。未レ暇レ詳。其曲折。故明示以三其意之所。在。令是也。平定之後。既已備三其制度。故詳載三其法之所。存。律是也。云

篤、直射禮父。尾生溺死。信之愚也。ト曰ヒ、又【韓非子】五蠹篇【呂氏春秋】淮南子論調等ニモ引用スル所ノ語ナリ。且ツ【論語】子路篇「葉公語孔子曰。吾黨有直躬者。其父攘羊。而子證之。孔子曰。吾黨之直者。異於是。父爲子隱。子爲父隱。直在其中矣。トアリ。直躬ニハ二説アリ。一ハ直躬ヲ以テ人名ト爲シ、他ノ一ハ、躬ヲ直クスト訓ス。前説ヲ取ル者ハ漢、鄭玄ヲ始メトシ、漢高誘ノ淮南子ノ註亦之ヲ取ル。即チ鄭玄曰ク「直人名弓」ト云フ。高誘曰ク「直躬。楚葉縣人也。ト。後説ハ漢孔安國ノ説ニ出ヅ。曰ク「直躬。直身而行也。ト朱子此説ニ從フ。(論語)ノ文句ハ其文理ヨリ見ルモ孔安國ノ説ヲ可トス。其何レニ從フモ子ガ父ノ盜ヲ爲スコトヲ證スルハ支那刑律ノ禁ズル所、亦法官ガ其子ヲ以テ證人ト爲スコトモ法ノ禁ズル所ナリ。(イノ部見)

【直言極諫】 忌憚ナク自己ノ信ズル所ヲ主張スルヲ直言ト爲シ、威武ニ屈セズ言ヲ盡シテ其非ヲ諫ムルヲ極諫ト爲ス。漢文帝ノ十五年諸侯公卿郡守ニ詔シテ「賢良能言」直言極諫ノ者ヲ選舉セシム。是レ賢良直諫ノ科目(史官登用試験ノ目)ノ四リテ始マル所ナリ。(後世ノ科舉)ノ四リテ始マル所ナリ。(漢書文帝紀)

【直指侍御史】 漢武帝ノ時普通御史ノ外ニ特ニ「繡衣御史」直指侍御史ヲ置キテ討賊及ビ治獄ノ事ヲ掌ラシム。(漢書武帝紀)

【直省】 清制、直隸省ハ特ニ直隸ト爲シ其外十七省(後臺灣ヲ省ト爲シ)ハ等シク「直省」ト曰フ。直省ハ滿洲ノ東三省ニ分ツノ語ナリ。即チ江蘇(古名)安徽(古名)山東(古名)山西(古名)河南(古名)陝西(古名)甘肅(古名)福建(古名)浙江(古名)江西(古名)湖北(古名)湖南(古名)四川(古名)廣東(古名)廣西(古名)雲南(古名)貴州(古名)トス。之ニ臺灣ヲ加フレバ十八省ナリ。

【直省旗地】 清制、近輔即チ直隸省以外ノ各直省ニ在ル旗人ノ所有ニ係ル土地ヲ謂フ。其設定ハ順治二年山東濟南府德州等八處ニ滿洲兵ヲ駐劄セシメ無主ノ房地ヲ量給シタルニ始マル。(清國行政)

【直班侍衛】 清制、侍衛ニ「直班侍衛」御前侍衛「乾清門侍衛」豹尾侍衛等ノ別アリ。中ニモ直班侍衛ハ禁門及ビ駐蹕處宮門ノ守衛ヲ掌ルヲ職トス。(嘉慶會典卷六十五同) (事例卷八百三十二、三)

【直立】 清末光緒三十二年發布シタル「京師習藝所試辦章程」ニ定ムル被收容者ニ對スル罰則ノ一、普通ノ犯人ニハ四等アリ。(一)苦工(二)減食(三)罰室(四)鎖鍊是ナリ。中ニモ貧民ニ對スル罰則ニ三等アリ。(一)直立(二)停休(三)屏禁是ナリ。直立トハ一定ノ時間犯人ヲ直立セシムルモノナリ。我國舊制或ル地方ニ行レタル小學兒童ニ對スル懲罰ニ同ジ。(同章)

【直隸州】 明制、普通ノ州ハ府ニ屬スルモ、府ニ屬セズシテ直接京師又ハ布政司ニ屬スル州ヲ「直隸州」ト謂フ。其知州即チ州知事ハ自ラ其一州ノ支配權ヲ有シ府知事ノ監督ヲ受ケズ又屬縣ヲ有シテ之ヲ監督ス。清亦之ニ因リタルガ民國ニ及ビテ均シク縣ト爲ス。

【直隸清吏司】 清制、六部ノ一タル刑部組織ノ官職、郎中、滿漢各一人、員外郎、滿漢各一人、漢二人、主事、滿漢各一人トス。其職務ハ直隸省及ビ察哈爾左翼ノ刑獄ニ關スル事務ヲ掌ル。(光緒會典事例卷二十一)

【直隸賑捐新章】 清、光緒十六年ニ施行シタル法規ナリ。此法ハ政府ノ窮民賑卹ノ費用トシテ金圓ヲ捐納シタル者ニ對シテ勳章又ハ官吏ト爲ル資格ヲ與フル事ヲ規定シタルモノナリ。

【直隸總督】 清制、總督ハ一省ノ長官ニシテ文武兩職權ヲ有ス。然ルニ一總督ニシテ數

省ノ長官ヲ兼ヌル者アリ。又間省、小省ニハ總督ヲ置カズ、巡撫ヲ以テ其長トス。直隸總督ハ總督中ノ最モ重キ者ニシテ、山東、山西、並ニ、河南ノ三省ヲ管理ス。各省ニ巡撫ヲ置クヲ法トス。(總督參照)

【直隸廳】 清制、府ニ屬セズシテ布政司ニ直隸スルモノヲ直隸廳ト爲ス。其制直隸州ニ同シ。惟ダ直隸州ハ屬縣アルモ直隸廳ハ奉天ノ鳳凰四川ノ敘水二廳ヲ除クノ外ハ屬縣ナシ。民國ニ及ビテハ均シク改メテ縣ト爲ス。

【直隸練軍】 練軍ハ清國軍隊ノ一、同治初年江西巡撫沈葆楨ノ奏請ニ依リテ練軍ヲ訓練シテ編成シタルモノナリ。故ニ之ヲ「練軍」ト謂フ。直隸練軍ハ同治八年曾國藩ガ起シタル練軍ナリ。練軍ハ總督ハ旗共ニ編成シタルモ其最モ整頓シタルハ直隸練軍ナリ。(政典類纂卷三百二十五)

【直隸淮軍】 清朝ノ軍隊ハ初メ八旗及ビ綠營ノ二兵ナリシガ乾隆年中臺灣ニ林爽ノ變アリ。福建安始メテ義勇兵ヲ召集シテ之ヲ討伐シ、大ニ功ヲ奏セシカバ此ヨリ湖、廣、貴州等ノ苗族ヲ討伐シ、又川峽數匪ヲ討伐スルニ當リテモ亦義勇兵(團勇)ヲ召集シタル。其義勇兵ハ民間ヨリ募集スルモノニシテ何レモ其出身ノ地名ヲ冠スルヲ例トス。「湘勇」「楚勇」「淮勇」等はナリ。「淮軍」ハ即チ「淮勇」ニシテ李鴻章ガ同治元年淮人ヲ募リテ勇營ヲ編成シタルモノナリ。其直隸軍ニ屬スルヲ以テ「直隸淮軍」ト曰フ。直隸淮軍ハ親軍、元字、樂字、毅字、左翼、先鋒、奇字等ノ營名ヲ附スルモノ凡ソ四十一營アリ。馬、砲、水師ノ各營ニ分タレ平時ハ捕盜ノ事ヲ掌ル。淮勇軍ハ曾國藩ノ編制ニ係ル「湘勇」ト其勇ヲ併稱セラレタリ。(清國行政)

【直隸】 粵西ノ土字、舊產ノ義ナリ。「粵西瑣記」

枕 (部首) (韻)

【枕干】(干ヲ枕) 父母ノ仇ヲ復スル情ノ切ニシテ、寢ニ就クトキ兵器ヲ枕邊ニ用意スルコトヲ謂フ。(次條)

【枕戈器】(戈器) (一) 當ニ兵器ヲ持シ、寢ニ就クトキモ之ヲ枕邊ニ用意スルコト、即チ父母ノ讐ヲ復スルノ苦心ヲ謂フ。【唐律】釋文、父母之讐。忍報ニ其讐。至ニ於寢。尙枕戈器。以圖ニ復殺。云云。(同書卷) 此語ハ【禮記】檀弓篇、子夏問ニ於孔子。曰。居ニ父母之仇。如ニ之何。夫子曰。寢シ苦枕干。不レ仕。弗ニ與共ニ天下ニ也。遇ニ諸市朝。不レ反レ兵而闘。云云。トアルニ出ツ。(二) 心ヲ軍國ニ存シ、寢ニ就クトキモ戈ヲ枕邊ニ用意スルコトヲ謂フ。【晉書】「日昃忘食。枕戈待旦。」【五代史】雜傳「枕戈而臥。云云。」

【枕塊】(塊ヲ枕) 土塊ヲ枕ニシテ臥ス。父母ノ喪中ニ居ル者ノ禮ナリ。【禮記】儀禮篇「寢レ古枕塊。云云。」

沈 (部首) (韻)

【沈牛】 水牛ノ類ナリ。(司馬相)

【沈斥】 沈ハ深水ノ下ニ在ルノ地、斥ハ鹹鹵ノ地、即チ地租徵收ノ外ニ在ル土地ヲ謂フ。【漢書】刑法志、一同百里。提封萬井。除ニ山川沈斥。城池。邑居。園圃。衛路。三千六百井。定ニ出賦六千四百井。其註「沈謂レ居ニ深水之下。也。斥。鹹鹵之地。」

【沈年】 年久シキコトヲ謂フ。多年ト同義ニ使用ス。【杜甫詩】「多病沈年苦。無レ健。」

【沈命法】 漢ノ武帝ノ末年盜賊起リタルモ悉ク捕フル能ハズ。是レ盜賊ヲ隱匿スル者アルニ因ルナリ。武帝乃チ「沈命法」ヲ作ル。沈命ニ二説アリ。一ハ「沈ハ没ナリ。敢テ盜賊ヲ蔽匿シタル者ハ其命ヲ没スルノ義」ト爲ス。他ノ一ハ「沈ハ蔽匿ナリ。命ハ亡シタルト爲ス。即チ亡逃者ヲ隱匿シタル者ヲ罰スルノ法」ト爲スモノナリ。【漢書】酷吏傳、數歲題顯得ニ其渠率。

散卒失亡。復聚レ黨阻ニ山川。往往而群。無レ可ニ奈何。於是作ニ沈命法。曰。群盜起。不レ覺。發覺而弗レ捕。滿品者二千石以下。至ニ小吏。主者皆死。(其註)

鎮 (部首) (韻)

【鎮】 鎮ハ鎮壓ノ義、權威ヲ意義ス。漢鎮(一) 地方 (四) 鎮ヲ四鎮 皆是ナリ。後周(ノ) 長官 (ト) 曰フノ類 皆是ナリ。後周(大) 始メテ軍將ヲ「鎮將」ト曰フ。隋ハ「鎮」ト曰ヒ上中下ノ三等ニ分ツ。宋ハ要地ニシテ州ヲ成サス津會ニ當ル所ニ置ク軍隊ヲ「軍」ト曰ヒ縣ノ長官ヲ以テ軍使ト爲シ民衆群居シテ未ダ縣ヲ爲サズ而モ租稅ヲ賦課スル所ヲ「鎮」ト爲ス。【事物紀原】通典曰。鎮將。後周之通班也。隋亦曰鎮。分ニ上中下三等。歷代未レ闕。疑鎮始ニ於宇文周代也。宋朝之制。地要不レ成レ

五代以來諸郡所ニ自置。云云。(十)

州。而當ニ津會者。則爲軍軍。以縣兼軍軍使。民衆不レ成レ縣。而有ニ稅課者。則爲鎮。或以官監之。(七) 清朝ニ於テハ新軍制ヲ編制スルニ當リ、軍隊ノ名ト爲ス。我師團ニ相當ス。兩協ヨリ成ル。協ハ我旅團ニ相當シ、二標ヨリ成ル。標ハ我聯隊ニ相當シ三營ヨリ成ル。營ハ我大隊ニ相當シ其下ニ隊、排、棚アリ。隊ハ我中隊ニ相當シ、排ハ我小隊ニ相當ス。(新定章程)

【鎮安】 地名、府ト縣トニアリ。(一) 府ノ鎮安ハ(一) 宋代鎮安洞ニ鎮安軍民宣撫司ヲ置キ元改メテ路ト爲シ明改メテ府ト爲シ清之ニ因ル。廣西省ニ屬ス。民國之ヲ廢ス。今ノ天保縣ハ其舊治ナリ。(二) 縣ノ鎮安又ニアリ。一ハ明之ヲ置ク、清代ハ陝西省ニ屬ス。今ハ陝西省漢中道ニ屬ス。本、唐ノ乾元縣ナリ。他ノ一ハ清之ヲ置ク。奉天新民府ニ屬ス。民國改メテ黑山縣ト稱ス。

【鎮軍】 將軍ノ名號アリ。魏ノ時陳群ヲ以テ鎮軍大將軍ト爲ス。歷代均シク之アリ。宋以

後無シ。

【鎮協】 總兵官ヲ「鎮」ト曰ヒ、副將ヲ「協」ト曰フ。【六部成語註解】「總兵官曰鎮。副將曰協。」

【鎮國公】 清代宗室ノ封爵名ニ「入八分」。不入八分ノ二級アリ。入八分ハ奉恩鎮國公ト曰ヒ七等ニ居リ、不入八分ハ單ニ鎮國公ト曰ヒ七等ニ居ル。(清國行政法) 卷一(上)

【鎮國將軍】 同ジク清宗室ノ封爵名ニシテ「不入八分鎮國公」ノ次位ニ在ルモノヲ曰フ。(清國行政法) 卷一(上)

【鎮日】 猶ホ平日ト云フガ如シ。【朱熹詩】「鎮日空掩門。トアルハ其ノ一例ナリ。」

【鎮集】 廣大ナル村落ヲ謂フ。(福惠) 全書

【鎮將】 地方軍隊ノ長ナリ。後周(六) ノ「通班」之ニ當ル。隋唐「鎮將」ト爲ス。【事物紀原】「通典曰。鎮將。後周之通班。隋亦置。其職微矣。注云。今以ニ其卑賤。故舉レ隋而已。合謂レ唐也。」

【鎮守使】 民國新設ノ官名、各省將軍ノ次位ニ在リ。其職務ハ重要ナル地方ニ駐紮シテ其區域内ノ軍政ヲ管理シ、或ハ亦民政外交ノ事ヲ兼掌ス。

【鎮統】 清制、鎮ノ指揮官ヲ「鎮統」又ハ「統制」ト曰フ。即チ我師團長ニ相當ス。(新定章程)

【鎮南削煩苛之法】 (鎮南煩苛ノ) 晉ノ杜預字ハ元凱、鎮南大將軍ト爲リ車騎將軍賈充等ト律令ヲ成定シ煩苛ノ法ヲ削ル。其奏文ニ曰ク「法者蓋繩墨之斷例。非ニ窮理盡性之書也。故文約而例直。名省而禁簡。例直易レ見。禁簡難レ犯。易レ見則人知レ所レ避。難レ犯則幾ニ於刑措。云云」【唐律疏議】通表「金行提象。鎮南削ニ煩苛之法。」晉ハ金德ヲ以テ天下ニ王タリ故ニ「金行提象」ト言フナリ。(同書)

【鎮撫司】 元代萬戶府及ビ諸衛都指揮使ニハ

皆鎮撫司鎮撫ノ官アリ。明其制ニ因リ凡ソ諸衛皆之ヲ署キ衛中ノ刑名ヲ理メシム。所謂「南鎮撫司」ナルモノ是ナリ。

【鎮標】 清朝ノ新制、各省總兵ニ屬スル綠營ヲ謂フ。【會典】兵部「各省總兵所屬爲「鎮標」。

【陳】 (部首) (韻)

【陳】 周ガ殷ニ代リテ王ト爲ルヤ、舜ノ後タル胡公滿ヲ陳ニ封ズ。春秋ノ末楚ノ滅ス所ト爲ル。今ノ河南舊開封府ノ以東、南ハ安徽省ノ壽州ニ至ル。(二)朝名、陳霸先梁ノ禪ヲ受ケテ國ヲ陳ト號シ建康(今ノ江蘇)ニ都ス。長江珠江兩流域ノ地ヲ有ス。凡テ五主三十二年ニシテ隋ノ滅ス所ト爲ル。(三)行列ノ列ノ義ニ用フ。【史記】李斯傳「所以飾「後宮」充「下陳」註「下陳、猶「後列」也。」「玉篇」列也。布也。(四)陳ハ座ト相通ズ。久シキ義ナリ。陳居久シケレバ座ヲ生ズル義ヨリ來ル。陳腐、新陳等是ナリ。(康熙字典)

【陳倉】 縣名。秦之ヲ置キ北周ニ至リテ廢ス。

故城ハ今ノ陝西省寶雞縣ノ東ニ在リ。秦ノ文公ノ築ク所ナリト云フ。【宋氏開山圖】ニハ「伏羲生ニ成紀。從治ニ陳倉」ト記ス。按ズルニ陳倉ハ雍梁ノ衝ニ當リ漢魏以來攻守ノ要地タリ。

漢王、東陳倉ヲ出テ、雍王章部ノ兵ヲ敗リ遂ニ三秦ヲ定ム。諸葛亮陳倉ヲ圍ミタルトキモ鄭昭能ク拒守シ攻圍三十四日ニ互リ克ツ能ハズシテ還ル。此レ其最モ較著ナルモノナリ。

【陳時泉事】 (時ノ泉ト事) 宋ハ法ノ義、法律ハ當世ノ時宜ニ適合スルヲ要ストノ義ナリ。【書經】康誥篇「王曰。汝陳時泉事。刑殺三股。」用ニ其義刑殺ヲ勿庸以次ニ汝封。云云。

【陳州】 春秋時代ノ陳國ハ漢ノ淮陽國ナリ。隋陳州ヲ置ク。清ニ至リ升セテ府ト爲シ河南省ニ屬ス。民國之ヲ廢ス。今ノ淮陽縣ハ其舊地ナリ。

【陳蕃下榻】 後漢陳蕃ガ徐穉ヲ優待シタル故事ニ出ツ。後世賓客ヲ優待スルノ義ニ用フ。【後漢書】陳蕃傳「爲「豫章太守。以「禮待「徐穉」。

爲「功曹。性方峻。不「接「賓客。惟穉來。特設「一榻。去則懸之。」

【鳩】 毒鳥ノ名、醜ト通ズ。雄ヲ「運日」ト曰ヒ、雌ヲ「陰諧」ト曰フ。【廣雅】「鳩鳥。其雄謂「之運日。其雌謂「之陰諧。」「鳥書」ニ「鳥ノ狀ハ鳩ニ似、體ハ紫黑色ニシテ赤喙黒目ナリ。頸ノ長七八寸アリ。好ミテ蛇ヲ食フ。其巢下數十歩ノ間ハ地ニ草木ヲ生ゼズ。其鳴聲ハ腰鼓ヲ擊ツガ如ク、其羽ヲ酒ニ畫シテ之ヲ飲メバ立ロニ死ス。廣東地方ニ棲ムト云フ。【本草集解】ニハ「其肉ニハ毒アルモ其羽ヲ酒ニ畫シテ飲メバ死ストノ説ハ非ナリ。ト爲ス。春秋時代ニハ毒殺ノ義ニ使用セラル。但シ其字ハ多ク醜字ニ用フ。蓋シ酒ニ混入シテ使用スルニ因リテ毒ヲ生ズルガ故ナリ。【左傳】莊公三十二年「成季以「君命。命「倍叔。使「鍼季醜之。其註「上」以「其因「酒毒」人。故字或爲「醜」。同書閔公元年「管敬仲、言「於齊侯。曰。宴安酖毒。不「可」。

【陳蕃下榻】 後漢陳蕃ガ徐穉ヲ優待シタル故事ニ出ツ。後世賓客ヲ優待スルノ義ニ用フ。【後漢書】陳蕃傳「爲「豫章太守。以「禮待「徐穉」。

つ(ツ)ノ部

【鴆媒】 鴆言スルコトヲ謂フ。

【鴆殺】 鴆ハ鳥ノ名、其血液ニ毒アリ。昔時之ヲ用キテ人ヲ毒殺ス、故ニ後世毒殺ノ名稱ト爲ル。【六部成語註解】「鴆鳥也。其血有毒。飲レ之殺レ人。古人恒有「用レ之者。此言「鴆者。乃用ニ毒藥ニ之信稱也。」

【推車】 推ノ義、模ノ如シ、質模ナル事ヲ曰

慎也。【埤雅】ニ依レバ其毒ハ犀角ヲ以テ解スコトヲ得ルガ如シ。曰ク「鴆似「雁而紫黑。喙長七八寸。作「銅色。食「蛇。蛇入レ口輒爛。屎溺著レ石。石亦爲レ之爛。羽翮有毒。以「糝「酒。飲殺レ人。惟犀角可ニ以解。故有「醜處。必有「犀。」

【推剗】 推殺シテ其衣服携帶品ヲ掠取スルコトヲ謂フ。【漢書】地理志「推剗、唐書」獨孤及傳「長安城中。白晝推剗。吏不「敢詰。」

【推輪】 事物ノ發端ノ義ニ用フ。本來、輻ナキ車輪、質素且ツ粗略ナル車ノ義ナリ。梁、昭明太子撰「文選序」推輪爲「大略之始。大略寧有「推輪之質。」

【追趕】 勝ニ乗ジテ敵ヲ追撃スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「乘「勝追「趕賊人。」

【追究】 違制ノ婚姻ヲ蔽匿シ若クハ贓罪ヲ隱匿シタル事實發覺シタルトキハ大赦令ノ發布ニ會フト雖モ婚姻ハ之ヲ改正シテ聘財ヲ追收

フ。【韓非子】八說篇「古者寡事而備簡。模剛不「畫。故有「跳鏡而推車。」

【推政】 仁惠ヲ主トスル太古、文飾ナキ政治ナリ。【韓非子】八說篇「行「三「辯讓。高「慈惠。而道「仁政。皆推政也。」

【推剗】 推殺シテ其衣服携帶品ヲ掠取スルコトヲ謂フ。【漢書】地理志「推剗、唐書」獨孤及傳「長安城中。白晝推剗。吏不「敢詰。」

【推輪】 事物ノ發端ノ義ニ用フ。本來、輻ナキ車輪、質素且ツ粗略ナル車ノ義ナリ。梁、昭明太子撰「文選序」推輪爲「大略之始。大略寧有「推輪之質。」

【追趕】 勝ニ乗ジテ敵ヲ追撃スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「乘「勝追「趕賊人。」

【追究】 違制ノ婚姻ヲ蔽匿シ若クハ贓罪ヲ隱匿シタル事實發覺シタルトキハ大赦令ノ發布ニ會フト雖モ婚姻ハ之ヲ改正シテ聘財ヲ追收

セシメ贓罪ハ之ヲ追徵ス。此等ノ處置ヲ「追究」ト謂フ。【唐律】開訟篇「以「赦前事相告言」ノ條「上」若事須「追究」者。不「用「此律。其註「追究。謂「婚姻良賤。赦限外蔽匿。應「改正徵收。及追見「贓之類。(同書卷二十四)

【追還完聚】 夫ガ離婚スベキ正當ノ理由ナクシテ妻ヲ離婚シタルトキハ官ヨリ之ヲ罰シ妻ハ夫ニ還ヘシテ從前ノ如ク同棲セシム。之ヲ「追還完聚」ト謂フ。

【追刑】 刑罰ヲ犯罪者本人以外ニ及ボシテ加フルコトヲ謂フ。【晉書】刑法志「父母有「罪。追「刑已出之女。」

【追滅】 罪刑確定ノ後、其罪ヲ減ズルコト、例セバ獄官ガ不注意ニ因リテ罪人ヲ逃亡セシメタル場合ハ其獄官ハ罪ニ坐セラル、ト雖モ捕獲限内ニ於テ能ク捕獲シタルトキハ其罪ヲ減ゼラル、ノ類ナリ。【唐律】賊盜篇「部内容止盜者」ノ條「上」略限内能捕獲。追「滅三等。疏議「稱「追滅」者。雖「結正訖。仍得「滅之。(卷二十一)

【追坐】 裁判確定ノ後罪人ノ縁故者ニ對シテ罪ヲ追加スルコトヲ謂フ。重罪犯人ノ家族ハ縁坐ノ責アリト雖モ其犯罪ノ發生以前ニ於テ他家ノ養子ト爲リ又ハ入道シテ道士女冠或ハ僧尼ト爲リタル者及ビ婚姻ノ約已ニ了ハリタル者ハ未ダ式ヲ畢ゲズト雖モ追坐セズ。即チ之ヲ「不追坐」ト稱ス。(唐律卷十七賊盜篇)

【追背】 盜賊ヲ追捕スルコトヲ謂フ。【周禮】地官小司徒「惟田與追背」其註「田獵與逐捕盜賊。則正卒義卒皆行。」

【追背竭作】 丁男餘夫悉ク役ニ從フコトヲ謂フ。(前條ヲ見ヨ)

【追償】 犯罪人ヨリ其犯罪ニ因リテ政府ノ被リタル損害ヲ賠償セシムルコトヲ謂フ。(清國法卷)

【追賑】 清制、罹災民救卹ノ方法トシテ「正賑」(災害ノ際直チニ會費ヲ發シテ罹災民ニ給ス)「同」(一ヶ月ノ口糧ヲ給スルコトヲ謂フ)「加賑」(四十五日以内ニ極貧、次貧ヲ區別シ給與ノ月ヲ延長スルコトヲ謂フ)ニ

對シテ再ビ賑卹ヲ爲スコトヲ「追賑」ト曰フ。但シ此語ハ支那法制上ノ語ニアラザルモ「戶部則例」上「追賑」ト稱ス。追賑加賑之外。該督撫臨時賑請シタルノ義ヲ取ルナリ。

【追節】 婚禮親迎送定ノ式、終リタル後更ニ冠花、綵服、酒菓ヲ追贈ス。之ヲ「追節」ト謂フ。(夢瑛)

【追攝人】 「キ」ノ部「拒殿」ノ條ニ「追攝人」ト見ヨ

【追贈】 子孫ヨリ其父祖ニ尊稱ヲ贈ルコト、周武王ヨリ始マル。後世ハ人臣ニモ亦追贈ノ制アリ。【事物紀原】自武王克商追王太王王季。故後代有「追諡追尊」之典。兩漢逮今。人臣亦有「追贈」之制。(卷)

【追攤】 「タ」ノ部「攤」ノ條ニ「追攤」ト見ヨ

【追對】 既行ノ事ニ廻リテ犯人ヲ對問(同席ニ於テ訊問ス)スルコトヲ謂フ。【明律】及「清律」吏律職制ニ「必合追對刑名」云云。トアルハ其用例ナリ。(明律卷二)

【追奪除名】 文武官ガ私罪ヲ犯シタルトキ其請勅(辭令)ヲ追奪シ其任職ヨリ犯人ノ氏名ヲ除去スルコトヲ謂フ。(明律卷一、清律卷三)

【追封】 皇帝ガ亡臣ノ功ヲ追思シテ爵號ヲ贈ルコト、漢宣帝ガ張賀ヲ「恩德侯」ニ封ジタルニ始マル。【事物紀原】漢書張賀傳。賀爲「被庭令」。宣帝以三皇曾孫。收養被庭。恩甚密。及二帝即位。追思賀。封「恩德侯」。此則追封之始也。(卷)

【通融撥給】 通融ハ臨時ニ法ヲ設ケテ變ニ通ズルノ義。即チ撥給スベキ金額ヲ撥給シ盡シテ、不足ヲ生ジタルトキ(即チ豫算缺)別ニ法ヲ設ケテ之ヲ補給スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「通融」乃設法通變之意。言撥應撥之款不足。設法以給之也。

【通過稅】 釐金ノ別稱ナリ。(リ)ノ部「釐」ノ條ニ「通過稅」ト見ヨ

【通關】 (一)通ハ「交通」關ハ「關涉」ノ義、犯外國語ノ通譯ヲ爲ス者ヲ謂フ。(清國部)

【通事舍人】 「通事郎」ト見ヨ

【通事郎】 魏文帝、黃初年新ニ中書省ヲ置キ乘衛(宰相)ノ任ニ充テ詔命詔記等ノ事悉ク其職務ニ歸シ又黃門郎、通事郎等ノ官ヲ置キ之ニ隸屬セシム。晋代ハ中書省ニ中書監、中書令及ビ中書侍郎、中書舍人等ノ官ヲ置キ其職務ヲ分掌セシム。東遷後ハ中書舍人ヲ通事舍人ト改ム。(法卷一)

【通緝】 通緝トハ未決囚又ハ已決囚ノ逃亡シタルトキ其犯人ノ年齡容貌籍貫等ヲ詳細ニ記入シテ各地ニ通告シテ犯人ヲ逮捕セシムルコトヲ謂フ。(參照)「捕限等附例」

【通商】 宋代ニ於テハ鹽ノ販賣法ニ就キ官賣、通商、鈔法ノ三種アリキ。官賣トハ官ヨリ直接ニ消費者ニ賣下グルコトニテ、後ノ「官運官銷法」ニ當リ。通商トハ官ヨリ鹽商ニ賣下ケ鹽商ヨリ消費者ニ發賣スルモノニシテ、

罪人ト交ワ通ジ、其事件ニ關係ヲ有スルコトヲ謂フ。【漢書】樂快傳、博士焦永。爲河東太守。後以事被考。諸弟子皆以「通關」被繫。其注「交通、關涉也。」(尙ホ「キ」ノ部「虛出」)

【通倉】 戶部所屬ノ倉ニ京倉、通倉、內倉ノ三種アリ。通倉ハ通州ニ在ルガ爲メニ通倉ト命名ス。其所屬ニ中倉西倉ノ二種アリ。(清國法卷)

【通算折半科罪】 (通算シテ半ヲ折)枉法贓ハ其罪ヲ全科スルヲ本則トスルモ枉法贓即チ法官ガ收賄ノミニ止マリテ法ヲ枉ザルモノハ數人ヨリ受ケル收賄ノ全數ヲ通算シ之ヲ折半シテ半額ノ數ニ依リテ罪ヲ科スコトヲ謂

フ。下掲規定ノ下ニ「枉法贓。各主者。通算折半科罪。」ト規定ス(上)

【通算全科】 法官ガ枉法贓即チ收賄シテ法ヲ枉ザル者ヲ以テ無罪者ト爲シタル等ノ場合ハ其數人ヨリ受ケタル贓數ヲ通算シテ一罪ト爲シ、重ニ從ヒテ其罪ヲ科スルコトヲ謂フ。

【明律】「清律」刑律受贓篇「官吏受財」ノ條「枉法贓各主者。通算全科」ト規定シ【明律】ノ脚註「謂受事人財。而回法科斷者。如受十人財。一時事發。通算作一處。全科其罪。」清律「脚註、大同小異ナリ。(明律卷二十三)

【通事】 (一)通譯ノ稱、北方ノ言ヲ通譯スルヲ特ニ「通事」ト曰フ。【瑛瑛代醉篇】譯者之稱。見「禮記」云。東方曰寄。言傳記内外言語。南方曰象。言放象内外之言。西方曰秋。稷。稷知也。通傳夷狄之語。與中國相知。北方曰譯。譯陳也。陳說内外之言。皆立此傳語之人。以通其志。今北方謂之通事。南番海船謂之唐帕。西方蠻語謂之蒲叉。皆譯之名也。(二)

歸ス。若シ其丁役ニ代ラシコトヲ願フ者アルトキハ即チ之ニ與フルニ絶戸ノ田地ヲ以テス。【大學衍義補】按。今州縣軍戶。多有丁盡戸絶者。其人居宅田産。必有二承而受之者。除生前立契明賣者外。行清軍御史。會同布政司及府州縣官。按究歸レ官。有願代ニ其役ニ者。即給以本軍絶戸之田。若是邊軍。就令以附近就レ近。又行三戸部。通行天下。凡没レ官田土。在二三十年以後ニ者。不レ分有ニ無承佃。盡レ數畧出。照レ宋朝之例。給レ民爲軍。云云。(卷百)

【丁推】 丁推ノ別稱、丁ハ丁年、推ハ推字ヲ改ム。壯丁ノ義ナリ。高橋復齊撰「類抄」云。吳正肅言。律令有丁推。推字不通過少壯之意。唐以二大帝諱ニ避レ之。損ニ其點畫云云。蓋シ宋敏求撰「春明退朝錄」(卷一)上ヨリ取ル。附隨シテ起課スルコト。要スルニ地賦ノ附加稅トシテ課スルノ義ナリ。

【丁稚】 丁男幼男ノ合稱ナルモ、少壯ノ總稱トシテ課スルノ義ナリ。

ト看ルベシ。邦語ノ丁稚ニアラズ。(丁推見ヨ) 【丁中】 國民年齢ノ稱、其名ハ北齊ニ始マル。晋之ヲ正丁次丁ト謂ヒ、宋之ヲ全丁半丁ト謂ヒ、隋制ハ男女三歳以下ヲ黃ト爲シ十歳以下ヲ小ト爲シ十七歳以下ヲ中ト爲シ十八歳以上ヲ丁ト爲シ以テ課役ニ從ハシメ、六十ヲ老ト爲ス。唐制ハ民始メテ生ル、ヲ黃ト爲シ四歳ヲ小ト爲シ十六ヲ中ト爲シ二十一ヲ丁ト爲シ六十ヲ老ト爲シタリ。

【丁夫】 正役ニ當ル者ヲ丁ト謂ヒ、雜徭ニ當ル者ヲ夫ト謂フ。(唐律卷二十八捕亡) 【丁賦】 賦ハ本來田賦即チ地租ノ義ナリシモ後世政費膨脹シ、公課増加スルニ及ビテハ、土地ニ對シテ課スルモノヲ地賦ト稱シ、人丁ニ對シテ課スルモノヲ丁賦ト稱スルニ至レリ。乃チ丁賦ハ人ヲ以テ課稅物體ト爲スモノニシテ所謂人頭稅ナリ。

【亭】 亭ハ秦漢時代ニ於ケル地方區劃ノ一種ト爲シタリ(カノ部、格制ヲ見ヨ) 【停刑】 禮節日其他一定ノ時期ニ於テ刑罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ謂フ。(明正清律) 【停勾】 秋審ノ勾決ヲ停止スルコトニシテ、即チ恩典ノ一ナリ。(シノ部、秋審、コレ) 【停囚待對問】 (囚ヲ待メテ) 犯人ノ同類他ノ所管地ニ在ルトキハ已ニ獲タル囚人ノ訊問ヲ停止シ其所管地ノ官司ニ通牒シテ同類ノ護送ヲ求メ其到着ヲ待チテ對席訊問スルコトヲ謂フ。【唐律】斷獄篇「鞠獄官停囚待對問」ノ條「諸鞠獄官。停囚待對問者。雖職不三相管。皆聽直。罪追。雖下司。罪至。不三即遣。者。答五十。三日以上杖一百。」(卷二十九) 【停盜取一錢棄市之法】 (一錢ヲ盜取スル法) 隋文帝無學ニシテ慘酷ヲ尙ヒ、僅ニ一錢ヲ盜ム者ト雖モ之ヲ棄市スルノ法ヲ定ム。(定盜一錢棄市) 乃チ此法ヲ實行スルヤ數人ノ壯士アリ執事(取次)ヲ切シテ曰ク、吾豈

別ニシテ、百家ヲ里ト爲シ、里ニ「里魁」ヲ置キ十里ヲ亭ト爲シ十亭ヲ郷ト爲シ、亭長ヲ置キ、其地方ノ警察事務ヲ掌ラシム。亭長或ハ「亭父」ト曰フ。舊ト「負弩」ト稱ス。(後漢書)漢ノ高祖ノ如キモ、其壯年ノ時泗上ノ亭長タリシコトアリ、即チ一種ノ自治制ナリ。隋亭長ノ名ヲ採用シ以テ流外官(正官ヲ流)ノ號ヲ爲ス。唐之ニ因ル。

【亭戶】 鹽ヲ業トスル者ヲ亭戶ト爲ス。(唐書宋史食貨志) 【亭侯】 漢代ノ列侯、大ナル者ハ縣ヲ食ミ小ナル者ハ郷又ハ亭ヲ食ム、故ニ亭侯ノ稱アリ。漢ノ獻帝ノ建安初年曹操ヲ封ジテ費亭侯ト爲ス。亭侯ノ稱此ヨリ始マル、魏晉之ニ因ル。位關内侯ノ上ニ在リ。

【亭候】 要地ニ亭ヲ築キ兵役ヲ置キテ寇及ビ盜ヲ斥候セシム。之ヲ亭候ト謂フ。(後漢書) 【亭障】 塞上險要ノ地ニ番所ヲ建設シ斥候ノ

用ニ充ツルコトヲ謂フ。(漢書孝武紀)

【亭燧】 亭障ヲ設ケ烽火ヲ舉ゲテ非常ヲ警ムルコト。【後漢書】陳寔亭燧。出ニ長城外數千里。

【亭長】 (見ヨ) 【亭父】 (見ヨ) 【亭伯】 魏代ノ爵名、公ノ庶子ヲ亭伯ト爲ス。其後廢シテ設ケズ。

【停家】 前職前官ヲ謂フ。【唐律】捕亡篇「將吏追捕罪人」ノ條疏議「非ニ見任文武官。即停家職實。云云。」(卷二十八)【唐律釋文】停當ノ解「當字當レ作三家字。詳ニ其釋意。則其明差。若作「當字」於レ義難レ通。」(卷二十八)

【停解日月】 停解トハ官吏ガ父母ノ喪其他ノ事故ニ因リテ一時其職ヲ停解セラレタルヲ謂フ。日月トハ其停解中ノ期間ヲ指ス。後魏ノ時ハ其長短ヲ以テ銓選ノ資格ヲ定ムル標準ト爲シタリ(カノ部、格制ヲ見ヨ) 【停刑】 禮節日其他一定ノ時期ニ於テ刑罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ謂フ。(明正清律) 【停勾】 秋審ノ勾決ヲ停止スルコトニシテ、即チ恩典ノ一ナリ。(シノ部、秋審、コレ) 【停囚待對問】 (囚ヲ待メテ) 犯人ノ同類他ノ所管地ニ在ルトキハ已ニ獲タル囚人ノ訊問ヲ停止シ其所管地ノ官司ニ通牒シテ同類ノ護送ヲ求メ其到着ヲ待チテ對席訊問スルコトヲ謂フ。【唐律】斷獄篇「鞠獄官停囚待對問」ノ條「諸鞠獄官。停囚待對問者。雖職不三相管。皆聽直。罪追。雖下司。罪至。不三即遣。者。答五十。三日以上杖一百。」(卷二十九) 【停盜取一錢棄市之法】 (一錢ヲ盜取スル法) 隋文帝無學ニシテ慘酷ヲ尙ヒ、僅ニ一錢ヲ盜ム者ト雖モ之ヲ棄市スルノ法ヲ定ム。(定盜一錢棄市) 乃チ此法ヲ實行スルヤ數人ノ壯士アリ執事(取次)ヲ切シテ曰ク、吾豈

ト爲シタリ(カノ部、格制ヲ見ヨ) 【停刑】 禮節日其他一定ノ時期ニ於テ刑罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ謂フ。(明正清律) 【停勾】 秋審ノ勾決ヲ停止スルコトニシテ、即チ恩典ノ一ナリ。(シノ部、秋審、コレ) 【停囚待對問】 (囚ヲ待メテ) 犯人ノ同類他ノ所管地ニ在ルトキハ已ニ獲タル囚人ノ訊問ヲ停止シ其所管地ノ官司ニ通牒シテ同類ノ護送ヲ求メ其到着ヲ待チテ對席訊問スルコトヲ謂フ。【唐律】斷獄篇「鞠獄官停囚待對問」ノ條「諸鞠獄官。停囚待對問者。雖職不三相管。皆聽直。罪追。雖下司。罪至。不三即遣。者。答五十。三日以上杖一百。」(卷二十九) 【停盜取一錢棄市之法】 (一錢ヲ盜取スル法) 隋文帝無學ニシテ慘酷ヲ尙ヒ、僅ニ一錢ヲ盜ム者ト雖モ之ヲ棄市スルノ法ヲ定ム。(定盜一錢棄市) 乃チ此法ヲ實行スルヤ數人ノ壯士アリ執事(取次)ヲ切シテ曰ク、吾豈

【停家】 前職前官ヲ謂フ。【唐律】捕亡篇「將吏追捕罪人」ノ條疏議「非ニ見任文武官。即停家職實。云云。」(卷二十八)【唐律釋文】停當ノ解「當字當レ作三家字。詳ニ其釋意。則其明差。若作「當字」於レ義難レ通。」(卷二十八)

【停解日月】 停解トハ官吏ガ父母ノ喪其他ノ事故ニ因リテ一時其職ヲ停解セラレタルヲ謂フ。日月トハ其停解中ノ期間ヲ指ス。後魏ノ時ハ其長短ヲ以テ銓選ノ資格ヲ定ムル標準ト爲シタリ(カノ部、格制ヲ見ヨ) 【停刑】 禮節日其他一定ノ時期ニ於テ刑罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ謂フ。(明正清律) 【停勾】 秋審ノ勾決ヲ停止スルコトニシテ、即チ恩典ノ一ナリ。(シノ部、秋審、コレ) 【停囚待對問】 (囚ヲ待メテ) 犯人ノ同類他ノ所管地ニ在ルトキハ已ニ獲タル囚人ノ訊問ヲ停止シ其所管地ノ官司ニ通牒シテ同類ノ護送ヲ求メ其到着ヲ待チテ對席訊問スルコトヲ謂フ。【唐律】斷獄篇「鞠獄官停囚待對問」ノ條「諸鞠獄官。停囚待對問者。雖職不三相管。皆聽直。罪追。雖下司。罪至。不三即遣。者。答五十。三日以上杖一百。」(卷二十九) 【停盜取一錢棄市之法】 (一錢ヲ盜取スル法) 隋文帝無學ニシテ慘酷ヲ尙ヒ、僅ニ一錢ヲ盜ム者ト雖モ之ヲ棄市スルノ法ヲ定ム。(定盜一錢棄市) 乃チ此法ヲ實行スルヤ數人ノ壯士アリ執事(取次)ヲ切シテ曰ク、吾豈

【停家】 前職前官ヲ謂フ。【唐律】捕亡篇「將吏追捕罪人」ノ條疏議「非ニ見任文武官。即停家職實。云云。」(卷二十八)【唐律釋文】停當ノ解「當字當レ作三家字。詳ニ其釋意。則其明差。若作「當字」於レ義難レ通。」(卷二十八)

【停家】 前職前官ヲ謂フ。【唐律】捕亡篇「將吏追捕罪人」ノ條疏議「非ニ見任文武官。即停家職實。云云。」(卷二十八)【唐律釋文】停當ノ解「當字當レ作三家字。詳ニ其釋意。則其明差。若作「當字」於レ義難レ通。」(卷二十八)

【停家】 前職前官ヲ謂フ。【唐律】捕亡篇「將吏追捕罪人」ノ條疏議「非ニ見任文武官。即停家職實。云云。」(卷二十八)【唐律釋文】停當ノ解「當字當レ作三家字。詳ニ其釋意。則其明差。若作「當字」於レ義難レ通。」(卷二十八)

天皇地皇人皇等ニ繼ギテ天下ニ王ト爲リ帝ト稱ス。是レ帝ノ始ナリ。【書經】堯典「帝堯聰明文思。光宅天下。」疏「帝者天之一名。所以名帝。帝者諸也。言天豁然無心。思于物我。公平通遠。舉事審諦。故謂之帝。」【事物紀原】「由天皇一至二三人皆稱天皇。故有二天皇地皇人皇。三人亦號天皇。及太昊。帝王世紀稱曰。帝堯。堯繼天而王。爲三王先。帝出於震。未有所因。此稱帝之始也。」

【帝軫】 金根車(金ヲ以テ)ノ別名、秦始皇時代ニ始ル。(「路」ノ部)

【帝籍】 天子ノ籍田ヲ謂フ。【禮記】月令篇「天子親戴采和。措之于參。參乘介衣。甲之御者。間帥三公九卿諸侯大夫。躬耕帝籍。云云。」籍田ノ説明ニ就キテハ「大學衍義補」特ニ詳ナリ。(卷十)

【底冊】 官文書ノ草案ヲ曰フ。【清會典】吏部

「查ニ對底冊。明白照例。」

【底慎財賦】 (財賦ヲ) 財ハ土地ヨリ產出スル財物、賦ハ賦稅、底慎ハ慎ヲ致ストノ義、即チ庶土(モロ)ヨリ產出スル財物ノ數ニ照シテ慎重ニ心ヲ致シテ賦入ノ數ヲ定メ公平ヲ期スルコトヲ謂フ。【書經】禹貢「六府孔修。庶土交正。底慎財賦。成則三壤。成賦中邦。」蔡沈ノ註「底慎財賦。謂因庶土所出之財。而致慎其財賦之入。」

【底本】 官文書ノ草案ヲ謂フ。宋、宋敏求撰「春明雜錄」公家文書之屬。中書謂之草。樞密院謂之底。三司謂之檢。中(略)晉天福五年改樞密院承旨爲承宣。亦似相合其底。乃底本也。

【抵】 (才) 首 (齊) 韻

【抵押貨物】 債務ノ擔保トシテ提供シタル貨物ヲ曰フ。概シテ買入貨物ノ場合ニ用フ。(印花稅則)

【抵押貨物字據】 貨物ノ買入證書ノ義ナリ(印花稅則)

【抵換】 甲乙ノ引替ヲ爲スノ義。【明律】「清律」戶律倉庫篇「私借錢糧ノ條。若將自己物件。抵換官物者。罪亦如之。」(清律卷七)

【抵業】 問屋業ヲ營ム者ハ相當ノ財產ヲ有シ受託物ノ損害ヲ賠償スルニ足ル者ヲ以テ充ク。之ヲ有ニ抵業一人戸ト謂フ。【明律】「清律」戶律市廛篇「私充牙行埠頭ノ條。凡城市鄉村諸色牙行及船埠頭。並選有抵業一人戸充應。云云。」(明律卷十四)

【抵項】 抵項トハ官項即チ官ニ納ムベキ租銀等ヲ納メザルガ爲メニ、其賠償トシテ財產ヲ沒收スルコトヲ謂フ。(戶部則例)

【抵充軍役】 (軍役ニ) 抵ハ代リ當ルノ義、即チ民人ガ他人ヲ充軍(流刑ノ重)罪ニ誣告シタルトキ誣告者ヲ其代ハリニ軍役ニ充當シ、軍人ガ誣告シタルトキハ其軍人ヲ邊遠ノ地ニ

發シテ充軍ニ處ス。之ヲ「抵充」ト謂フ。(明律十二刑律「誣告充軍及邊遠」ノ條)

【抵償】 稅務官ガ租稅ノ徵收ヲ怠リ一定ノ期限ニ至ルモ其定額ニ達セザルトキハ其家産ヲ不足額ニ抵テ賠償セシムルコトヲ謂フ。(清律卷十「律倉庫」) 收糧運限ノ條附例

【抵銷】 官吏ノ功罪相同ジキ場合ニ、其功罪ト相殺スルコトヲ謂フ。但シ公罪ニ限ル。私罪ハ抵銷ヲ准サズ。【清會典處分例】ノ附例「私罪罰俸者。皆實罰。降級調用者皆實降。雖有紀錄加級。不准抵銷。」【六部成語註解】「功過相同。准其互相抵銷。」

【抵選】 其官職ニ補用スベキ人員ナキ場合ニ他ノ官職ヨリ應ニ升スベキ者ヲ以テ其官職ニ抵ルコトヲ謂フ。【清會典】吏部抵選ノ附例「遇滿字堂主事都察院都事二項。例不選。滿生。即以應升抵選。其散館庶吉士。到班無其人。亦以應升抵選。」中御史無人。以中

抵。郎中無人。以御史抵。云云。

【抵冒】 抵ハ忤フノ義、冒ハ犯スノ義即チ法律ニ違反スルコトヲ謂フ。【漢書】禮樂志「習俗薄惡。民人抵冒。」註「抵。忤也。冒。犯也。」(周禮「司約」鄭註) ニモ出ツ

【挺】 (才) 首 (齊) 韻

【挺重囚】 (重囚ヲ) 挺ハ拔出ノ義、中夏ノ候ニハ輕罪囚ハ牢舎ヨリ放免シ重罪囚囚ハ拔出シテ清涼ノ地ニ移スコト、國家ノ恩典ノ一種ナリ。【禮記】月令篇「仲夏之月。挺重囚。益其食。陳滫泔。挺者。拔出之義。重囚禁繫嚴密。故特加寬假。馬勝孟註「益重囚之食。不以其罪。庶不怨人之政也。」

【挺力田】 耕作ニ勵精ノ人物ヲ拔擢シテ優遇スルコトヲ謂フ。即チ漢代選舉ノ一科ナリ。【漢書】師丹傳「挺力田」註「特拔異力田之人。優遇之。」

【提學使】 官名、宋代「提舉學務司」ヲ置キ一路州縣ノ學政ヲ掌ラシム。明代「按察分司」ニ「提學道」アリ。清改メテ「提督學政」ト爲ス。專ラ全省ノ學政ヲ掌ル。(「カ」ノ部) 清末改メテ「提學使」ト爲シ督撫ニ屬ス。民國ニ至リテ廢ス。

【提舉學務司】 (提學使) (ヲ見ヨ)

【提貨單】 略シテ「提單」ト曰フ。(ヲ見ヨ)

【提緝之案】 犯罪人ヲ逮捕スル方案ト云フニ同ジ。【福惠全書】「資訊盜逃情由。方可立二提緝之案。」(同書卷十二)

【提塘】 清代各省ノ督撫武職内ヨリ一人ヲ選ビテ京師ニ駐在セシメ專ラ本省ト在京衙門ト往來文書ヲ司ラシム之ヲ「提塘京塘官」ト稱ス兵部ニ隸屬セリ。(會典)

【提單】 提貨單ノ略語、貨物運送會社ノ發行スル證書ヲ謂フ。

ルニ神ハ始祖以來ノ祖宗ノ順次ヲ審議シ之ヲ其自リテ出ヅル所ニ配シテ合祭スルノ謂ニシテ即チ給ノ別名ト爲スヲ是認スルモノナリ。
 【大學衍義補】大傳禮。不レ王不レ禘。王者禘其祖之所自出。以其祖配之。朱熹禘之意。最深長。(中)至祭其始祖。已自闕遠。雖盡感格之道。又推其始祖所自出。而祀之。苟非祭禮之精微。盡感之極至。安能與於此。故知此。則治天下不難也。(中)故孔子曰。知其說者。其如示諸掌乎。(卷五)

禘 (部首) (齊韻)

【禘】 禘ハ父ノ廟(即チ廟ニ入)ヲ指稱ス。説文。親廟也。【公羊傳】隱公元年秋七月ノ註。生稱父。死稱考。入廟稱禘。

【禘廟】 父ノ廟ナリ。【公羊傳】隱公元年ノ註。生稱父。死稱考。入廟稱禘。

綴 (部首) (又屑)

【綴衣】 周代官吏ノ稱。衣服及ビ器物ヲ掌ル

コトヲ職トス。【書經】周書。立政篇。周公戒于王。曰。王左右常伯。常任。準人。綴衣。虎賁。云。蔡沈註。掌衣服器者。曰綴衣。

【綴學】 師ニ就キテ承學スルノ義即チ初學ト曰フニ同ジ。諺詞ニ用キル。【大戴禮】若丘也。綴學之徒。安知忠信。

【綴旒】 二説アリ。一ハ諸侯國民ノ表章也。綴旒ノ旒。一ハ諸侯ノ心ガ天子ニ繫ルコト旒旒ノ旒ノ如ク綴著スルノ義ト爲ス。詩經。商頌。受小珠大球。爲下國綴旒。毛傳。湯天子ト爲リ下國諸侯ノ表章ヲ爲ス。ト訓シ旒旒ハ綴ヲ結ト爲シ諸侯ノ心天子ニ繫ル旒旒ノ旒ノ如ク。綴ニ綴著スレト訓ズ。

綴 (部首) (又青)

【聽鼓】 舊時官廳ニ於テハ卯刻ヲ以テ鼓ヲ鳴シ僚屬ヲ召集ス。故ニ毎朝出衙シテ上官ニ伺候スルヲ聽鼓ト爲ス。

聽 (部首) (又青)

【聽鼓】 舊時官廳ニ於テハ卯刻ヲ以テ鼓ヲ鳴シ僚屬ヲ召集ス。故ニ毎朝出衙シテ上官ニ伺候スルヲ聽鼓ト爲ス。

【聽鼓】 舊時官廳ニ於テハ卯刻ヲ以テ鼓ヲ鳴シ僚屬ヲ召集ス。故ニ毎朝出衙シテ上官ニ伺候スルヲ聽鼓ト爲ス。

【聽事】 天子。政事ヲ聽クコトヲ謂フ。【漢書】令三群臣得封事。以知下情。五日聽。五日聽事。又。上官ガ部下又ハ下官ヨリ事ヲ聽クノ義ニモ用フ。【晉書】謝奕傳。遂攜酒就聽事。引二兵帥共飲。

【聽除】 聽ハ聽候(官吏ガ任期滿了。家ニ除ハ除任ノ義ナリ。【元典章】吏部篇。聽除ノ目アリ其第一條。至元十一年二月。中書吏禮部。承奉中書省割付。五月二十四日。爲待闕官員。比及有闕。合在原在聽候。云云。(十卷)

【聽認回避】 (認ヲ聽ク) 回避ハ嫌疑ヲ避クルノ義。即チ法官ガ原告及ビ被告ト親族若クハ師弟或ハ仇怨ノ關係ヲ有スルトキニ其訴訟ヲ聽クコトヲ辭シ私情私憤ノ嫌疑ヲ避クルコトヲ謂フ。【明律】刑律訴訟篇。聽認回避ノ條アリ同文ヲ以テ。凡官吏於訴訟人内。聞有親及婚姻之家。若受業師。及舊有親屬之人。並聽移文回避。違者答四十。若罪有二增減二者。以二故出入罪一論。(明律卷二十)

【聽認回避】 (認ヲ聽ク) 回避ハ嫌疑ヲ避クルノ義。即チ法官ガ原告及ビ被告ト親族若クハ師弟或ハ仇怨ノ關係ヲ有スルトキニ其訴訟ヲ聽クコトヲ辭シ私情私憤ノ嫌疑ヲ避クルコトヲ謂フ。【明律】刑律訴訟篇。聽認回避ノ條アリ同文ヲ以テ。凡官吏於訴訟人内。聞有親及婚姻之家。若受業師。及舊有親屬之人。並聽移文回避。違者答四十。若罪有二增減二者。以二故出入罪一論。(明律卷二十)

【聽認回避】 (認ヲ聽ク) 回避ハ嫌疑ヲ避クルノ義。即チ法官ガ原告及ビ被告ト親族若クハ師弟或ハ仇怨ノ關係ヲ有スルトキニ其訴訟ヲ聽クコトヲ辭シ私情私憤ノ嫌疑ヲ避クルコトヲ謂フ。【明律】刑律訴訟篇。聽認回避ノ條アリ同文ヲ以テ。凡官吏於訴訟人内。聞有親及婚姻之家。若受業師。及舊有親屬之人。並聽移文回避。違者答四十。若罪有二增減二者。以二故出入罪一論。(明律卷二十)

八十

【聽斷】 訴訟ヲ聽キテ其曲直ヲ斷ズルノ義。【漢書】昔召公述職當民事。時。舍於棠下。而聽斷焉。云云。(周禮秋官)

【聽朝】 親朝ト同義ニシテ天子ガ政堂ニ出デテ國事ヲ聽クコトヲ謂フ。(禮記曾)

觥 (部首) (齊韻)

【觥】 牛馬噬犬ノ人ヲ傷害スルコトニテ觥ハ角ニテツクコト。觥ハ足ニテケルコト。觥ハ牙ニテカムレコトヲ謂フ。以上ノ危險アル畜類ハ其飼養者ニ於テ必ズ人ヲ傷害セザル様ニ豫防方ヲ爲スコトヲ要ス。豫防方ヲ爲サマルトキハ之ヲ謂フ。【唐律】厩庫篇。畜産觥畜人ノ條。諸畜産及噬犬。有觥畜人。而標繩羈絆不レ如法。若狂犬不レ殺者。答四十。以故(以不殺之)殺傷人者。以過失論。若故放令殺傷人者。減四殺傷一等。云云。ト規定ス。(卷十)標繩羈絆(ハ)出ス

【觥】 牛馬噬犬ノ人ヲ傷害スルコトニテ觥ハ角ニテツクコト。觥ハ足ニテケルコト。觥ハ牙ニテカムレコトヲ謂フ。以上ノ危險アル畜類ハ其飼養者ニ於テ必ズ人ヲ傷害セザル様ニ豫防方ヲ爲スコトヲ要ス。豫防方ヲ爲サマルトキハ之ヲ謂フ。【唐律】厩庫篇。畜産觥畜人ノ條。諸畜産及噬犬。有觥畜人。而標繩羈絆不レ如法。若狂犬不レ殺者。答四十。以故(以不殺之)殺傷人者。以過失論。若故放令殺傷人者。減四殺傷一等。云云。ト規定ス。(卷十)標繩羈絆(ハ)出ス

遞 (部首) (又霽)

【遞衣】 數人ガ一枚ノ衣ヲ順次ニ著ルコト。極貧者ノ狀ナリ。【後漢書】李元傳。家貧兄弟六人。同食遞衣。

【遞加】 罪情ノ重キ者ニ對シ一等ヨリ二等。二等ヨリ三等漸次其刑ヲ加重スルコトヲ謂フ。【唐律】開訟篇。部曲奴婢過失殺主ノ條。略小功大功。遞加一等。(卷二)

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【遞解】 犯人ヲ本籍地(本籍地ニ)ニ護送スルコトヲ謂フ。遞ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ及ブコトヲ意義ス。

【明律】清律吏律公式篇。讀讀律令ノ條。上三犯於本衙門。遞降級用。(明律卷三)略三犯於本衙門。遞降級用。(清律卷六)

【遞如意】 國家ニ慶事アリタルトキ。王大臣等ヨリ其意ヲ所奉呈シテ。皇上ヲ恭賀スルコトヲ謂フ。(皇朝政治)

邸 (部首) (齊韻)

【邸抄】 清制。内閣ヨリ上諭ノ要點ヲ抄出シテ發布スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】府第曰邸。此處用之。指内閣也。即由内閣抄出之上諭也。

【邸第】 諸侯王ノ來朝シテ居ル所ヲ謂フ。【史記】臣觀諸侯王邸第百餘。皆高祖一切功臣。【邸店】 貨物ヲ收蔵スルヲ邸ト謂ヒ之ヲ賣ル所ヲ店ト謂フ。(唐律釋)

【邸報】 漢代ハ諸侯王皆邸ヲ京師ニ置ケリ。唐ノ藩鎮亦然リ。邸中ヨリ詔令章奏ヲ傳抄シテ之ヲ諸藩ニ報ズ。故ニ邸報ト曰ヘリ。後世ハ中央政府ヨリ政令ニ關スル事項ヲ地方官廳

【邸報】 漢代ハ諸侯王皆邸ヲ京師ニ置ケリ。唐ノ藩鎮亦然リ。邸中ヨリ詔令章奏ヲ傳抄シテ之ヲ諸藩ニ報ズ。故ニ邸報ト曰ヘリ。後世ハ中央政府ヨリ政令ニ關スル事項ヲ地方官廳

【邸報】 漢代ハ諸侯王皆邸ヲ京師ニ置ケリ。唐ノ藩鎮亦然リ。邸中ヨリ詔令章奏ヲ傳抄シテ之ヲ諸藩ニ報ズ。故ニ邸報ト曰ヘリ。後世ハ中央政府ヨリ政令ニ關スル事項ヲ地方官廳

【邸報】 漢代ハ諸侯王皆邸ヲ京師ニ置ケリ。唐ノ藩鎮亦然リ。邸中ヨリ詔令章奏ヲ傳抄シテ之ヲ諸藩ニ報ズ。故ニ邸報ト曰ヘリ。後世ハ中央政府ヨリ政令ニ關スル事項ヲ地方官廳

【邸報】 漢代ハ諸侯王皆邸ヲ京師ニ置ケリ。唐ノ藩鎮亦然リ。邸中ヨリ詔令章奏ヲ傳抄シテ之ヲ諸藩ニ報ズ。故ニ邸報ト曰ヘリ。後世ハ中央政府ヨリ政令ニ關スル事項ヲ地方官廳

【邸報】 漢代ハ諸侯王皆邸ヲ京師ニ置ケリ。唐ノ藩鎮亦然リ。邸中ヨリ詔令章奏ヲ傳抄シテ之ヲ諸藩ニ報ズ。故ニ邸報ト曰ヘリ。後世ハ中央政府ヨリ政令ニ關スル事項ヲ地方官廳

【挑刺描模】 切斷セル紙幣ヲ集メ其内ヨリ各其完キ一部ヲ擇ビ取リ眞物ノ如ク續合修理シタルモノヲ謂フ。(或ハ一貫紙幣ヲ五貫)【明律】 戶律篇「鈔法」ノ條、若有不行心辨驗、收受偽鈔及挑刺描模鈔貫、在內者、經手之人、杖一百。倍償所納鈔貫。(七)

朝 (部首) (韻)

【朝】 (一) 天子政事ヲ治ムル處ヲ朝ト曰フ。朝ニ三アリ一ハ路門ノ内ニ在リ之ヲ「燕朝」ト謂フ。二ハ路門ノ外ニ在リ之ヲ「治朝」ト謂フ。三ハ阜門ノ内庫門ノ外ニ在リ之ヲ「外朝」ト謂フ。(禮記曲禮) (二) 諸侯春ヲ以テ天子ニ謁スルヲ朝ト曰フ。(周禮春官) 漢代亦然リ。【史記】 寶嬰傳註「諸侯春朝」天子ニ曰朝。【漢書】 吳王濞註「漢書」和帝紀註亦然リ。(何レモ漢) (三) 廣ク臣ガ君ニ謁スルヲ朝ト曰フ。(爾雅釋) (四) 天子事ナク諸侯ヲ引見スルヲ朝ト曰フ。(禮記) (五) 廣ク尊者ニ謁見スルヲ朝ト曰フ。(王制)

フ。【史記】 司馬相如傳「臨邛令謂爲二恭敬。日往朝三相如。」(六) 漢代郡衙ヲ朝ト爲ス。(後漢書) 朝考】 朝廷ノ特別試驗ニシテ清代ノ制ナリ。雍正元年ノ上諭「新科進士於引見前、朕欲先行考試、再引見一應仍照二殿試二豫備。朕將詩文四六各體一出題。視其所能。或一篇。或二三篇。或各體俱作。悉聽其便。」此進士朝考ノ始メナリ。

【朝觀】 諸侯ガ天子ニ謁見スルコトナレドモ、朝ト觀トハ同ジカラズ、【周禮】 宗伯、春見ヲ朝ト曰ヒ、秋見ヲ觀ト曰フ。是レハ其區別ヲ示ス。朝ハ早キノ義ニ取リ、觀ハ勤ト同義、即チ王事ニ勤ムルノ義ニ取ル。【禮記】 曲禮篇「諸侯北面シテ天子ニ見エルヲ觀ト曰ヒ、諸公東面シ、諸侯西面スルヲ朝ト曰フ。又同書王制篇「天子事ナクシテ諸侯ト相見エルヲ朝ト曰フ。此等ハ春見秋見ヲ他方ヨリ説キタルモノナリ。

【朝參】 朝廷ヘ參勤スルコト、在外官ノ官廳ヘ出勤スルヲ「公座署事」ト曰フニ對シテ在京官ノ政朝ヘ出勤スルトヲ「朝參」ト曰フ。(明律) 清律卷五、吏律職制、無故不朝參公座ノ條、【朝參辭見】 朝廷ニ參シ天子ニ謁見シテ奏上スルコトヲ謂フ。(唐律卷七、衛禁篇) 【朝市】 (市ノ部、市) 【朝審】 清制、秋審、熱審等ト同ジク、審判上ノ特別手續ニシテ、刑部ノ監獄ニ拘禁スル死刑囚ニ對スル判決ヲ謂フ。蓋シ其朝審ト云フハ、鞫ノ下ニ於ケル囚人ニ就キテ之ヲ行フガ故ナリ。(清國行政法) 然ルニ「六部成語註解」秋審各案、刑部定議具奏。皇上又派二大臣。在朝中會議一次。曰「朝審」ト記ス。此ニ依リテ觀レバ朝審ハ秋審ニ對スル覆審ニシテ朝廷ニ於テ之ヲ行フガ故ニ、朝審ト稱スルガ如シ。【朝推】 朝推トハ吏部ノ推薦ヲ用キズ、朝臣ヨリ直接推用スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】 由「朝臣」推用。トアルハ是ナリ。【朝請】 漢制、諸侯ガ春ヲ以テ天子ニ見エル

フ「朝」ト曰ヒ秋ヲ以テ見エルヲ「請」ト曰フ。(秦始皇時代) 又朝請ノ事ヲ掌ル者ヲ「奉朝請」ト稱セリ。晉、宋、齊、梁並ニ之ニ因ル。隋開皇以後ハ之ヲ混メテ「朝請郎」及ビ「朝請大夫」ヲ置キ散官ト爲シタリ。

朝請大夫 (前條)

朝請郎 (前條)

朝著 (朝著ノ部、表儀)

【朝廷】 朝ハ「禮記」曲禮「天子寧ノ門屏」ニ當リテ立テ諸公東面シ諸侯西面スルヲ朝ト曰フ。トアルガ如ク臣下ノ君ニ面スルノ義ナリ。故ニ朝廷トハ君ガ臣下ノ朝勤ヲ受ケテ命ヲ下シ奏ヲ聽ク所、之ヲ「朝廷」ト謂フ。

【朝奉】 【史記】 貨殖傳「按ズルニ秦皇烏氏保氏(當時ノ)ヲシテ封君ニ比シ時ヲ以テ列臣ト共ニ朝請セシメタリ。(朝請ヲ) 朝奉ハ奉朝即チ朝請ヲ奉ズルノ義ニシテ一種ノ官名ナリ。安徵ニ於テハ此故事ニ因リテ富翁ヲ朝奉ト稱

【朝律】 漢ノ趙禹ガ作リタル律、朝廷儀式ニ關スル法規ニシテ六篇アリ。【晉書】 刑法志「張湯。越宮律二十七篇。趙禹朝律六篇。云云」又【御覽】 刑法部張斐ガ律序ヲ引キテ曰ク「趙禹。作二朝會正見律。」

條 (部首) (韻)

條印 (部首) (韻)

【條印】 緊要ナル政事上ノ文書ニ用ケル官印ナリ。【事物紀原】 通典曰「北齊有督二攝萬機」之印一銀。以木爲之。長尺二寸。廣二寸五分。背上爲二鼻。鼻之長九寸。厚一寸。廣七分。腹下隆起。篆文曰「督二攝萬機」。凡四字。惟以印二縫合。合縫條印。蓋原ニ於此。」(三)

【條奏甚是】 臣下ヨリ條理ヲ立テ、奏上シタル事ガ、理アリテ皇上之ヲ嘉納スルコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】 「臣下條奏。皇上嘉其所言之有理也。」

【條對】 逐一條理ヲ立テ、對フルコト、【漢書】 梅福傳「請上三變事。皆於三縣道二假二朝傳。」

【條例司】宋ハ初メ五代ノ書ニ仍リテ置、度支、戸部各一使ヲ設ケ或ハ三司使ヲ總設シタルガ、熙寧二年王安石ノ主張ニ因リ制ヲ設ケテ「三使條例司」ヲ置キ邦計ヲ經畫シ舊法ヲ變シ以テ天下ノ利ヲ通ズルコトヲ掌ラシム。(宋史職官志)

【祀】祖宗ノ祭堂ヲ「廟」ト曰ヒ其遠キモノヲ「祫」ト爲ス。【說文】「祫、遠廟也。」禮記「祭法」遠廟爲祫。去祫爲壇。其註「祫之言超也。超上去意也。」古ノ廟制ハ天子七廟、諸侯五廟、大夫三廟、士一廟ヲ建ツルヲ成法トス。故ニ父ヨリ數ヘテ此數ニ超過シタルトキハ始祖ヲ除クノ外ハ其廟ヲ他ニ遷シ之ヲ稱シテ祫ト曰フ。【說文】「遷、廟トアルハ是ナリ。」周禮「春官守祫、守先王先公之廟祫。」其註「遷主所、祫曰祫。但シ諸侯ハ始祖ヲ以テ祫ト爲ス。」左傳「襄公九年、以先君之祫處之。」其註「諸侯以始祖之廟爲祫。尙ホ後世ニハ祫ヲ以テ

祭祀ノ義ニ使用スルノ例多シ、獨子兩祫又ハ「宗祫」ノ如キ是ナリ。
【糶糴散】米ヲ賣ルヲ「糶」ト曰ヒ米ヲ買フヲ「糴」ト曰フ。豐年米價安キ時ニ官ニ於テ買上ゲテ爲スヲ「糶散」ト曰ヒ凶年米價高キ時ニ倉ヲ開キ安價ヲ以テ發賣スルヲ「糶散」ト曰フ。此法ハ「管子」輕重散法ニ始マリ李悝ノ「平糶法」ニ備ハル。後世ノ常平倉、義倉ノ如キ皆之ニ倣フ。(各本法)然ルニ管子ノ法ト李悝ノ法トハ其目的ヲ異ニス。馬端臨曰ク「古今言糶糴散法、始ニ於齊管仲魏李悝。管仲之意、主ニ於富國。李悝之意、主ニ於濟民。云云。」(文獻通考、及ビ大學行義補卷二十五)

【規聘】殷規、時聘ノ略語、諸侯ガ卿大夫ヲ以テ天子ヲ問ハシムルコトニシテ、前者ヲ「來」ト曰ヒ、後者ヲ「寡來」ト曰フ、其來來ト云フハ時々來ルノ義、寡來ト云フハ天子ニ事ア

ル場合ニ來ルノ義ナリ。(周禮春官典瑞、イ、參照)
【調】(一)調ハ遷ト同義、(漢書張釋之)即チ甲ノ官職ニ在職スル官吏ヲ同等官ヲ以テ乙ノ官職ニ轉任スル場合ニ用フ。(調補)(二)戶籍ノコト、戶ニ課スル稅ヲ調ト云フ。唐代租、庸、調ノ調是ナリ。
【調姦】調ハ調弄ノ調、諧戲ナリ。諧戲ニ託シテ他ノ婦女ヲ姦スルコトヲ謂フ。(清律)刑律犯姦篇「犯姦」ノ條附例「凡調姦圖姦、未成者、經本婦告、知親族鄰保、即時稟明該地方官、審訊。」(卷三)
【調遣】調發ノ爲メニ派遣スルコトヲ謂フ。(明律)兵律軍政篇「縱軍擄掠」ノ條「凡守邊將帥、非奉調遣、私自使令軍人、於外境擄掠人口財物者、杖一百云云。」(清律卷十八)
【調授】留授ニ對スルノ語、事務上ノ都合ニ

依リ甲衙門ノ官吏ヲ乙衙門ニ遷シテ同等ノ官職ヲ授クルコトヲ謂フ。(六部成語註解)「此所の責任官、改作彼所の同等官、任レ官。」
【調變】調和ノ義ナリ。類書撰「劉涓子」罷衣裳之類例。配皇極而調變。
【調人】官職(イ)訴訟事件ヲ調停スルコト、(ロ)復讐ニ關スル處分ヲ爲スコトハ其職務ノ主ナルモノナリ。(周禮)地官、調人職、掌司萬民之難。謂相刃而訟、謂相和之。凡過而殺傷人者、以民成之。凡和難、父之讐、辟諸海外。兄弟之讐、辟諸千里之外。從父弟之讐、不レ同國。君之讐、師長之讐、從父兄弟、主友之讐、從父兄弟、弗辟。則與之端節、而以執之。凡殺レ人、有二反殺者、使邦國交讐之。凡殺レ人而義者、不レ同國。令勿讐。讐レ之則死。凡有讐怒者成之。不レ可成者則書レ之。先勳者誅レ之。

爲ス者、「元典章」一等無籍之徒。游手好閑。糾合惡黨。欺過良善。屬騙財物。恃此爲生。其局之名七十有二。略舉如太學龜。美人局。調白之類。是也。一ニ「調包」トモ稱ス。

【調班】調補ノ場合ノ順位ヲ定メタルモノ之ヲ「調班」ト謂フ。(參照)
【調補】甲衙門在任ノ官吏ヲ乙衙門ノ同等官ニ改補スルコトヲ謂フ。(六部成語註解)
【趙】(部首) (走) (韻) 國名、一ハ周ノ穆王其御造父ヲ趙ニ封ズ、其故地今ノ山西省趙城縣ニ在リ。二ハ戰國ノ時晉ノ三卿(所謂)韓氏魏氏趙氏ノ三氏ガ晉ノ全國ヲ奪ヒテ之ヲ分チ其姓ヲ以テ國號ト爲シタルモノニシテ、其趙ハ今ノ直隸省ノ南部、山西省ノ北部ヲ有シタリ。又晉ノ時劉曜石勒先後帝ト稱シ國號皆趙ト曰フ。史家曜ヲ稱シテ前趙ト爲シ勒ヲ稱シテ後趙ト爲ス。又今人虛妄ニシテ實ナキコトヲ趙ト曰フ。(菴)

【調包】(下條) 見
【調白】假物ヲ以テ眞物ニ易ヘテ不正利得ヲ

爲ス者、「元典章」一等無籍之徒。游手好閑。糾合惡黨。欺過良善。屬騙財物。恃此爲生。其局之名七十有二。略舉如太學龜。美人局。調白之類。是也。一ニ「調包」トモ稱ス。

【調補】甲衙門在任ノ官吏ヲ乙衙門ノ同等官ニ改補スルコトヲ謂フ。(六部成語註解)
【趙】(部首) (走) (韻) 國名、一ハ周ノ穆王其御造父ヲ趙ニ封ズ、其故地今ノ山西省趙城縣ニ在リ。二ハ戰國ノ時晉ノ三卿(所謂)韓氏魏氏趙氏ノ三氏ガ晉ノ全國ヲ奪ヒテ之ヲ分チ其姓ヲ以テ國號ト爲シタルモノニシテ、其趙ハ今ノ直隸省ノ南部、山西省ノ北部ヲ有シタリ。又晉ノ時劉曜石勒先後帝ト稱シ國號皆趙ト曰フ。史家曜ヲ稱シテ前趙ト爲シ勒ヲ稱シテ後趙ト爲ス。又今人虛妄ニシテ實ナキコトヲ趙ト曰フ。(菴)

【嫡】(部首) (女) (韻) 正音「テキ」一ニ「適」ニ作ル又「的」ニ作ル。嫡妻、嫡子ノ略語トシテ用フ。(見)
【嫡子】嫡ハ音義共ニ敵ニ通ジ、與ニ敵スル者ナキコトヲ意義ス。故ニ妾婢ニ對シテ正妻ヲ「嫡妻」ト曰ヒ、嫡妻ノ子ヲ「嫡子」ト曰フ。(增韻)「正室曰嫡。正室所生之子曰嫡子。一曰嫡敵也。言無二與敵也。」即チ我國法上ノ嫡出子ニ相當ス。然レドモ支那法ニ於テハ、嫡出ノ次序ニ由リテ嫡長子嫡次子ノ語ヲ用キルト共ニ、嫡子ノ語ヲ他ノ意義ニ用キルコトアリ。(明律)「清律」戶律戶役篇「凡立嫡子」

法者云云。ノ規定アリ、此ノ場合ノ嫡子ハ父ノ宗統ヲ承繼スル者即チ家督相續人ヲ指ス。

【嫡嗣】 嫡長子ヲ謂フ。【左傳】「舍嫡嗣不立。而外求君。」

【嫡夫人】 諸侯ノ正室、嫡ハ音滴、訓正ナリ。夫ハ扶ト通ジ禮義ヲ以テ夫ヲ扶クルノ義ニ取ル。【紀】「元」

【嫡母】 妾出ノ子ガ父ノ正室(即チ)ヲ稱スルノ語ナリ。嫡ハ本來正室ノ義ナリ。【增韻】「正室曰嫡」(八母)見ヨ。

摘 (部首) (又陌)

【摘語】 (一)要領ヲ摘舉シテ傳語スルコト、(下條ヲ) (二)隱語ノコト、本事ヲ言ハズ他ノ辭ヲ假リテ暗示スルコトヲ謂フ。【イ】ノ部見ヨ。

【摘語消息】 (消息ヲ) 犯人ノ家族及ビ奴婢ガ犯人ヲ庇護スル爲メニ官邊探偵ノ機謀ヲ

摘舉シテ犯人ニ通知スルコトヲ謂フ。(唐律名例) 同條

【摘參】 官吏ノ過失ヲ指摘シテ其罪狀ヲ參劾スルコトヲ謂フ。(史部)

【摘釋】 或犯罪連累被告人中ヨリ無罪ノ保證アル者ニ限り、之ヲ摘出シテ釋放スルコトヲ謂フ。(大清律例) 上將二案内無辜牽連人等一先行ニ摘釋。止將二要犯一解二赴同知衛門一審明。云云。

【摘伏】 法官ガ隱伏セル罪情ヲ摘舉スルコトヲ謂フ。【漢書】「發姦摘伏如神。」

滌 (部首) (錫韻)

【滌宮】 祭ニ供スル牲ヲ養フノ室ヲ謂フ。(祭)ノ部見ヨ。

【滌煩子】 心ノ煩勞ヲ滌除スルノ義、即チ茶ノ異名ナリ。【施肩吾詩】「茶爲滌煩子。」

滴 (部首) (錫韻)

【滴血】 裁判ヲ爲ス時ニ親族ノ眞偽ヲ辨ズル

ノ法ニシテ六朝時代ヨリ傳ハル。其傳フル所ニ依レバ至親ノ者ハ各其血ヲ取リテ之ヲ水中ニ滴セバ相凝合ス、又檢屍ノ時死者ノ骨上ニ滴セバ滲入スト云フ。

【滴珠】 官爐ニテ小圓錠(銀貨ノ名)ヲ鑄鑄スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「官爐鑄二錢小圓錠。曰二滴珠。」

【滴珠銀】 前項ノ如ク官爐鑄造スル所ノ小圓錠ノコトニシテ、大ナルハ之ヲ「銀子元寶」ト曰フ。【六部成語註解】「官爐鑄錢。小圓錠曰二滴珠。大者曰二銀子元寶。」

的 (部首) (錫韻)

【的確】 的ハ明白、確ハ確實、即チ明白且ツ確ナルノ義、敢テ新語ニアラズ。【品字箋】「的白也。的確。明白且確也。」

【的決】 的ハ實ノ義、凡ソ答杖ハ罪情ニ因リテハ金ヲ出シテ罪ヲ贖フコトヲ准スノ例アルモ、其准サズシテ實刑ヲ科スルヲ「的決」ト謂フ。【六部成語註解】「的實也。凡答杖之罪。或

納レ金准免。其不ニ准免一者曰「的決。」

糶 (部首) (錫韻)

【糶】 (一)入米ナリ。(廣) (二)穀ヲ買フコトナリ。【左傳】莊公二十八年、賊孫告「糶于齊」。疏「買穀曰糶。告糶者。將以貨財告齊以買穀」。戰國ノ時魏李悝米價調節ノ目的ヲ以テ平糶法ヲ制ス。(本條ヲ) 唐始メテ和糶ノ法ヲ作ル(本條ヲ) 宋ニ至リ結糶、寄糶、依糶、均糶、博糶、兌糶、括糶等ノ名アリ。馬端臨曰「古之國用。食糶租衣糶而已。母俛於糶也。平糶法始於魏李悝。然豐則取之於民。歉則捐以濟民。凡以爲民而已。軍國之用。未嘗仰此。歷代因之。自唐始以糶充他用。至子宋。而糶遂爲三軍餉邊儲一大事。熙豐而後始有結糶、寄糶、依糶、均糶、博糶、兌糶、括糶等名。【文獻通考大學衍】「結糶ハ熙寧八年劉佐ガ川茶(四川產)ヲ體量シ便宜ニ因リテ糶ト連結シテ輸送セシメタルコトヲ謂ヒ、寄糶ハ元豐二年王子淵ガ綱舟(貨物ヲ結幫シ)ノ行

使ニ因リ之ニ寄託(委託)シテ便宜ノ取扱ヲ爲シタルコトヲ指シ、依糶ハ熙寧八年依散(分糶)ヲ民ニ設ケテ處分シタルコトヲ指シ、均糶ハ政和元年童貫ノ奏請ニ由リテ人戶家業田土即チ家産ヲ計リテ均敷(均等ニ不足ヲ)セシメタルコトヲ指シ、博糶ハ熙寧七年歲用ノ餘糶ヲ以テ民ニ聽シテ博ク買ハシメ秋穀成リテ博ク糶シタルコトヲ指シ、兌糶ハ熙寧九年淮南常平司ニ詔シテ時ニ及ビテ新舊米ノ入替ヲ爲サシメタルコトヲ指シ、括糶ハ元符元年童貫ガ民間ノ蓄穀ヲ括索(搜索)シ十一分ヲ存シテ他ヲ買收シタルコトヲ指ス。(大學衍義補) 卷二十五

陽解淋尖 (部首) (又藥)

【陽解淋尖】 稅穀ヲ徵收スルトキ倉官斗級(米ヲ受取)ガ足ニテ升ヲ陽リテ多ク入レルヲ「陽解」ト曰ヒ升ノ上ニ米ヲ高ク盛リテ多分ニ收ムルヲ「淋尖」ト曰フ。【明律】「清律」戶律倉庫官多收稅糧解面ノ條、同文ヲ以テ「略不令二納戶行。陽解淋尖。多收二解面一者。杖一

百。云云。(明律卷七) 湖律卷十

踢打致死 (部首) (錫韻)

【踢打致死】 足ヲ以テ蹴リ死ニ致スルノ義ナリ。開殺ヲ以テ其罪ヲ論ズ。【元典章】刑部第四篇開殺章「踢打致死」ノ條アリ。此義ナリ。(卷四) 十二

哲 (部首) (屑韻)

【哲獄】 訟獄ノ情ニ明通セルノ義ナリ。【漢書】子定國傳、子定國父子。哀。哲。獄。爲任二職臣。註「哀。哲。獄。哀。恤。獄。也。哲。獄。知。二。情。也。」

哲人惟刑 (部首) (屑韻)

【哲人惟刑】 (哲人惟) 明哲ノ賢者刑罰ヲ用キレバ輕重悉ク其中ヲ得ルノ謂ナリ。【書經】呂刑「哲人惟刑。無二疆。之。辭。屬。于。五。刑。咸。中。有。慶。」

姪 (部首) (屑韻)

【姪】 本來、姪ハ女子ガ其兄弟ノ子ヲ指稱スルノ名ナリ。古禮「吾ヲ姑(父ノ姉妹)ト曰フ者、吾之ヲ姪ト謂フ」即チ是ナリ。兄弟ノ「子」

（チ） 姪 徹

ハ「猶子」ト曰フヲ本義トス。黃幹曰ク「姪者。姑呼ニ其兄弟子一名也。古人謂。兄弟之子。猶子也。故以子呼之。今乃謂之姪。則失之矣。自兄弟之子。不呼叔伯。爲父。則不知敬其叔伯矣。自叔伯。不呼兄弟之子。爲子。則不知愛兄弟之子矣。」(大學衍義補)然ルニ法制ノ上(亦ハ後世ハ)ニ於テハ兄弟ノ男子ヲ姪ト曰ヒ女子ヲ姪女ト曰フ。而シテ姉妹ノ子ハ甥ト曰フヲ通例トス。(下條) (參照)

【姪甥】 姪ハ上記ノ如ク女子ガ兄弟ノ子ヲ稱スルヲ本義トシ、(母ノ兄弟)甥ハ男子ガ姉妹ノ子ヲ稱スルヲ本義トス。下掲ノ如ク種種ノ説アレドモ要ハ之ヲ出アズ。然ルニ法制ノ上ニ於テハ姪ハ兄弟ノ男子ヲ稱スルノ名トス。其文字ノ構成ヨリ看レバ古義ニ從フヲ可トスルモ法制ノ上ニ於テ然ラズ。是レ變遷ノ然ラシム所ナルベシ。『三餘偶筆』「擬廷之日。伯叔有父名。則兄弟之子。不得稱姪。從母稱親。母之姊妹。有母名。則姊妹之子。不可言甥。爲從母。」

且甥姪惟施於姑舅一耳。曾次宗曰。姪字有レ女。明レ不レ及ニ伯叔。甥字有レ男。見レ不レ及ニ從母。按。爾雅釋親。女子謂ニ弟之子。爲レ姪。儀禮喪服經。姪。大夫婦人報。註。爲レ姪男傳曰。姪者何也。謂ニ吾姑。者。吾謂ニ之姪。禮記。大夫不レ名ニ世臣姪。婦。姪其從レ姑。又繼室以ニ其姪。又齊侯娶ニ於魯。曰ニ願歸姪。無レ子。其姪歸。鄭生レ光。以爲ニ太子。國語。皇妣。大姜之姪。公羊傳以ニ姪婦。從レ。說文。姪。兄之女也。劉熙釋名。姑謂ニ婦。從レ。兄弟之女。爲レ姪。按ニ釋名。亦是。男女通。則姪之稱。不レ及ニ世父叔父一甚明。親父之稱。兄弟之稱。世。至甥之稱。固不レ及ニ從母。然亦不レ獨施ニ於舅。爾雅釋親。姑之子。爲レ甥。舅之子。爲レ甥也。妻之弟。爲レ甥。姊妹之夫。爲レ甥。註。四人體。故更相。又謂ニ我舅。者。吾謂ニ之爲レ甥。甥。猶生也。甥。則類氏謂。甥惟施ニ於舅。非也。(六)

【姪孫】 法制上ニ於テハ兄弟ノ男子ヲ姪ト爲ス。故ニ兄弟ノ男孫ヲ姪孫ト爲ス。女子ナルトキハ姪孫女ト爲ス。(明律清律) (戶部戶役)

【姪婦】 春秋時代諸侯妻ヲ娶ルトキハ女家同

姓ノ諸侯ノ女ガ之ニ從ヒ來ルヲ例トセス。之ヲ姪婦ト謂フ。此姪婦ハ其正妻ニ姪女タリ。又婦(妹)タルヲ自適シテ來ル者ニシテ禮即チ副妻ノ稱ナリ。當時ハ天子諸侯ハ再娶ノ制ナカリシヲ以テ正妻死スレバ姪婦ヨリ之二代リテ正妻ト爲ルヲ通例トセリ。『公羊傳』十八年。諸侯娶ニ一國。則二國往媵レ之。以ニ姪婦一從。云云。

【徹】 (部首) (頤)

【徹】 通又ハ均ノ義アリ。『論語』顏淵篇。有若對曰。徹乎。註。徹。通也。均也。周制。一夫受田百畝。而與同レ溝共レ井之人。通力合作。計レ畝均收。(論語)是則チ井田ノ徹法ヲ示シタルモノナリ。『孟子』滕文公篇。夏后氏五十而貢。殷人七十而助。周人百畝而徹。其實皆什一也。蓋シ徹ヲ通也ト解スルハ、固即チ九百畝ノ田ヲ八家ニ與ヘカヲ通ジテ(協力)合耕共作セシムルガ爲メナリ。又論語ノ註ニ均也ト解スルハ畝ヲ計リテ均ニ收租セシメ、即チ十分ノ

九ヲ民ニ給シテ其一ヲ公ニ取ルガ爲メナリ。『增補四書人物考』「同溝共井之說。詳見ア孟子滕文公間。爲レ國集註下。徹即助也。公劉乃殷之諸侯。其詩曰。徹田爲レ糧。則當時已謂ニ徹爲助矣。貢助徹本無ニ二法。於民所受田中。取ニ其租。謂ニ之貢。就ニ其中。留ニ公田。藉ニ民耕。而官取ニ其租。謂ニ之助。周之徹法。天子畿田。提封百井。諸侯提封萬井。每井公田百畝。萬井當レ有二百萬畝。每畝受ニ粟一石八斗。當レ爲ニ二百八十萬石。一井八家。每家四婦。當レ爲ニ八萬婦。每婦收ニ布粟二疋。當レ爲ニ十六萬疋。而絲絮不レ與焉。」(六卷)

【徹侯】 秦ハ古ノ五等爵(公侯伯子男)ノ廢シ惟ダ侯爵ノミ存シテ功勞ヲ賞ス。凡テ二十級アリ爵ノ最モ高キヲ徹侯ト爲ス。徹ハ通ナリ其爵位上天子ニ通ズルノ義ニ取ル。漢之ニ因リ金印紫綬トス。後ニ武帝ノ諱ヲ避ケ改メテ通侯又ハ列侯ト爲ス。『獨斷』「羣臣異姓而有レ功者。稱ニ徹侯。避ニ武帝之諱。改曰ニ通侯或列侯。」

【徹法】 徹ハ通ナリ又均ト通ズ。即チ八家力ヲ通シテ困田ヲ耕作シ其種タル穀類ハ畝ヲ計リテ平均ニ分配シ其十分ノ一ヲ上納ス。即チ周武王十三年ニ定メタル法ナリ。『資治通鑑』綱目前編。周武王十三年。記。立ニ徹法。其註。孟子曰周人百畝而徹。朱子曰一夫受田百畝。蠲遂用ニ貢法。十夫有レ溝。都鄙周助法。八家同レ井。耕則通力而作。收則計畝而分。故謂ニ之徹。徹。通也。均也。(卷) (七) (見ヨ)

【徹】 (部首) (頤)

【徹】 (手) (才) (頤)

【徹棘】 試驗ノ成績ヲ發表スル時、下第不選ノ徒ノ妨害ヲ防グ爲メニ荆棘ヲ門ニ設ケ合格證書ヲ交付スルノ日ニ之ヲ撒ス。故ニ考試事畢ルノ稱トス。(舊五代史)

【撤回郵件辦法】 清制、既ニ郵便局ニ發送ヲ託シタル郵便物ヲ寄件人(發送)ノ依頼ニ由リテ撒還スルコトヲ定メタル法規ヲ謂フ。(郵政章程)

【輟朝】 (部首) (車) (頤)

【輟朝】 老臣大官死去ノトキ天子朝政ヲ輟メテ弔意ヲ表スコトヲ謂フ。蓋シ、唐玄宗ノ開元十八年ニ始マル。『事物紀原』唐會要曰。開元十八年十一月張說薨。輟朝罷元會。又大和三年七月崔龜從奏云。正觀中任環卒。有司對仗奏聞。太宗實ニ其垂ニ禮。岑文本歿。其夕罷警殿。張公謹亡。不レ避ニ辰日。臣謂大臣夢。禮合ニ輟朝。推レ是則太宗以來尙未レ行ニ茲禮也。會要首錄ニ開元事。當ア是自ニ明皇一始也。(一)

【鐵】 (部首) (金) (頤)

【鐵軌】 鐵道ノ軌道ナリ。清代其用具ハ大概湖北漢陽ノ鐵廠ニ於テ製造シタリ。

【鐵貨】 軍器ニ要スル鐵材ノ義、即チ未ダ軍器ヲ成サザルモノヲ謂フ。(清律)

【鐵官】 鐵錢ヲ鑄造スルヲ掌ル官ナリ。(錢) (見)

【鐵券】 古、有功ノ臣ニ頒ツモノ、其制瓦ノ如

ク外ニ履歷恩數ノ詳ヲ判ミ以テ其功ヲ記シ中ニ免罪減録ノ數ヲ錄ミ以テ其過ヲ防グ。字ハ嵌ムルニ金ヲ以テシ之ヲ左右ニ分チ左ハ功臣ニ頌チ右ハ内府ニ藏メ故アルトキハ之ヲ對照シテ信ヲ取ル。之ヲ「鐵券」ト稱ス。(高)【文體明辨】史稱。漢高帝定天下。大封功臣。剖符作誓。丹書鐵券。金匱石室。藏之宗廟。其誓詞曰。使黃河如帶。泰山若砥。國以永存。愛及二苗裔。後世因之。遂有「鐵券文」焉。云云。

【鐵錢】鐵ヲ以テ鑄造シタル錢。其二ハ銅錢ノ一ニ當ル。漢末ヨリ始マル。【事物紀原】通典曰。王莽改漢錢。百姓不便之。公孫述廢銅錢。置鐵官。鑄鐵錢。則以鐵爲錢。始於公孫述之據蜀也。皇甫士安高士傳曰。史弼迎寇郭奉也。輒再屆。其奉一揖而去。門人問之。弼曰。鐵錢也。曰。故以二當一。弼曰。此漢末事也。今鐵錢止行於川峽。百二當一銅錢之一。自爾時已然也。(十)

【鐵面】(一)鐵ヲ以テ製シタル面具ヲ謂フ。

【普書】朱何傳「夏口之戰。用鐵面一自衛。トアルハ其一例ナリ。(二)私ナキニ喻フ。宋ノ趙抃殿中侍御史ト爲リ非違ヲ彈劾シテ權倖ヲ避ケズ京師目シテ「鐵面御史」ト爲ス。(宋史趙抃傳)

【鐵面御史】(前條ヲ見ヨ)

【貼役】(役)徒刑囚ガ病氣其他ノ事故ニ因リテ役ヲ休ミタルトキハ病氣快癒又ハ事故解除シタル後ニ其休ミタル役ヲ追充セシム。之ヲ「貼役」ト謂フ。(明律清律刑律斷獄)

【貼脚】(脚)明初兩浙ノ富民徭役ヲ畏避シ大率己レノ田産ヲ以テ零星(小サク)ニシテ親族鄰人又ハ佃僕(小作)ニ表面的附寄シタリ。徭役ハ標準シテ課之ヲ「貼脚詭寄」ト謂ヘリ。

【貼脚詭寄】(前條ヲ見ヨ)

【貼黃】(一)唐制詔勅ハ總テ黃紙ヲ用フ。之ヲ更改スルトキ亦黃紙ヲ以テ貼ル。之ヲ「貼黃」ト謂フ。(二)明代ハ章奏文ハ其要旨ヲ撮抄

シテ之ヲ腰尾ニ粘シ以テ省覽ニ便スルヲ例トシ之ヲ「貼黃」ト謂フ。亦古例ニ因リテ黃紙ヲ用キルガ爲メナリ。

【貼現】銀行、錢舖(從來ノ金)ガ未ダ期限ニ到ラザル款(金)ヲ應付シ、或ハ又同業者ノ發行セル票據(切手)ノ代付ヲ爲ストキハ(向キニ取付シタ)百貫毎ニ若干圓ノ貼補ヲ要求スルヲ例トス。之ヲ「貼現」ト謂フ。

【貼射】宋ノ天聖中ニ定メタル榷茶、即チ茶專賣ノ方法ナリ。其方法ハ官ヨリ本錢ヲ給セズ商人ニ直接園戶(茶園)ニ就キテ茶ヲ買ヒ、而シテ一定ノ息錢ヲ官ニ入レシム。其茶モ必ズ榷シテ官ニ入レシメ商人ノ指所ニ隨キテ之ヲ與ヘ券ヲ給シテ驗ト爲シ販賣セシメ以テ私賣ヲ防グ、故ニ「貼射」ノ名アリ。(宋史食貨志)

【貼狀】看語、即チ裁判ノ筆記、正本ニ附スル被告ノ口述筆記ニシテ、判決ノ參考ニ供スルモノヲ謂フ。(福惠全書)

【貼出】掲出ト云フニ同ジク例セバ受驗者ガ

不正ノ行爲アリタルトキ監筆ヲ以テ其罪狀及ビ姓名ヲ記シテ試驗場ノ門前ニ公示スルノ類ナリ。

【貼身】俗ニ左右ノ妾ヲ「貼身」ト曰フ。(宋莊)【勛】

【貼水】商業上ノ語、銀色ノ低キモノハ錢ヲ加ヘテ填補スルコト、之ヲ「貼水」ト謂フ。

【貼斷】(一)大赦前ニ犯人ノ罪刑ヲ處斷シテ罪其當ヲ失シ輕キ者ヲ以テ重シト爲シタルトキハ改正シテ輕ニ從ハシメ、重キ者ヲ以テ輕シト爲シ、而モ常赦(本條ヲ)ニ於テ免サザル者ハ律ニ照シテ其不足ノ罪ヲ追科ス。之ヲ「貼斷」ト謂フ。(明律清律刑律斷獄篇)(二)或ル事件ニ對シテ斷案ヲ下シ、不足額ヲ填補シテ、賠償ノ義務ヲ果タサシメ、以テ其事件ヲ終了セシムルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「斷以」

【貼運】清制、江西及ビ兩湖(湖南湖北)ヨリ京師ニ輸送スル米穀運賃ノ別名ナリ。

【輒】(部首) (車) (韻) 輒ハ則ト言フガ如ク「スナハチ」ト訓ス、悔ハ恨亦ハ改ノ義アリ、クキルト訓ス、已ニ約シタルコトヲ悔キテ之ヲ變ズルヲ「輒悔」ト曰フ。唐律「戶婚篇」許嫁女報婚書ノ條「諸許嫁女。已報婚書。及有私約。而輒悔者杖六十。トアルハ其一例ナリ。(同書卷十三)

【佃】(部首) (人) (韻) 古ハ佃、畝、甸、田相通シテ耕作ノ義ニ用キラレ又田獵ノ義ニモ用キラレタリ。【詩經】齊風「書經」多方篇其例多シ。佃ガ小作人ノ義ニ用キラレタルハ宋以後ナルガ如シ。【宋史】「川陝家民多勞戶。以小民役屬者爲佃客。使之如奴隸。五代史」周行逢世家「性勇敢。果於殺戮。夫人嚴氏諫。行逢怒曰。婦人何知。嚴氏不悅。給曰。家田佃戶。以公貴。頗不力農。請往視之。至則營居以老。歲時衣青裙。押佃戶。送租入城。」然ラバ宋代ニハ其

家ニ附隨シテ農作ニ服従スル者ヲ佃人ト稱シタルガ如シ。其後一般ニ小作人ノ義ト爲ス。要スルニ最初ハ廣ク實際耕作ニ從事スル者ヲ佃又ハ佃人ト稱シタルモ田制ノ變遷ニ伴ヒテ小作權ヲ認ムルニ至リ、始メテ小作人ヲ意識スルニ至リタルモノナリ。

【佃客】自己田地ノ小作人ヲ謂フ。佃客ハ耕作ノ外他ニ使用スルコトヲ得ズ。使用スレバ刑罰ニ處ス。【明律】「清律」兵律「軍營私役民夫操繕」ノ條「若家富之家。役使佃客。操繕者。罪亦如之。杖六十云云。(明律卷十七)元代又此稱アリ。【元典章】刑部第四篇「主戶打二死佃客」ノ條、即チ是ナリ。(卷四十二)

【佃權】小作權ノ義、本來當事者ノ契約ニ由リテ定マルモノナルガ故ニ、一概ヲ以テ其輕重ヲ論ズルコトヲ得ザルモ、支那法ニ於テハ地主ノ專横ヲ防ギ、佃戶ノ權利ヲ保護スルヲ以テ主義トス。(明律、清律、戶律)殊ニ臺灣ニ於テハ舊時土地ノ所有權薄弱ナリシガ故ニ、

佃權即チ小租權特ニ重シ。(墾闢私法)

【佃戶】 小作人ノコト、臺灣ニ於テハ一ニ、隴

戸トモ稱ス。(但シ佃トハ多少差異アリ)

【六部成語註解】 本身無田。租ニ富家之田ニ而耕。

佃戶是也。尙ホ此語ハ古來ヨリ傳ハル。

【大學衍義補】 唐代宗紀永泰二年詔。道州舜廟。宜

調二近廟佃戶。充掃除。(卷六) 其記錄ノ古キ

モノニ屬ス。

【佃作】 農業耕作ニ從事スルノ義ナリ。

【傳】 (一) 周制。關門出入ノ證札。漢代ハ「傳」亦

ハ「通所文書」ト曰ヘリ。【周禮】地官司關ノ註、

「如今通所文書」。賈疏「通所文書。當載三人年

歲及物多少。至關至門。皆別寫一通入。關

家門家乃案勅而過。其自內出者。義亦然。【漢

書】文帝紀「十二年。除關無用傳」。注、張晏

曰。傳。信也。若今通所一也。如淳曰。兩行書二

者以車。謂之傳車。其後又單置馬。謂之

驛騎。丘濬曰。今制。驛設三等馬。有

上中下之別。即漢所謂高足。中足。下足也。

【大學生義補】 (卷九十九)

【傳愛書】 (書ノ部ノ愛)

【傳國璽】 國家神護ノ璽。秦始皇置田王ヲ以

テ刻シテ璽ヲ爲ラシム。文字ハ李斯之ヲ書ス。

【傳】 (即チ) 其文ニ曰ク。受命於天。ト。傳ヘテ漢

末ニ至ル。董卓ノ時天下大ニ亂レテ天子蒙塵

ス。璽ヲ掌ル者之ヲ井ニ投ズ。孫堅軍ヲ城南ニ

屯ス。井中五色ノ光アルヲ見。人ヲシテ浚ヘ

テ璽ヲ得タリ。後。袁紹堅ガ妻ヲ拘シ脅迫シテ

之ヲ得。袁紹敗レ璽復漢ニ歸ス。以テ魏ニ禪

リ魏晉ニ禪ル。(卷一) (錦字箋)

【傳】 (中央政府ヨリ派遣スル使者ナリ。

【傳】 (カノ部ノ行)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

【傳】 (夫ノ部ノ見)

佃權即チ小租權特ニ重シ。(墾闢私法)

【佃戶】 小作人ノコト、臺灣ニ於テハ一ニ、隴

戸トモ稱ス。(但シ佃トハ多少差異アリ)

【六部成語註解】 本身無田。租ニ富家之田ニ而耕。

佃戶是也。尙ホ此語ハ古來ヨリ傳ハル。

【大學衍義補】 唐代宗紀永泰二年詔。道州舜廟。宜

調二近廟佃戶。充掃除。(卷六) 其記錄ノ古キ

モノニ屬ス。

【佃作】 農業耕作ニ從事スルノ義ナリ。

【傳】 (一) 周制。關門出入ノ證札。漢代ハ「傳」亦

ハ「通所文書」ト曰ヘリ。【周禮】地官司關ノ註、

「如今通所文書」。賈疏「通所文書。當載三人年

歲及物多少。至關至門。皆別寫一通入。關

家門家乃案勅而過。其自內出者。義亦然。【漢

書】文帝紀「十二年。除關無用傳」。注、張晏

曰。傳。信也。若今通所一也。如淳曰。兩行書二

止ムルコトヲ謂フ。(皇朝政治)

【傳】 (信ヲ) 漢律ハ傳ニ乘リ及ビ置傳ヲ發

スベキ者ハ皆一尺五寸ノ木ヲ持シ以テ其身分

ノ正確ヲ保障スベキモノトシ、之ヲ「傳信」ト

謂フ。如淳曰ク「律。諸當乘傳。及發置置傳

者。皆持一尺五寸木。傳信。封以御史大天印

章。(大學衍義補)

【傳】 廣告文ヲ散布スルガ如ク廣ク其事ヲ

傳播スルコトヲ謂フ。(妖言ノ部ノ妖言)

【傳】 刑事被告ノ自白ヲ筆記シテ證據ト

シ更ニ再ビ訊問シテ前旨ノ實否ヲ確ムルコト

【史記】張湯傳注、張晏曰。傳。考證也。爰書自

證。不如此言。反受其罪。訊考三日復問之

知與二前辭一同否也。(漢律)

【傳】 單ニ風説ニ止マリ證據ナ

キ事ハ官ハ告發スルコトヲ許サズルノ義ナリ

【元典章】刑部第十五禁例篇、至大四年(某)月

詔書内一款。近年以來諱訃成風。上陵下替。今

後諸取受己之錢物者。許以實訴。其傳聞

取他人物者。不許言告。欽此。(卷五)

【典】 (部首) (銑韻)

【典】 典ニハ法制上凡ソ二種ノ意義アリ、一

ハ法典ノ典、二ハ諸ノ對物擔保ヲ總稱スルモ

ト謂フベク、更ニ之ヲ二種ニ分チ、一ハ質

又ハ當ト同ジク動産質ヲ意義シ、他ノ一ハ不

【典妻妾】

【典妻妾】(妻妾ヲ)己ノ妻妾ヲ以テ宛モ田宅等ヲ典スルカ如ク期限ヲ定メ價ヲ受ケテ他人ニ與ヘ、或ハ雇傭人ノ如ク日ヲ計リテ價ヲ取リ他人ニ與ヘ、一時其妻妾ト爲スコトヲ謂フ。典ト雇トノ相違ハ典ハ限滿ツレバ原價ヲ備ヘテ同贖シ、雇ハ限滿ツレバ原價ヲ還サズシテ家ニ歸ルヲ得ルノ點ニ在リ。【明律】「清律」戸律婚姻篇「典妻妾」條「凡將妻妾受財。典妻與人爲妻妾者。杖八十。典妻女者杖六十。婦女不坐。ト規定シ該清律ノ附註「以價易去。約期限贖回曰典。此仍還原價者。如典田宅一之類也。計日受直。期滿贖回曰雇。此不還原價者。如雇傭工一之類也。ト記ス。(明律卷六) (清律卷九)

同有ニ擇言在。身。惟克天德。自作元命。配享在下。蔡沈註「當時典獄之官。非惟得盡法於權勢之家。亦惟得盡法於賄賂之人。言不爲威屈。不爲利誘也。云云。丘濬註「臣按。刑獄之事。實關於天。典刑者。惟一種天理之公。而不徇乎人欲之私。權勢不能移。財利不能動。如此。用刑者無愧於心。受刑者。允當其罪。吾之心。合天之心矣。云云。(卷百)

女ハ父母ニ給シ妻妾ハ其實家ニ還給ス。(律明卷六、清律卷九、戸律) 婚姻、典妻妾ノ條

【典刑憲】

【典刑憲】(刑憲ヲ)刑憲ハ刑法ノ別稱、典ハ主ナリ、司ハ管ナリ。共ニ「ツカサドル」ト訓ス。主トシテ刑法ヲ管ドルコト即チ秋官司寇ノ職ナリ。【唐律】名例篇「成有秩秩。典司刑憲」註「(上)典者主也。司者管也。憲者法也。官。自白龍一至金政一之官。(各本條)皆食君祿。而主刑法也。(同書) (卷一)

【典則】 典章法則ノ義、【書經】夏書五子之歌「明明我祖。萬邦之君。有典有則。貽子孫。也。通也。石。和平也。鈞。王府則有。蔡沈ノ註「典則。治世之典章法也。百二十斤爲石。三十斤爲鈞。鈞與石。五權之最重也。開通。以見彼此通同。無二折閱之意。云云。(大學衍義補) (卷九十五)

【典娶】

【典娶】 他人ノ妻妾亦ハ女ヲ典物トシ價ヲ出シ限ヲ定メテ妻妾ト爲スコトヲ謂フ。情ヲ知リテ娶リタル者ハ典シタル者ト同罪ニ處シ、

【典籍】 明ハ翰林院ニ圖書ヲ掌ル專官ヲ置キ、名ツケテ「典籍」ト曰フ。又國子館ニモ典籍一員ヲ置キ、大學ノ經籍及ビ板本ノ類ヲ司ラシメタリ。(大學衍義補) (卷九十四)

ヲ得ル條件ヲ附シテ所有權ヲ讓渡スルコト、借ニ之ヲ「活賣」トモ謂フ。

【典簿】

【典簿】 元代國子祕書ノ諸監及ビ諸司ニ此官ヲ置キ明清皆之アリ。民國ニモ法廷ニ此官アリ。書記ノ職ナリ。

【典鋪】

【典鋪】 質屋營業ノ一種、當、質、押等ト同ジク動産質ヲ營業ト爲ス。(但、例外アリ) 惟ダ其規模ノ大小ニ由リテ名稱ヲ異ニスルニ過ギズ。而シテ規模ノ最モ大ナルヲ當ト爲シ、之ニ次グラ質ト爲シ、典ハ第三ニ位スルモノナリ。然レドモ國法上ノ規定ニ於テハ典鋪一ニ當鋪ト稱シ、敢テ差等ヲ附セズ其起源等ニ就キテハ質ノ部ニ詳述セリ。(「見」ノ部、質)

【填諱】

【填諱】 今人自ラ先世ノ碑誌等ヲ撰スル者ハ必ズ人ニ請ヒテ先世ノ名號ヲ代書セシム。之ヲ「填諱」ト謂フ。

【填紅】

【填紅】 公文書ノ面ニ上官ガ硃筆ヲ以テ親ラ

月日ヲ記入スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「公文面。上官以硃筆親填二月日。」

【填帖】

【填帖】 唐代官吏登用試驗ノトキ、經書ヲ填寫スルコトヲ謂フ。(唐書選)

【墊解】

【墊解】 清制、京師ニ解送スベキ税金(必シ金ニ限)未ダ全部收集セザル場合ニ、別途ノ金ヲ以テ之ヲ補充シテ解送スルノ義、【六部成語註解】「應行解送之款。未徵齊。先以他款墊解。蓋墊ハ補充ノ義ニ用フ。」

【墊完民欠】

【墊完民欠】 (民欠ヲ)清制、人民ノ納稅不足額ヲ稅官又ハ書役ガ代リテ補充シ、完納ト爲スコトニシテ、一面ヨリ云ヘバ頗ル好意ノ如クナルモ、實ハ代補ニ託シテ實際ノ代補額ヨリ數等ヲ加ヘテ賠償セシムルモノナルガ故ニ國法ノ禁止スル所ナリ。(會典)

【墊賠】

【墊賠】 應ニ賠償スベキ銀未ダ定マラザルトキ先づ他ノ項ヲ以テ之ヲ補フコトヲ謂フ。【六

部成語註解】「應賠之款未定。先以他項墊補賠償。」

【墊發】

【墊發】 甲ニ要スルノ經費、未到着ノ場合ニ、暫ク乙ノ經費ヲ發シテ之ヲ補充スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「應由此款發發。而此款未至。先以他款墊補發給也。」

【天】

【天】 (部首) (先) (韻) 【天醫節】 八月朔、古人此日ヲ以テ天醫節ト爲シ黃帝岐伯ヲ祭ル。 【天姻】 天子ノ姻族、即チ皇后ノ親族ヲ稱ス。 【海錄碎事】「陸龜蒙苦賦。衛霍天姻。金張世族。」

【天庾】

【天庾】 庾ハ食廩ノ義、即チ國家ニ直屬スル倉廩ヲ「天庾」ト曰フ。【六部成語註解】「庾。倉廩也。天庾者。國之倉廩。」

【天可汗】

【天可汗】 唐ノ貞觀四年西北ノ君長太宗ニ尊號ヲ上リテ「天可汗」ト稱ス。「可汗」ハ西北夷族ノ君長ノ義ナリ。

【天子】

【天子】 天ノ子ト云フノ義、炎帝神農氏ニ始

マル。即チ國家主權者ノ稱ナリ。【事物紀原】
「説文曰。古之神聖人母。感天而生。故曰天子。春秋元命包曰。女登生。子。始爲天子。帝王世紀曰。神農氏之母有二。始爲女登。則帝王之稱。天子。自炎帝始也。【同書】
西漢ハ羣臣「縣官」ト稱シ。東漢ハ「國家」ト稱シ。唐ハ「宮中宅家」ト稱ス。【昭宗紀注】

【天子行寶】(「ハレノ部」八)
天子ノ行寶ト稱ス。

【天子皇帝トノ別】天子ノ稱ハ古ク、皇帝ノ稱ハ新ナリ。天子ハ前述ノ如ク神農氏ニ始マル。尙ホ「禮記」曲禮篇「君天下ノ者曰天子」トアリ。【西銘】「大君。吾父母宗子。」トアリ。是レ天子ハ乾父坤母ノ宗子ト爲スノ謂、即チ君主ヲ以テ天子ト爲スモノナリ。皇帝ハ秦ノ始皇己レノ德ヲ三皇五帝ニ比シ皇帝ト稱シタルニ始マル。【帝レノ部】「皇」其使用ノ區別ニ就キテハ「説文」左傳云。施於夷狄。稱天子。施於諸夏。稱天王。施於京師。稱王。ト

記ス。御印ヲ用ケル上ニ於テハ皇帝ノ印ハ王公以下百官ニ與フルノ書ニ用キ、天子ノ印ハ番國ニ與フルノ書ニ用ケルヲ例トス。【ハレノ部】
【天子信寶】(「ハレノ部」八)
天子ノ信寶ト稱ス。

【天子之寶】(「ハレノ部」八)
天子ノ寶ト稱ス。

【天常】天理ノ常ニシテ子ノ父母ニ孝、臣ノ君ニ忠、弟ノ兄ニ悌、卑ノ長ニ順ナルガ如キ之ヲ天常ト爲ス。【唐律釋】

【天主教】(「ケレノ部」景)

【天人】(一)有道ノ人ヲ曰フ。【莊子】「不離於宗。謂天人。不離於真。謂至人。」(二)才業ニ出ヅル者、又ハ容貌ノ絶美ナル者ヲ謂フ。【三】天人トノ合稱。【漢書】「以觀天人相與之際。」

【天尊像】道教ノ大本尊、即チ神仙ニ擬シテ畫キタル尊像ナリ。【唐律】賊盜篇「盜毀天尊佛像」ノ條、諸盜毀天尊像佛像者徒三年。云

云。(卷十)

【天討有罪】(「天有罪」支那法ハ天理ニ基キテ制定シタルモノニ係リ、又天子ハ天ヲ以テ父ト爲ス者ナルガ故ニ法ノ適用ハ則チ天意ヲ體シテ、至公至正ヲ旨トシ、天ニ代リテ有罪者ヲ罰ストノ觀念ヲ基礎トス。即チ天討主義ハ根本的理想ナリ。【書經】皋陶謨「天討有罪。五刑五用哉。」又同書康誥篇「非汝封。康叔刑人殺之。無或三刑人殺之。」又「曰。刑人。無或制之。則人。」蔡沈註「刑殺者。天之所討。以討有罪。非汝封。得刑之殺之也。云云。」但シ異説アリ。朱熹註「康叔。爲周司寇。故一當多説用刑。呂氏説。非汝封。刑人殺之。則人亦無敢刑人殺之。又曰。非汝封。則人亦無敢刑人殺之。蓋言用刑之權。正在康叔。不可不謹之意耳。丘濬曰。康誥此言。可見刑無大小。皆上天所討。以討有罪者也。爲人上者。苟以私意。刑人殺之。則非天討矣。」(大學衍義)補卷百)

【天秩】【書經】皋陶謨「天秩有禮。」トアルニ出ヅルノ語、秩ハ秩録ナリ。秩録ハ人主ノ私情ニ因リテ與フベキニアラズ、即チ天意ヲ體シテ有禮ノ君子ニ與フベシトノ謂ナリ。【唐律】名例篇「成有二天秩。云云。」トアルハ君臣ノ意ニ用ケルモ其本義ハ此ニ出ヅ。

【天長節】唐ノ明皇ノ誕生日ナリ。【唐實錄】「明皇帝以垂拱元年八月五日。生於東都。開元十七年百官請以爲千秋日。天寶七年改爲天長節。」

【天府】【周禮】ノ官名、春官ニ屬ス。祖廟ノ守護ヲ掌リ凡ソ民數ノ冊、邦國ノ盟書、獄訟ノ籍皆之ヲ天府ニ登スコトヲ職トス。天府ハ朝廷ノ府藏ヲ謂フ。後世之ニ因ル。

【天無二日】(「天ニ二」)天上ニハ一輪ノ太陽天下ヲ照ス。國家ハ一人ノ君之ヲ治ムルトノ謂、【禮記】曾子問篇「曾子問曰。喪有二孤。廟有二主。禮與。孔子曰。天無二日。土無二王。魯無二君。猶無二上。未レ知其爲禮也。」【孟子】萬

章篇「孔子曰。天無二日。民無二王。云云。」
【大戴禮】「天無二日。國無二君。家無二尊。」
【天命有德五服五章哉】(「天有德」命之)【書經】皋陶謨ノ語ニシテ有德ノ君子ハ天之ニ福ヲ下ダシ其德ヲ彰ハスニ五等ノ章服ヲ以テスルコト、即チ有德ヲ賞スルハ天意ノ欲スル所即チ至公至正ヲ旨トシ荷モ人意ヲ以テ之ヲ私スベカラズトノ謂ナリ。【天命降監】(「天命降」)天ハ口ナシ下國民ノ視聽ヲ監ミテ其欲スル所ノ者ニ命ヲ授ケタルトノ謂ナリ。【詩經】商頌殷武篇「天命降監。下民有嚴。不僭不諛。不取怠遑。命于下國。封建厥福。」朱熹註「天命降監。不レ在二乎他。皆在二民之視聽。云云。」

【天網恢恢疏而不失】(「天網恢恢疏」)天上ハ至正ニシテ至公、其惡人ヲ罰スルコト寛疎ニシテ急速ナラズト雖モ、取テ之ヲ失スルコトナシトノ謂ナリ。【老子】第七十三章ノ語ナリ。一本失ヲ漏ニ作ル。(老子古今)本改正)

【天理教】即チ八卦教ノ別名ナリ。清ノ嘉慶十八年其教魁河南李文成、山東ノ林清皆善ク天文ヲ觀ルヲ以テ人事ヲ豫言シ人ノ尊信スル所ト爲ル。林清賄ヲ以テ内監(官)ト通ジ潛ニ其黨ヲ宮禁ニ入レ山東河南ト約シテ同時ニ事ヲ起ス。事敗ル、ニ及ビテ林清ハ誅死シ李文成ハ滑縣ニ在リテ擒ニセラル。後其黨李文成ヲ退出シテ道口鎮及ビ滑縣城ニ據リタルモ官軍ノ壓マル所ト爲リ、文成ハ遂ニ自焚シテ死ス。

【展】(部首) (統)

【展羣幣】諸種ノ幣物ヲ陳列スルノ義ナリ。【儀禮】聘禮「有志展羣幣。以告。」疏「展陳也。」

【展限】期限ヲ延長スルノ義、債務者ガ辦濟ノ期ニ到リテ辦濟不能ナルトキ延期ヲ約ス。之ヲ「展限」ト謂フ。

【展功緒】(「功緒」)展ハ録スルノ義、功績ノ次第ヲ記録スルコト、【周禮】天官「展其功緒。」註「展猶録也。」

【展親】 親族間ノ親ミヲ厚クスルノ義ナリ。
 【書經】 族契黨「分」實玉于叔伯之國。時庸展親。註「使」益「厚」其親也。

【展賑】 荒災ノ年、被災民ヲ賑恤スル期限ヲ延長スルコトヲ謂フ。(清會典)

【展轉傳言】 (展轉シテ) 恐喝取財者ガ自ラ之ヲ爲サズ他人ヲ利用シ傳言シテ恐喝セシムルコトヲ謂フ。此場合ハ傳言セシメタル者ヲ首ト爲シ傳言シタル者ヲ從ト爲シテ罰ス。唐律「賊盜篇」恐喝取人財ノ條即註「展轉傳言而受」財者。皆爲「從坐」。疏議「假若」甲遣乙丙。傳言於丁。恐喝取物五匹。甲合「從」一年半。乙丙並各徒一年。是名「展轉傳言」。受「財」者皆爲「從坐」。然レドモ甲ガ乙ノ爲メニ田苗ヲ踐踏セラレタル時甲ハ乙ヲ告發スト恐喝シテ其損害賠償ノ外ニ財ヲ取リタルトキハ事因縁アルガ故ニ恐喝罪ヲ構成セズ。惟ダ賊(即チ「不當利」)ヲ以テ論ゼラル。前掲脚註ノ下項「若爲」人所「侵損」。恐喝以求「備償」。事有「因縁」者非「」。 (杜子春、唐律注)

疏議「假有」甲。爲「乙」踐「損」田苗。遂恐喝於乙。得「倍」苗「之外」。更取「財」者。爲「有」損苗之由。不當「恐喝」之坐。苗外餘物。即當「非」監臨主司。因「事」受「財」。坐「賊論」科斷。此是事有「因縁」之類。者。非「恐喝」。 (卷十)

【展轉攀指】 贓ノ密賣等ノ犯人ヲ捕ヘタルトキ當該官ガ故ラニ其事件ヲ展轉推張シテ其餘累ヲ無辜ノ者ニ及ボスコトヲ謂フ。清律「戶律」篇「無辜」ノ條「若事發。止理」見「獲人」。當該官司。不「許」展轉攀指。違者以「故」入人罪論。 (八)

【應】 (部首) (先) (韻)
 【應】 一ニ「應」ニ作ル。(一)市場店舖ノ義、其舍ニハ稅ヲ課スルモ其物ニハ稅ヲ課セズ。【禮記】王制篇「市廛而不稅」。註「廛」。市物邸舍。稅「其」舍。不「稅」其物。【周禮】地官廛人職「掌」稅「廛」布。而「入」于泉布。註「廛」布者。貨賄諸物邸舍之稅。尙水廛ニ對シテハ廛ヲ以テ市中ノ空地ト爲スノ說アリ。(杜子春、唐律注)

ニ市中ノ空地ヲ以テ店ノ敷地ニ貸與シ、之ニ對シテ稅ヲ課シタルニ因ル。【孟子】「市廛而不稅」。註「廛」布。亦是ナリ。(二)一夫居ル所ノ地、即チ普通民人ノ宅地ナリ。【說文】廛ノ解「一畝半。一家之居」。【孟子】「廛無」夫里之布。則天下之民。皆悅而願爲「之」氓「矣」。註「一夫」之所「居」曰「廛」。(三)東齊海岱ノ間ハ住居ヲ廛ト曰フ。【揚子方言】「東齊海岱之間。謂」居曰「廛」。

【廛閉】 市肆即チ市場ノ店舖ナリ。唐書「市之良賈精貨。皆逃匿」不出。列「廛閉」者。惟「應」錄苦窳也。
 【廛布】 貨物ヲ置テ邸舍ニ課スル稅ヲ謂フ。【周禮】地官廛人職「掌」稅「廛」布。而「入」于泉布。註「貨賄」諸物邸舍之稅。疏「謂」在三行肆「官」有「邸舍」一人。有「置」物於中。使「之」出「稅」。故云「廛布」也。
 【廛里】 田舍ニ對シテ村落ノ民人ガ常住スルノ地ヲ謂フ。【周禮】「以」廛里「任」國中「之地」。

鄭註「廛里者。若」今云「邑里」。趙惠註「廛」。一夫所「受」之宅。里。一廛之所「居」地。

拈 (部首) (韻)
 【拈】 (部首) (韻)
 【拈香】 拈ハ指ヲ以テ物ヲ取ルコト、香ヲ撮(三指ニテ)シテ之ヲ燒クヲ「拈香」ト曰フ。後世官吏ノ佛寺ニ參詣スルコトヲ「拈香」ト稱ス

【拈圖】 俗間事ノ決定シ難キモノハ之ヲ紙ニ書シ、意ニ隨キテ之ヲ拈出シ其書スル所ヲ見テ決定スルヲ「拈圖」ト稱ス即チ抽籤法ナリ。
 殿 (部首) (韻)
 【殿】 (部首) (韻)
 【殿最】 殿最ト通ズ。郵ハ最モ優レタルコト。殿ハ其反ナリ。(毛見ヨ)

【殿院】 (院) (部首) (三)
 【殿下】 皇太子ノ稱呼、秦漢ニ始マル。但シ皇太后及ビ諸王亦殿下ト稱ス。【事物紀原】漢以來皇太子諸王稱「殿下」。漢之前未レ聞。唐初百官於「皇太后」亦稱レ之。百官泊東宮官對「皇太子」亦呼レ之。今雖「親王」亦避也。始ニ於漢。續事

始曰。漢以前未レ有「此」呼。魏志太祖定「漢中」。杜襲始呼レ之。時操封「魏王」。故襲呼「殿下」。按此自「杜襲」始也。西陽雜俎曰。秦漢以來於「天子」言「陛下」。皇太子言「殿下」。將言「陛下」。使者言「節下」。殿下。二千石長吏言「閣下」。父母言「膝下」。通類相呼言「足下」。(二)

【殿舉】 官吏登用試験ノ不成績者ニ對スル罰法ニシテ唐宋時代ノ制ナリ。【宋史】「乾德」元年。定「諸州貢舉」條法及殿罰之式。進士文理紙纏者。殿五舉。諸科初場十不。殿五舉。第二第三場十不。殿三舉。第一至第三場九不。並殿一舉。進士科ノ試験ニ於テ成績劣等ノ者ハ殿試ニ應ズルコトヲ五回停止シ、其他ノ科試ニ於テハ初場(最初ノ)第二第三場(試験ヲ三ノ)成績ニ微シテ停科ニ處ス。十不、九不ト云フハ當時ノ試験ハ經義ノ摘寫ヲ主トシ凡テ十題ヲ譯シ毎題ニ就キテ檢閱シ答ノ誤レルモノ一一之ニ不字ヲ附シ、不字ノ九アルヲ九不ト曰ヒ十アルヲ十不ト曰フノ義ナリ。

【殿最】 官吏ノ成績ヲ調査シ最モ上ナル者ヲ最ト爲シ最モ下ナル者ヲ殿ト爲シ賞罰ヲ行フコト漢代ヨリ始マル。【漢書】宣帝紀「歲竟。丞相御史課」其殿最「以聞」。尙ホ「漢書」ニハ其用例多シ一「セズ」。

【殿試】 科舉ノ第三層ニシテ(第一層ハ鄉試)天子親ラ殿ニ臨ミテ行フ所ノ試験ナリ。其起源ハ唐ノ則天武后ガ真人ヲ洛陽城ニ召集シ親ラ軒ニ臨ミテ策問ヲ行ヒ、之ヲ「臨軒策士」ト稱シタルニ始マル。五代ノ時亦重試殿試ノ名アリ。殿試ガ一定ノ形式ヲ成スニ至リタルハ宋代ニシテ宋ノ太祖開寶六年進士ヲ講武殿ニ召集シテ殿試ヲ行ヒ、此ヨリ永制ト爲リタリ。詳言スレバ宋代ノ科舉ハ(一)解試(後ノ鄉試) (二)省試(後ノ會試) (三)殿試ノ三層ト爲シ、又科目ハ進士、明經、明法ノ三科ヲ主トシ、解試ニ及第シタル者ハ地方官ヨリ解狀(即チ)ヲ交付シテ國都ノ貢院ニ送り、省試ニ應ゼシム。故ニ解試ノ最優等者ヲ「解頭」又ハ「解元」

ト稱セリ。省試ハ尙書省禮部ニ於テ之ヲ行ヒ、其最優者ヲ「省元」ト稱セリ。殿試ハ即チ省試ノ合格者ニ對シ、天子親ラ策問ヲ爲スモノニシテ、其最優者ヲ「狀元」「狀頭」又ハ「榜首」ト稱シ、以上三試共ニ最優等ヲ以テ及第シタル者ハ特ニ之ヲ「三元」ト稱シタリ。(文獻通考) 明ハ宋ニ倣ヒテ三層ノ制ヲ探ルト同時ニ、解試ヲ改メテ「鄉試」ト爲シ、省試ヲ改メテ「會試」ト爲シ、殿試ハ依然其名ヲ襲用シタリ。而シテ鄉試及第者ヲ「舉人」ト稱シ、會試及第者ヲ「貢士」ト稱シ、殿試及第者ヲ「進士」ト稱セリ。且ツ殿試最優者三人ヲ拔キ第一名ヲ「狀元」ト稱シ、翰林院修撰ヲ授ケ、第二名ヲ「榜眼」ト稱シ、第三名ヲ「探花」ト稱シ、俱ニ進士及第ヲ賜ヒ、翰林院編修ヲ授ケタリ。清朝ハ之ニ仍リタルモノニシテ、大體ニ於テ異ナル所ナシ。(明會典) 尙ホ「事物紀原」ハ其起原ヲ漢武帝ニ始マルモノトシ下ノ如ク記ス。技禮起ニ於漢武帝。其策賢良。曰。輿自朕躬是

也。通典曰。唐武后載初元年二月十四日策二問。賈人於洛城殿。殿前試人自レ此始也。宋朝會要曰。開寶六年三月太祖御講武殿。覆試宋準以下。先是禮部放三準等下第。徐士廉極言登聞鼓。上言。知舉官取捨非當。即詔禮部。籍入策進士並終場。經學準等。並覆試於殿廷。自レ是爲「常制」。(三) 殿前都點檢 漢ハ「南軍」ト稱ス。五代ノ制ハ「侍衛親兵」及ビ「殿前」ノ兩司アリ。蓋シ、侍衛親軍兵ハ後唐ニ起リ、殿前ハ周ノ世宗顯德元年ニ始マル。宋初ハ後周ニ沿ヒ、殿前都點檢アリ、都指揮ノ上ニ在リ。(指掌) 殿中監 殿中省ノ長官(殿中省) 殿中侍御史 (院) 殿中省ノ官(殿中省) 殿中省 宮殿内ノ事ヲ監督スル官廳、事物紀原 魏置殿中監。而北齊以屬門下。隋大業三年。置門下太僕二局。取殿内之名。爲殿内監。唐爲殿中省也。

殿直 武官名。宋代之ヲ置ク、殿廷ニ侍直スル官。左班殿直、右班殿直アリ。【宋史】職官志。武官。有左班殿直。右班殿直。殿廷極人 (殿廷人) 隋文帝法文ノ秘書、明察ノ嚴肅ヲ以テ自ラ矜ル。小過失ト雖モ必ズ加フルニ重罪ヲ以テス。每ニ殿廷(宮)ニ於テ人ヲ撻ツテ例トス。是レ刑罰ノ苛酷ヲ表スルノ語ナリ。【大學衍義補】「隋文帝業不レ悅ル。既任智而獲二大位。因以文法自矜。每於殿廷二極人。一日之中或至三數四。」(百卷) 殿本 清初武奕殿形制ノ御製及ビ經史諸書ハ總テ殿本ト稱ス。武奕殿ノ出版ナルニ因ル。殿門 (一) 長人ヲ選ビテ天子ノ侍衛ト爲シ。天子殿ニ御スルトキハ相排列シテ門ヲ作シ。警衛スルコトヲ謂フ。昔時之ヲ「人門」ト謂フ、宋代俗ニ「儀殿將軍」ト爲ス。【事物紀原】沈括筆談曰。周禮天官掌舍。無宮則併人門。今謂之殿門。天武官極天下長人選。上御前。

則執レ鎮立ニ於棠蔭門下。行幸則爲三禁關。行ニ於仗門之前。今俗謂爲三儀殿將軍者也。蓋始ニ於古人門。(卷) 尙ホ(二) 唐代ニ於テハ太極殿其他宮殿ノ門ヲ殿門ト稱ス。(唐律卷七衛禁) 田 (部首) (類) 田雞 鴨也。小ナルモノ、小渠ヲ以テ之ヲ載ス形蛙ニ似タリ。故名ツクト云フ。 田業 田地ノ所有者ノ義ニ用フ。【事物紀原】「三代之民。皆受田於公。則所田之田。王田也。一夫一婦受レ地百畝。秦孝公任三衛公孫鞅。廢井田。開阡陌。民得買田。而天下之田爲私業。此民田業實買之始也。(九) 田功 土地ノ墾耕ノ功業。【書經】無逸篇「文王卑服。即康功田功。」丘濬ノ解「不レ謂レ養民。而謂レ之田者。周家以農事ニ開レ國。云云。」(大學衍義) 補卷十五 田舍 (一) 里居ニ對シテ田畔ノ家屋ヲ謂フ。農民ハ農作中ハ田舍ニ在リ農事終レバ里居ニ

歸ル。(孟子卷一五款之) 田 宅云云ノ註參照) 田 勸農ノ官吏ヲ謂フ。(或ハ老農ヲ曰) 【詩經】豳風七月篇。饁彼南畝。田畯至喜。 田正 句龍(人名、炎帝)ハ生時后土ノ官ト爲リ土ニ功アリ死後社ニ配シテ祭ラル。堯ハ堯ノ時ノ稷官(農)ト爲リ稼穡ノ事ヲ立テ民ニ功アリ、死シテ乃チ稷ニ配シテ祭ラル。名ツケテ「田正」ト爲ス。(周禮註疏地官大司) 田租稅律 漢代ノ田租ニ關スル法律ナリ。(史記將相) 田地 (一) 田産ヲ謂フ。(近世法ノ所謂) 史記蕭相國世家。君胡不買田。田。立脚ノ地ト云フノ義アリ。【朱子文集】「爲學。須以主敬立志爲先。方可就此田地上。トアルハ其一例ナリ。 田地房屋典押契據 土地家屋買入證書 ノコトヲ謂フ。 田婆 凡ソ田ヲ治ムル者ハ必ズ酒肉ヲ具ヘ

テ土穀ノ神ヲ祭ル。其制ハ草ヲ束ネテ標ヲ立テ諸ヲ田間ニ挿ミ就キテ祭ル。即チ之ヲ「田婆」ト祭ルト稱ス。(東陽) 田律 漢代田獵ニ關スル法律ナリ。【周禮】夏官大司馬職ノ註ニ「無二千車。無自後射。」ト曰ヒ疏ニ「此據漢田律而言。」又同書、秋官士師ノ註ニ「野有田律。」疏ニ「謂ア舉漢法。以況之。」 礪 (部首) (類) 礪 (一) 土地ヲ平ニスルニ用ケルノ具(二) 白ノ一種、上下二石ヲ合セ磨シテ物ヲ粉碎スルニ用フ。【事物紀原】「後漢書云。崔亮在雍州。讀杜預傳。見其爲八磨。嘉其有濟時用。遂教民爲礪。此礪之起也。(九) 礪 礪ハ磨上ニテ石ヲ轉ズルコト、礪ハ磨下ニテ石ヲ定ムルコト、即チ地面ヲ平定スルノ器ナリ。(唐律) 纏 (部首) (類) 纏 (糸) (類) 纏

【縛足】^{ナシツク} 古來行ヘル、習俗ニシテ特ニ清朝ニ始マルニアラズ。五代以來已ニ行ハル。但シ宋初ハ少カリシモ熙寧元豐以後漸ク盛ニ行ハル、ニ至リシガ如シ。蓋シ其始メハ女子足ノ小ナルヲ美ト爲シタルニ因ル。【輶駟録】張邦基原莊漫錄云。婦人之纏足。起於近世。前世書傳皆無所自。南史齊東昏侯爲潘貴妃。鑿一金爲蓮花。以帖地令妃行。其上曰。此步步生蓮花。然亦不謂其弓小也。如古樂府玉臺新詠。皆六朝詞人穠艷之言類。多體狀美人容色之姝麗。及言妝飾之華。眉目唇口要支手指之類。無一言稱纏足者。如唐之杜牧之、李白、李商隱之輩。作詩多言纏足之事。亦無及之者。韓偓香奩集有「纏足」詩云。六寸圓光紙。唐尺短。以今校之亦自小也。而不言其弓。惟道山新聞云。李後主宮嬪嬙嬙麗善舞。後主作金蓮高六尺。飾以寶物細帶縵縵。蓮中作五色瑞蓮。令官嬪以帛繞脚。令纏小屈上作新月狀。素履舞雲中。回旋有沒雲

之態。唐詩曰。蓮中花更好。雲裏月長新。因之官嬪一作也。由是人皆效之。以纏弓爲妙。以此知札脚自五代以來方爲之。如熙寧、元豐以前。人猶爲者少。近年則人人相效。以不爲者爲耻也。(十)

【轉車】^{ナシ} (部首) (韻)

【轉委】^{ナシ} 委任ヲ移轉スルノ義、即チ甲ノ委任セラレタル權限ヲ自己ノ都合上乙ニ轉ジ、乙ヲシテ辨理セシムルコトヲ謂フ。但シ法律上ニ於テハ轉委ヲ禁ズルヲ原則トス。

【轉移執事】^{ナシ} (轉移事) (ヲ執ル) 一定ノ當職ナキ間民ガ處處ニ轉移シテ權作スルコトヲ謂フ。(クルノ部、九) (職ヲ見ヨ)

【轉運使】^{ナシ} 轉運ノ名ハ唐代各道ノ財賦ヲ轉運シテ京師ニ輸送セシメタルニ始マル。五季ノ亂藩臣財賦ヲ擅有シタルヲ以テ宋ノ太宗「諸道轉運使」ヲ置キ以テ利權ヲ總ベシム。後ニ邊防、盜賊、刑訟、金穀、按察ノ任皆之ニ委ス。其

後又「提刑刑獄」ヲ置ク。凡テ四司アリ、一ヲ「帥」ト曰ヒ二ヲ「漕」(運使)ト曰ヒ三ヲ憲(提刑)ト曰ヒ、四ヲ倉ト曰フ。各自臺ヲ建テ各司ニ各長官兼任アリ。(大學衍義)

【轉解】^{ナシ} 轉送ト言フニ同シ。(明律卷七、清律條物)

【轉肩】^{ナシ} 高價ニ物ヲ買ヒテ低價ニ物ヲ賣ルコトヲ謂フ。(錄日)

【轉穀】^{ナシ} 貨物ヲ車ニ載セテ行商スルコトヲ謂フ。【史記】貨殖志「轉穀百數」。漢書「轉穀百數。買三郡國無所不到」。師古註「謂以車載物而逐利」。

【轉對之制】^{ナシ} (轉對) 天子賢臣ヲ引用シテ時務ヲ問ヒ一定ノ順序ニ依リテ對ヘシムルコトヲ謂フ。【大學衍義補】「臣按。唐人有轉對之制。宋太宗因之。許令百官以次轉對。遂爲一代之法。云云。(同書) (卷四)

【轉佃官田】^{ナシ} 農民官有ノ田地ヲ小作スル者

と(ト)ノ部

ガ私ニ其小作業ヲ他ニ轉ズルコトヲ謂フ。【元典章】戶部節官田部「農民將見種官田地。私下受錢。書私約吐退。轉佃佃地之家。又不赴官告。據改立戶。云云。(卷十)

【轉買折賣】^{ナシ} 舖戶(店ヲ張リテ商)ガ本主(官許ヲ得テ鹽ヲ)ノ鹽ヲ買ヒテ小賣ヲ爲スコトヲ謂フ。【明律】戶律課程篇「阻壞鹽法。條。舖戶轉買折賣者。不用此律。(卷八十二) 清律卷

【轉班】^{ナシ} 官吏轉任ノ順序ヲ定メタルモノニシテ例セバ六部、理藩院右侍郎ヲ左侍郎ニ轉ジ、翰林院侍講ヲ同侍讀ニ轉ズルノ類ナリトス。(清會典)

【轉補】^{ナシ} 甲ノ官署ニ缺員ヲ生ジタルトキ乙ノ官署ノ官員ヲ轉任シテ補缺セシムルコトヲ謂フ。

ト(部首) (韻)

【吐蕃】^ト 地蔵ノ古名稱、隋ノ開皇中倫贊索ナル者アリ。牂牁ノ西ニ居リ、土渾ヲ亡シテ其地ヲ占領シ、姓ヲ改メテ「家野勃」ト爲シ、國號ヲ「禿髮」ト唱フ。後ニ訛リテ「吐蕃」ト呼ブニ至レリ。唐ノ貞觀十五年其王蘇隆藏干布ガ太宗ニ請ヒテ宗女文成公主ヲ妻トス。公主佛ヲ信ズルコト篤ク、使ヲ印度ニ遣ハシテ、佛典及ビ文字ヲ輸入セリ。此時ヨリ佛法漸ク地蔵ニ行ハル、ニ至レリ。(清國行政)

【吐魯番】^ト 地名、哈密番西ニ在リ。清代、吐魯番疆ヲ設置ス。清光緒七年清露條約ヲ改訂シ、此地ニ商阜ヲ開作ス。

【圖姦】^ト (部首) (韻)

【圖姦】^ト 強姦ノ一種、但シ未遂ノ狀態ニ在ルモノヲ謂フ。例ヘバ夜陰ニ乘ジテ婦女ノ寢室

ニ入リテ姦ヲ行ハントスルノ類ナリ。【清律】犯姦篇「居喪及僧道犯姦」條ノ附例、乾隆三十二年ノ案「圖姦僕婦。被割三書聖物。云云。」又同五十七年ノ題准「山東荷澤縣尼慧元案與趙九成密友王書姦好。趙九成慧元名圖姦。乘隙至。夜潛入慧元臥室。元喊問。云云。」蓋シ圖姦ハ姦ヲ圖ルト調ズルヲ適トスベシ。(卷三)

【圖譜局】^ト 官吏ノ簿狀(身分來歴ヲ記)及ビ個人ノ系譜トヲ掌ル官廳ナリ。丘濬曰ク「魏晉以來。官有簿狀。家有譜系。官之選舉。必詳於簿狀。家之婚姻。必詳於譜系。歷代並有圖譜局。置三郎令史。以掌之。云云。(義補卷九)

【圖書局】^ト 宋代、圖書ノ類ヲ掌ルノ官局ナリ。【事物紀原】宋朝會要曰。雍熙元年。置翰林圖書院。在內中池東門裏。咸平元年。移在右掖門外。紹聖二年改院爲圖書局。(七)

【圖章】^ト 圖ハ圖書、章ハ印章、即チ共ニ私印ナリ。【辭源】「私印也。圖。謂圖書。章。謂三印

章、混合而稱者也。

【圖書】(一)地圖及び書籍ノ合稱ナリ。【漢書】高帝紀、沛公至成陽。蕭何獨先入。收秦丞相御史律令圖書。藏之。(二)私印、即個人所有スル印章ヲ謂フ。【印文考略】古人於圖書書籍。皆以存護。遂稱圖書印。故今呼二官印。仍曰印。呼私印曰圖書。

【圖象】物ノ賣買貸借ヲ契約スルニ際シ其物ノ形ヲ寫シテ圖ト爲スコトヲ謂フ。【周禮】秋官司約ノ職、小約劑書ニ于丹圖。註、丹圖。贖器贖蓋之屬。有二圖象一者也。

【圖牒】地圖及び記録ノコトヲ謂フ。白居易撰許昌縣合新廳記、若其官省之遺風。物之有無。田賦之上下。盡存乎圖牒。此略不書。

【圖片】清制、八旗佐領ヨリ八旗兵ニ支給スル所ノ證明書ナリ。【辭源】清時由八旗佐領所出鈐用圖記之文牒。謂之圖片。猶漢員之印結。

【圖賴】己レ惡事ヲ爲シテ罪ヲ他人ニ嫁シ、或ハ己レノ恨ヲ報ジ或ハ金錢ヲ強求スル等ノ行爲ヲ謂フ。【福惠全書】略若其久病自故捏詞誣告。移屍圖賴。嚇詐金錢。云云。(十卷)又、汝乘其睡熟。乃以左膝壓其腹。右手扼其吭。略汝遂與穿衣袂其屍。而欲置高某之門。指屍圖賴。以洩三官廟批賴之仇。

【土】(部首) (類) 【土引】茶販賣ニ對スル免許狀ノ一、土司(土司)ニ撤賣スル茶ニ對シテ給スルモノヲ謂フ。(戶部) (則例)

【土宜】其土地ニ適スル農作物ヲ謂フ。【周禮】辨土宜之法。云云。【左傳】文公六年、無使失其土宜。

【土均】官名。土地ヲ平ニスルコトヲ掌ル。【考工】(周禮)

【土圭】土ハ調ヲ度ト爲ス。日影ノ尺度ヲ量ルコトヲ謂フ。(土圭) (考工)

ルノ器、玉ヲ以テ作ル。故ニ、土圭ト曰フ。【周禮】土方氏ノ官アリ、土圭ヲ以テ土地ヲ測量シ邦國都鄙ヲ建置スルヲ職トス。【周禮】土方氏、掌土圭之法。以致日景。以土地之相宅。而建邦國都鄙。

【土圭之法】土圭ヲ以テ土地ヲ測量スルノ法ナリ。(前條ヲ) (見ヨ)

【土業】猶ホ産業ト云フガ如シ。凡ソ其地ノ田宅等はナリ。【漢書】使民業土業。

【土縣】(土司) (ヲ見ヨ) 【土寇】地方土民ノ一揆ヲ謂フ。【明紀全載】河南土寇。云云。

【土功】水土ヲ治ムル工事、即チ土木工事ヲ謂フ。【書經】益稷篇、惟克度土功。云云。【土貢】諸州ヨリ毎歲其土地ノ產物ヲ朝廷ニ貢獻スルコトヲ謂フ。最初ハ禮物ナリシモ後ニハ一種ノ稅物ト爲ル。【漢書】物土貢。制内外一云云。

【土產】其土地ニ産スル物ヲ謂フ。【東京夢華錄】本土所産之物也。【唐書】李德裕傳、物非土產。云云。

【土司】廣西、四川、雲南等諸省ノ或ル部内ニ、古昔ヨリ苗族ノ子孫、其他原始種族ノ棲息スルアリ。明代其區域ノ大小ヲ按ジテ土府、土州、土縣ト爲シ、各其部族ノ酋長ヲ以テ長官ト爲ス。知土府、知土州、知土縣是ナリ、此等ノ官ハ世襲セシムルヲ本則トス。清代モ亦之ニ因リ、其諸官ヲ總稱シテ土司ト曰フ。【六部成語註解】土司ノ解、川、廣、雲、貴等省野人之大頭也。其官世襲。有二土府土州土縣之類也。總名ニ土司。

【土州】(土司) (ヲ見ヨ) 【土周】(周) (ヲ見ヨ) 【土舍】土司ノ屬僚ニシテ、庶務ヲ辦理スル者ヲ謂フ。【六部成語註解】土司中辦事之舍人也。

【土地】(地) (土)ハ測量ノ器、土地ヲ測量ス

ルコトヲ謂フ。(土圭) (考工) 【土地管轄】民事刑事訴訟法等ノ用語、其意義ハ我法律語ト同ジ。

【土著】人民ト土地ト相附著スルノ義、即チ永住ノ民ヲ指ス。【史記】西南夷傳、其俗或土著。或移徙。今ハ廣ク其地ニ居ル者ヲ土著ト曰フ。

【土伯特】西藏ノ別名、清ノ康熙年第九巴桑結ヲ封ジテ土伯特國王ト爲ス。唐代ノ吐蕃ナリ。【土拌瓦截】并ハ胖ノ誤傳、土器ニ入レタル片肉ノコト、禮ノ備ハラザルニ喻フ。【抱朴子】所謂土拌(一作、胖)瓦截。無救三朝儀一者也。【土蠻】部落ノ名、明ノ嘉靖初年ニ韃靼小王子ノ後裔ヲ幕東方ニ徙ス。今ノ内蒙古土默特旗、土蠻ハ即チ土默特ノ音轉ナリ。

【土匪】匪ハ寇盜ノ義、各地素著ノ暴徒ヲ總稱ス。臺灣舊時ノ土匪ノ如キハ其適例ナリ。【土府】(土司) (ヲ見ヨ) 【土辯】土司ノ小武官ヲ謂フ。【六部成語註

解】本地土司之小武官。【土木】建築工事ヲ謂フ。【國語】晉語、知襄子。爲室美。土苴曰。美則美矣。抑土木勝。臣懼其不安人。

【土毛】土地ニ生ズル菜穀ノ類ナリ。【左傳】昭公七年、封略之内。何非二君土。食土毛。誰非二君臣。【土饅頭】今ノ俗語、墳土ヲ、饅頭ト曰フ。其形相似タルヲ以テナリ。

【土民】土民ハ客民ニ對シ、其土地ニ素著セル民ヲ謂フ。【六部成語註解】本地土著之民也。外來流寓者。曰客民。【土約】開墾ノ屬、水流ヲ堰止ルノ義ニ取ル。(史) (宋)

【土葯釐】内地産ノ鴉片ニ課スル釐金、一ニ土葯稅釐トモ謂フ。光緒十一年マデハ一般釐金ト合シ、督撫ノ決算報告ニモ百貨釐金ノ名目ニ記入シタルモ、同年以後ハ獨立ノ收入トシテ報告セシムルニ至レリ。(中國度) (支考)

【土藥】阿片煙ノコト、(同一ニ鴉)外國産ノモノヲ洋藥ト曰ヒ、内地産ノモノヲ土藥(一藥ニ名ニ)ト曰フ。

【土魯番】新疆省ニ在リ。元代諸王ヲ此ニ封ズ。明代外藩ト爲シ、清初メテ内附セシメ、清末直隸廳ヲ置キ新疆ニ屬セシム。民國ハ改メテ縣ト爲ス。

塗 (部首) (土) (韻)

【塗歸】制書ニ民事上不便ノ所アルトキ筆ヲ加ヘテ奏還スルコトヲ謂フ。【所書】給事中遇テ詔勅有ニ不便者。塗寫奏還。謂之塗歸。

【塗山】夏ノ禹王ガ諸侯ヲ會シタル所、安徽省懷遠縣ノ東南八里即チ淮河ノ東岸ニ在リ。

【塗乙】唐代士ヲ試驗スルノ式ニ塗幾字、乙幾字アリ。塗トハ爲字ヲ抹去スルコトヲ謂ヒ、乙トハ字ニ脱漏アルトキ、其旁ニ勾シテ之ヲ增補スルコトヲ謂フ。【通俗編】「唐試士式。塗幾字。乙幾字。乙音主。與註同。文字遺落。鈞其旁以補之。畫作乙形。非甲乙之乙。」

乙ノ文字ニ付キテハ「漢書」東方朔傳ニモ説明アルモ此ニ略ス。

【塗炭】民ノ困苦スルコト泥塗炭火ノ中ニ在ルガ如シト云フノ義ナリ。【書經】仲虺之誥篇「有夏昏德。民塗塗炭。」

【塗田銀】塗ハ泥塗ノ塗、即チ泥塗汗下ノ地ヲ開墾シテ田ト成シ、其應ニ上納スベキ租銀ヲ謂フ。【六部成語註解】泥塗汗下之地。新墾成田。應交之租銀。

【塗殯】古ハ大斂(死骸ヲ棺ニ)後、火災ヲ防グ爲メニ土ヲ以テ殯室(柩ヲ置)ノ四壁ヲ塗ル之ヲ塗殯ト謂フ。是レ儀禮ニ出ヅル所ナルモ後世家禮等ニハ之ヲ省ク。但シ今人版ヲ用キテ夾砌ヲ四圍シ内實ルニ沙ヲ以テス。是レ塗殯ノ遺意ナリ。【音學】

奴 (部首) (女) (韻)

【奴官】唐代武林ノ將官、多ク賤民ヨリ出身ス。【舊唐書】「北門奴官大盛。豪者皆一心。」

不除之。必起三大患。【辭源】「按。北門奴官。即龍武林之軍將。多由三官戶番口一出身。居晉在三大內之北。故名。」

【奴軍】明ノ太祖ガ功臣ニ賜ヒタル兵卒ノ名ナリ。【冊軍】見ヨ。

【奴才】清代ニ於テハ滿洲人ノ章奏文ニハ自ラ「臣」ト稱セズシテ「奴才」ト稱スルヲ例トス。

【奴產子】奴隷ノ産ム所ノ子、世々其所屬ノ家ノ奴タル者ヲ謂フ。一ニ「家生奴」トモ謂フ。【漢書】陳勝傳「免三城山徒人奴產子。」服虔註「家人之產奴也。師古註、猶今人云「家生奴。」

【奴婢】奴婢即チ奴隷ニシテ、男子ヲ「奴」ト曰ヒ、女子ヲ「婢」ト曰フ。支那ニ於ケル奴婢ヲ大別スレバ、犯罪ニ因ル者ト、賣買ニ因ル者トノ二種アリ。前者ハ之ヲ「罪隸之奴婢」ト謂ヒ、後者ハ之ヲ「契買之奴婢」ト謂フ。事實上ハ兎モ角モ制度上及ビ史實上ニ於テハ奴婢ハ犯罪ニ因ル者ヲ本義トス。【說文】「男人罪

曰レ奴。女人罪曰レ婢。【風俗通】「古制無ニ奴婢。即以三犯罪者爲ニ奴婢。【周禮】秋官司馬ノ職「男子入ニ于罪隸。女子入ニ于春蠶。凡有罪者。與ニ七十者。未レ配者。皆不レ爲レ奴。【史記】殷本紀「前箕子懼。乃詳(古伴)狂爲レ奴。其註「古人奴婢。皆以三罪人爲レ之。箕子因レ諫得罪而爲レ奴。是レ皆犯罪ニ因ル者ナリ。然レドモ民間ノ實際ニ於テハ、昔時ヨリ奴婢ノ賣買行ハレタルガ如シ。殊ニ秦及ビ漢初代ニハ苛稅誅斂ノ暴、虎ヨリモ甚シク、加之ナラズ富強兼併ノ爲メニ貧民ハ生計ニ窮シ、子女ヲ賣リテ生計ルノ外途ナキニ至リ終ニ各地ニ奴婢ノ市場ヲ開設シ牛馬ト共ニ棚ヲ同ウシテ子女ノ賣買行ハル、ニ至リタルコト【漢書】王莽傳等ニ載スル所ナリ。【揚子方言】記スル所ニ依レバ地方ニ依リテ種種ノ名稱ヲ附シタルガ如シ。秦晉ノ間ニ於テハ、奴ヲ罵リテ「侮」ト曰ヒ、燕齊ノ間ニ於テハ馬ヲ養フ者及ビ奴婢女厨皆之ヲ卑ミテ「媼」ト曰ヒ、荆淮海岱ノ間ニ

於テハ、奴ヲ罵リテ「媼」ト曰ヒ、婢ヲ罵リテ「媼」ト曰ヒ、又齊ノ北部燕ノ南郊ニ於テハ、男子ノ婢ヲ妻トスル者ヲ卑ミテ「媼」ト曰ヒ、女子ノ奴ヲ夫トスル者ヲ賤ミテ「媼」ト曰フ。トアリ。尙ホ「風俗通」ニ「古制本無ニ奴婢。即犯罪者爲ニ奴婢。賊者被レ賊罪。没入爲ニ官奴。獲者逃亡。復得爲レ婢。ト記ス。是レ賊、獲ノ意義ヲ示セルモノナリ、尙ホ後世ニ及ビテハ、生活ノ困難ニ因リ、自ラ其身ヲ他人ニ投ジテ活路ヲ求ムル者ヲ生ズ。之ヲ指シテ「投奔之奴婢」ト稱ス。清朝ノ法律ハ之ヲ認メ、契買ノ奴婢ト同視シ、契字ヲ作リテ地方官ニ報明セシムルコト、爲セリ。要スルニ奴婢ハ前記ノ如ク其原因ハ一様ナラザルモ、其畜産ト同視セラレ、養主ニ隸屬シテ、犬馬ノ勞ニ服スベキモノト爲スコトハ一ナリ。【詳細ハ拙著「支那法制研究」支那法制研究ニ見ヨ。

【度外】計算ノ外ニ置クコトヲ謂フ。【後漢

【度外】「光武紀、光武種ニ苦兵間。時隗囂公孫述未レ平。謂ニ諸侯曰。且當置此兩子於度外。」

【度量衡】支那ニ於テハ唐虞ノ代既ニ度量衡ニ關スル制アリ。【尙書】舜典「同律度量衡。」疏「其國之法律制度。度之丈尺。量之斛斗。衡之斤兩。皆使齊同。」トアルニ依リテ知ルベシ。一說ニハ律ハ「六律」即チ音律ノ義ナリト解スル者アリ。度以下ニ對シテハ「度如レ字大尺也。量斗斛也。衡稱也。」ト解スル者アリ。【書傳音釋】且ツ漢代以降學者ノ説ク所ニ依レバ、律ハ凡百制度ノ本ニシテ、法律ハ勿論度量衡ノ如キ、皆黃鐘律ニ出ヅルモノト爲セリ。【漢書律曆志】然ルニ又他方ニ於テハ指尺、壁尺、馬尾尺ヲ以テ度ノ起源ト看做セル者少ナカラズ。【孔氏家語】ニ「布指知レ寸。布手知レ尺。舒肘知レ尋。トアルガ如キハ、指尺說ノ根據ナリ。【玉海】及ビ「大學衍義補等」ニモ度量衡ニ關シテ記スル所詳ナリ。中ニモ隋書律曆志ニハ、周代以下隋代ニ至ルマデノ沿革十五等即チ(一)

【賭飲食】(飲食ヲ) (ハシノ部、博戲)

【賭窩】賭博ヲ爲ス宿ヲ謂フ。【福惠全書】「欲

禁賭博、先斷賭窩。」

【賭財物】(財物ヲ) (ハシノ部、博戲)

【賭坊】賭博ヲ開ク場所ナリ。【明律】「清律」

刑律雜犯篇、賭博ノ條、「開賭坊之人。同罪。」(明律卷二十六)

【賭博】博ハ古ノ六博ノ博、賭ハ其勝負ヲ計

ルノ器、即チ游戲ノ具ヲ以テ勝負ヲ角ヒ財物ヲ賭シテ授受スルコトヲ謂フ。之ヲ犯ス者ハ杖八十ニ處ス。但シ飲食物ハ此限ニ在ラズ。(明律卷二十六、清律卷三十)

【都】(部首) (處) (韻)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

概シテ武階官タリ。(歷代職)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都御史】都察院ノ長官、明、洪武十四年、御

史臺ヲ改メテ、都察院トシ翌年更ニ、左右都御史、左右副都御史、等ノ官ヲ設ク、是ニ於テ御史臺ノ制大ニ面目ヲ改ム。清ハ大抵之ニ因ル。(清國行政)

【都虞司】清制、官署ノ名、内務府ノ屬ナリ。

【都官】漢代ニハ司隸校尉ニ都官從事アリ、

【都】漢代ニハ司隸校尉ニ都官從事アリ、中郎官ノ不法事件ヲ掌ラシメ、別ニ尙書二千石曹アリ、中郎官ノ水火盜賊辭訟等ノ事件ヲ掌ラシム。魏始メテ尙書都官郎ヲ置キ軍事ヲ佐督セシム。晋ハ都官尙書ヲ置キ都官諸曹ヲ領シ、軍事刑獄ヲ主ラシム。隋都官ヲ改メテ刑部尙書ト爲シ、都官郎中等ヲ統ベシム。元

諸侯子弟ノ采邑亦、都ト曰フ。【周禮】地官、

小司徒ノ職、諸侯子弟封邑亦曰都。(三)諸侯

ニ於テモ卿、大夫ノ邑ハ勿論、邑(都ノ小ナ

ニシテ先君ノ廟アル者ハ皆之ヲ都ト曰フ。【左

傳】隱公元年ノ記、「大都不過三國之一。」其

註、「凡邑有先君之廟曰都。無曰邑。」其後註

「卿大夫食采之邑。亦曰都。」(四)都ハ總ノ義

ニ依リテ官名ニ用フ。「都官」「都統」「都水」等是ナリ。

【都尉】官名、漢代都尉官頗ル多ク一ツ侍從官

ト爲ス。奉車都尉、駙馬都尉、三都尉ノ如キ是ナリ。二ツ職事官(行政)ト爲ス。水衡、主爵、

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都】都ニハ種種ノ意義アレドモ(一)周禮ノ制ニ於テハ王ノ子弟及ビ公卿ノ采地ヲ都ト曰フ。【周禮】秋官方士、掌都家。鄭玄ノ註、都、王子弟及公卿之采地。大夫之采地。大都在二置地。小都在二縣地。云云。(禮、參照)(二)

【都江堰工】清制、都江ハ四川省ニ在ル大

川、沿江諸州縣ノ田畝ノ灌溉ニ資スルモノニ

シテ堰工ハ水流ヲ堰キテ灌溉ニ便ズル工事ナ

リ。其工事ハ一定ノ時期ニ之ヲ行フ例トシ

官工中著名ナルモノナリ。(清國行政)

【都察院】都察院ハ周官ノ御史ニ始マル。御

史ハ史官ノ一種ニシテ、家宰ヲ助ケ法令ヲ掌

リ、之ヲ内外ニ頒布シ、又王命ヲ記録スルコ

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

【都】(官表)

督等ノ官ヲ以テ武臣虛銜(實職ナ)ト爲シ後之ヲ廢ス。

【都督諸州軍事】魏及ビ晉ハ刺史ヲシテ專ラ治民ノ事ヲ掌ラシメ、戎政ノ爲メニハ別ニ官ヲ設ケ名ツケテ「都督諸州軍事」ト曰ヘリ。(清國行政)

【都伯】死刑執行人ヲ謂フ。(即チ首)【通鑑】齊紀、兩都伯力耳。註、都伯行刑者也。今謂之僧子。

【都鄙】王ノ子弟ノ食邑ヲ都ト謂ヒ公卿ノ食邑ヲ鄙ト謂フ。周禮「天官大宰ノ職、以三八則治三都邑。」(註其)

【都保】宋ノ王安石ガ募兵ノ制ヲ變ジテ保甲ノ制ヲ立テ十家ヲ一保ト爲シ、五十家ヲ一大保ト爲シ、十大保ヲ一都保ト爲シ、衆人ノ服スル所ノ者ヲ選ビテ都保正ト爲シタリ。(史宋王安石傳)

【都保正】前條都保ノ長ナリ。(前條ヲ)見ヨ

【都囉】方言、凡ソ呼ビテ物ヲ取ルヲ「都囉」ト曰フ。(雜林)

【都慮】(一)輕業師ノコトヲ謂フ。【西域傳】註「李奇曰、都慮、體輕、善操者也。【傳玄、賦】都慮、迅足緣、修竿、而上下。或ハ又(二)西域ノ國名ト爲ス。【西域傳】註「晉灼曰、都慮、國名也。」

【動支】國庫ヨリ銀兩ヲ發シテ支給スルノ義ナリ。(下條參照)

【動放】動ハ靜ノ反、物體ガ自力ト他力トヲ論ゼズ其地位ヲ移動スルノ義、動放ハ國庫ニ在ル銀兩ヲ發シテ支給スルノ義ナリ。(下條ヲ)

【動放錢本銀】清制、國庫ヨリ銀兩ヲ發シテ鑄錢局ニ交付シテ錢ヲ鑄造スルノ原貨ト爲スコトヲ謂フ。【六部成語註解】「由二戶部一支出發銀兩、交三鑄錢局、以爲三工本也。」

【同(口部首)】(東)訓

【同衣服】(衣服ヲ)此語ハ「周禮」地官司徒ニ出ヅ、鄭玄ハ「同ハ騎ホ齊ノゴトシ、民ニ富者アリト雖モ衣服ハ獨、異ニスルヲ得ズ」ト註シ、賈公彥ハ「士以上ハ衣服皆采章アリ、庶人皆深衣ヲ同ウスルノミ」ト解シ、丘濬ハ「衣服ノ制ハ皆等差アリ、之ヲ同ウスト謂フハ各其等ニ隨キテ之ガ服ヲ爲ス。士ト士ト同ウシ、庶人ト庶人ト同ウス。自ラ異制ヲ爲スコトヲ得ズ」ト解ス。(大學衍義補)

【同考官】清制、科舉ニ於ケル試驗副官ニシテ正考官ヲ補助スルノ職ナリ。一ニ「畿內官」亦ハ「房官」トモ稱ス。(科場條例)

【同軌】軌ハ車ノ兩轍相去ル廣狭ノ度、中國諸侯ノ往來皆其軌ヲ一ニス。即チ中國ノ諸侯ヲ謂フ。【左傳】隱公元年「天子七月而葬、同軌畢至。諸侯五月同盟至。云云。」

【同居】同ハ財ヲ同ジクスルノ謂、居ハ共居ノ謂ナリ。他人ハ附籍ヲ必要トスルモ親族ハ籍ノ同異ヲ問ハズ無服ノ親(五服關係)ト雖モ

家ヲ同ジクスル以上ハ同居ト爲ス。【明律】及

【清律】名例篇「親屬相爲容隱」ノ條同文ヲ以テ「凡同居云云」ト曰ヒ其脚註ニ「同、謂レ同居レ財、共居親屬、不限三籍同異、雖ニ無服者、亦是。」(明律卷四)

【同居繼父】(「サ」ノ部、「三父」ハ母ヲ見ヨ)

【同居相爲隱】(同居相隱)「隱」ヲ見ヨ

【同居尊長】同居即チ一家内ニハ必ズ尊長(尊ハ祖父母、父母、伯叔父)アリ。尊長既ニ在ル以上ハ家財ハ尊長ノ管理ニ屬スルガ故ニ(家財ハ家)卑幼ハ自ラ擅ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ。若シ擅ニ使用シタルトキハ「私輒用財」ノ罪ヲ構成ス。(「ヒ」ノ部、卑幼)

【同居卑幼】家族タル卑幼(卑ハ尊ニ對スルノ語、弟妹ノ類)ヲ同居卑幼ト謂フ。卑幼ハ尊長ニ對スルノ稱ナリ。(「ソ」ノ部、尊長)

【同伍】五人ヲ伍ト爲ス。即チ民間ノ五人組ナリ。盜賊ノ害ヲ被リタル家ニ告訴スル者ナキ

トキハ同組合ヨリ届出ツベキモノトス。(唐律十四國訟篇、強)

【同伍保內】伍家相保スル範圍内、地方伍人組ノコトナリ。(唐律開)

【同事共與】同職又ハ同事件ニ關係セル官吏ガ共同シテ收賄シ、之ヲ分與スルコトヲ謂フ。【唐律】職制篇「有事以財行求」ノ條、即同事共與者、首則併、贓論、從者各依三已分法。其疏議「謂ア數人同犯二一事、斂レ財共與。云云。」(十一書卷)

【同成鐵路】山西省ノ大同ヨリ陝西省ノ潼關ニ至リ陝西ヲ通過シテ直チニ四川成都ニ達スル鐵道ナリ。即チ支那西北ヲ貫通スル要線ヲ謂フナリ。

【同姓爲婚】(同姓婚)同姓ハ祖宗ヲ同クシ血統ヲ一ニスル者ト看做シ周代以降其婚姻ヲ禁ズ。【唐律】戶婚篇「同姓爲婚」ノ條「同姓爲婚者、各徒二年。繼麻以上レ姦論。若外姻有レ

服屬、而尊卑共爲二婚姻、及娶二同母異父姊妹。若妻前夫之女二者、亦各以姦論。(十四書卷)

【明律】及ビ「清律」戶律婚姻篇亦「同姓爲婚」ノ條アリ。同姓ノ婚姻ヲ禁ズ。但シ清律ハ光緒末年同姓者ト雖モ祖先ヲ同ウセズ。血統ノ關係ナキ者ハ此限ニ在ラズトノ趣旨ニ改ム。

【同少士】民國文官ノ官秩ナリ。(「フ」ノ部ヲ見)

【同堂兄弟姊妹】即チ伯叔父母ノ子女ヲ指スノ稱ナリ。(清律)

【同知】宋時內官ニ同知開門事、同知樞密院事アリ。地方官ニモ亦同知府事、同知州軍事等アリ。元明亦之ニ因ル。清ハ惟ダ府州ニ同知ヲ置キ府同知ハ同知ヲ以テ官稱ト爲シ州同知ハ州同知ト稱ス。

【同知開門事】(同知)

【同知州軍事】(同知)

【同知樞密院事】(同知)

【同知府事】 (同知) (ト) 同

【同中卿】 民國文官ノ官秩ナリ。(ト) 文官官秩ノ部ヲ見ヨ

【同中士】 民國文官ノ官秩ナリ。(ト) 文官官秩ノ部ヲ見ヨ

【同中書門下平章事】 唐代ハ尙書、中書、門下三省ノ長官ヲ以テ宰相ト爲ス。其官ハ隆重ナルヲ以テ常設セズ。他官ヲ以テ其職ヲ攝セシム。之ヲ「同中書門下平章事」ト爲ス。省キテ「平章事」ト稱ス。宋之ニ因ル。而シテ參知政事ヲ以テ之ガ副ト爲ス。其最モ崇キ者ヲ「平章軍國重事」ト爲ス。元ハ中書省行中書省ニ皆「平章」ヲ置キ丞相ノ次官ト爲ス。明之ヲ廢ス。蓋シ平章ハ「書經」堯典「平章百姓」ニ出ヅ。(ト) 父系ノ最モ近キ親族ヲ謂フ。

【同父周親】 父系ノ最モ近キ親族ヲ謂フ。(清律) 戶律、戶役篇「立嫡子違法」ノ條例「無子者。許令同宗昭穆相當之姪承繼。先二儘同

父周親。次及二大功小功親屬。云云。」即チ家ニ實子ナク昭穆相當ノ姪ヲ養子ト爲ストキハ血統ノ最モ近キ者ヲ先ニスルヲ法トス。(同書) 卷七

【同文館】 宋代四方館ノ一、(一) 都亭驛ハ遣人ノ取扱ヲ掌リ、(二) 都亭西驛ハ西蕃ノ取扱ヲ掌リ、(三) 懷遠驛ハ交趾ノ取扱ヲ掌リ、(四) 同文館ハ高麗ノ取扱ヲ掌ル。(小學) 清代ハ咸豐十年ニ既ニ總理各國事務衙門ヲ設置シ洋人ヲ以テ教習ト爲シ英、佛、德、露四國ノ言語及ビ文字ヲ講習セシム。其科目ハ天文、化學、數學、理學、醫學ノ五科ト爲シタリ。

【同文同軌】 王者ノ天下ヲ一統シ、政令一ニ出ヅ。故ニ各國用フル所ノ文字ヲ一ニシ又其車ヲ製スルノ法亦同ジ。故ニ車ノ軌(車輪上ヲ行) 一轍ナリトノ謂ナリ。(中庸) 第二十章「述」一「今天下車同軌。書同文。行同倫。」【史記】 秦始皇紀「一法度。衡石。丈尺。車同軌。書同文字。」又同紀琅琊臺ノ刻石文「器械一量。同文字。」

【同平章事】 官名、唐之ヲ置ク、宰相ノ職ナリ。歷代之ニ因ル。明ニ至リテ廢ス。(歷代表) 蓋シ此語ハ「書經」堯典「平章百姓」ノ語ヲ取ル。

【同僚】 同官ノ義、一ニ「同寮」ニ作ル。(詩經) 大雅板篇「我雖學事。及二爾同僚。」又「左傳」文公七年「同官爲寮。吾嘗同寮。敢不盡心乎。」

【同僚犯公罪】 (同僚公罪) 同僚ハ前條ノ如ク詩經等ニ出ヅルノ語ナルモ、刑律ニ於テハ文案ニ連署シ公務ヲ共ニスル者ハ官ノ上下ヲ論ゼズ廣ク同僚ト爲シ、同僚ノ一人公務ヲ失錯シ公罪ヲ犯シタルトキハ其關係者ハ皆連坐セラル。(明律) 名例篇「同僚犯公罪」ノ條「凡同僚犯公罪者。並以二吏典爲首。首領官減二吏典一等。佐貳官減首領官一等。長官減佐貳官一等」云云。ト規定ス。公罪ノ脚註「謂同僚官吏連署文案。判二斷公事。差錯而無私曲者」(同書) 卷一

召シ、履歷書ヲ照寫シテ提供セシムルコトヲ謂フ。是レ僞名僞稱等ノ弊ヲ防クガ爲メナリ。【六部成語註解】「此員將得選缺。則吏部召レ之來署。令其書寫履歷單一紙。呈交。以憑二查核。」

【投回】 旗人が罪ヲ犯シテ逃亡スルモ、最初ノ一回ハ事情ヲ酌量シテ旗籍ニ復歸スルコトヲ聽ス之ヲ投回ト謂フ。(戶部) 則例

【投荒】 荒遠ノ地ニ流罪ニ處スルコトヲ謂フ。【唐書】 藝文志「有二房千里投荒雜錄一卷。」投荒ハ即チ此義ナリ。

【投荒之罪】 重罪犯ヲ荒裔ノ地即チ國外ニ投ズルノ義、即チ流刑ノ特ニ重キモノヲ謂フ。【六部成語註解】「投之荒裔。即發二遣邊外。」

【投緡】 索ヲ以テ緡ト爲シ其中ヘ頸ヲ投ズルコト、自ら縊ルヲ謂フ。【品字箋】 緡。環也。以レ索爲レ緡。而自縊。謂之投緡。云云。

【投壺】 古、賓主燕飲ノ時ニ於テ才藝ヲ競技スルノ禮ナリ。即チ壺ヲ置キ主賓次ヲ以テ之

ニ矢ヲ投ジ勝チタル者ハ酒ヲ酌ミテ負ケタル者ニ飲マシム。(禮記) ニ投壺篇アリ。「投壺之禮。主人奉矢。司射奉中。使二人執壺。云云。」

【投控】 官吏タルベキ資格アル者が、選用ニ應ズル場合ハ吏部ニ赴キテ其資格證明書ヲ差出スコトヲ要ス、之ヲ「投控」ト謂フ。(清吏部) 則例

【投靠】 貧困ニシテ自ら生活スルコト能ハズ、身ヲ投ジテ他人ノ奴隷ト爲リ、寄食スルコトヲ謂フ。(清律) 附例

【投充】 元來旗人ニ非ラザル者が清朝ノ爲メニ忠勤ヲ勵ムコトヲ誓ヒ、旗人籍ニ編入スルヲ許スコトヲ謂フ。(會典) 事例

【投簪】 猶ホ掛冠ト言フガ如ク官ヲ棄ツルコトヲ謂フ。(山堂) 肆考

【投遞郵件辦法】 郵便物配達ニ關スル法規ヲ謂フ。(郵政) 章程

【投匿】 密ニ匿名ノ文書ヲ投シテ人ノ隱秘ヲ

投 (部首) (尤韻)

【投下分撥】 元代ニ於テハ或ル部員ヲ擧ゲテ地方府州縣等ノ官廳ニ徙シテ其部下ト爲スコトヲ曰フ。分撥ハ各地ニ分別發遣スルノ義ナリ。【元典章】 吏部投下篇「投下達魯花赤遷轉」ノ條「上略各投下分撥。到三路府州縣。達魯花赤人員。須要選正蒙古人員。充各處達魯花赤。云云」(九卷)

【投効】 官職ヲ棄テ去ルコト、効ハ効績ノ義ナリ。【後漢書】 孔融傳「融即舉關還府。投効而去。」

【投轄】 來賓ヲ款待留飲セシムルコトヲ謂フ。投轄ハ客ノ乘車ノ轄ヲ脫シテ之ヲ投棄シ、客ヲ任意ニ去ルヲ得ザラシムルノ義ナリ。轄ハ車軸ノ兩端ニ在ル鍵、之ヲ除ケバ車ヲ遣ルコト能ハザルニ因ル。【漢書】 陳遵傳「遵嗜酒。每二大飲。賓客滿堂。輒關門取客車轄。投之井中。雖有急。終不得去。」

【投供】 吏部ヨリ官吏ニ登用セラルベキ者ヲ

告發スルコトヲ謂フ。【唐律釋文】「隱」投文庫。密告人罪。謂之投匿名書。」(卷二)

【投匿名書】(匿名書)(投匿)

斗(部首)(有)

【斗】量器ノ名、十升ヲ斗ト爲ス。【羣經音辨】「升」之也。新制ハ方形ト圓筒形トノ二種アリ。其容量ハ三百十六立方寸ト爲ス。(衡幣表參)

【斗桶】容器、斗ハ一斗、桶ハ一斛ノ樹、左記「斗桶」トナリ。【史記】商君傳「平斗桶」。

【斗甬】量器、斗ハ一斗、甬ハ一斛ナリ。【禮記】月令篇「仲春之月、日夜分、則同度量、鈞衡石、角斗甬。云云。」丘濬解シテ曰ク、「春秋二仲ノ月ハ晝夜各五十刻、是ニ於テ平等ナリ。故ニ此二時ニ於テ度量權衡ヲ審察シテ以テ其同異ヲ驗ス。云云。」(大學衍義補)

【斗級】租穀ヲ徵收スルトキ、其升目ヲ掌ル

庶吏ヲ稱シテ「斗級」ト曰フ。【明律】「清律」戶律倉庫篇、多收稅糧斛面ノ條、若倉官斗級不令二納戶行。【清律卷七】(尚書明律卷一、清律卷十)【清律卷四】名例篇「稱監臨主」【六部成語註解】「掌量斗」之官守ノ條參照)

【斗拱斜山】宮中正殿ノ屋脊ニ離ミテ星斗ノ象ヲ作ルヲ「斗拱」ト曰ヒ、殿旁ノ垣ヲ斜ニ八字形ニ分ツヲ「斜山」ト曰フ。【六部成語註解】「正殿屋脊彫作星斗之象。曰斗拱。殿旁之垣。斜分八字。曰斜山。」

【斗建】北極星ノ旋シテ其柄ノ時刻ヲ指示スルコトヲ謂フ。即チ陰曆ノ月建ナリ。例セバ正月寅ヲ指スヲ建寅ノ月ト爲シ、二月卯ヲ指スヲ建卯ノ月ト爲スノ類ナリ。【後漢書】「晦朔合離。斗建移辰。」

【斗檢】方形ノ函ニシテ其上ニ表著セルモノヲ謂フ。(周禮註疏)

【斗筭】斗ハ量ノ名、筭ハ竹器成ハ一斗二升

ヲ容ルト爲シ(辭源)或ハ、五升ヲ容ルト爲ス。(類)或ハ、又米ヲ淘スルノ器(トカ)ト爲ス。(論語)人物ノ器小ナルコトニ喻フ。【論語】子路篇「斗筭之人。何足算也。」

【斗子】吏役ノ職、宋以來之アリ。官米ヲ司ル者ノ稱ナリ。【夷堅志】「淳熙十一年。潭陽倉斗子。坐盜三官米。黜配。其解。蓋斗子。爲司三官米一者之稱。斗所以量也。」

【斗食】賤吏ノ稱、其食ム所ノ祿少ナルニ因リテ之ヲ名ツクナリ。【戰國策】「邑中自斗食以上。至三尉內史。云云。」【漢書】薛宣傳「以二大司農斗食屬。察廉。」註「斗食者。祿少。一歲不滿三百石。記曰以斗爲數也。」

【斗帳】帳簿ノコトヲ謂フ。【隋書】「太子勇即以斗帳安三餘老。」【釋名】「小帳曰斗。如斗覆斗。」

【斗門】堤防ニ開テ設ケ、時ヲ以テ水ヲ洩スノ用ニ備フルモノヲ謂フ。【韓愈文】「疏爲斗門。以走潦水。」

【斗力】壯丁ノ臂力ヲ試驗スル方法ナリ。【宋史】兵志「斗力出等。則免。戶下春夫科配。」

【燈】(部首)(火)(照)

【燈臺】俗ニ油燈ヲ稱シテ「燈臺」ト稱ス。(唐書楊

【燈節】正月十三日ヨリ十七日ニ至ルヲ「燈節」ト爲ス。昔時ハ三日ナリシモ、宋代二日ヲ加ヘテ五日ト爲シ、之ヲ「五穀豐登」ト謂フ。【六部成語註解】「正月十三日。至十七日。爲三燈節。舊本三日。宋時加二日。謂之五穀豐登。」

【燈臺】俗ニ油燈ヲ稱シテ「燈臺」ト謂フ。【歸田】我國ノ燈臺ハ「燈塔」ト曰フ。(下條ヲ

【燈塔】海岸或ハ島嶼等適宜ノ處ハ高塔ヲ築キ其上ニ光力甚強ノ燈ヲ置キテ航海者ノ標識ト爲ス。之ヲ「燈塔」ト謂フ。我が「燈臺」ナリ。

【燈品】元宵節ノ張燈ニ供スル品類ヲ謂フ。(乾淳歲時紀)

【東】(部首)(木)(東)(韻)

【東】東トハ主人ノ義、即チ「股東」(主)「家

東(主)皆此義ニ出ヅ。又行路ノ案内ヲ爲ス者ヲ「東道」又ハ「東道主人」ト曰フ亦然リ。

【東越】一ニ「東粵」ニ作ル。今ノ福建省閩侯縣ノ地ナリ。(源)

【東膠】周代ノ大學、夏ノ東序ニ倣ヘルモノ國中王宮ノ東ニ在リ。小學ハ虞庠ト稱シテ國ノ西郊ニ在リキ。【禮記】王制篇「養國老於東膠。」註「膠之言。糾也。」(杜氏通典文獻通考學校參照)

【東閣】天下ノ賢者ヲ歡迎スルノ門戸ヲ謂フ。【漢書】公孫弘傳「於是起客館。開東閣。以延賢士。」註「閣。小門。東向開之。以延賢士。」【後漢書】班固傳「東平王蒼。以二至成。爲二驃騎將軍一輔政。開東閣。延英雄。」

【東宮】太子ノ宮、故ニ太子ノ代名詞ト爲ス。【詩經】南風、碩人篇「東宮之妹。」疏「太子居東宮。因以二東宮。表太子。」【左傳】隱公三年「衛莊公娶于齊東宮得臣之妹。曰莊姜。」

【東隅】東隅ノ語ハ「儀禮」士婚禮篇「婦洗在

北堂直室東隅。」トアルニ出ヅルモ、桑榆(樹木

即チ晚景ノ義)ニ對シテ東隅ト云フトキハ、日出ノ處、即チ事ノ始ヲ謂フ。【漢書】馮異傳「異書勞異曰。始雖垂二翅回溪。終能奮三翼過池。可謂失之東隅。收之桑榆。」馮異ハ赤眉ノ賊ト戰ヒ、初メ回溪ニ敗レルモ、終ニ崤底ニ大勝ヲ博シタルガ故ニ先武異ヲ勞スルニ此語ヲ以テス。

【東華西華】東華ハ宮城ノ東華門ニシテ東方ニ在リ、西華ハ西華門ニシテ西方ニ在リ。(明律卷十三、清律卷十七)

【東觀】漢代文庫ノ名ナリ。(室ヲ見ヨ)

【東京】(一)漢時ハ前漢高祖長安(陝)ニ都シ。後漢ハ光武洛陽(南)ニ都ス。故ニ時人洛陽ヲ「東京」ト爲シ長安ヲ「西京」ト爲ス。以後大抵之ニ因ル。(二)五代ノ晉ハ汴州(南)ヲ「東京」ト爲シ。漢及ビ周之ニ因ル。(三)宋ハ汴ノ開封ヲ東京ト爲ス。(四)遼ハ遼陽府ヲ東京ト爲ス。本ト朝鮮ノ地ナリ。

【東京六姓】後漢皇后ノ黨族、郭氏、馬氏、竇氏、聞氏、梁氏、何氏はナリ。(錦字箋)

【東三省】 清ハ盛京、吉林、黒龍江ノ三省ヲ「東三省」ト爲ス。是レ實ニ愛親覺羅氏龍興ノ地タリ。國初盛京ニ都ヲ奠メ六部承政等ノ官ヲ設ケシガ順治元年都ヲ燕京(北)ニ移スニ及ビテ六部官ハ一時之ヲ廢シタルモ後漸次之ヲ復活シ、旗人及ビ旗民交渉ノ事務ヲ管掌セシメ、之ヲ盛京六部ト稱ス。但シ六部ト云フモ吏部ヲ缺タガ故ニ實ハ五部ナリ。部ノ外盛京將軍奉天府尹等アリ。吉林ニハ吉林將軍及ビ副都統等アリ。軍政ト民政トヲ管轄セシム。黒龍江ニモ將軍、副都統駐防等アリ。専ラ軍政ヲ管掌セシム。(會典)然ルニ清朝末年ニ及ビテハ東三省官制ノ大改革ヲ企テ、東三省總督及ビ奉天吉林黒龍江巡撫ヲ任命シ、奉天、吉林、黒龍江將軍ヲ裁撤シ、從來ノ軍政主義ヲ改メテ民政主義ヲ執ルニ至レリ。(法規大全)

【東周】 (一) 朝代ノ名、周ハ始メ鎬(今ノ甘肅)ニ都ス。平王ノ時洛邑(今ノ河南)ニ都ス。此ヨリ史家鎬ヲ西周ト爲シ洛邑ヲ東周ト爲ス。(二) 國名、周考王ノ末年河南惠公共少子班ヲ奉ニ封ジ、以テ王ヲ奉ジ國ヲ東周ト號ス。所謂「東周君」是ナリ。

【東床】 (一) ニ「東牀」女婿ノコトヲ謂フ。「晉書」王羲之傳「羲之字逸少。司徒導從子。太尉郗鑒使門生求女婿於導。導令偏視門弟。門生歸。謂鑒曰。王氏諸少並佳。然聞信至。成自矜持。惟一人在東牀。坦腹食。獨若不聞。鑒曰。正此佳婿邪。訪之。乃羲之也。遂以女妻之。」

【東牀】 東牀ニ同ジク女婿ナリ。(見)

【東序】 西序ニ對シ夏代大學ノ名ナリ。「禮記」學記篇「夏后氏養國老于東序。養國老于西序。」註「東序。大學。在國中王宮之東。西序小學。在東西郊。」

【東選】 唐太宗ノ時、歲早シテ穀貴キニ當リ便宜上東方諸國ノ人員ニ對スル官吏登用試驗ハ東都洛陽ニ於テ之ヲ行ヒシカバ此ヨリ「東選」ノ名ヲ生ズ。(唐書太) (宗紀)

【東銓】 官吏任用法ノ名ナリ。「サレノ部」三銓之法」ヲ

【東錢】 八十文ヲ以テ百文ト爲スコトヲ謂フ。(見)

【東道】 東ハ主人ノ義、來客ノ案内ヲ爲スノ主人又ハ道案内ヲ爲スノ主人皆「東道」又ハ「東道主人」ト曰フ。「左傳」僖公三十年「燭之武見秦伯。曰。若舍鄭以爲東道主。云云。」是レ最モ古キモノ、如シ。「容齋隨筆」秦晉圍鄭。鄭人謂秦舍鄭以爲東道主。蓋鄭在秦東。故云。今世稱主人爲「東道」者是也。

【東道主】 東道ニ同ジ。(見)

【東坦】 女婿ノ別稱ナリ。前掲「東牀」ノ記「坦腹食」ノ故事ニ出ヅ。(見)

【東儲】 太子ノ稱ナリ。「南史」齊文惠太子傳「高帝好左氏春秋。太子承襲誦。以爲口實。及正位東儲。善立名。尙解「聲律」云云。」

【東鯁】 日本ノ異名ナリ。「萬葉集」東鯁。後漢謂之大使國。即今日本。「漢書」地理志、會

禮海外。有東鯁人。」

【東朝】 (一) 太后ノ稱ナリ。「漢書」東朝廷稱之。其註「東朝太后朝也。其附解「後世因稱太后爲「東朝」。(二) 天子ヲ指稱ス。「陸機」詩「東朝既見。淑問峨峨。」(三) 太子ヲ指稱ス。「顏延年」詩「君彼東朝。金昭玉粹。」

【東田】 畝ヲ南東ニシタル土地ヲ謂フ。「禮記」王制篇「古者百畝。當今東田。東其畝也。南二百四十六畝三十步。」

【東洋車】 我日本ノ人力車ニ倣ヒテ製シタル車、即チ支那ニ於ケル人力車ノ稱ナリ。

桐 (部首) (東) (部)

【桐油】 支那産物ノ一、湖南、湖北ヨリ産ス。白黒二種アリ、家屋船舶及ビ種々ノ家具ヲ塗飾スルニ用フ。外國ニ輸出スルモノ甚ダ多シト云フ。

【桐花煙】 胡景純ナル者桐油ヲ以テ燒煙ヲ造リ桐花煙ト名ヅク。其製甚ダ難ク且ツ光澤アリ

リ畫工以テ目ノ瞳子ニ點ズルニ用フ。恰モ漆ヲ點ズルガ如シト云フ。(記)

【桐棺】 桐木ヲ以テ作リタル棺、材ノ最モ下ナルモノナリ。「帝王世紀」禹衣裳三領。桐棺三寸。

【桐城派】 清ノ方苞、姚鼐皆桐城ノ人ナリ。其古文ヲ倡道シ自ラ一派ヲ爲ス。後人之ヲ宗トス。故ニ桐城派ノ稱ナリ。

【桐皮橋】 杉木ノ質最モ細カクシテ長ク且ツ良ナルモノヲ謂フ。蓋シ杉ヲ桐ト云フハ其皮細ナルコト桐ノ如キモノヲ用ケルガ故ナリ。【六部成語註解】「杉木之細而長者曰「杉橋」。最住者皮細如「桐」。故有二此名。」

登 (部首) (登) (部)

【登庸】 登ハ舉ノ義、庸ハ用ノ義、即チ官吏登用ノ義ナリ。「書經」堯典篇「帝曰。嗚呼若時。登庸。嗚呼。嗚呼也。咨訪問也。若順也。時是也。庸用也。」呂祖謙ノ註「登庸者。大用之意也。」

也。(書經傳說) 卷二集說)

【登假】 登ハ上ルノ義、假ハ已ムノ義、即チ天子ノ崩御シタルトキ、使ヲ遣ハシテ喪ヲ天下萬國ニ告グルノ辭ナリ。「禮記」曲禮篇「告喪曰。天王登假。」註「天王崩。而遣使告。天下萬國之辭也。登上也。假已也。云云。」蓋シ國民ガ登假ト言フハ當ラズ。

【登耗】 豐年ヲ登ト曰ヒ、不作ヲ耗ト曰フ。「大學衍義補」「時令」有司計二國儲之多寡。因二歲事之登耗。屢下二寬征之詔。以聽農民之困。」(同書卷)

【登記】 帳簿ニ登載スルコトヲ謂フ。「刑錢必覽」「一登記。在「冊」。又「齊家實要」。其借三人書物。皆當三及時取還。每致遺失。置簿登記。」

【登極】 極ハ天極ノ義、天子ノ位ニ登ルコト、即チ即位ノ義ナリ。「貞觀政要」「自「登極」以來。大事三數件。」註「北極爲「天極」。居「其位」。

而衆星拱之。人君之象。故人君即位。爲登極。

【登科】科舉(官吏登)ニ應ジテ中式スルコトヲ謂フ。(開元遺事)

【登科記】唐代科舉及第者ノ名簿、初メハ俊士、秀才、進士、(見シノ部)共ニ登載セシガ後、俊士、秀才ヲ刪除シ進士ノミヲ登載スルコト、シ、進士登科記ト稱ス。【事物紀原】

「唐會要」曰。大中十年四月禮部侍郎鄭元述進士諸家科目記十三卷。勅。自今後放榜訖。寫二及第人姓名。仍付所司一逐年編次。並言曰。永徵已前俊士秀才二科。猶與進士並列。咸亨後。由文學一舉。於有司者。觀集於進士。縣是趙儻刪去俊秀才。故目之曰進士登科記。其事之始。疑自唐初。而獨以進士登科一名記。當起於高宗時趙儻云。(三卷)

【登仕郎】隋代創設ノ官、散官ノ名ナリ。歷朝之ニ因ル。清ハ正九品文官ト爲ス。民國之ヲ廢ス。

【登時殺死】登時ハ立時ト言フニ同ジク突嗟ノ場合ヲ指ス。【北史】賊衆大驚。登時散走。トアルハ其用例ナリ。律ニ於テハ夜分故ナクシテ人家ニ侵入シタル者ハ主人登時之ヲ殺スト雖モ其罪ヲ論ゼズ。【明律】清律刑律賊盜篇「夜無故入人家」ノ條「凡夜無故。入人家內者。杖八十。主家登時殺死者。勿論。云云。(明律卷十八) 袁夫袁婦ヲ殺所ニ於テ登時殺死シタル場合亦同ジ。(同人命篇殺)

【登第】試験ニ及第スルコトヲ謂フ。【唐書】「通四經」業成。上ニ於尙書。吏部試之。登第者加一階。云云。

【登中於天府】(中ヲ天府)中ハ過不及ナキノ義、裁判ハ法刑適用其中ヲ得ルヲ主義トス。判決ヲ爲シタル數ヲ宮中ノ藏庫ニ上リ後日ノ列例ト爲スノ義ナリ。【周禮】秋官司寇之職「歲終。則令群士計獄弊訟登中于天府。」鄭玄曰「登中。上其所斷獄訟之數。」賈公彦曰。群士。謂群士進士以下。丘濬曰「登中于天

府。說者謂。獄訟之中。言三事實一之書也。(中)臣勅以爲。所謂中者。意者取其所計二弊獄訟一之得。其中一者。上于天府。使藏之。以爲三法比。云云。(大學衍義補) 卷百十一

【登天府】(天府)天府ハ朝廷ノ府藏ヲ謂フ。天ト云フハ其藏ムル物ヲ天物ノ如ク尊ブノ意ニ取ル。(周禮天官天府及比) 秋官司寇參照

【登開檢院】(見下條)

【登開檢院】唐天寶九載理亂使(武后、垂拱三年)置キ、四方ノ書ヲ受ケシム。ヲ改メテ「獻納其長ヲ。使使ト爲ス。(百官志)」ヲ改メテ「獻納使」ト爲シ、後又改メテ「知獻納使」ト爲ス。宋ハ雍熙元年置テ檢院ト爲シ。景德四年又改メテ「登開檢院」ト爲シ。福密直學士張詠ニ命ジテ之ヲ判セシム。諫議大夫ニ諱ス。文武官及ビ士民ノ章奏表疏ヲ掌ラシム。凡ソ朝政ノ得失、公私利害、軍事機密、恩賞ノ陳請、冤濫ノ理雪、又奇方異術等皆之ヲ受ケテ通達ス。凡ソ狀ヲ通ムル者ハ先ツ鼓院ニ呈ス。若シ抑スル所ト爲レバ檢院ニ詣ルヲ順トス。元モ亦登

開檢院ヲ置キ又同知一員ヲ置ク。(古今事文類聚新集卷十)

【登開鼓】昔、堯帝ノ時、敢諫鼓ヲ置キテ民間ノ直言及ビ冤枉ヲ訴フルトキ、之ヲ擗タシム。即テ下情ノ上達ニ備フルコト之ヲ始メトス。蓋シ「登開鼓」ノ名ハ南北朝時代ニ始マル。【事物紀原】昔、堯置敢諫之鼓。即其始也。用下達レ上。而施於朝。故曰登開。晉施廣盜官物。合「棄市」子宗及雲橋「登開鼓」(一)【南史】

「威厥傳」辨斷精明。咸得其理。卒後有橋「登開鼓」訴來。云云。其後沿革アリ。唐太宗ノ淳化三年ニ理檢院ヲ設置シ下情ヲ達セシム。後改メテ登開院ト稱ス。鼓ヲ禁門外ニ置キ冤枉ヲ申訴セシトスル者ハ之ヲ擗テ訴願セシム。登開院ノ名此ニ始マル。(燕翼貽) 爾後歷朝概テ登開鼓ヲ置キ下情上達ノ用ニ供ス。清朝ニ於テモ其設アリ。【清律】刑律篇「越訴」ノ條「若迎軍駕。及擊登開鼓。申訴。而不實者。杖一百。」(沿革詳細ハ拙著「支那法」)

【登開鼓院】南北朝時代ノ宋文帝元嘉元年ニ設置ス。魏ハ開門ノ左側ニ登開鼓ヲ懸ケテ以テ冤人ノ訴ヲ達セシム。南齊武帝天監元年公府(總)ニ詔シテ訪木脚石ヲ設ケ其傍ニ各一函ヲ置キ百姓已ニ窮シテ其情ヲ九重ニ達スル者ノ告牒ヲ受ケシム。之ヲ「肺石函」ト謂フ。唐ハ大曆十四年天下ニ詔シ冤枉告タルナキノ窮民ハ登開鼓ヲ擗ツコトヲ聽ス。宋ハ鼓司ト曰ヒ内臣ヲシテ之ヲ掌ラシム。鼓ハ宣德門南樓ノ比鄰ニ在リ。至道三年太子中舍王濟ヲシテ鼓司ヲ勾當セシム。朝臣ヲ用キテ勾當セシムルコト此ヨリ始マル。景德四年改メテ登開鼓院ト爲シ諸種ノ封書ヲ受ケテ之ヲ進メ萬人ノ冤情ヲ上達スルコトヲ掌ラシム。諫正言ニ諱ス。元ハ亦登開鼓院ヲ置キ御史臺、登開檢院ノ審斷不當ナル事ヲ奏告スルコトヲ掌ラシム。(古今事文類聚新集卷十八)

【登民數】(民數)登ハ簿冊ニ記入スルノ義、民數ヲ戶籍ニ登錄スルコトヲ謂フ。(周禮

【童子科】(童子科)唐代科舉ノ一種、十歳以下能ク一

【童試】(童試)清制、府州縣學ノ志願者ハ一定ノ資格ヲ要ス。其試験ヲ「童試」ト曰フ。童試ハ分チテ三段ト爲ス。第一州縣試、第二府試及ビ直隸州試、第三院試即チ學政使ノ試験トス。之ニ及第シタル者ヲ「童生」ト稱シ、府州縣學ニ入學スルコトヲ許ス。但シ入學スルニハ更ニ一定ノ入學試験ヲ要ス。童試ニ應ズル者ハ一定ノ資格ヲ要セザルモ旗人ノ奴隸及ビ開戶人(奴隸ヲ開除セ)等並ニ普通ノ奴隸及ビ賤民(俳優、理髮人)ハ入學ノ資格ナシ。其賤業ヲ脱シテ以後三代ヲ經レバ其資格ヲ認メラル。(清國行政法第三卷、會典禮部科場條例等)

經ニ通ズル者ヲ考取ス。『菴中隨筆』凡童子科十歲以下。能通二一經。李泌開元中以童子一召。元宗登封封八歲獻頌奇。其幼時號三神童。韓退之有『送張童子序』裴耀卿童子科也。

【童胤】(胤ニ作ル)七八歲ノ小兒ヲ謂フ。胤ハ童齒ノ自然ニ脱シテ替ルノ義ナリ。『後漢書』開皇后傳、年皆童胤。並爲黃門侍郎。

【童生】(童試)ヲ見ヨ。

【童男童女】 男子未ダ冠セズ、女子未ダ笄セザルノ稱、男子二十歲以下、女子十七歲以下ヲ謂フ。『史記』封禪書、使人乃童男童女二人入海求之。

【等夷】 彼此皆平等ナルコトヲ謂フ。『史記』諸將皆陛下下故等夷。

【等閑】 (一)童ニ留メザルコトヲ謂フ。『張謂』詩、眼前一掃又常滿。心中萬事如等閑。(二)CIC一較ト云フニ同ジ。『李西隱』詩、等閑飛上別花枝。

【等差】 等級ノ次ヲ以テ遞降(ダシダ)スルコトヲ謂フ。『後漢書』諸侯以下各有三等差。

【等子】 衡ノ器、金球藥品ノ分量小數ヲ秤ルモノヲ謂フ。(季方叔師)『友談記』

【等待】 郵便物ヲ發送スル場合ニ先受ノ分ヲ留メ置キ、後ヨリ來ル分ヲ待チテ兩者ヲ一纏トスルノ義、法ノ禁ズル所ナリ。公文ヲ稽留スル罪ニ依リテ罰ス。『明律』兵律郵驛篇、遞送公文ノ條、上、不問三角數多少、須要、隨即遞送。不許等二待後來文書。違者備司笞二十。

【等頭】 等閑ト言フニ同ジ。(ヲ見ヨ)

【等分】 藥劑等ノ分量ノ同一ナルコトヲ謂フ。(別錄)

【統捐】 清末釐金繁多ク、政府ノ收入増加セザルヨリ、百貨統稅ヲ施行シ、即チ貨物ノ生産地若クハ到着地ニ於テ課稅シ、中間ノ局卡

ハ只ダ證明書ヲ檢査シテ放行スルコト、爲シタリ。爾來廣西湖北ノ如キハ釐金ヲ改メテ統捐ト稱シ、局卡ヲ廢シタルモノ多シ。要スルニ統捐ハ釐金ノ改名セラレタルモノニ外ナラズ。(清國行政)『法第六卷』

【統監】 全體ヲ統ベテ之ヲ監視スルコトヲ謂フ。『北史』在二晉陽。晉營二城雉。仁之統監作ノ役。

【統軍】 官名、唐代北衙ノ禁軍ハ每軍各統軍一人ヲ置ク。位ハ大將軍ニ次ダモノトス。金代ニモ統軍司督領軍馬、統軍司副統軍等ノ官アリタリ。

【統制】 宋制、出師征討ノ時諸將統一セズ。因テ一人ヲ拔キ、都統制ト爲シ以テ之ヲ總ベシム。其後高宗王淵ヲ以テ、御造都統制ト爲シ始メテ官稱ト爲ル。元明置カズ。清末各鎮ノ長官ヲ稱シテ、鎮統ト爲ス。

【統制官】 清制、新定章程ニ依レバ平時ニ於ケル軍隊編制ノ最大ナルモノヲ、鎮統トス。

(戰時ハ二編三編若クハ四編ヲ合セテ軍ト稱ス)鎮ハ我師團ニ相當スルモノニシテ兩協ヨリ成ル。協ハ我旅團ニ相當スルモノニシテ二標ヨリ成ル。鎮ヲ統ブル者ヲ統制官又ハ鎮統ト云ヒ協ヲ統ブル者ヲ統領官又ハ協統ト云ヒ標ヲ統ブル者亦統制官又ハ標統ト云フ。(清國行政)『法卷四』

【統稅總局】 清末釐金制ヲ廢シ百貨統稅ヲ徵スルニ及ビ從前ノ局卡ヲ裁撤シ代フルニ統稅總局分局ヲ以テシ釐金總局ハ各省設クル所ノ度支公所、財政公所若クハ財政局ニ併歸セリ。(清國行政)『法卷六』

【統屬】 統ハ統轄、屬ハ隸屬ナリ。即チ上司ガ其所屬官司ヲ統轄スル關係ヲ謂フ。例セバ省、寺、監ガ其屬ヲ管シ、州ガ縣ヲ管シ、鎮ガ戍ヲ管シ、衛ガ諸府ヲ管スルノ類ナリ。『唐律』開訟篇、佐職統屬長官ノ條、諸佐職及所統屬官司、職傷官長一者、各減吏卒殿二傷官長二等云云。其疏議、所統屬官司者、若クハ省寺監管三屬州管縣。鎮管戍。衛管諸府

之類ハ是所統屬。殿二傷官長一者、官長。謂ニ尙書省諸司尙書。寺監少卿少監。國子司業以上。云云。(同書卷)

【統帶】 清制巡防營官ニシテ二營以上ヲ兼轄スル者ヲ統帶官又ハ督帶官ト曰ヘリ。其專ラ一營ヲ領スル者ハ管帶官ト稱ス。

【統領】 南宋時代既ニ統領、同統領、副統領ノ名アリ。清制ハ京營ニ統領官アリ。『前錄統領』歩軍統領、護軍統領等即チ是ナリ。防營武員統軍二營以上ニ至ル者ハ其部下之ヲ統領ト曰ヒ其上官之ヲ統帶ト曰ヘリ。

【統領官】 清制、協(軍隊ノ名、我)ヲ統ブル將官ノ稱ナリ。(ヲ見ヨ)

【董】 (一)非違ヲ督正スルノ義。『爾雅釋詁』董、督正也。『書經』大禹謨、董之以威。(二)『董事』(次條)ノ略、商董、校董等ノ如シ。

【董事】 事ヲ董スノ義、事務ヲ管理スル者即チ合股(組合)等ノ理事者ノ名稱ナリ。(私法)第三『商法』公司所ニ當テ之執行機關。由二股東會(株主)公舉。其他團體。如二商會善堂公所等、亦多設二董事。以管二理事務。

【董正】 非違ヲ督正スルノ義ナリ。『後漢書』岑暉傳、慨然有董正天下之志。董正ノトキハ讀、トクナリ。『字彙補』董正之董。讀若督。東谷切。

【逗撓】 兵士戰場ニ臨ミテ敵ヲ畏レテ進マザルコトヲ謂フ。漢代ノ法ハ之ヲ斬ニ處シタリ。『漢書』孔安國傳、廷尉當二恢逗撓。當斬。王恢ヲ指ス。

【逗落】 匈奴ハ家ヲ呼ビテ、逗落ト爲ス。(史記匈奴)集傳解

【逗留法】 漢律、戰場ニ於テ應ニ進ムベクシテ進マザル者ヲ罰スルノ法、自殺ヲ命ズ。『漢書』匈奴傳、知二邊在。前。逗留不進。皆下レ

吏自殺註「孟康註、律語也。」

【逕留】漢代ヨリ始マル法律ノ用語、留リテ進マズ機ヲ失スルノ義ナリ。【漢書】王賀傳「捕逕留郡羣盜。及吏畏懼逕留。當坐者。翁孫皆縱不誅。唐律釋文」逕留ノ解「故意方便。容罪罪人奔走也」(同書卷二十八)

【透】(部首) (宿) (入) (元) (宥)

【透支銀】會計官吏等ガ他人ノ目ニ付カザル標、粘簿面ヲ胡麻化シテ自己ノ懐ニ入レル銀兩ヲ謂フ。【六部成語註解】透支漏暗。暗中。私自支銀入己也。

【透偷漏暗中】帳簿面ヲ胡麻化ス行爲ヲ形容ス。(透支銀) (部首) (見) (東)

【銅】支那ニ於ケル銅ノ採掘ハ極メテ古ク、三代當時已ニ之アリシガ如シ。【尚書】禹貢篇「厥貢惟金三品。傳、金銀銅也」正義「金既總名。黃金以下惟有白銀與銅耳。故爲三金銀銅也。以テ其起源ノ悠遠ナルコトヲ知ルベシ。

【周禮】廿八職「掌金玉錫石之地。而爲之厲禁。云云。當時既ニ礦政ノ存シタルコトヲ想察スベシ。春秋戰國以後ニ至リテハ、銅鐵ノ使用漸ク盛ト爲リシコトハ、齊ノ管仲ガ鹽鐵ニ稅ヲ課シ、之ニ依リ富強ヲ致シタルノ一事ニ徴スルモ亦知ルベシ。降リテ唐代ニハ專ラ官營主義ヲ採リ、各地ニ坑冶ヲ置キテ採探セシメ、其業大ニ進ム。更ニ宋代ニ及ビテハ尤モ其隆盛ヲ極ムルニ至レリ。而シテ宋ハ初メ官營主義ヲ採リ、後ニ民營ヲ聽ス。金ハ民營主義ヲ採リ、元ハ官營主義ヲ採リ、明モ亦官營主義ヲ採リタリ。清ハ當初一定ノ方針ナカリシガ、光緒ノ中葉以後官辦民辦商辦ノ三法ヲ採リ、交々之ヲ行ヒシガ、晩年ニハ更ニ官商合辦ノ法ヲ設ケテ之ヲ實行シタリ。殊ニ清國ハ銅ヲ以テ通貨ノ原料ト爲シ、國家經濟上特ニ重要ナルモノニ屬セルガ故ニ、銅ノ開採ニ對シテハ、一定ノ保護法ヲ設ケ之ヲ獎勵シタリ。(清國行政) (法第二卷)

【銅印】銅ニ刻シタル印章、一定ノ官吏ニ授ケテ使用セシム。漢代ニ於テハ秩六百石以上ノ官ハ皆銅印黑綬ヲ用ケルヲ例トス。【漢書】百官公卿表「秩比六百石以上。皆銅印黑綬。清代ハ府州官皆銅印ヲ用フ。又昔時ノ公私印章ハ多ク銅ヲ以テ鑄造ス。故ニ今ニ傳ハルモノハ摩損スト雖モ愈々古樸ヲ見ル。故ニ篆刻家ハ古銅印ニ仿摹スルヲ以テ一能事トス。

【銅圓】銅幣ノ一、形圓ニシテ孔ナシ。清ノ光緒間廣東省始メテ之ヲ鑄リ各省次第ニ仿行ス。當制錢一文及比當二、當五、當十、當二十ノ各種アリ。中ニモ當十最モ廣ク行ハル。

【銅龜符】銅ヲ以テ作レル符、兵卒ヲ召集スルトキニ用フ。唐則天武后ノ時、銅魚符ヲ改メテ「銅龜符」ト爲ス。【唐書】百官志「凡有召者。降二番勅。勅ニ銅魚木契。然後入。朝野僉載」唐爲ニ銅魚符。武后以ニ玄武爲ニ姓瑞。乃改ニ銅龜符焉。

【銅魚符】唐朝制符ノ名、後ニ「銅龜符」ニ改

【銅龜符】(部首) (見) (東)

【銅魚勅書】軍隊ノ召集ヲ爲ストキニ用ケル制符式ノ勅書、一ニ「銅魚符」トモ曰フ。唐律「擅興兵、擅發兵」ノ條疏議「依令。差兵十人以上。並須ニ銅魚勅書。勅同。トアリ。(書卷十)【唐書】百官志「凡有召者。降二番勅。勅ニ銅魚木契。然後入。」

【銅官】(一)漢代ノ官名、銅山ノ採掘ヲ掌ルヲ職トス。【漢書】百官志「丹陽郡有ニ銅官。」(二)銅ヲ産スル山ノ名、一ハ安徽省銅陵縣ノ南十里ニ在リ。他ノ一ハ安徽省廣德縣ノ東隅ニ在リ。江蘇宜興諸山ト相接ス。此山ハ銅ヲ産スルノミナラズ、煤即チ石炭ヲモ産ス。

【銅虎符】銅ヲ以テ虎ノ形ニ作レル制符、之ヲ二分シテ右ハ京師ニ留メ左ハ郡守ニ與ヘテ兵ヲ發動スル場合ニ對合スルノ證ト爲ス。【漢書】文帝紀「二年九月初與二郡守。爲ニ銅虎符符使符。」

【銅山】銅ヲ産スル山ヲ銅山ト曰フ。其數枚

舉ニ堪ヘズ。漢既ニ銅官ヲ置キテ銅山ヲ採掘スルコトヲ掌ラシム。文帝嘗テ蜀ノ嚴道銅山ヲ以テ倭臣鄧通ニ賜ヒ自ラ錢ヲ鑄ラシム。又古來「銅山西崩。洛鐘東應之語」アリ。此レ東方朔ノ語、或ハ樊英ノ語ト爲ス。英ノ所謂銅山ハ蜀ノ岷山ヲ指ス。今ハ縣名清置、江蘇徐州府ノ治ニ屬ス。民國江蘇徐海道ニ屬ス。

【銅臭】錢ヲ以テ官ヲ買フコトヲ謂フ。【後漢書】崔烈傳「靈帝時。開鴻都門。榜賣官爵。公卿以下皆有差。烈因傳母入錢五百萬。爲二司徒。嘗問其子鈞。曰。吾居三公。於レ議如何。(中)鈞曰。論者錄其銅臭。今ハ富者ヲ譏リテ銅臭ト爲ス。

【銅雀瓦硯】銅雀臺ノ瓦ヲ以テ造リタル硯ナリ。(銅雀臺) (部首) (見) (東)

【銅雀臺】一ニ銅雀臺ニ作ル。魏曹操銅雀、金虎、冰井ノ三臺ヲ作ル。故址皆今ノ河南省ノ臨漳縣ノ西南ニ在リ。名ケテ三臺ト曰フ。銅雀臺ノ瓦ハ琢キテ硯ト爲ス。工甚ダ妙ナリ。

【銅雀臺】(部首) (見) (東)

相傳フ水ヲ貯ヘテ乾カズト、世ニ之ヲ「銅雀瓦硯」ト稱シテ頗ル寶貴ス。

【銅爵臺】銅雀臺ノ別名ナリ。(銅雀臺) (部首) (見) (東)

【銅錢寶鈔】「銅錢」ハ銅貨、寶鈔ハ紙幣ナリ。鈔ノ名ハ宋書ニ見ユルヲ始メトス。(ノ部) (鈔引) 明ハ「銅錢」寶鈔ノ二幣ヲ相兼メテ行使シ銀ノ使用ヲ禁ズ。故ニ丘濬ハ古ノ三幣ノ法ニ稽ヘ銀ヲ以テ上幣ト爲シ鈔ヲ以テ中幣ト爲シ錢ヲ以テ下幣ト爲スト共ニ中下二幣ヲ以テ公私通用ノ具ト爲シ一ニ上幣ニ準ジテ之ヲ權ランコトヲ奏請ス。是レ即チ銀本位ヲ主張シタルモノナリ。(大學衍義補) (卷二十七)

【銅像】銅ヲ以テ造リタル肖像、支那ニ於テハ北朝ノ時既ニ之アリ。【北史】崔暹卒。故吏共鑄二尺銅像於城東廣固寺。

【銅牌】宋代諸王及比節度使、觀察使、州府軍監ノ使用官印ハ皆銅牌アリ。長七寸五分、牌ハ塗ルニ金ヲ以テシ、牌出印入、印出牌入、等ノ文ヲ刻ス。

【銅版】銅製ノ印版、五代ノ時ヨリ己ニ銅印本アリ。宋岳珂撰『九經三傳沿革例』、晉天福銅板本云云。又宋ノ明道三年内府金ヲ發シテ會子(兌換券)ト收換シ銅版ヲ沒收シテ會子ノ製造ヲ禁ジタルノ例アリ。即チ當時紙幣ヲ印刷スルニハ銅版ヲ用キタルヲ知ルベシ。近世ハ(一)照相銅版(二)彫刻銅版(三)電鍍銅版ノ三種アリ。

【銅版活字】銅製ノ活字版ナリ。明、陶宗儀編『說郛』序、錫山華會通先生、翻刊銅版活字。盛行于世。

頭 (部首) (尤) 頭

【頭會箕歛】徵稅ノ苛酷ナルコトヲ謂フ。「頭會」ハ民ノ頭數ニ隨ヒテ稅ヲ取ルコト、箕歛ハ箕ノ如ク稅額ヲ收取スルコトヲ謂フ。「史記」酷吏傳「頭會箕歛以供軍費。」淮南子「ハ箕歛ヲ箕賦ニ作ル。」

【頭卡】カハ番所ノ義、各票所ニ之ヲ設ケテ蓋金ノ徵收ヲ掌ル。其最初ノ卡即チ第一ノ卡ヲ「頭卡」ト曰フ。(リノ部) 釐 (金) 參照

【頭蠶湖絲】頭蠶トハ二番蠶 (夏) 三番蠶 (秋) ニ對シテ春蠶ノコトヲ謂ヒ、湖絲トハ湖廣省地方ノ製絲ヲ謂フ。(清農政)

【頭子錢】應ニ收ムベキ租稅ノ外ニ每貫若干ヲ加徵ス。之ヲ「頭子錢」ト謂フ。唐宣宗ノ大中六年ニ始マル。(唐書宣)

【頭等】學校又ハ官吏登用試驗 (舊時ノ) ノ成績一等ヲ「頭等」ト曰フ。(清學政全書) 同科場條例

【頭達】元人ハ官吏出行ノ時ニ於ケル前列ノ儀仗ヲ「頭達」ト曰フ。(朱象賢見)

【頭幫】幫船即チ數十ノ船ヲ結ビタル一隊中第一番ノ船ヲ謂フ。六部成語註解「第一幫船也。」(船ノ部) 幫 (船) 參照

【頭目】一組合ノ長ヲ「頭目」ト曰フ。荀子「議會黨」下之干上。若「手臂之扞」頭目也。是其出所ナリ。後世ハ軍隊ノ伍長ヲ「頭目」ト爲ス。馬氏通典「兵制」五人爲一列。列有「頭目」。

騰 (部首) (蒸) 騰

騰 (部首) (蒸) 騰

【騰挪】(一) 甲ノ費用ヲ取リテ乙ノ費用ニ移シ、乙ノ費用ヲ取リテ丙ノ費用ニ移スノ義、所謂遺糧ヲ爲スコトヲ謂フ。支那財政上ノ用語、清會典「戶部」各所ニ散見ス。(二) 凡ソ豫メ不時ノ費用ニ備フルコトヲ謂フ。辭源「謂テ虛レ此以實レ彼。不使二竭。騰挪之也。本財政上之流行語。凡事之預爲二餘地者。亦恒用之。」

【騰踊】物價ノ驟ニ貴クナルコトヲ謂フ。漢書「今歲不登。穀暴騰踊。」

【關】(部首) (宥) 關

【關毆】相爭フヲ關ト爲シ相擊ツヲ毆ト爲ス。爭論ノ結果此ニ至ルモノニシテ、盜賊復讐等ノ行爲ニ出ヅルモノニアラズ。唐律「關毆」第一ノ首ニ「關毆手足他物傷」ノ條アリ。(下) 參見 其疏議「相爭爲關。相擊爲毆。云云。」(卷二) 明律「及比」清律「ハ刑律篇ニ關毆ノ一

章ヲ分設ス。【明律】刑律篇第三關毆首章關毆ノ條「凡關毆。以二手足」毆人。不成レ傷者。答二十。成レ傷及以二他物毆人。不成レ傷者。答三十。成レ傷者。答四十。青赤腫爲傷。非二手足」者其他皆爲二他物。即兵不用レ及亦是。拔レ髮方寸以上答五十。若血從二耳目」出。及内損吐血者杖八十。以二穢物」汚人頭面者。罪亦如之。折人一齒及手足一指。眇人一目。抉人耳鼻。若破人骨。及用二湯火銅鐵汁」傷人者杖一百。以二穢物」灌人入口鼻內者。罪亦如之。折二齒二指以上。及髮髮者。杖六十。徒一年。折入肋。眇人兩目。墮人胎。及双傷人者。杖八十。徒二年。折二跌人肢體。及瞎人一目。一者杖一百。徒三年。瞎人兩目。折二入兩肢。損人二事以上。及因二舊患」令致二篤疾。斷二付被傷篤疾之人。養贖。同謀共毆傷人者。各以二下手傷重者。爲二重罪。元謀減二一等。若因レ關互毆傷者。各減二其傷之輕重」定レ罪。後下手。理直者減二二等。至レ死及毆二兄弟伯叔」者不レ減。(二) 卷

十) 清律ノ規定ハ此ニ因ル。(卷二) 蓋シ我舊刑法ノ「毆打」ニ當リ現行刑法ノ「傷害」ニ當ル。(關毆) (參照)

【關毆及故殺人】(關毆シ及ビ) 關毆ハ個人間ノ爭鬪ニシテ其目的ハ對手方ヲ屈服セシムルニ在リ。謀故殺ノ如ク對手方ヲ殺スヲ以テ目的トセズ。故ニ關毆ト故殺トハ其罪ヲ異ニシ前者ハ較ニ處シ、後者ハ斬ニ處ス。【明律】刑律篇人命ノ章ニ本條ヲ規定ス。曰ク「凡關毆殺レ人者。不レ問二手足他物金」及二並絞。故殺者斬。若同謀共毆レ人。因而致死。以二致命傷」爲レ重。下手者絞。元謀者杖一百。流三千里。餘人各杖一百。(卷十)

【關毆誤殺傷人】(關毆シテ人) 是レ亦「唐律」關毆篇ノ一條、關毆ノ目的ハ對手方ヲ屈服セシムルニ在リテ殺傷ヲ主トセズ。誤リテ對手方又ハ傍人ヲ殺傷シタル者ハ殺傷罪ヲ以テ論ズ。但シ雙方格闘シ對手方ヲ仆シテ死傷シタル者ハ殺傷罪ヲ以テ論ズ。殺傷トハ角

抵其他勇毆ニ因リ誤テ殺傷スルコトヲ謂フ。支那法ハ「關毆傷」誤殺傷、殺傷、各其義ヲ異ニス。(各本條) 其規定ニ曰ク「諸關毆而誤殺傷人者。以二關毆傷」論。至レ死者減二一等。若以二故傷」而致死。以二殺傷」論。即誤殺ニ傷助レ已者。各減二二等。(卷二)

【關毆手足他物傷】唐律關毆篇ノ條名、手足トハ兵器其他ノ器物ヲ用キズ徒手ヲ以テ他人ヲ毆打スルコト即チ關毆ノ本義ナリ。他物トハ手足ニ對シテ器物ヲ用フルコト、但シ兵及ハ此限ニ在ラズ。即チ木片竹杖等ノ類並ニ兵器ニテモ及ナキモノハ亦是ナリ。同條ニ曰ク「諸關毆人者。答四十。謂テ以二手足」傷及以二他物」毆人者。杖六十。足レ血爲レ傷。非二手兵不用レ傷及拔レ髮方寸以上杖八十。若血從二耳目」出。及内損吐血者各加二二等。(卷二)

【關毆折齒毀耳鼻】(關毆シテ齒ヲ折) 是レ亦「唐律」關毆篇ノ條名ニシテ其規定下ノ如シ。諸關毆人。折レ齒毀二缺耳鼻。眇二目。及

折ニ手足指。若破骨及湯火傷人者。徒一年。折ニ二指以上。及髮髮者。徒一年半。(解難ノ用語ハ各)(卷二)本條ヲ見ヨ(十一)

【關競律】後周刑律ノ篇名、【唐律】關訟律、【明律】刑律當關殿ハ之ニ當ル。但シ關競ハ關争ノ義ナリ。(關競)ノ見ヨ

【關殿】殿ハ關ノ古字、【周禮】夏官方相氏、以索室殿。校。【前漢書】鼂錯傳、殿。畜産云云。師古註、殿與關同。和劉【唐律】ニハ往往「關殿」ノ殿ヲ殿ト同視シ、關殿ニ作ルモ正ニ非ラズ。但シ支那人亦殿ト同義ニ誤用スルノ例アリ。【佩觿集】「以殿擊之殿」爲「殿」。逐ニ其順ニ非。有ニ如レ此者。」

【關故殺用兵刃】是レ亦【唐律】關訟篇ノ一條、關故殺ハ關殺、故殺ノ約語ナリ。其規定下ノ如シ。「諸關殺、人者絞。以レ及及故殺、人者斬。雖因關、而用兵刃及殺者、與故殺同。不因關、而殺一人者、加關傷罪一等。雖因關、但絶時而殺傷者、從故殺傷法。」蓋

シ關殺ハ元ト殺意ナク相關殿スルニ因リテ對手方ヲ死ニ致スコトヲ謂フ。故殺ハ殺意發作ニ因リ對手方ヲ殺害スルノ謂ナリ。疏議、關殿者。元無殺心。因ニ相關殿、而殺レ人者絞。以レ及及故殺者。謂ニ關而用兵刃。即有ニ害心。及非因關争。無事而殺。是名ニ故殺云云。(卷二)關争ノ見ヨ

【關訟】刑律ノ篇名、後世ノ關殿ト告訴トノ二項ヲ合稱ス。【唐律】十二篇ノ一ナリ。按ズルニ秦漢以後晉マデハ未ダ此篇ナシ。後魏太和申ニ至リ始メテ「擊訊律」ヲ分チテ「關律」ト爲シ北齊ニ至リテ之ニ訟事ヲ附シテ「關訟律」ト爲ス。後周ハ又改メテ「關訟律」ト爲ス。隋ノ開皇律ハ齊律ニ因リテ「關訟」ト爲シタルガ同大業律ハ分チテ「告劾」ト「關」トノ二篇ト爲ス。唐律ハ開皇律ニ因リテ關訟ト爲ス。【明律】ハ大體唐律ニ因ルモ其編纂ハ之ヲ殊ニシ、凡ソ刑事ニ關スル事項ハ刑律内ニ編入スルモ其内容ハ各其事類ニ從ヒテ之ヲ細別ス。關訟ノ如キハ分チテ「關殿」ト「訴訟」トノ二章ト爲ス。

【清律】ハ大體之ニ因ル。【唐律】疏議ハ其沿革ニ付キ下ノ如ク記ス。關訟律者。首論ニ關殿之科。次言ニ告訟之事。從ニ秦漢ニ至レ晉。未レ有ニ此篇。至ニ後魏太和年。分ニ擊訊律ニ爲ニ關律。至ニ北齊。以ニ訟事ニ附レ之。名爲ニ關訟律。後周爲ニ關訟律。隋開皇依ニ齊關訟名。至レ今不レ改。賊盜之後。須防ニ關訟。故次ニ於賊盜之下。(卷二)關訟ノ見ヨ

【關班】朝廷ノ席順、左右ヲ合シテ關班ト爲ス。【唐書】武后紀、御殿日味爽。宰相兩省官。關班於香案前云云。

【得】(部首)(職)

【得壹錢】古ノ錢名、徑一寸四分アリ。或ハ曰フ、徑一寸三分、重十三銖ナリト、【唐書】食貨志、史思明。據ニ東都。鑄ニ得壹錢。徑寸四分。【泉志】舊譜曰。得壹錢。徑寸三分。重十三銖。

【得旨允行】皇上ノ允准セラレタル旨ヲ體シテ、其通リニ事ヲ辦理スルコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「謂奉ニ上旨一來。皇上允准如此辨也。」

【得實】(實)訟獄ヲ聽斷スルニ、其眞情ヲ得ルコトヲ謂フ。【史記】卓陶爲ニ大理。平民各服。得其實。【北史】周世宗紀、雖經殺宥。事逆可知者。有司宜即推窮。得實之日。免其罪。微備如法。

【得宿藏物】(宿藏物)埋藏物ヲ拾得スルコトヲ謂フ。【唐律】雜律篇ノ條名、其文、諸於他入地内。得宿藏物。隱而不送者。計合還主之分。坐贓論。減三等。(卷二)十七

【得代】(代)官吏任期滿了レ後任官ヲ得テ交代スルコトヲ謂フ。(代)ノ部ノ任滿ノ見ヨ

【得關遺物】(關遺物)寶印符節及ヒ雜物ヲ拾得スルコトヲ謂フ。【唐律】雜律篇ノ條名、其文、諸得關遺物。滿五日不送。送官者。各以亡失罪論。贓重者坐贓論。私物坐贓減三等。(卷二)十七

【特】(部首)(職)

【特】特ハ特性即チ一頭ノ牛ノコトニシテ、

天ヲ祭ルニ用フ。【書經】舜典篇、格ニ于藝祖。用特。【傳】特一牛也。【禮記】郊特牲ノ註、郊者。祭天之名。用一牛。故曰「特牲」。

【特有】特別的ノ恩意ヲ以テ犯罪人ノ罪ヲ寬免スルコトヲ謂フ。【晉書】齊王薨傳、趙王倫收。薨擊ニ廷尉。祖納諫曰。薨實獻王之子。明德之胤。宜蒙特宥。

【特揖】一一揖禮(手ヲ胸ニ)ヲ行フコトヲ謂フ。【周禮】夏官司士ノ職、孤卿特揖。註、特揖。一一揖之。

【特恩】尋常ニ異ナル朝廷ノ恩遇ヲ謂フ。【蘇轍文】朝廷非常特恩。當以特二人臣非常之功。【功】

【特簡】官吏ヲ任用スルトキ、普通ノ形式ニ由ラズ、皇帝ノ特旨ヲ以テ任用スルコトヲ謂フ。(清禮部)則例

【特勤】突厥ニテハ可汗(其國)ノ子弟ヲ謂ツテ「特勤」ト曰フ。今ノ外蒙古ニハ唐時建ツル所ノ「關特勤」ノ碑アリ。唐書訛リテ「特勤」ニ

作ル。【特旨】皇帝ガ或事件ニ就キテ特別ニ旨ヲ降スコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「皇上特爲ニ此事一降旨也。」

【特赦】(一)舊法、常赦ニ對シ臨時罪名ヲ限定シテ特免スルコトヲ謂フ。【明律】清律名例篇、常赦所不原ノ條同文ヲ以テ「上臨時定罪名」特免。【明律卷一】(一)新法、民國約法第二十八條ニ依リ大總統ノ權限ニ屬セシメタル恩典ノ一種、内容ハ我特赦ニ同ジ。

【特授】清制、官吏ノ任命ハ吏部ノ銜銜具奏ヲ必要トスルモ、特定ノ官吏ハ此手續ニ由ラズ皇上ノ特權ヲ以テ任命スルコトアリ、之ヲ「特授」ト曰フ。(會典)吏部

【特除名】(除名)官吏ノ私罪ニノ輕キ者、除名ハ六載(載ハ年)ノ後ニアラザレバ官ニ就スルコトヲ聽サザルモ特除名ハ免官ノ例ニ準ジ三載ノ後官ニ就スルコトヲ聽ス。【唐律】名例篇「除名者」ノ條、若本犯不レ至ニ免官。而特除

名者。欽法同。免官例。(同書)

【特選】 官名、漢代諸侯王公將軍等ニ於テ功

德優盛ノ者ニ對シ此官稱ヲ賜ヒテ三公ノ下ニ

在ラシム。魏晉之ニ因ル。皆加官タリ。隋唐

改メテ散官ト爲ス。(待選)明ハ「特選光祿大

夫」ヲ以テ正一品ト爲ス。清ニ及ビテ之ヲ廢

ス。【事物紀原】漢氏諸侯。有ニ功德優盛。朝廷

所ニ敬異。賜位特選。在三公下。所文帝。以爲

散官。(四)【辭源】官名。漢制。諸侯王公將軍。

功德優盛。朝廷所ニ敬異。賜位特選。位在三公

下。魏晉以後因之。皆爲加官。隋唐改爲散

官。明以特選光祿大夫。爲正一品。清廢。

【特性】 祭時ニ一牛又一豚ヲ用ケルコトヲ

謂フ。【禮記】郊特牲。注。郊者祭。天之名。

用ニ一牛。故曰特牲。【國語】大夫舉以特

牲。注。特牲。特牲也。

【特貸】 特別的寛大ノ意思ニ依リテ犯罪人ノ

罪ヲ宥恕スルコトヲ謂フ。【宋史】刑法志。明道

二年詔命。官。坐死特貸者。多杖羈配。遠州牢

城。經。恩量移。始免。

【特任】 民國ノ文官ハ別チテ四級ト爲ス。一

フ「特任」ト曰フ。大總統ヨリ特令ヲ以テ之ヲ

行フ。其任命狀ハ大總統ヨリ署名蓋印シ、國

務卿副署ス。即チ我親任ニ相當スル者ニシテ

國務卿、各部總長巡按使等之ニ屬ス。ニフ「簡

任」ト曰フ。大總統ヨリ合格人員中ニ就キテ簡

任ス。即チ我親任ニ相當スル者ニシテ各部次

長道尹等之ニ屬ス。三フ「薦任」ト曰フ。各長

官ヨリ大總統ニ呈請シテ之ヲ行フ。即チ我奏

任ニ相當スル者ニシテ各部ノ秘書司長各省ノ

知事等之ニ屬ス。四フ委任ト曰フ。直轄長官

ヨリ徑チ委任ヲ行フ。其任命狀ハ各該長官

ヨリ署名蓋印ス。即チ我親任ニ相當スル者ニ

シテ各部主事科員ノ如キ之ニ屬ス。

【特拜】 特ハ騎ホ獨ノ如シ。祀拜ニ對シテ人

毎ニ拜スルコトヲ謂フ。(ハレノ部記)

【特約】 特ハ頓ニ同ジ。約ハ嗣ノ義。即チ特

別ニ其廟ニ於テ祭ルコトヲ謂フ。春祭ノ名ナ

リ。【禮記】王制篇。天子頓。與特同。云云。吳澂

ノ註。頓。謂各祭ニ於其廟。云云。陳詳道ノ註

「天子之禮。春則頓祭。云云。(大學衍義補)

【獨】 (部首) (鼠)

【獨轡弩軍】 宋代軍隊ノ名、即チ弓手ヲ以

テ組織ス。【宋史】郭諮傳。郭諮所造獨轡弩軍。

無敵流星弩。可ヨ以備三軍陣之用。詔弓弩院

如樣製之。除詔爲詔。詔爲詔。許置弩五百

百。募士民教之。既成。經略言其便。詔立

獨轡弩軍。

【獨戶軍】 元世祖已ニ中原ヲ平定スルヤ民ヲ

發シテ卒ト爲ス。貧富ヲ以テ甲乙ヲ區別シ、

每戶一人ヲ出ス。之ヲ「獨戶軍」ト謂フ。(元史

紀)

【獨斷】 (一)一人一個ノ所見ヲ以テ斷定スル

コトヲ謂フ。【晉書】石崇傳。決獨斷之聽。當

神武之略。(二)書名、漢蔡邕ノ撰、上下二卷

アリ今ニ傳ハル。

【獨立協】 清代ノ陸軍制ハ步、騎、砲、工、輜ノ

諸種兵ヲ以テ混合シテ成ル。中ニ獨立シテ鎮

部ノ統轄ヲ受ケザルモノヲ「獨立協」ト曰ヒ、

又「混成協」トモ曰フ。民國ハ協ヲ改メテ旅ト

爲シ之ヲ「混成旅」ト曰フ。

【督】 (部首) (沃) (訓)

【督】 (一)訓戒ノ義。【正韻】董也。又敦戒也。

【前漢書】車千秋傳。宜有以敦督。(二)責ム

ルナリ。(三)督過。(三)昔時漢ハ大將ヲ督ト曰

フ。【後漢書】郭躬傳。軍征校尉一統於督。

(四)後世ハ地方大官ヲ督ト爲ス。「督郵」ハ督

護。都督ハ清制ノ「總督」ノ類ナリ。(五)監

視ノ義ナリ。(六)督管。

【督郵】 漢代創設ノ官名、郡守ノ佐吏(補助

官)ナリ。但シ郵ハ尤ノ借字ニシテ屬縣ノ尤意

(失)ヲ督察スルコトヲ掌ル。東西南北中央ノ

官ナシ。【漢書】尹翁歸傳。田延年爲河東太守。

翁歸徒署督郵。郡汾南。所舉應法。長吏莫

敢怒。【杜氏通典】「督郵。漢有之。掌監屬

縣。有東西南北中部。謂之五部督郵。云云。

【督過】 (過) 過失ヲ督責スルコトヲ謂フ。

【史記】項羽紀。聞大王有意督過之。脫身

獨去。注。督。責也。

【督護】 官名、東晉ノ時ニ設ク。一ニ亦「都護」

ト曰フ。ニアリ一ヲ「參軍督護」ト曰ヒ他ノ一

ヲ「東曹督護」ト曰フ。皆丞相ノ屬僚ニシテ兵

事ヲ掌ル。

【督催】 地方長官ガ屬僚ヲ督勵シテ租稅ヲ催

徵スルコト、即チ督促シテ徵收スルノ謂ナリ。

【六部成語註解】「督催。率屬吏。催徵錢糧。府州

之責也。

【督催所】 清制、吏部四清吏司(一)文選清史

吏司三、稽勳清吏司ノ外ニ設ケタル分課ノ一ニ

シテ、堂官ヨリ郎中、員外郎、主事ヲ派委シ、

各清吏司分辦(事務ヲ分擔)ノ事務ニ對シ各其

期限ニ依リテ督催スルコトヲ掌ル。(清國行

【督緝】 當局官廳ガ、番役等ヲ督勵シテ、盜賊

ヲ逮捕スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「官府

督緝番役人等。擒賊也。

【督鎖局】 鹽ヲ存儲スル中央倉庫ナリ。(清國

法卷)

【督帶官】 (統帶) (ヲ見ヨ)

【督管】 漢晉ノ制、督ハ罪人ヲ監視スルノ義、

管ハ管刑、犯罪人ヲ管刑ニ處シテ或事情ノ爲

メ之ヲ決行セズ、其行動ヲ監視スルコトヲ

謂フ。【漢書】丙吉傳。坐養皇曾孫。不敬。督

管。同書尹翁歸傳。論郭舉。舉。督管。使所

董。責以員程。不。得。取。代。不。中。程。輒。管

督。師古註。督。謂。視。察。之。【御覽】六百五

十。引。晉。令。一。應。受。杖。而。體。有。瘡。者。督。之。

【督徵官】 清制、地丁稅ハ州縣印官直接ニ之

ヲ徵收スベキモノニシテ。蓋ニ佐貳官ニ委任ス

ルヲ得ズ。其直接徵收ニ當ル者ヲ「總徵官」ト

云ヒ。其上司タル司道府州等ノ官ニシテ徵收ヲ

督促スルノ職務アル者ヲ「督徵官」ト云フ。
(清國行政法卷六)

【督撫】 清制、各省ノ長官、總督ト巡撫トノ合稱ナリ。

【督標】 清制、各省總督ノ管轄ニ屬スル軍管ヲ謂フ。【會典】兵部「各省總督所屬爲「督標」」

【督辦】 官名、清末多ク之ヲ設ケ大臣ヲ以テ其事ニ任ズ。【督辦軍務】「督辦鐵路事務」ノ如キ凡ナリ。其意義ハ上ヨリ之ヲ督率シテ職務ヲ辦理セシムルト云フニ在リ。【六部成語註解】「督者督率於上。以辦二理公事一也。」

【督辦鹽政暫行章程】 鹽政ニ關スル法律ナリ。(督辦鹽政)

【督辦鹽政處】 清制、從來鹽務ハ鹽政其他特別地方官アリ、之ヲ統轄スルハ中央官廳ナリ。惟ダ戶部ヲシテ其事務ヲ兼ネシメタルガ宣統元年十二月京師ニ督辦鹽政處ヲ設ケ督辦鹽政大臣ヲ以テ鹽務ニ關スル一切ノ事宜ヲ管

理セシメ、之ト同時ニ各省督撫ヲ以テ會辦鹽政大臣ニ充テ中外相應ジテ鹽政ノ統一ヲ圖ルコトトシ、翌年正月督辦鹽政暫行章程及ビ督辦鹽政處辦事章程ヲ定メタリ。(宣統新法令第十六册)

【督辦鹽政大臣】 (督辦鹽政)

【督辦政務處】 清、光緒二十六年初夏、北清事件(世ニ「拳匪事」ノ起ルヤ七月列強ノ軍北京ニ入り兩宮(皇帝及)西安ニ蒙塵シ十一月ニハ慶親王、李鴻章等各國公使ト和議大綱十二款ヲ議定セシガ翌月既ニ内外大官ニ命ジテ變法ヲ條陳セシムルノ上諭出デタリ。越エテ二十七年三月督辦政務處ヲ設ケ、督辦政務大臣ヲ以テ組織セラル。大臣ニハ定員ナク、軍機大臣ハ悉ク之ヲ兼任シ、其外王大臣若干名ヲ以テ補充セシム。其軍機大臣ヲシテ兼任セシムルハ事重大ニシテ專ラ他人ニ委スベカラザルニ因ル。最初ノ政務大臣ハ軍機大臣慶親王、李鴻章、榮祿、崑岡、王文韶及ビ戶部

尙書鹿傳霖ニシテ兩江總督劉坤一、湖廣總督張之洞モ遙ニ參預スルコトヲ命ゼラル。其屬官ハ提調二人、章京八人若クバ十人其他若干名ナリ。其職權ハ(一)中外各官廳ヨリ上奏ノ變法事宜ヲ旨ヲ承ケテ審議シ、其結果ヲ上奏スルコト(二)重要ノ政務ニシテ未ダ中外官廳ヨリ上奏セザルモノアルトキハ本處ニシテ妥議具奏スルコト(三)諭旨ヲ發シテ新政ヲ舉行セントスルトキハ本處命ヲ奉ジテ其辦法ヲ擬定スルコト等ナリトス。(清國行政)

【督辦政務大臣】 (督辦政務)

【督辦清吏司】 清制、刑部清吏司ノ一、(十八)清吏司)郎中、主事俱ニ滿漢各一人、員外郎滿洲一人アリ、逃亡旗人ノ逮捕ニ關スル事務ヲ掌ル。(清國行政)

【督理街道衙門】 清制、工部附屬ノ一官廳京師外城ノ道路ヲ修治ヲ掌ル。督理街道衙門御史滿漢各一人、本部司員滿洲一人、步軍統

領衙門一人其事務ヲ辦理ス。(清國行政法卷一ノ上)

【督理錢法侍郎】 明制、戶部ノ一專官、天啓五年ニ本官ヲ增設シテ錢法ノ事務ヲ掌ラシム。(清國行政法卷一ノ上)

【督糧道】 清制、或省ニ於テハ糧儲道ト名ヅク。江南二人、山東、河南、江西、福建、浙江、湖北、湖南、廣東、雲南、貴州各一人ヲ設ケ、督撫ノ命ヲ承ケ糧米運漕ノ事ヲ掌ル。其職布政使ニ類スルヲ以テ光緒三十年元官裁汰ノ事アリシ時、先ヅ湖南督糧道ヲ廢シ、嗣テ三十四年官制改革ノ際ニモ山東督糧道、貴州糧儲道等ヲ裁撤ス。(清國行政法卷一ノ下)

【督練公所】 清制、本部ハ各省ニ之ヲ設置シテ新軍ノ訓練ニ關スル一切ノ行政事務ヲ處理スルモノトシ其事務ハ兵備處、參謀處、教練處ノ三處ニ於テ之ヲ分掌セシム。是レ從前ノ軍務司、又ハ營務處ノ制ヲ改メタルモノナリ。(清國行政法卷四)

禿 (部首) (屬)

【禿髮】 地蔵ノ舊稱、地蔵ハ唐ノ吐蕃ノ地ナリ。隋ノ開皇中倫贊索ナル者アリ許河ノ西ニ居リ土渾ヲ滅シテ其地ヲ領シ後波布川ノ西ニ居リ姓ヲ軍勃野ト改メ國ヲ禿髮ト號ス。吐蕃ハ禿髮ノ訛ナリ。其支那ト交涉セシハ唐ノ太宗ノ時ニ始マル。(清國行政法卷四)

突 (部首) (屬)

【突厥】 種族ノ名、其先ハ本ト平涼ノ雜胡、後魏ノ太武ガ沮渠氏ヲ滅スニ際シ、阿史那ナル者アリ五百家ヲ以テ茹茹ニ奔リテ金山(即阿爾)ニ居ル。金山ノ狀兜牟ニ似タリ。彼土ノ方言兜牟ヲ謂ツテ突厥ト曰フ。因リテ其部落ニ名ヅク。隋唐ノ際漠北ヲ奄有ス。其地東西萬里、後分レテ東西二部ト爲ル。回紇興リテ突厥亡ビテヨリ其遺衆四方ニ散ズ。其中國ニ留マル者ハ多ク回紇諸族中ニ混ズ。其轉ジテ西ニ移ル者ハ大食國ノ僱用スル所ト爲リ、勢已ニ盛起スルヤ、遂ニ地ヲ割キテ王ト稱ス。

噸 (新字)

【噸稅】 一ニ「船鈔」ト稱ス。清國ノ開港ニ入港シタル船舶ハ、其登録噸數ニ應ジ一定ノ割合ヲ以テ噸稅ヲ納ムベキモノトス。其稅則ハ百五十噸以下ハ一噸ニ付キ一錢(分ノ一)トシ、百五十噸以上ハ一噸ニ付キ四錢(分ノ一)トス。但シ該船舶ニシテ積荷ニ異動ナク、入港後四十八時間以内ニ出港スルモノハ噸稅ヲ免ズ(清國行政法卷六)

墩 (部首) (元) (韻)

【墩】 一ニ整ニ作ル。平地ニ堆キ所アルヲ墩ト曰フ。【正韻】「平地有堆曰墩。後世ハ、墩臺即チ警報臺ノ義ニ用フ。(墩臺) (見見ヨ) 警報臺ノコトヲ謂フ。(墩臺) (見見ヨ)」

墩堡 (部首) (韻)

【墩堡】 墩臺ト關堡トノ合稱、墩臺ハ警報臺ノコト、關堡トハ要塞ノコトナリ。然レドモ關ト堡トハ同ジカラズ、山險ニ據リテ邊門ヲ作ルモノヲ關ト謂ヒ、山險ニ據リテ塞ヲ築キ兵ヲ屯セシムルモノヲ堡ト謂フ。(六部成) (語註解)

屯 (部首) (眞) (韻)

【屯壘】 清ノ順治帝、都ヲ北京ニ定ムルハ大ニ土地開墾ノ必要ヲ感じ、軍兵民人ヲシテ屯田ノ制ニ倣ヒテ、荒蕪地ノ開墾ニ從事セシメ、先ヅ工本(開墾)ヲ給シ、秋收ニ際シテ或ハ三分シテ其一ヲ取り、或ハ折半シテ相分ツコト、シ之ヲ稱シテ屯墾ト謂フ。(會典事) (例工部)

屯田 (部首) (眞) (韻)

動シ運糧ノ費多カリシカバ趙充國ノ建議(田十二)ニ基キテ兵ヲ國境ノ要地ニ屯在セシメ以テ戍備ニ充ツルト共ニ開墾ニ從ハシメ、軍糧ニ資セシメタルニ起ル。(漢書武帝紀) 昭帝ノ始元二年退職ノ官吏將卒ヲ張掖郡ニ派シテ、屯田ニ從事セシム。世人之ヲ以テ屯田ノ起原ト爲ス者アルモ然ラズ。【事物紀原】「事始曰。昭帝紀始元二年。詔發三習戰射士。詣朔方。調故將吏屯田張掖。謂爲屯田一始上非也。西域傳曰。自武帝初通西域。置校尉屯田。渠犂。又征和中桑羊奏言。可遣屯田卒。益種。五穀。張掖酒泉。然則屯田蓋起於漢武開西域之時也。」(卷) 後漢ニハ更ニ之ヲ擴張シ、内地ニモ屯田ヲ設ケ、民人ヲ募リテ開墾セシムルニ至レリ。其後幾多ノ變遷消長アリシト雖モ、其根本ノ目的ニ於テハ一ナリ。明ハ大ニ屯田ヲ盛ニシ、軍丁ヲ用ケルモノハ「軍屯」ト稱シ、民人ヲ募集シ或ハ罪人ヲ徙シテ耕作セシムルモノハ之ヲ「民屯」ト稱シ、軍屯ハ街

所ノ管轄トシ、民屯ハ州縣ノ管轄ト爲ス。清ハ前者ヲ「軍田」ト改メ、後者ヲ「屯田」ト爲シ、初メハ兩者トモ賣買ヲ禁ジタルモ、軍田ハ漸次其私業タル形ヲ生ジタルヲ以テ、雍正五年以後制限ヲ加ヘ、軍丁間ニ於テノ典賣スルコトヲ免許ス。(明會典、清會典工部)

【屯田尙書】 晉始メテ屯田尙書ヲ置キ屯田官田等ノ事ヲ掌ラシム。後又之ヲ「田曹」ト謂フ。唐ハ屯田郎中員外郎ヲ置キ工部ニ屬シ、屯田ノ政令ヲ掌ラシム。歷代之ニ因ル。明以後墾墾ノ事ヲ兼掌セシム。清末始メテ廢ス。(清國行政法卷) 一上及ヒ辭源)

【屯田清吏司】 明代工部ハ尙書一人ヲ長官ト爲シ左右侍郎各一人ヲ以テ副長(即チ)ト爲シ、其下ニ營繕、虞衡、都水、屯田ノ四清吏司アリ。屯田ハ屯種抽分、薪炭夫役、墾墾ノ事務ヲ專掌シタリ。(清國行政法卷) 一上)

【屯田道】 清制、道員ノ一種、開墾屯田ノ事

屯田郎中 (部首) (尙書)

【屯田郎中】 唐代ノ屯田官ナリ。(尙書) (見)

屯堡 (部首) (眞) (韻)

【屯堡】 戍備兵ノ駐在所ヲ謂フ。【韓愈、文】「東起振武。轉而過雲州。於中受降城出入河山之際。六百餘里。屯堡相望。」

屯種 (部首) (眞) (韻)

【屯種】 屯田ヨリ納ムベキ稅糧ヲ謂フ。明清時代ニ於ケル田賦ノ一ナリ。民國ハ屯ヲ改メテ民ト爲サントノ議アリシモ未ダ決定セザルガ如シ。

頓 (部首) (韻)

【頓首】 敬禮ノ方式、首ヲ地ニ附ケテ又舉グルコトヲ謂フ。即チ「叩頭」ト云フニ同ジ。稽首ニ次グノ敬禮ナリ。【周禮】「大祝、辨九拜。一曰稽首。二曰頓首。云云。」其註、頓首、拜レ頭叩レ地也。疏、稽首、至レ地多時。頓首、至レ地則舉。故以レ叩レ地言レ之。」

【頓首】 江湖ノ間ニテハ昏睡ノ狀態ヲ「頓首」ト曰ヒ、南楚ニテハ毒藥ヲ飲ミテ苦ムコトヲ「頓首」ト曰フ。(揚子) (衡) (論)

內 (部首) (韻)

【內閣】 内閣ノ名ハ遠ク南北朝時代ニ始マル然レドモ當時ハ典尙キノ小衙ニ過ギズ。【北史】魏郡郡傳、邵與レ婦甚疏。自云盡入内閣。爲二犬所咬。其始メテ政治重要機關トシテ創設セラレタルハ明代ナリ。成祖即位ノ初メ輪

內閣 (部首) (韻)

林院ヨリ才識ノ士ヲ拔キ、文淵閣ニ入直セシメ、專ラ機密ヲ典ラシム、之ヲ「内閣」ト稱ス。(後漢ノ尙) 仁宗ノ時揚士奇ヲ以テ少保ニ陞シ、華蓋殿大學士ヲ兼シ、又揚榮ヲ以テ工部尙書兼護身殿大學士ト爲シ、閣務ヲ掌ラシム。宣宗ノ時ハ事大小トナク、大學士揚士奇ニ諮詢シテ決シタリシカバ、内閣大學士ノ權日ニ重ク、事實上宰相ト爲リ、世宗以後ニハ大學士ノ朝班六部尙書ノ上ニ列スルニ至ル。然レドモ明代ノ内閣ハ官制ノ上ニ於テハ屬官甚ダ少ク僅ニ中書舍人ヲ置キタルノミ。宣宗ノ時制勅、詰勅ノ二房ヲ設ケ、内閣大學士ハ制勅ヲ撰擬スルノ職權ヲ有ス。清朝ハ初メ内閣ナルモノヲ設ケテ機務ヲ掌ラシメ、大學士及ビ學士ヲ置キ、大學士ニハ各部尙書ノ術ヲ兼ヌルコトト爲シ、別ニ翰林院ヲ置キ、專ラ文學ノ事ヲ掌ラシム。順治十五年ニ至リ内三院ヲ改メテ内閣ト爲シ、十八年復内閣ヲ改メテ内三院ト爲シ、翰林院ト合併シタルガ、

康熙九年再ビ内閣ヲ置キ、翰林院ヲ分設シ、二者並立ノ制始メテ確定スルニ至レリ。清朝ノ内閣ハ、國家ノ最高機關ニシテ、其地位及ビ權力他ニ比シベキモノナカリキ。然レドモ軍機處ノ地位權力増進スルニ及ビ、内閣ハ殆ド虚器ヲ拂スルニ過ギザルニ至レリ。(清國法卷一)

【内監】 (一) 宦官ノ異稱、唐代宮殿中ニ内侍監ヲ置ク、皆宦官ヲ以テ之ニ任ズ。(二) 清朝ニハ盜賊等ノ重犯人ヲ監禁スル監獄ヲ内監ト稱ス。

【内翰】 宋代翰林學士ヲ稱シテ内翰ト爲ス。(翰林學士) 宋史王旦傳、内翰得官幾日、清代ハ内閣中書ノ稱ト爲ス。

【内旗】 八旗ヲ上三旗、下五旗ニ分テ、上三旗ハ鑲黃旗、正黃旗、鑲白旗ノ三旗、下五旗ハ正白旗、正紅旗、正藍旗、鑲紅旗、鑲藍旗ノ五旗ヲ指シ、更ニ之ヲ内旗外旗ニ分テ、内旗ニ屬スルモノヲ包衣ト呼ブ。包衣トハ滿洲

語ニシテ忠實奉公ノ義ナリ。(清國行政法卷四)

【内廐】 京師馬廐ノ一ニシテ、紫禁殿ニ在リ。御馬及ビ内務府用ノ馬ヲ畜フ所ナリ。(會典)

【内給事】 宮中皇后ノ命ヲ掌ル官、所謂宦官ナリ。(周禮) 天官ノ屬、内小臣ニ起ル。後魏ハ「中給事」ト稱シ隋煬帝「内承直」ト改メ唐ハ「内給事」ト爲ス。(事物紀原) 周禮内小臣之職也。後魏有「中給事」中給事煬帝改曰「内承直」唐曰「内給事」神龍元年内侍省屬有「内給事」八人ニ是也。宋朝不置。臨事或攝。(五經詩經) 卷伯「左傳」ニハ「司宮」ト曰フ。亦單ニ「小臣」トモ曰フ。(國語)

【内供奉】 入内供奉官ノ略、(儀禮) 部「入内」ト云フ。(儀禮) 後亦妻ノ兄弟ヲ稱シテ「内兄弟」ト爲ス。(儀禮)

【内庫】 清制、内務府ノ銀庫ノコトヲ謂フ。

【會典内務府】

【内宰】 周禮天官ノ屬ニシテ、王宮内ノ政令ヲ掌ル官中官ノ長ナリ。(周禮天官)

【内三院】 (内閣) 天下一般ノ神(郊社及比) ハ「外神」ト曰フ之ヲ祭ルヲ「外事」ト曰フ。一家ノ神ヲ「内神」ト曰フ之ヲ祭ルヲ「内事」ト曰フ。「禮記」曲禮篇「踐」昨臨三祭事。内事曰「孝王某」。外事曰「鬪王某」。吳澂ノ註、宗廟所祭者。一家之親。内神也。故曰「内事」。郊社及山川之屬。所祭者。天下一國之神。皆外神也。故曰「外事」。

【内子】 古ハ卿大夫ノ嫡妻ヲ稱シテ「内子」ト曰フ。(左傳) 僖公二十四年「以叔隗爲内子」。後世ハ人ノ妻又ハ己レノ妻均シク之ヲ使ス。今ハ専ラ己ノ妻ヲ稱スルヲ通例トス。

【内侍省】 (内給事)

【内省】 内務行政ヲ掌ル最高官廳、我内務省ノ如シ。(魏書) 官氏志「天興四年九月。罷外郎

臺御史。總屬内省。(宋史) 徽宗紀「政和三年五月丁未。詔尙書内省分三六司。以掌外省六曹所上之事。云云。」

【内常侍】 侍官ノ名、秦ハ中常侍官ト稱シ宦官ヲ改メテ士人(普通) ヲ參用ス。隋ハ諱ヲ避ケテ「内常侍」ト改ム。(事實紀原) 秦置「中常侍官」。參用士人。給事殿省。隋避諱改「内常侍」。

【内女】 古ハ同姓ノ女ヲ稱シテ内女ト爲ス。(周禮及)

【内承直】 (内給事)

【内陞】 清制、外省ニ奉職セル官吏ヲ以テ、京城ノ官吏ニ陞補スルコトヲ謂フ。(六部成)

【内人】 宮中庭内ノ警衛ヲ掌ル者ナリ。(周禮) 天官内人「凡内人之臣。公器賓客。諸侯之臣。無帥入者。則獲也。其出入。以時啓閉。云云。」

【内制】 翰林學士官ノ別名、皇帝ノ御言葉、

制詔、詔令、教文等ノ事ヲ掌ル。(朝野類要) 翰林學士官謂之内制。掌三王言、大制詔、詔令、教文之類。(玉堂漫筆) 宋制以翰林學士。帶三知制誥。謂之内制。

【内選】 吏部ガ官吏ノ推考推選ヲ爲スコト、一ニ之ヲ「内選」トモ稱ス。(清會典)

【内治】 皇后ノ宮中内政ヲ統治スルコトヲ謂フ。(禮記) 内則「聽天下之内治。以彰明婦道。」

【内場】 武舉即チ武官登用試験ハ、之ヲ内場外場ニ分テ、外場ハ武藝ノ試験ヲ爲シ、内場ハ武經ノ試験ヲ爲ス。武經ハ孫子、吳子、司馬法、尉繚子、三略、六韜、太宗問對ノ七經ニシテ、其中ヨリ一段ヲ抜キ、一定ノ字數ヲ限リテ默寫セシムルヲ法トス。(清科場)

【内朝】 周代ニ於テハ王朝ヲ「内朝」、外朝ニ大別シ外朝ノ政事ハ朝士ヲシテ之ヲ掌ラシメ内朝ハ天子親ラ之ヲ視ル。然ルニ内朝ニニアリ。一ヲ「治朝」ト曰ヒ路門(門)ヲ見ヨ。

外ニ在リ天子ノ毎日臨御シテ政事ヲ視ル所ナリ。他ノ一ヲ「燕朝」ト曰ヒ路門ノ内ニ在リ天子ノ燕居スル所、一ニ「路寢」トモ稱ス。(禮記)

【内帑】 宮内金布類ヲ藏ムル府ナリ。音「ト」ハ琴ト通ジ妻子、音「トウ」ハ上解ノ如シ。韻亦異ナル。(宋史) 高宗紀「紹興五年十一月乙未。出内帑綿絹。賜宗室。」

【内八作】 (作) 八ノ部

【内府】 宮中ニ在ル倉、諸國ヨリノ貢物ヲ藏ム。(周禮) 天官ニ「内府」ノ職官ヲ規定ス。

【内服】 王畿ノ外每五百里ヲ以テ一區劃ト爲シ侯服、甸服、采服、要服、衛服ノ五ト爲ス。服ハ諸侯及ビ蕃族ノ天子ニ服事スルノ義、要服以テ内服ト爲シ以外ヲ外服ト爲ス。(周禮)

【内務府】 清制、内務府ハ宗人府ト共ニ帝室ニ屬スル一切ノ事務ヲ管理スル官廳、我宮内

省ノ如キモノナリ。(會典内)

【内務府包衣缺】 清制、旗人ヲ内旗外旗ニ分チ、内旗ニ屬スル旗人ヲ「包衣」ト呼ブ(包衣忠實ニ奉公)内務府ニ設スルモノト、王府ニ設スルモノトアリ。各一定ノ官職アリ。之ヲ「包衣缺」ト謂フ。内務府ニ屬スル者ヲ「内務府包衣缺」ト謂フ。(會典内)

【内務部】 民國新設シタル中央ノ官廳、長官ヲ總長ト曰ヒ地方行政、選舉、賑卹、救濟、慈善、感化、人戶、土地、警察、著作、出版、土木、宗教、衛生等内務行政一切ヲ掌ル。其所屬ニ(一)總務廳(二)民治警察(三)職方(四)典禮(五)考績ノ五司アリ。我内務省ニ當ル。

【内命】 君主ノ命令ニシテ外朝ノ議ヲ經ザルモノヲ謂フ。(倫林)

【内命夫】 周制、卿大夫及比士ノ宮中ニ在ル者ヲ謂フ。【周禮】大官、閹人ノ制、略凡外内命夫。命婦出入。則爲之關。賈公彦註、内命夫。卿大夫士之在宮中者。云云。

【内命婦】 宮女、三夫人以下ヲ總稱ス。【周禮】天官、閹人ノ制、凡外内命夫。命婦出入。則爲之關。賈公彦註、内命婦。三夫人以下也。

【内蒙古】 蒙古ハ内外二部ニ分ル。内蒙古ハ外蒙古ノ南、滿洲ノ西、直隸、山西、陝西ノ北ニ在リテ、六盟、二十四部、四十九旗ニ分ル。東ニ在ルモノヲ哲里木、卓索圖、昭烏達、錦林郭勒ノ四盟ト爲シ、是ヲ「東四盟」ト曰フ。西ニ在ルモノヲ烏蘭察布、伊克昭ノ二盟ト爲シ、是ヲ「西二盟」ト曰フ。盟ハ數部數旗ヲ合シタルノ稱、其長ヲ「盟長」ト曰ヒ副長ト曰フ。盟長ノ所在ヲ以テ會集ノ所ト爲ス。封爵ハ親王、郡王、貝勒、貝子、輔國公、鎮國公、合吉ノ別アリ。皆世襲トス。

【内裏】 皇帝ノ住ミ給フ宮殿即チ禁内ナリ。【舊唐書】李輔國傳、大家但内裏坐。外事聽老奴處置。

【内率】 官名、禁内ノ侍衛ノ任ヲ掌ル。隋ニ左右率アリ、唐ハ左右内率ト爲ス。【事物紀原】

「隋置左右率。掌禁内侍衛。唐爲左右内率。舊唐志曰。隋初置左右内率府。擬上臺千手衛也。」(卷五)

【内簾】 清制、内簾ハ外簾(即チ監)ニ對シテ科擧ノ試験官ヲ指スノ稱ナリ。詳シク言ヘバ科擧即チ官吏登用試験ハ試場ヲ内外ニ分チ、内場ハ試験ヲ行ヒ、其中否ヲ評定スル所ニシテ、試験官ニ當ル。故ニ試験官ヲ指シテ内場官又ハ内簾官(略シテ)ト稱ス。(條例)

【納吉】 婚姻ノ成立要件六禮ノ一、納采及比問名ノ禮ヲ終ヘテ更ニ將來ノ吉凶ヲ卜シ、正式ニ婚約ノ申込ヲ爲ス、之ヲ「納吉」ト謂フ。【禮記】昏義篇、得吉卜而納之也。後世ハ之ヲ「文定」又ハ「通書」ト稱ス。(陳氏)

【納結】 (結ヲ) 結ハ禾粟ノ莖皮ヲ去リタルモノ、畿内三百里以内ノ田賦ハ結ヲ納ムルコトヲ許ス。【書經】萬貢篇、略三百里納結。蔡

沈ノ註、去莖粟皮ニ納也。

【納誨】 (誨ヲ) 皇帝ガ賢臣ノ警告ヲ納レテ己ノ德ヲ補フコトヲ謂フ。【大學衍義補】「高宗愛立二傅說、作相。置諸其左右。未幾、他事。首命之。以朝夕納誨以輔己德。」(同書)

【納款】 誓詞ヲ上ニ納ムルノ義、又敵國ニ降服スルコトヲ謂フ。

【納言】 舜代上ノ言ヲ民間ニ下シ下ノ言ヲ上達シテ以テ上下意思ノ疏通ヲ計ルノ目的ヲ以テ設ケタル官名ナリ。【書經】舜典、命汝作納言。夙夜出納朕命。是レ其出所ナリ。【周禮】ニハ春官ノ屬ニ「内史」アリ納言ノ事ヲ掌ラシム。秦改メテ「尚書」ト稱ス。漢亦此官ヲ尊重ス。後周ハ周禮ニ基キテ六官ヲ立テ天官家宰ヲシテ皇帝ヲ佐ケテ邦國ヲ理メシム。天官ノ屬ニ「御伯中大夫」二人アリ侍從獻納ヲ掌ル。後ニ名ヲ「納言」ト改ム。隋ハ之ニ因ル。唐ノ武德間ニ「侍中」ト改メ帝命ノ出納ヲ掌ラシム。(書經傳説ノ註及ビ歷代職官表)

【納戸】 租税ヲ上納スル民戸ヲ謂フ。納戸ハ自ラ上納米ヲ粟(米ヲ量)スルコトヲ聽ス。【明律】「清律」戸律倉庫篇、多收稅糧解而ノ條同文ヲ以テ、凡各倉收受稅糧。聽令納戸自行。【明律卷七】(清律卷十)

【納采】 婚姻要件タル六禮ノ一、適當ナル配偶者ヲ得タルトキ之ニ禮物ヲ贈リテ婚約ヲ申込ムコトヲ謂フ。【禮記】昏義ノ註、納采以爲ニ采擇之禮也。碎キテ言ヘバ男家ヨリ女家ニ禮物トシテ雁ヲ送り婚約ヲ求ムルコト、即チ婚姻ノ第一義ナリ。【朱子家禮】ノ註、納采同名者。即今之具采擇之禮。以求生庚。故不レ云「問名」而云「納采」也。

【納采筵燕】 清朝ニ於テハ皇后册立ノトキ納采ノ禮ヲ行ヒタル後、皇帝特ニ公主若クハ大臣ノ命婦ヲシテ皇后ノ母ヲ内ニ養ヒシメ、内大臣侍衛八旗公侯以下滿漢二品以上ニ命ジ

テ、皇后ノ父ヲ外ニ養ヒシム、之ヲ「納采筵燕」ト稱ス。【大清律例】

【納贖】 或ル犯罪者ガ金ヲ當局官廳ニ納メテ罪ヲ贖フノ義即チ贖刑ノ一ナリ。【大清律例】見「清朝ノ贖刑」ハ四種アリ(一)納贖(二)收贖(三)贖罪(四)捐贖是ナリ。中ニモ納贖ハ軍民公罪ヲ犯シタル者及ビ生員(地方學校)以上等杖ノ輕罪ヲ犯シタル者ニ適用スル贖刑ナリ。其軍民ノ公罪ニ對スル納贖ニ「有力納贖」ト稱シ「稍有力納贖」ト別アリ。【各條ヲ】前者ハ

杖一十毎ニ贖銀二錢五分トス。杖六十八三兩、徒一年ハ三兩五錢、徒二年ハ二兩、准徒五年ハ二兩五錢トス。後者ハ杖一十ハ力役一箇月ノ折銀數ニ照シテ三錢トシ、一等ヲ加フル毎ニ加役十五日ノ折銀一錢五分ノ割合ヲ以テ遞加ス。杖六十八贖銀一兩三錢トシ、每等一五厘ヲ遞加シ、徒一年ハ三兩六錢トシ、每等一兩八錢ヲ遞加シ、徒二年ハ四兩四錢トシ、准徒五年ハ十八兩トス。若シ數ヲ納ムル者ハ

一石ヲ以テ米五斗トシ、米ヲ納ムル者ハ一石ヲ以テ銀五錢ノ割合ト爲スヲ法トス。(清律例刑部及)

捐納ノ起リテ因ル所ナリ。(漢書文帝紀同) 【納錢】(納ム) 經ハ禾ノ穂ヲ刈リテ半ノ葉ヲ附シタルモノ、(經ハ本來禾ヲ刈) 穀内二百里以內ノ田賦ハ徑ヲ納メシムルヲ法トス。【書經】禹貢篇「五百里甸服。百里納總。二百里納經。萬貢篇「五百里甸服。百里納總。二百里納經。蔡註「内百里爲最近。故并禾本總二賦之。外百里(即二)次之、只刈禾半葉納也。」

見(ナ) 南(十) (單) 【南運河】 運河ハ漕運ニ便スル爲メニ開鑿シタル河道ニシテ多クハ自然ノ河川ヲ利用シテ開鑿工事ヲ施シタルモノナリ。南運河ハ衛河ノ下流ニシテ衛河ハ山東省ヨリ直隸城ニ入り吳橋縣ヲ歷テ東ニ減河一支ヲ分チ本流ハ東流シ更ニ東ニ減河三支ヲ分チ西漳沱河ヲ納レ天津縣ニ至リテ白河ニ會シ直沽ヨリ海ニ入ル。(清國行政法卷二)

【納粟】 粟ヲ政府ニ納メタル者ニ官ヲ授クルノ制ハ、秦ノ商鞅ニ始マル。漢ノ文帝ノ時又是錯ノ議ニ本キ粟ヲ邊ニ輸送スル者ニ爵ヲ給シ、武帝ノ時ニ至リ國庫空乏ノ爲メニ賈府令ヲ發シ、錢粟ヲ納メタル者ニハ其多寡ニ應ジテ官ニ補シ、武功爵ハ凡ソ十二級ニ分チ、下級ヲ值十七萬トシ、一級毎ニ一萬ヲ加ヘテ三十萬ニ至リ、吏ヨリ官ニ補スル者ハ六百石ニシテ郎ニ至ルコトヲ得セシメタリ。是レ後世

【納幣】 納幣ノ別名ナリ。(納幣) 【納釐】(納ル) 【書經】舜典「納于大麓」トアルニ出ヅ。釐ハ錄ナリ。堯ガ舜ヲシテ萬機ノ政ヲ掌ラシメタルコトヲ謂フ。【唐律】疏議ノ進表「虞帝納釐。云云(同書)尙ホ數說アリ(卷首) (ナ) 南(十) (單) 大

【南苑】 清制、南苑ハ皇室所屬ノ苑園ニシテ永定門外二十清里ノ地ニ在リ。其守備隊トシテハ總尉一人、騎尉校二人、門軍三十六人、領催十人、馬甲九十人ヲ置ク。内務府奉宸院ニ屬ス。(嘉慶會典卷七十九) 【南河】 清制、凡ソ河ハ之ヲ北河、東河、南河ニ區別シ、各河官ヲ設ケテ其事務ヲ掌ラシム。其

監督長官ヲ河道總督ト稱ス。黄河ノ南流セシ時代ハ上流ヨリ山東省曹縣ニ至ル間ハ東河ニ屬シ、以下ハ南河ニ屬セリ。南河ニ屬スルモノハ孤宿運河以南ノ運河ニシテ、南流時代ニハ江蘇境ニ入りテヨリ海口ニ至ルノ河道亦之ニ屬シタリ。(清國行政法卷三)

【南關法場】 刑ヲ執行スル場所ヲ謂フ。刑場ハ多ク城外ノ南關ニ在リ。故ニ云フ。【六部成語註解】「行刑之場。多在城外之南關也。」 【南元】 明清科舉(官吏登) 時代ニ南方省分ノ人ガ(例ハ福建省) 京師ノ試驗(即チ)ニ應ジタルトキ第一位ノ及第者ガ北方ノ人ニ屬シ南方人ガ第二位ニ及第シタルトキ之ヲ「南元」ト謂フ。【辭源】明清科舉時代。南省人應ニ試北關者。除第一名應ニ歸ニ直隸本籍人ニ外。第二名者。謂ニ之南元也。

【南班】 南ハ推恩ノ義、宋仁宗ノ時宗族子弟ニ對シ特ニ授クル官即チ宋、仁宗ノ時南郊

【南京六部】 明ノ初代金陵ニ都セシトキ、吏部、戶部、禮部、兵部、刑部、工部ヲ設ケテ各部ノ政務ヲ分擔セシメ、後都ヲ北京ニ移

【南宰相府】 遼ノ時ニハ北宰相府、南宰相府アリ。北府ハ部族ヲ治メ、南府ハ漢人ヲ治

【南曹】 吏部員外郎、南宮ニ在リテ選院ノ事ヲ掌ル之ヲ「南曹」ト謂フ。(錦字箋卷一) 【南臺】 (一) 御史臺ヲ謂フ。(南臺) (二) 山ノ名、福建省閩侯縣ノ南九里ニ在リ。一ニ、釣臺山トモ稱ス。(三) 江名、閩江ノ釣臺山下ヲ經ル川ヲ「南臺江」ト稱ス。一ニ、白龍江トモ曰フ。

【南衙】 唐代ハ宰相ヲ稱シテ「南衙」ト曰ヒ又「南司」ト曰フ。中書、門下、尙書ノ三省皆大内(朝廷)ノ南ニ在ルヲ以テナリ。南朝時代ハ御史中丞ヲ以テ南司ト爲シタリ。(南史及) 【南海塘】(ナ) 南(十) (單) 【南宮舍人】 禮部郎官ノ別稱、(錦字箋) 禮部郎中。掌ニ省中文翰。謂ニ之南宮舍人。(同書) 【南宮眉目】 吏部員外郎ノ異稱ナリ。(字彙卷一) 【南京六部】 明ノ初代金陵ニ都セシトキ、吏部、戶部、禮部、兵部、刑部、工部ヲ設ケテ各部ノ政務ヲ分擔セシメ、後都ヲ北京ニ移

【南關法場】 刑ヲ執行スル場所ヲ謂フ。刑場ハ多ク城外ノ南關ニ在リ。故ニ云フ。【六部成語註解】「行刑之場。多在城外之南關也。」 【南元】 明清科舉(官吏登) 時代ニ南方省分ノ人ガ(例ハ福建省) 京師ノ試驗(即チ)ニ應ジタルトキ第一位ノ及第者ガ北方ノ人ニ屬シ南方人ガ第二位ニ及第シタルトキ之ヲ「南元」ト謂フ。【辭源】明清科舉時代。南省人應ニ試北關者。除第一名應ニ歸ニ直隸本籍人ニ外。第二名者。謂ニ之南元也。

【南班】 南ハ推恩ノ義、宋仁宗ノ時宗族子弟ニ對シ特ニ授クル官即チ宋、仁宗ノ時南郊

【祭ル】ノ祭ヲ爲スニ當リ皇族子弟其大禮ニ縁
リテ恩ヲ推シテ官爵ヲ賜ハンコトヲ乞フ。此
ヨリ皇恩ヲ推シテ皇族子弟ニ官ヲ授クル一定
ノ例ヲ開ク。之ヲ「南班之授」ト謂フ。蓋シ南
ハ南郊ノ南ニ出ヅルモノニシテ明ノ「南班」
ノ類ニ非ザルカ如シ。(「南北選」)「事物紀原」
「筆談」曰。宗子授ニ南班官、世傳王曾爲レ相日。始
開ニ此議。不レ然也。故事宗子無ニ通レ官法。惟遇ニ
稀曠大慶。則選ニ一官。景祐中初定ニ祖宗。並配ニ
南郊。宗子縁ニ大禮。乞レ推レ恩。自レ此有ニ南班之
授。云云。(卷五)

【南米】 南省ヨリ運漕スル糧米(穀米)ノ總
名ナリ。【六部成語註解】「南省漕糧之總名也。」
【南北郊】 (一)漢成帝ノ時「周禮」及「禮記」
ニ基キ設ケタル天地分祭ノ制。天ヲ南郊ニ祭
リ地ヲ北郊ニ祭ル。(「漢書郊」)(二)「大學衍義
補」ハ「明聖祖初メテ天下ヲ得ルヤ即チ壇ヲ築
キテ南北郊ト爲シ冬至ニ天ヲ丘ニ祀ル。一ニ
周禮ノ制ノ如クス。ト記ス(卷十三)

【南軍之屯】 漢代ノ兵制。古制ヲ按ズル
ニ王ハ朝ヲ前ニシ市ヲ後ニス。而シテ王宮南
ニ在リ。故ニ漢ハ宮中ヲ衛ルノ兵城南ニ在ル
者ヲ南ト爲ス。宮城軍ハ既ニ之ヲ南ト謂フ。
京城ノ軍之ヲ北ト謂フ。【漢書】刑法志「天下既
定。雖レ秦而制ニ材官於郡國。京師有ニ南北軍之
屯。云云。」

【南北選】 清代官吏ノ情實調託ノ弊ヲ豫防セ
ンガ爲メニ、南人ハ北ヲ以テ任地ト爲シ、北
人ハ南ヲ以テ任地ト爲シタルコトヲ謂フ。(「明
典吏」)蓋シ此制ハ清朝ニモ傳ハル。

【南北朝】 東晉ノ後南方ノ地ニ據ルモノハ
【南面】 南方ハ陽ナリ。人君ハ南面シテ坐ス
ヲ例トス。陽即チ明ニ向ヒテ治ムルノ義ニ取
ル。【禮記】郊特牲篇「君之南鄉。答レ陽之義也。
臣之北面。答レ君也。」「易經」説卦傳「聖人南面
而聽天下。嚮レ明而治。云云。」「漢書」賈禹傳
「以ニ漢治之廣。陛下之德。處ニ南面之尊。乘ニ萬
乘之權。云云。」

【南洋大臣】 清制、南洋大臣ハ兩江總督ノ
兼職ニ屬シ、南洋各開港場ノ通商貿易ヲ總理
シ並ニ南洋ノ水師ヲ統率ス。(清國行政法)
【南洋通商大臣】 清朝ニ於テハ南北南洋ニ
通商大臣ヲ設ケ、通商ノ監督ニ任スルト共ニ、
南洋通商大臣ニハ南洋水師ヲ管轄セシメ、北
洋通商大臣ニハ北洋海軍ヲ管轄セシメタリ。
(政典類纂卷
三百四十二)

【難廢官】 清制父祖ガ國職ニ殉ジタル者ハ其
子孫ニ一定ノ官職ヲ與フ。之ヲ「難廢官」ト謂
フ。父祖ノ官位ニハ制限ナシ。三品以上ノ子
孫ニハ知州ヲ與ヘ四品以下ノ子孫ハ知縣ニ
登選ス。布政、按察、都轉運使三司ノ屬官及
州縣ノ屬官ニシテ六七品タリシ者ノ子孫ハ
縣丞ヲ與ヘ八九品タリシ者ノ子孫ハ縣主簿
ヲ與ヘ、未入流ノ子孫ハ州吏ニ登選ス。(清國
法卷
一下)

【難廢生】 清制、難廢生ハ恩廢生ト共ニ國子
監ノ特別監生タル「難廢生」ノ一ナリ。公務中
ニ外海、長江、黃河、大湖等ニ於テ暴風ニ遭
ヒテ飄没シタル大小各官及ビ内海、内河ニ於
テ飄没シ又ハ軍營勤務中病死シタル七品以上
ノ文武官ハ嫡子孫一人ヲ國子監ニ入レ習業セ
シムルコトヲ得、之ヲ「難廢生」ト謂フ。(清國
法卷)「國子監」

【難議坐罪】 (議シテ罪ニ) 法文ニ罪名ナキ
モノハ其罪ヲ議シ難シトノ意ナリ。【元典章】
刑部七篇「主姦奴妻」ノ條「上 姦所不ニ會見。別
無ニ顯跡。斬全在レ逃。不レ見「主姦」奴妻。罪名。
(中) 原告人已在レ逃。又姦主姦「奴妻」。難議
坐罪。」「(卷四)
坐罪。」「(十五)

【難題掌公】 宋ノ禹錫數々國學進士ノ試験
ヲ掌リ特ニ難解ノ問題ヲ出セシカバ、受験者
之ヲ憚リ目シテ「難題掌公」ト爲ス。(宋史禹
錫傳)

【難途】 清制、官吏出仕ノ特例ニシテ舉薦、
捐納及ビ吏胥等(各條ヲ)ノ特別選用ニ依リテ

宋、齊、梁、陳ノ四朝トス。皆漢族ナリ。之ヲ「南
朝」ト稱ス。北方ノ地ニ據ルモノハ北魏、北齊、
北周ナリ。北齊ヲ除クノ外ハ皆鮮卑ノ族ナリ。
之ヲ北朝ト爲ス。隋ノ文帝周ニ代リテ陳ヲ滅
シ、天下ニ一階ニ歸ス。

【南洋大臣】 清制、南洋大臣ハ兩江總督ノ
兼職ニ屬シ、南洋各開港場ノ通商貿易ヲ總理
シ並ニ南洋ノ水師ヲ統率ス。(清國行政法)
【南洋通商大臣】 清朝ニ於テハ南北南洋ニ
通商大臣ヲ設ケ、通商ノ監督ニ任スルト共ニ、
南洋通商大臣ニハ南洋水師ヲ管轄セシメ、北
洋通商大臣ニハ北洋海軍ヲ管轄セシメタリ。
(政典類纂卷
三百四十二)

【難廢官】 清制父祖ガ國職ニ殉ジタル者ハ其
子孫ニ一定ノ官職ヲ與フ。之ヲ「難廢官」ト謂
フ。父祖ノ官位ニハ制限ナシ。三品以上ノ子
孫ニハ知州ヲ與ヘ四品以下ノ子孫ハ知縣ニ
登選ス。布政、按察、都轉運使三司ノ屬官及
州縣ノ屬官ニシテ六七品タリシ者ノ子孫ハ
縣丞ヲ與ヘ八九品タリシ者ノ子孫ハ縣主簿
ヲ與ヘ、未入流ノ子孫ハ州吏ニ登選ス。(清國
法卷
一下)

【難廢生】 清制、難廢生ハ恩廢生ト共ニ國子
監ノ特別監生タル「難廢生」ノ一ナリ。公務中
ニ外海、長江、黃河、大湖等ニ於テ暴風ニ遭
ヒテ飄没シタル大小各官及ビ内海、内河ニ於
テ飄没シ又ハ軍營勤務中病死シタル七品以上
ノ文武官ハ嫡子孫一人ヲ國子監ニ入レ習業セ
シムルコトヲ得、之ヲ「難廢生」ト謂フ。(清國
法卷)「國子監」

【難議坐罪】 (議シテ罪ニ) 法文ニ罪名ナキ
モノハ其罪ヲ議シ難シトノ意ナリ。【元典章】
刑部七篇「主姦奴妻」ノ條「上 姦所不ニ會見。別
無ニ顯跡。斬全在レ逃。不レ見「主姦」奴妻。罪名。
(中) 原告人已在レ逃。又姦主姦「奴妻」。難議
坐罪。」「(卷四)
坐罪。」「(十五)

【難題掌公】 宋ノ禹錫數々國學進士ノ試験
ヲ掌リ特ニ難解ノ問題ヲ出セシカバ、受験者
之ヲ憚リ目シテ「難題掌公」ト爲ス。(宋史禹
錫傳)

【難途】 清制、官吏出仕ノ特例ニシテ舉薦、
捐納及ビ吏胥等(各條ヲ)ノ特別選用ニ依リテ

出身スルコトヲ謂フ。(會典
吏部)

【二西】 山ノ名、大西ト小西トノ二山アリ。
秦始皇詔シテ天下ノ書籍ヲ燒棄セシムルニ當
リ。讀書人地ヲ此ニ避ケテ藏書ヲ此山中ノ洞
内ニ匿シテ講學セリト傳フ。因テ後世藏書ノ
多キコトヲ謂ツテ「二西之書」ト曰フ。【郡國
志】大西山在ニ辰溪山下。有レ洞名ニ大西洞。又
「小西山在ニ辰州府。又名ニ烏連山。在ニ西溪口。
山中有ニ山穴。中有ニ書千卷。舊云。秦人避レ地。
隱學ニ於此。自ニ西溪一北行十餘里。與ニ大西山一
相連。故曰ニ二西。」其地ハ今ノ湖南省沅陵縣
ノ西北ニ在リ。

【二頃田】 頃ハ土地面積ノ名、百畝ヲ頃ト曰
フ。計六千方丈ナリ。一頃ハ一家ノ常産、二頃
ハ中家ノ産ナリ。【史記】蘇秦傳「秦曰。使ニ吾

有洛陽負郭田二頃。吾豈能佩六國相印乎。負郭ノ田ハ上田ノ義ナリ。

【一至】夏至ト冬至トノ義ナリ。【左傳】昭公二十一年、一至二分。日有食之。不爲災。

【二十四氣】天ニ二日ナキノ二日、絕對ニアルベカラザルコトニ喻フ。即チ國主權及ビ家主權ノ絕對ナルコトヲ況ス。【禮記】曾子問篇、孔子曰。天無二日。土無二王。云云。【孟子】萬章篇、孔子曰。天無二日。民無二王。舜既爲天子。天無二日。土無二王。國無二王。家無二尊。

【二十四史】一年四時ヲ各六氣ニ分チテ四十四氣ト爲ス。或ハ周公ノ定ムル所ナリトノ説アレドモ信ズルニ足ラズ。漢代ノ制定ニ係ルコト信ナルガ如シ。漢末劉歆三統曆ヲ作りテ多少齟齬ヲ改ム。今ニ傳ハルモノハ大體劉

歆ノ制ニ依ル。

春		夏		秋		冬	
立春	雨水	春分	清明	立夏	芒種	夏至	小暑
二月初五日	二月初九日	三月初三日	三月初七日	四月初七日	五月初十日	五月初十日	五月初十日
二月初五日	二月初九日	三月初三日	三月初七日	四月初七日	五月初十日	五月初十日	五月初十日
二月初五日	二月初九日	三月初三日	三月初七日	四月初七日	五月初十日	五月初十日	五月初十日

以上經典但有二分一至。其餘多不詳見。惟設家周書時訓解。始有二十四節名。其序云。周公辨二十四氣之應。以順天時。作三時訓解。則其名蓋定於周公。【禮記】月令篇ノ疏、漢時以三統曆。改三統曆。爲三統曆。雨水爲三統曆。正月。三統曆。三月節。雨水爲三統曆。雨水爲三統曆。今曆。以三清明。爲三統曆。雨水爲三統曆。皆與三統曆志同。

書名	卷數	撰者
史記	一三〇卷	漢司馬遷
漢書	一二〇卷	後漢班固
後漢書	一二〇卷	宋范曄
三國志	六五卷	晉陳壽
晉書	一三〇卷	唐房玄齡
宋書	一〇〇卷	梁沈約
齊書	五九卷	梁蕭子顯

梁書	五六卷	唐姚思廉
陳書	三十六卷	同
後魏書	一四四卷	北齊魏收
北齊書	五〇卷	唐李百藥
隋書	五〇卷	唐令狐德棻
南史	八〇卷	唐李延壽
北史	一〇〇卷	同
舊唐書	二〇〇卷	後晉劉昫
新唐書	二二五卷	宋歐陽修
舊五代史	一五二卷	宋薛居正
新五代史	七五卷	宋歐陽修
宋史	四九六卷	元托克托
遼史	一一六卷	同
金史	一三五卷	同
元史	二一〇卷	明宋濂
明史	三三六卷	清張廷玉

【二十二史】(二十四史) 稱ス。【二姓】(一)男女兩家ノ姓、同姓ハ同血族ナルコトヲ原則トス。支那法ハ周代以後絕對ニ同姓ノ婚姻ヲ許サズ。同姓ノ婚姻ハ倫理ニ反シ又生理上子孫蕃殖セズト爲ス。【禮記】昏義篇、昏禮者、將合二姓之好。上以事宗廟。而下以繼後世也。此制ハ清ノ中世マテ嚴守セラレタルガ同姓ト雖モ同血族ニアラザル者ハ除外セラル。(二)故ニ二夫ヲ二姓ト爲ス。【陳橋節婦賦】予敢辱先人之教。以一身而事二姓。(三)兩朝ノ義ト爲ス。後漢書、蔡邕傳、六世祖。平帝時爲節令。王莽初授以三厥戎連率。仰天嘆曰。吾策名漢室。死歸其正。昔曾子不受三季孫之賜。況可事二姓哉。

【乳】(部首) (乳) 八十斛ヲ領ス。即チ滿二千石ナリ。(チ)ノ部見ヨ。【二石】二石、月ニ百五十斛ヲ領ス。【三石】三石、月ニ二百二十斛ヲ領ス。【一説】ハ一石ニ百二十石、二石ニ百二十石、三石ニ百二十石ト爲ス。中二千石ハ月ニ百八十斛ヲ領シ、二千石ハ月ニ百二十石ヲ領シ、比二千石ハ月ニ百石ヲ領スト爲ス。是レ漢代ノ制ナリ。(漢書簡史) 因テ後世ハ地方長官即チ知府ノ如キヲ二千石ト稱ス。(尙ホ、リノ部、良) 【乳媪】(部首) (乳) 嬰兒ノ爲メニ乳ヲ與フル者即チ、ウメシノコトナリ。【唐書】元德秀傳、兄子福探衰。親無責。得乳媪。德秀自乳之。 【乳醫】(部首) (乳) 產科醫ノコト、又產婆ノ義ニモ用フ。一ニ、隱婆又ハ、看產トモ稱ス。【漢書】霍光傳、私使乳醫淳于衍行毒藥殺許后。其註「乳醫、產乳之疾者。【辭源】俗謂之極婆。古亦謂之看產。或ハ乳疾ヲ治ムル醫者ト解

スル者アリ。

【乳】「乳」ニ同ジ。(「乳」見)

【乳香】 凝固ナル樹ノ脂ナリ。其樹ハ高キ常
綠木ニシテ紅海ノ沿岸ニ生ズ。葉ハ羽形ノ複
葉ニシテ色少シク白シ。其幹ヨリ脂ヲ出ス。
是ヲ「乳香」ト爲シ薫香ノ料ト爲ス。其上ナル
モノハ色淡黄ニシテ藥用ト爲ス。之ヲ「滴乳」
ト謂フ。又別ニ幹中ヨリ漆膠ノ原料ヲ浸出ス
ル樹アリ。其脂ヲ「乳香」ト曰ヒ、酒精或ハ松
香油ニ溶解シテ漆物ト爲ス。

【乳母】 刑律ニ於テ乳母ト云フハ子ニ生母ナ
キ場合等ニ父ノ妾ニシテ、父ノ命ニ依リ哺乳
スルヲ指シ「乳母」ト云フ。其子ヨリ指スノ稱
ナリ。(「八母」見)昔時ハ「乳母」(通俗、仍
ル邦語)ヲ乳母ト爲ス。「史記」張敖傳「着
之乳相後。老口中無食乳。女子爲乳母。」
云云。今ハ一般ニ「乳母」(即チ)「乳母」ト爲ス

【乳名】 幼時ノ名ナリ。其人ノ來歴ヲ證明ス

ルニハ乳名ヲ以テ據トス。「宋史」凡無官宗
子。應舉。初生。則用乳名。給以據。前燈新話
「生言其父姓名。爵里及己乳名」。其註「即兒名。
古人以爲小字也」。

【乳藥】 毒藥ヲ服スルノ意ニ用フ。「後漢書」
王允傳「允厲聲曰。吾爲人臣。獲罪於君。當
伏大辟。以謝天下。豈有二乳藥求乎死乎?」
肉(肉)見(履)

【肉好】 古錢ノ構造。故ニ錢ノ稱トス。周ノ景
王ノ「寶貨錢」ニ始マル。「國語」周語「卒鍾大
錢。文曰。寶貨。肉好皆有。周郭」。其脚註「肉郭
爲好。外郭爲肉」。爾雅「釋器。肉倍孔。謂之
雙」。其註「肉邊也。好孔也。即子物ノ圓形ニシ
テ中ニ孔アルモノ之ヲ肉倍孔ト謂ヒ亦之ヲ
「雙」ト謂フ。錢ハ外郭ヲ圓形トシ中央ニ方孔
ヲ穿テ其形雙ノ如クナルニ因ル」。

【肉刑】 人ノ肉體ヲ損傷スルノ刑。苗族(今ノ湖
雲南等ニ棲ム苗種ノ始祖。南方支)ニハ苗族
那ニ於ケル最古ノ民族ト稱セラル。ニハ苗族
ノ肉刑アリ。刺。劓。剕。劓。族ノ五刑ト爲ス

是ナリ。漢族ニハ亦漢族ノ五刑アリ。劓。刺。
宮。割(之ニ大辟ヲ加ヘテ)是ナリ。「尙書。舜典」
呂刑註「夏ハ刑ヲ改メテ贖ト爲シ、周ハ贖ヲ改
メテ復刑ト爲ス。(周禮註疏秋官)職官ノ時
代轉ハ申不害ヲ用キ秦ハ商鞅ヲ用キテ肉刑ヲ
增加ス(漢書刑)漢モ初メハ之ヲ承ケテ肉刑ヲ
リタルガ文帝ノ十三年ニ大倉令淳子公ノ少女
緜柔ノ哀願ニ基キ(肉刑ニ處セラレントスル
ニ當リ緜柔書ヲ上リ官婢ト爲リ)肉刑ヲ廢シ
テ父ノ罪ヲ贖ハンコトヲ請フ。」肉刑ヲ廢シ
テ丞丞相張着等ノ奏議ニ基キ、刑律ヲ修正シ
際ヲ改メテ免錯城且春ト爲シ(勞役ニ從事セ
シムル)刑ヲ改メテ答三百ト爲シ新左止(左ノ
新刑ノ刑、即チ)改メテ答五百ト爲シ新右止
ナリ(當ル)改メテ答五百ト爲シ新右止
ハ死刑ニ處スコト、爲シタリ。(漢書文)此ヨ
リ刑律ノ上ニ於テハ肉刑全廢セラレタルモ惟
ダ宮刑ノミハ存シ隋代ニ至リテ廢ス。即チ李
延年及ビ司馬遷等ハ宮刑ニ處セラル。「漢書」
刑法志「孝文十三年下令曰。今法有肉刑三

【劓】劓、刑也。何其刑之痛而不德也。其餘肉刑。
有以易之。張敖馮敬奏請定律。當劓者免
錯。當刺者答三百。當斬左趾者答五百。
同書郎頌傳「漢法肉刑三。謂劓也。刺也。左右趾
也。文帝除之。當劓者。城旦春。當刺者。答三
百。當左右趾者。答五百。同書司馬遷傳「其
次劓。毛髮。嬰金鐵。受辱。其次劓。肌膚。斷
支體。受辱。最下腐刑極矣。」「周禮」秋官司寇
職疏「文帝款肉刑。惟款。劓。刺。三。宮刑至
隋乃赦也」。

【肉鼓吹】 人ノ肉體ヲ擾攘スルノ聲ヲ以テ香
樂ニ比スルコト、慘忍刑ヲ好ム人ヲ謂フ。「國
史補」李匡遺性急。一日不斷刑。慘然不樂。
嘗聞二擾攘之聲。曰。是一部肉鼓吹。」

【肉食者】 官吏ノ厚祿者ハ常ニ肉ヲ食フ。故
ニ高位高官ノ者ヲ謂フ。「左傳」莊公十年「曹刿
請見。其鄉人曰。肉食者謀之。又何問焉。刿
曰。肉食者鄙。未能遠謀。乃人見。同書哀公
十三年「司馬寅曰。肉食者無厭」。

【肉倍孔】 (肉孔) (見)

【肉辟】 辟ハ罪ノ肉刑ノ罪ナリ。「揚子法言」唐
虞象刑惟明。夏后肉辟三千。云云。(見)

【肉釐】 鳥魚獸ノ肉類ニ對シテ課スル釐金。
(金)見。釐。清初ニ於テハ概シテ四川省ニ
之ヲ賦課シタリ。(會典)

人(部首) (眞) (戸部)

【人參】 多年生草ニシテ葉ハ掌狀ノ複葉ヲ爲
シ花ハ小ニシテ色白ク、其根ハ衛養藥品ト爲
ス。長キハ八九寸、或ハ略ボ人形ニ似タルモ
ノアリ、之ヲ貴ト爲ス。盛京、吉林、高麗等
ノ處ニ産ス。或ハ「遼參」ト曰ヒ或ハ「吉林參」
ト曰ヒ或ハ「高麗參」ト曰フ。野生ノモノヲ以
テ最モ貴ト爲シ之ヲ「野山參」ト謂フ。古方稱
スル所ノ人參ハ今ノ黨參ナリ。黨參ハ舊上黨
郡即チ今ノ山西省長子縣ノ地ニ産ス。長子縣
ハ舊ト潯安府ニ屬ス。故ニ又「潯黨參」ト稱
ス。人參ハ透明ナルヲ常ト爲ス。故ニ人參ヲ「明

參」トモ稱ス。但シ黨參ハ透明ナラズ。

【人參ノ別名】 人參ハ「人參」ニ作リ、
又「人參」。「人參」ニ作ル。別ニ「土精」、「血參」
「人參」、「黃參」、「鐵面還丹」、「海腴」等ノ名アリ。
「唐訓」、「漢」所金切音義。「說文」。「人參」
漢字。或作「參」。參。「神農本草」。「人參」
漢字。或作「參」。參。「神農本草」。人參。又名「土
精」。又名「血參」。又名「人參」。一名「土精」。
一名「黃參」。劉敬叔異苑。「人參一名「土精」。
一名「廣雅」。地精。人參也。「侯寧極藥譜」。人參
別名。鐵面還丹。「王象晉羣芳譜」。人參一名「
海腴」。

【人參】 人參ニ同ジ。(人參ノ別
名)見

【人參】 人參ニ同ジ。(人參ノ別
名)見

【人參】 人參ニ同ジ。(人參ノ別
名)見

【人參】 人參ニ同ジ。(人參ノ別
名)見

【人參】 人參ノ別名ナリ。(人參ノ別
名)見

【人參】 人參ノ別名ナリ。(人參ノ別
名)見

【入閣】 唐制、天子日正殿ニ出御スルヲ「常參」ト曰ヒ、月朔(一)望(十五)ニ食ヲ諸殿ニ薦メ思慕低徊前殿ニ臨ムコト能ハザレバ便殿ニ御ス。之ヲ「入閣」ト謂フ。宣政殿ハ前殿ナリ。之ヲ「衙」ト謂ヒ、紫宸殿ハ便殿ナリ。之ヲ「閣」ト謂フ(五代)

【入閣】 唐宋時代ハ天子政殿ニ入御スルヲ「入閣」ト曰フ。【事物紀原】「宋朝會要」曰。唐敬宗始御紫宸殿。後唐天成初。又以二月望「入閣」(卷一)明代ハ大官(大學)ノ文淵閣ニ入直スルヲ「入閣」ト曰フ。明ノ宣宗帝學士楊溥大學士張瑛山ニ命ジテ文淵閣ニ入直セシム。後因リテ例ト爲ス。文淵閣ニ入直スル者ハ之ヲ「入閣」ト謂フ。即チ機務ニ參與スルナリ。閣ハ大内ニ在ルヲ以テ之ヲ内閣ト謂フ。政令是ヨリ出ヅ。閣臣ハ古代ノ宰相ト異ナルナシ。清制之ニ因ル。【入閣禮】 法制、凡ソ大學士ノ任命ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ。其際ハ閣僚參見ス。之ヲ「入閣禮」ト謂フ。

【入監】 清制、府州縣學ノ學生ガ國子監ニ入學スルコトヲ謂フ。詳細ハ「國子監」ノ條ニ此ス。【入會】 (會ニ) 會ハ大計即チ三年毎ニ官吏ノ成績ヲ調査スルコトニテ、會ニ入ルトハ成績表ニ記入スルコトヲ謂フ。【周禮】秋官司小司寇「歲終乃命三其屬。入會(會計)乃致(會)」。【入官】 (官ニ) 沒收ニ對シテ無主物(遺失物)若クハ相續人ナキ(戸絶)民財ヲ官有ニ歸入スルコトヲ「入官」ト曰フ。【唐律】卷三十斷獄篇「輸備贖沒入物(條)」。【入伍】 初メテ軍隊ニ入りテ軍人ト爲ルコトヲ「入伍」ト曰ヒ、出營スルコトヲ「退伍」ト曰フ。即チ卒伍ニ入ルノ義ナリ。【入殺】 天下ノ人物ヲ籠絡スルコト、後世ハ宗私幸ニ端門。見「新進士綴行而出。喜曰。天下

【入伍】 初メテ軍隊ニ入りテ軍人ト爲ルコトヲ「入伍」ト曰ヒ、出營スルコトヲ「退伍」ト曰フ。即チ卒伍ニ入ルノ義ナリ。【入殺】 天下ノ人物ヲ籠絡スルコト、後世ハ宗私幸ニ端門。見「新進士綴行而出。喜曰。天下

【入伍】 初メテ軍隊ニ入りテ軍人ト爲ルコトヲ「入伍」ト曰ヒ、出營スルコトヲ「退伍」ト曰フ。即チ卒伍ニ入ルノ義ナリ。【入殺】 天下ノ人物ヲ籠絡スルコト、後世ハ宗私幸ニ端門。見「新進士綴行而出。喜曰。天下

英雄入ニ吾毅中。是其出所ナリ。【入山創參】 人參ノ産スル山(即チ)ニ入りテ人參ヲ採取スルコトヲ謂フ。【清會典】(兵部)【入山信票】 參山ニ入ル者ニハ創夫(人參)ヲ採テ各一張ヲ給ス。入山信票ハ即チ參山ニ入ルコトヲ許ス證明書ナリ。【清會典】(兵部)【入試】 宋制、官吏ヲ選用スルコトヲ謂フ。形式上試験ヲ經ベキモノト爲スガ故ニ「入試」ト謂フ。其種類ニハ(一)貢舉、(二)奏監、(三)攝署、(四)流外、(五)從軍ノ五等アリ。【大學衍義補】「宋制。凡入試。有貢舉。奏監。攝署。流外。從軍五等。云云。」(同書)貢舉トハ地方官ヨリ各管内ノ秀才ヲ選舉シテ中央ニ送ルコトヲ曰ヒ、奏監トハ父祖ノ官職ニ依リテ官職ヲ授クルコトヲ曰ヒ、攝署トハ兼任ノ官職ヲ授クルコトヲ曰フ。從軍ハ從軍ノ功ニ因リテ官ヲ授クルコトヲ曰フ。尙ホ其

【入試】 宋制、官吏ヲ選用スルコトヲ謂フ。形式上試験ヲ經ベキモノト爲スガ故ニ「入試」ト謂フ。其種類ニハ(一)貢舉、(二)奏監、(三)攝署、(四)流外、(五)從軍ノ五等アリ。【大學衍義補】「宋制。凡入試。有貢舉。奏監。攝署。流外。從軍五等。云云。」(同書)貢舉トハ地方官ヨリ各管内ノ秀才ヲ選舉シテ中央ニ送ルコトヲ曰ヒ、奏監トハ父祖ノ官職ニ依リテ官職ヲ授クルコトヲ曰ヒ、攝署トハ兼任ノ官職ヲ授クルコトヲ曰フ。從軍ハ從軍ノ功ニ因リテ官ヲ授クルコトヲ曰フ。尙ホ其

【入試】 宋制、官吏ヲ選用スルコトヲ謂フ。形式上試験ヲ經ベキモノト爲スガ故ニ「入試」ト謂フ。其種類ニハ(一)貢舉、(二)奏監、(三)攝署、(四)流外、(五)從軍ノ五等アリ。【大學衍義補】「宋制。凡入試。有貢舉。奏監。攝署。流外。從軍五等。云云。」(同書)貢舉トハ地方官ヨリ各管内ノ秀才ヲ選舉シテ中央ニ送ルコトヲ曰ヒ、奏監トハ父祖ノ官職ニ依リテ官職ヲ授クルコトヲ曰ヒ、攝署トハ兼任ノ官職ヲ授クルコトヲ曰フ。從軍ハ從軍ノ功ニ因リテ官ヲ授クルコトヲ曰フ。尙ホ其

記スル所ニ依レバ當時ノ吏部ハ州縣官吏ノ官職ヲ註(冊ニ註明シテ授クベキ)スルニ止リ。文官ノ少卿監以上ハ中書省之ヲ主ドリ。京朝ノ官ハ審官院之ヲ主ドリ。武官刺史副率以上ノ内職(流内)ハ樞密院之ヲ主ドリ。使臣ハ三班院之ヲ主ドル。其後典選ノ職ハ分テ文武兩選各二ト爲リ文選ニ在リテハ「審官院」ト曰ヒ、武選ニ在リテハ「審官西院」ト曰ヒ、三班院ト曰フ。右ハ元豐ノ定制ニ係リ其後銓註ノ法ハ悉ク選部(即チ)吏部(補卷十)

【入耳賊】 宋ノ黃葆光侍御史ヨリ出テ處州ニ守タルヤ、里胥(村)黃葆光ニ賄賂セントスルモ由ナキヲ以テ孫新ニ依リテ之ヲ納メントシ、新ノ家僕(男)ヲシテ新ニ其意ヲ通ゼシム。新此シテ曰ク「誰デ語ルコト無レ、吾ヲシテ此ヲ聞カシムルハ是レ「入耳ノ賊」ナリト。【張里子】 賊ハ收賄其他不正利得ノ總稱、其物ハ未ダ手ニハ入レザルモ耳ニ之ヲ聞ク。故ニ

【入室】 (一)人家ノ房内ニ侵入スルコトヲ謂フ。【六部成語註釋】「入人家房内也。」(二)人ノ妻ト爲リテ夫ノ室ニ入ルヲ入室トモ稱ス。(三)學問ノ蘊義ニ入ルヲ入室ト曰フ。【論語】先施篇「由也升(當矣)未入於室也。」【入城治喪】 (城ニ入りテ) 清制、有位ノ高官ガ任所ニ於テ死亡シタルトキハ京師ニ在リテハ禮部ヨリ治道ノ照驗(證明)ヲ給シ兵部ヨリ驛馬人夫ノ使用券(所謂)ヲ給シ、各省ニ在リテハ任所ノ總督巡撫ヨリ其手續ヲ爲シテ均シク其本籍地ノ府城(會)ニ入りテ喪禮ヲ治ムルコトヲ得シム。其父母及ビ妻ガ任所ニ於テ死亡シタルトキ亦同ジ。但シ二品以上ノ高官ニ限ル(清通)

【入全罪以全罪論】 (全罪ニ入レバ全) 罪トハ法官ガ無罪者ニ一定ノ刑罰ヲ科シタルトキハ其法官ニ對シテ其刑罰ヲ加減セズ全部ヲ科スル場合ニ用フ。一箇具體ノ罪、即チ強盜、竊盜罪、謀殺、故殺、賊匪姦罪等一定ノ罪ナリ。杖五十ヲ一等加シテ杖六十ト爲シ徒二年ヲ一等減ジテ徒一年半ト爲スノ類ニアラズ。【唐律】「斷獄篇」官可出入人罪ノ條、諸官司入人罪者。若入全罪。以全罪論。其疏議「入全罪。謂前本人無負犯。虛構成罪。還以虛構在入全罪科之。」(卷三)

【入棧字據】 入港ノ船舶ガ貨物ヲ卸スニ當リ貨物多クシテ制船數隻ヲ要スルトキ、稅關ヨリ行棧(貨物ヲ屯)ニ入レルコトヲ許ス證明書ヲ謂フ。(清國行政)【入粟】 漢文帝ノ時龜兹ノ議ニ本ヅキ粟ヲ邊境ニ輸送スル者ニ爵ヲ給ス。之ヲ「入粟」ト謂フ。後世捐納ノ因リテ起ル所ナリ。龜兹ノ入粟制ハ六百石ハ「上遣」ヲ給シ、四千石ハ「五大夫」ヲ給シ、一萬一千石ハ「大庶長」ヲ給ス。(漢書「食貨志」ニ詳)【入粟補官法】 漢ノ武帝ノ賣爵法ハ武功爵ハ凡テ十三級ニ分チ、下級ヲ值十七萬トシ、

一級毎ニ一萬ヲ加ヘテ、三十萬ニ至リ、其吏ヨリ官ニ補スル者ハ六百石ニシテ郎ニ至ルコトヲ得タリ。(漢書武帝本紀) 後漢ノ安帝ノ時ニハ吏人ノ錢穀ヲ納レタル者ニハ、關内侯、虎賁、羽林、五大夫、官府吏、緹騎營士等ヲ給シ。靈帝ノ時ニハ公ハ千萬、卿ハ五百萬、關内侯以下各差アリ。後魏ノ莊帝ノ時ニハ、入粟ノ制ヲ設ケ、粟八千石ヲ輸スル者ニハ散侯ヲ賞給シ以下散伯、散子、散男ニ至ルマテ各差アリ。爾後歷朝捐官ノ法行ハレタルモ其多クハ國庫缺乏其他ノ事故ニ因リ臨時ノ權法トシテ特定ノ官爵ヲ賞給シタルニ止マリ、未ダ永續的ノ定例ヘ之ナカリキ。其始メテ定例ヲ設クルニ至リタルハ明ノ景泰以後ノコトニ屬ス。(清國行政法卷六)

【入道】 普通人ガ道士、女冠(道教ノ役員、男冠ト)又ハ僧、尼(佛教ノ男ヲ僧トシ、女ヲ尼トシ)ト爲ルコトヲ謂フ。【唐律】 戶婚篇ニ「私入道ノ條アリ」諸私入道。及度之者。杖一百。云云ト規定ス。其疏議「謂レ爲道士女冠僧尼等」(同書卷十二) 入八分公 清朝爵位ノ名、太祖天命年間ニハ和碩貝勒ヲ立テ國政ヲ讓セシム。各屬官ヲ置クコトヲ許シ其秩級相均シ。故ニ之ヲ「八分公」ト謂フ。天聰以後ハ親王ノ餘子及ビ過降(過失ニ因リ位ヲ降サル者)セラレタル者ハ公ニ至ルモ、八分公ニ入ルコトヲ得ズ。功ヲ立テ貝子ニ至リ始メテ八分公ニ入ルコトヲ准ス。之ヲ「入八分公」ト謂フ。【皇朝政治學問答】「天命間立ニハ和碩貝勒。讓ニ國政。各置ニ官屬。錫賚惟均。故曰ニ八分。天聰後。親王餘子封レ公。及有過降ニ至レ公者。不レ入ニ八分。其有レ功。功加至ニ貝子。准レ入ニ八分。」

【入洋】 童生始メテ府州縣ノ學校ニ入りテ生員ト爲ルコトヲ謂フ。洋ハ洋官ノ略語、古昔諸侯ノ學校ナリ。(宮ノ見ヨ) 入班 (班ニ) 一列ニ加ハルコト、例セバ各官廳ノ官吏ガ會合シテ合議裁判ヲ爲ス列ニ加ハルノ類ナリ。【嘉慶會典】 秋審朝審。九卿詹事科道。各入班以集議於天安門外。云云。(同書卷十一) 入禮不入刑 (禮ニ入りテ) 民ヲ治ムルニ證ヲ以テスレバ民自ラ禮ニ入りテ刑ニ入ラズ、即チ犯罪ナキニ至ルノ謂ナリ。【書經】 呂刑篇「伯夷降レ典。折レ民惟刑。吳淩註「伯夷教レ民以レ禮。民入ニ於禮。而不レ入ニ於刑。云云。」 任 (部首) (侵) 任 (一) 勞務ニ堪フルノ義、又ハ勞務ニ當ツルノ義ニ用フ。【周禮】 小司徒之職「土地。家七人。可レ任也者。家三人。其註「可レ任ニ力役ニ者每家三人。」(二) 一定ノ職務ヲ委任スルコト、(任用) (三) 負擔ノ義、【詩經】 小雅「我任ニ我單。」(禮記) 王制篇「輕任。并重任分。」 任意 言行拘束ナク、我意ニ任セテ爲スノ謂ナリ。【公羊傳】 疏序「說者疑惑。至レ有ア倍レ經。任意反傳違戻者。」 任有能 (有能ニ) 有德、有道ニ對シ才能ヲ

有シ、大任ニ堪ヘル者ヲ謂フ。先王大事アルニ際シテハ有能ノ士ヲ用キ、大任ニ當ツルヲ例トセリ。【禮記】 禮器篇「是故昔先王尙ニ有德ニ尊ニ有道ニ任ニ有能。」

【任器】 盜賊ノ人ヲ殺傷スル用ニ供シタル兵器ヲ謂フ。【周禮】 秋官司馬「掌ニ盜賊之任器貨賄。鄭衆ノ註「謂ニ盜賊所用レ傷人兵器。」

【任子令】 父兄ノ官職ニ依リテ其子孫ガ任官セラル、法令、後世ノ舊官ニ當ル。【漢書】 哀帝紀ノ註「應劭曰。吏二千石以上視事滿三歲。得任ニ同產若子一人ニ爲レ郎。」【漢書】 王吉傳「今俗。吏得レ任ニ子弟。率多ニ驕。不レ通古今。宜明レ選求賢。除任子令。」其註「子弟以ニ父兄任ニ爲レ郎。」【西漢會要】「蘇武以ニ父任ニ爲レ任。劉向以ニ父任ニ爲レ郎。蕭育以ニ父任ニ爲レ郎。伏湛以ニ父任ニ爲レ郎。博士弟子。辛慶忌以ニ父任ニ爲レ郎。校丞。」

【任子之法】 晋代ニ於テハ蘇峻反ヲ謀リタル以後諸將ヲシテ他意ナキヲ保證セシメンガ爲メ各其子ヲ人質ト爲サシム、之ヲ「任子之法」ト謂フ。【晉書】 元經傳「自蘇峻反。後。」

【任土作貢】 (土ニ任ジテ) 土地ノ宜キニ隨キテ耕作セシメ之ニ對シテ田賦ヲ出サシムルコトヲ謂フ。【書經】 禹貢序「禹別ニ九州。隨レ山」

【任命狀】 民國官吏任用ノ辭令書ヲ謂フ。【辭源】 大總統任ニ用官吏。給ニ予本員ニ之憑證。曰ニ任命狀。 任用 有爲ノ才ヲ選ビ之ニ任ズルニ職ヲ以

テスルコトヲ謂フ。【漢書】嚴助傳、惟助與三壽王二見任用。今ハ官吏ヲ簡派(選擇シテ派)スルコト皆之ヲ任用ト謂フ。

認 (部首) (震) (認)

【認可狀】 官文書ノ名、其義ハ我法律上ノ認可狀ニ同ジ。【辭源】公文書名。各省審計分處。審查行政公署關收納之事實。後適用之。中列ニ理由結果兩項。分ニ載審査之理由判決之結果。

【認籌】 清制、地方長官(總督)ガ軍備負擔額ニ就キテ中央政府(戶)ノ通報ニ服從セズ、地方財政ノ情況ニ基キテ自ラ負擔額ヲ定メテ中央政府ヘ申報スルコトヲ謂フ。(清國行政法規卷十三)

【認籌額】 前條ノ如ク地方長官ノ認籌シタル總額ヲ謂フ。戶部ノ定メタルモノハ之ヲ「派定額」ト謂フ。(上) (同)

【認領】 我民法ノ認領ノ意ニ供用ス。(新民律)

ね (ネ) ノ 部

寧 (部首) (青) (寧)

【寧】 嫁女ガ實家父母ノ安否ヲ問フコト、歸寧ノ略語ナリ。(キレノ部「歸寧」及ビ「來歸」參照)

【寧侯】 王命ニ順從スル諸侯ノ稱、【考工記】「祭侯之禮。以酒酌醴。其辭曰。惟若寧侯。毋或若女不寧侯。不屬於王所。故抗而射女。」

【寧庶人】 (寧王) (ヲ見ヨ)

【寧令】 西夏(拓跋氏、後世)ノ武官ノ稱ナリ。【宋史】職官傳「道、籍、報、書、使、呼、旺、榮、爲太尉。籍曰。太尉三公。非陪臣所可得稱。使旺榮當之。則元昊不不得臣矣。今其書自稱寧令。或誤寧令。皆其官名也。」

【寧靈】 清代官職ノ名、甘肅省寧夏府ニ在リ。民國府ヲ改メテ金積縣ト爲ス。

【寧王】 (一)天下ノ安寧ヲ擁護スル王、即チ文王ヲ指ス。【書經】大誥篇「寧王遺我大寶。」

【熱】 (一)唐睿宗帝ノ長子(玄宗帝)初メ皇太子ニ立テラレタルモ武后國政ヲ執ルニ當リテ皇太孫ト爲リ後又王寧ニ從サル。故ニ「寧王」ト稱ス。(三)明太祖第十七子權大寧ニ封セラレテ寧王ト稱ス。後反ヲ謀リ廢セラレテ庶人ト爲ル。史家之ヲ「寧庶人」ト稱ス。

熱 (部首) (火) (熱)

【熱河】 清初、熱河廳ヲ置キ承德府ニ升ス。(直隸省)後熱河都統ヲ其地ニ置ク、民國改メテ熱河ト爲ス。

【熱河官學】 清制、熱河官學ハ道光八年該處駐防ノ閒散旗丁二十名ヲ選取シテ、蒙古語及ビ蒙古文ヲ教授スル目的ヲ以テ設立シタル。(科場)

【熱官】 權要ノ官ヲ謂フ。【北齊書】王暕傳「性實嚴毅。不堪一時務。非不愛熱官。但思之獨熱爾。」

【熱審】 明ノ永樂二年ニ創設シタル裁判上ノ制度ニシテ、即チ熱暑ノ際、刑獄留滯シ、罪

人ノ苦惱スルヲ恤ミ、特ニ裁判ヲ開キテ減刑處分ヲ爲スコトヲ謂フ。明代ニ於テモ最初ハ輕罪ニ止メ、其範圍極メテ狭マカリシガ成化以後ニ至リ其範圍ヲ廣メ、重罪因中ノ疑ハシキ者ヲムベキ者、及ビ輕罪ニ對シテ、宥恕酌減ヲ爲シ、枷號ハ疎放シ贓罪中其罪情ノ輕キ者ヲ免ズルニ至レリ。(明會典) 清制ニ於テハ時期ヲ一定シ、毎年小滿後十日ニ開始シ、(小節)ハ毎年相同ジカラザル) 立秋前一日ニ至リモ大抵陰曆四五月ニ當ル) 立秋前一日ニ至リテ終局スベキモノト爲シ、又犯罪者ノ範圍モ一定シ、軍流徒犯及ビ竊盜開墾等ノ罪ニシテ、杖笞ニ該當スル者ヲ除キ、其他ノ輕罪ハ一等ヲ減ジ、管押ハ寬免シ枷號ハ暫ク保釋ヲ行ヒ、立秋後ヲ俟テ捕拘スルモノト爲ス。(清會典)

【熱中】 仕官ニ憧憬スルコトヲ謂フ。【孟子】萬章篇「仕則慕君。不得於君一則熱中。」

年 (部首) (干) (先) (年)

【年】 年齢ノ義、官吏ノ能力ヲ考定スル要件

ノ一、【清會典】吏部「乃定以四格。一曰守。二曰才。三曰政。四曰年。以別其等。而送部。」

【年家】 「年」ニ同ジ。明人ハ「年家」ト稱ス。(參照)

【年家子】 科舉(用試驗)時代、同期及第者ノ後輩ヲ謂フ。(冬夜)

【年號】 國ニ年號ノアルハ漢武帝ノ建元元年ニ始マル。但シ道書ニハ赤明上皇、無極永壽等ノ號アリ。【事物紀原】始自漢武帝建元元年。顏師古前漢書(註)曰。自レ古帝王未レ有二年號。始起於此。而紀年通云。道書有赤明上皇無極永壽等號。楊雄劉王本紀云。望帝禪位。電雲。雲稱三葉帝。號三。方通。(一)

【年號連書】 二箇ノ年號ヲ合シテ各其一字ヲ取リテ並稱スルコト、支那ニ於テハ宋代ニ始マル。【十駕齋養新錄】「宋人稱本朝年號。多制二取一字。或舉三上字。政宣。建紹。乾淳是也。或舉二下一字。祐聖。泰禧是也。或錯二舉上下各一字。熙豐是也。明代亦有二洪水。化治。嘉隆。」

陸萬。天崇之稱。皆起于時文家。」

【年額】 錢銀及ビ穀帛等ノ一ヶ年ノ總計ナリ。【宋史】食貨志、今以二錢銀穀帛貫石匹兩。定二年額。」

【年誼】 科舉(用試驗)時代甲乙兩家ガ同期ノ應試及第ナルトキ永遠ニ交ヲ結ブコトヲ謂フ。明人ハ之ヲ「年家」ト稱ス。(冬夜)

【年載祀】 三者皆時ヲ紀スルノ號、唐虞以前ハ之ヲ載ト謂ヒ、夏周以後ハ之ヲ祀ト曰ヒ秦漢以後ハ之ヲ年ト謂フ。歲ハ以上數者ノ總稱ナリ。蓋シ載ハ義ヲ歲事一新ニ取リ。祀ハ四時ノ祀事一周ニ取リ。年ハ新穀一熟ニ取リ。歲ハ日月一周天、即チ歲星十二月ニ一周スルノ義ニ取ル。律文ニ於テ年ト稱スルハ日ヲ計リテ論ズル場合ニ用キ、載ト稱スルハ時(時ハ周)ニ取リテ義ト爲ス。(唐律釋年ノ義)

【年祝】 (朝)ノ部、六

【年節另款銀】 內務府(即チ清朝ニ於)ノ經費ハ、毎年各省ノ關稅内ヨリ交進スルヲ法ト

シ、其不定ヲ補充センガ爲メニ、度支部(戸
ヲ改メタ)ヨリ二十八萬兩ヲ交進スルコトト
ルモノノ、ヨリ稱シテ「年節另款銀」ト謂フ。宣統元年
ノ上諭、毎年度支部交進年節另款銀二十八萬
兩云云。(官制)

【年頭月尾】 年ノ始、月ノ終ト云フノ義、
即チ一年中ヲ指ス。【唐書】楊瓌傳「入爲三國子
祭酒。奏。有司帖三試明經。不レ實ニ大義。乃取二年
頭月尾孤經絕句。且今習春秋三家儀禮者。纒
十二。恐諸家廢無日。請帖平文。以存一家學。
其能通者。稍加優官。獎孤學。從之。」

【年貌】 年ノ形容。【列子】「北宮子言。世族
年貌言行。與レ予竝。云云。」トアルヲ始メトス
其後、罪人ノ搜索等ニ付キ刑書ニ散見ス。
【年班】 清制、内外蒙古ノ酋長札薩克ガ毎年
年末一班ツ、交代シテ京師ニ來朝シ、翌年正
旦ノ禮ヲ賀スルヲ例トス。其類番ニ當リタル
モノヲ「年班」ト稱ス。

念 (部首) (又、業)
念 (心) (又、業)

【念】 (一)書ヲ誦スルコトヲ曰フ。「念書」「念
經」ノ類ナリ。(二)二十ヲ念ト曰フ。「金石文字
記」「開業碑陰。多宋人題名。有レ曰三元祐辛未
陽月念五日題。」但シ二十ヲ念ト曰フニ至リタ
ル年代ノ久シキコトハ「念」ノ文ニ「後念九日
復上宰相書」アルニ徴シテ知ルベシ。蓋シ、
吳王ノ女名甘。故ニ之ヲ諱ミテ念ト爲シタル
ニ始マルト云フ。但シ此場合ハ「念」ノ切音「ネ
フ」ナリ。

【念秋】 言葉ノ浸潤ナルコト、即チ機ニ乘ジ
テ詐ハリ騙ルコトヲ謂フ。蓋シ北方ノ語、南
方ハ之ヲ「局騙」ト謂フ。
【念室】 夏代監獄ノ名。【初學記】「博物志云。
夏曰念室。殷曰助止。周曰稽留。三代之異
名也。」(「コ」部「獄」
ノ下)ト見ヨ。

【念珠曹】 京兆ノ戶曹(後ノ)ノ別稱ナリ。【南
部新書】「京兆戶曹。月俸一百八索。人號爲念
珠曹。念珠ハ念佛ノ時ニ持スル珠數ナリ。素
ハ錢ヲ買キタル「ナ」ノコト、其形念珠ニ似
タルガ故ナリ。

能 (部首) (又、業)
能 (月) (肉) (蒸) (韻)

【念書】 心ニ念ジテ誦讀スル書即チ經書ヲ指
ス。【雙槐雜書】「韓忠定遇冬寒。命ニ小孫一温
足。數ニ其念書。」【程書遺書】「夏子弟之輕俊
者。只教以經學念書。不レ得レ合レ作「文字」。學
外傳ニ」
モ載ス。

能 (部首) (又、業)
能 (月) (肉) (蒸) (韻)

【能】 (一)無ノ屬、獸類中、賢ニシテ強キモ
ノ、一ナリ。故ニ賢能者ヲ「能傑」ト稱ス。【說
文】「熊屬。足似鹿。能獸中。故稱賢能而強
壯者。稱能傑也。(二)能力ノ義、任ニ勝フル
コトヲ謂フ。【書經】「大禹謨。汝惟不レ矜。天下
莫ニ與レ汝爭能。」(三)教化ノ力ニ因リテ人心
ヲ順柔ニスルノ義ナリ。【詩經】「大雅。柔遠能
遷。」

【能幹】 能ク事務ヲ辦ズルノ義、才力ノ人ニ
指ス。

【能事畢】 (能事) 我が爲スベキ事ヲ爲シ盡ス
コトヲ謂フ。【易經】「繫辭上傳。引而伸之。觸
類而長之。天下之能事畢矣。」

【能臣】 才能ノ優秀ナル人臣ヲ謂フ。【三國
志】註「許劭謂曹操曰。子治世之能臣。亂世之
奸雄。操大笑。云云。」

【能力】 近世用キル所ノ意義ト略ホ同様ニ使
用セラル。即チ才能ノ活動スル力ノ義ナリ。
【柳宗元文】「命有ニ好醜。匪ニ汝能力。」

能 (部首) (又、業)
能 (月) (肉) (蒸) (韻)

【農爲國本】 (農ハ國ノ) 農業ヲ以テ國家存
立ノ根本ト爲スノ謂ナリ。【帝範】「夫食爲人
天。農爲國本。」(參照)

【農業】 農桑ト同ク耕織ヲ總稱ス。【漢書】
食貨志「開土植穀曰農。炎帝教民植穀。故
號神農氏。謂神其農業也。又厲山有子曰
農。能植百穀。後世因名耕織爲農。」

【農工商部】 清ハ光緒二十九年商業及ビ農
工業振興ノ目的ヲ以テ「商部」ヲ創設シ、更ニ
三十二年ニ至リ商部ヲ改メテ「農工商部」ト爲
シ、其組織權限ニ大改革ヲ加ヘ、從來戶部ニ屬
セシ農桑開墾ノ事務、工部ニ屬セシ河防水利
ノ事務及ビ度量衡等ノ事務ハ皆本部ニ歸シ、
産業行政ニ關スル總源タリ。民國ハ分チテ農
林、工商ノ二部ト爲ス。

【農桑】 支那ニ於テ農桑ト云フハ耕織ノ別
稱即チ田圃ヲ墾耕シテ百穀ヲ作り、宅地ヲ開
拓シテ桑樹ヲ植エ、蠶ヲ飼ヒ繭ヲ産シ衣服ヲ
織ルコトヲ總稱ス。【漢書】揚雄傳「世世以農

桑爲業。」

【農時】 農ハ古ヘ農ニ作ル、即チ百穀ノ播種
耕作及ビ收穫等一トアルコトヲ形ハス(一
農ハ人名、能ク百穀ヲ植エル。故ニ)【書經】堯
後世耕作ヲ農ト爲ス(農權ヲ見ヨ)【書經】堯
典「敬授人時」トアルハ此義ナリ。歷朝ノ法
制皆國家ノ工事ハ勿論訴訟事件等ニ在リテモ
農時ヲ妨グルコトヲ禁ズ。以テ其一斑ヲ窺フ
ベシ。(唐律並ニ明、清
律刑律訴訟篇)

【農種】 農業ノ總稱、本義ハ種附ヲ農ト曰ヒ、
收穫ヲ種ト曰フ。【左傳】襄公九年「其庶人力ニ
子農種」註「種曰農。斂曰種。」

【農圃】 三農ニ對シテ野菜ヲ作ル所ヲ農圃ト
爲ス。【增補四書人物考】「周禮太宰。以ニ九
職一任ニ萬民。一曰。三農生ニ九穀。二曰。園圃。賦
草木。三曰。柞。三農。平農。山。澤也。九穀。黍。稷。
秬。稻。麻。大小豆。大小麥。」

【農本】 農本ニハ二義アリ、一ハ農業ノ資本
ノ義、國民ノ食料及ビ五穀ノ種子耕耨耒耜ノ
如キモノヲ指ス。王安石ノ青苗法ノ如キハ農

本ノ借給方法ヲ論ズルコト最モ詳ナリ。二ハ農業ヲ以テ國本ト爲スノ義ナリ。支那ハ建國以來此主義ヲ執レリ。【圖書集成】食貨典、自來錫之數。始ニ于炎帝。并野之畫。肇ニ于軒轅。農業爲三萬世之永賴。云云。

【農末】 農ハ農業、末ハ末利、末業、即チ農業以外ノ業ナリ。支那ハ本來農業主義ノ國ニシテ農業ヲ重ンジ、商業ヲ賤シム。【史記】貨殖傳「夫種。二十病レ農。九十病レ末。末病則財不レ出。農病則草不レ辟矣。上不レ過ニ八十。下不レ過ニ三十。農末俱利。」

は (ハ) ノ 部

偶 (部首) (韻)

【偶】 屬ノ本字。特ニ偶ノ字ヲ使用スル例ハ甚ダ少シ。刑罰上ノ用語トシテハ賈誼ノ文帝ニ上リタル疏ニ「等偶」ノ語アルノミ。輕罪犯者ニ答ヲ加ヘ且ツ之ヲ罵ルコト、即チ自ラ耻

ヂテ改悛セシムル法意ナリ。【漢書】賈誼傳、今自王侯三公之貴。皆天子改シ容而禮シ之也。而命ヲ與ニ衆庶一同。黜削見刑。偶棄市之法。其註「偶即罵也。」

【巴棍】 驛馬ノ足力ヲ速メンガ爲メニ棒ヲ執リテ馬ヲ叱驅スルコトヲ謂フ。【福惠全書】「下班書吏。挾ニ紙牌ニ乘レ傳至。先命ニ一夫。馳レ馬執レ棒而來。名曰ニ巴棍。」

【巴圖魯】 滿洲語、譯シテ勇士ト爲ス。

【巴巴】 俗語、甚太シキノ義ニ使用ス。例セバ多言ノ甚シキヲ「口巴巴」ト曰ヒ【渭南集】物ノ極メテ乾燥セルモノヲ「焦巴巴」ト曰ヒ【雜俎】又元人ノ小説ニ期望ノ極ヲ「眼巴巴」ト曰フノ類ナリ。

【巴里坤駐防】

【巴林】 部落ノ名、內蒙古昭烏達盟八部ノ一、二旗左右翼ニ分レ古北口ノ東北七百八十里ニ在リ。民國ニ及ビテハ熱河都統ノ管轄ニ屬ス。

【巴爾呼】 打牲游牧部民(打牲ハ獵夫ノ義、游牧ハ依リテ衣食スルガ故ニ此)ノ住スル部落ノ名、黑龍江東沿岸海州地方及ビ吉林等ニ在リ。(清國行政)

壩 (部首) (韻)

【壩工】 壩ハ堰、陸ノ厚キモノニシテ水流ヲ截斷スル用ニ供ス。其工事ヲ「壩工」ト曰フ。黃壩、順黃壩、東清壩、挑清壩、欄水壩、東水壩、滾水壩、兜水壩、迎水壩、桃水壩、礮壩、魚鱗壩、竹格壩等ノ種別アリ。(清會典 卷 六百九)

把 (部首) (韻)

【把戲】 俗ニ江湖(各地)ノ賣技、(テシナ、弄藝、(サルマ) 舞刀、(ケン) 等一切ノ興行者ヲ總稱ス。【元史】禮樂志、祥和署。掌ニ雜把戲。云云。

把司 (部首) (韻)

【把勢】 俗ニ理由ナクシテ威怒スルコトヲ「瞎打把勢」ト謂フ。按ズルニ把勢ハ本ト違以

東黨ヲ打ツ者又ハ刑衙門ノ杖刑ヲ執行スル者ノ名稱、率ネ流人ノ子弟及ビ奴僕ヲ以テ之ニ充ツ。(梁同書直) 今ハ概シテ故ナクシテ人ノ財物ヲ索取スル者ヲ指稱スルニ此語ヲ以テス。

【把總】 明ノ永樂中三大軍營ヲ置キ把總、把司等ノ官ヲ設ケ坐營坐司ノ補助官トシ皆功區ヲ以テ之ニ任ズ。其後增置日ニ多キニ及ブニ從ヒテ選用漸ク輕キニ至ル。清代ニハ遂ニ武職ノ末級ト爲リ位千總ニ次グ。蓋シ今ノ少尉ニ相當ス。

【把持】 利權ヲ一手ニ執持シテ他人ヲ參預セシメザルノ義、獨占ト言フガ如シ。【白虎通】「霸迫也。把也。迫者諸侯。而把持其政。」

【把持行市】 己ノ強勢ヲ恃ミテ他人ヲ抑壓シ賣買ノ利ヲ獨占スルコト、強賣強買ノ謂ナリ。【明律】清律「戶律市廛篇、把持行應」ノ條アリ。同文ヲ以テ「凡買賣諸物。兩不三和同。而把持行市。專取三其利。云云。【清律】ノ附註、把

持買賣者。即俗所謂強買強賣。而不許他人買賣也。云云。(明律卷十、清律卷十四)

【把持詐害】 地方ノ公權ヲ專制シテ良民ヲ欺キ苦メルコトヲ謂フ【六部成語註解】「把持地方公事。而欺詐害良民也。」

【把門】 門衛(番門)ノ類ナリ。

播 (部首) (韻)

【播越】 流離シテ居所ヲ失フコトヲ謂フ。【左傳】昭公十六年、不穀震湯播越。寘在「荆蠻」。

【播刑】 刑典ヲ公布スルノ義ナリ。(見ヨ)

【播刑之迪】 播ハ布ク、刑ハ刑法、迪ハ道ナリ。即チ唐虞時代、伯夷ガ法典ヲ布キテ令名ヲ受ケタルノ道ト云フノ義ナリ。

【播臣】 連播臣ノ略、例、殷ノ祿父ヲ稱ス。逃亡播蕩ノ境遇ニ在ルノ義ナリ。【書經】大誥「予惟以爾庶邦。予伐殷遺播臣。」

【播遷】 播越ト云フニ同ジ。(列子及ビ庚信賦)

派 (部首) (韻)

【派】 (一)分配ノ義、戶數ニ割當テテ租銀又ハ丁(力)ヲ徵收スルコトヲ謂フ。【治藩必告錄】「按レ戶派銀派丁」。(同書) (二)水ノ分流ヲ派ト曰フガ如ク主義思想ノ流別亦派ト曰フ。學派「黨派」ノ如シ。

【派銀】 戶數ニ割當テテ徵收スル稅銀ナリ。(見ヨ)

【派司】 進口(發航)内外ノ貨物己ニ稅課ヲ納メテ後將ニ他口ニ改運セントシ或ハ外國ニ歸運セントスルトキハ稅關ヨリ執照(證明)ヲ發給ス、之ヲ「派司」ト謂ヒ又「存票」ト稱ス。此票ヲ持スル者ハ土貨ハ一年間内本口ニ在リテ他稅ト割抵スルコトヲ得、洋貨ハ並ニ現金ト換取スルコトヲ得、且ツ三年間ハ納稅ノ效力ヲ有ス。又凡ソ外交官外人ニ發給スルノ旅行券、官吏商人ノ汽車乘車券等皆「派司」ト稱ス。

【派丁】 戶數ニ割當テテ力役ヲ徵收スルコトヲ謂フ。(見ヨ)

破 (部首) (韻)

八〇三

齊高氏未稱帝時。

【霸王】 霸者ノ稱春秋左傳註疏「閔公元年傳」

「問」漢武「昏亂」霸王之器也。(卷十)又大

王ト稱スルガ如シ【史記】「越王勾踐橫行淮

東」號稱霸王ト曰ヒ、又「項羽自立爲西楚

霸王」ト曰フ類ナリ。

【馬醫】 馬ノ専門醫ナリ。【列子】黃帝篇「范氏

門徒」路過「乞兒馬醫」弗敢辱也。

【馬一步九】 一個馬兵ノ職分ハ九個ノ步兵

ニ相當スト云フノ意ナリ。【六部成語註解】「一

個馬兵。可レ算。是九個步兵の職分。」

【馬勇】 清朝軍隊ノ一、勇營ノ一分隊ニシテ、

歩隊ヲ「歩勇」ト曰ヒ、馬隊ヲ「馬勇」ト曰フ。

咸豐九年馬勇章程ヲ制定シテ之ヲ實行ス。

【馬印】 唐制、牧場ノ馬ニ就キテ其種類ヲ區

別シ各之ニ文字ヲ印シテ飼養セシム。例セバ

形委端正ノ良馬ニハ「飛字」ヲ印シ、官馬人ニ

賜フモノニハ「賜字」ヲ印スルノ類ナリ。(六唐

典)

【馬甲】 (一)馬ニ著ケル甲(五代)(二)清制、

八旗兵一部隊ノ名ナリ。(會典事例)

【馬乾】 馬ヲ飼養スル草豆ヲ謂フ。【六部成語

註解】「喂馬之草豆也。」

【馬乾銀】 前條馬乾ニ要スル銀ヲ謂フ。(六部

成語註解)

【馬快】 各衙門ニ在リテ特定ノ賤役ニ從事ス

ル者ヲ謂フ。(清會典)

【馬口錢】 馬匹ニ課スル税金。【漢書】昭帝紀

「令三郡國毋得徵今年馬口錢。」

【馬祭】 馬神ノ祭ナリ。【周禮】夏官「春祭馬

祖」夏祭先牧。秋祭馬社。冬祭馬步。」

【馬市】 唐ノ玄宗ノ時金帛或ハ茶ヲ以テ西北

諸胡ノ馬ヲ市フコトヲ開始シ之ヲ「馬市」ト謂

フ。宋モ唐制ニ仍リテ之ヲ行ヒ、明ハ永樂間

馬市場三所ヲ設ク。一ハ開原南關ニ在リ一ハ

開原城東ニ在リ一ハ廣寧ニ在リ。後ニ二ツ廢

シテ南關ノ一ヲ存ス。

【馬社】 秋ニ於テ馬神ヲ祭ルコト。(馬祭

註見ヨ)

【馬射】 唐、長安二年人ヲシテ武藝ヲ練習セ

シム。土ヲ穿チテ埒ト爲シ其上ニ皮ヲ綴リテ

兩鹿ト爲シタルモノヲ置キ馬ヲ馳セテ之ヲ射

ラシム。名ヅケテ「馬射」ト曰フ。即チ後世習武

ノ騎射ナリ。(清會典)

【馬廄】 牧地又ハ牧場ノ別名ナリ。蓋シ支那

ニ於ケル牧場ハ馬ヲ以テ主ト爲ス故ニ此名ア

リ。(同上)

【馬上刻漏】 古ノ時計ニシテ馬上ノ用ト爲

ス。【漢書】耿詢傳「耿詢作馬上刻漏。世稱其

妙。」

【馬政】 馬匹ニ關スル政令ナリ。【禮記】月令

篇「季秋之月。天子乃教於田獵。以習五戎。

班馬政。」是レ馬政ノ語ノ因リテ出ヅル所ナ

リ。後世ハ畜牧及ビ採辦ノ馬匹皆之ヲ含ム。

【文獻通考】兵考特ニ「馬政」ノ一門ヲ設ケ歴代

ノ馬匹ニ關スル變遷ヲ敘記ス。

【馬哨】 軍事上ノ用語、騎兵一人若クハ二三

人警戒搜查、監視ノ任ニ當ルヲ謂フ。其遠ク

出テ歩兵トノ聯絡ナキヲ「獨主馬哨」ト謂フ。

【馬隊營】 光緒末年ニ設ケタル新軍隊ノ名、

軍兵總數三百十三人ヲ以テ組織ス。(清國行

政法卷四)

【馬站】 驛遞ト曰フニ同シク、馬匹ニ依リテ

官文書ヲ遞送スルモノヲ謂フ。(清會典)

【馬遞】 郵便ノ一種、馬匹ニ依リテ官文書ノ

遞送ヲ掌ル。馬站ニ同ジ。【夢溪筆談】「驛傳

舊有三種。曰步遞。馬遞。急脚遞。日行四百

里。惟軍興則用之。」

【馬蹄金】 生金ヲ鑄テ塊ト爲シタルモノ、其

形馬蹄ノ如シ故ニ此名アリ。其開創者ハ漢ノ

武帝ナリ。【漢書】武帝紀ノ註「舊金雖以斤

兩ニ爲名。而官有常形。武帝欲表祥瑞。故晉

改鑄爲三麟足馬蹄之形。以易舊法。今人往往

發地。得馬蹄金。其精好。而形製巧妙。」

【馬蹄銀】 銀塊中其質最モ佳ナルモノ、其形、

馬蹄ニ似タリ。故ニ此名アリ。俗ニ「賣銀」又

ハ「紋銀」トモ稱ス。(同上)

【馬頭】 (一)馬夫ノ頭目ヲ謂フ。(六部成

語註解)

(二)埠師千波戶場ナリ。【資治通鑑】唐穆宗紀

「於黎陽築馬頭。爲度河之勢。」馬頭「一

ニ「碼頭」ニ作ル。(同上)

【馬乳】 古ハ馬乳ヲ以テ酒ヲ造ル。之ヲ「桐馬

酒」ト謂フ。【漢書】禮樂志「給大官桐馬酒。」其

註「謂以馬乳爲酒。」宋史「高昌國傳」馬乳

釀酒。飲之亦醉。又一說ニハ葡萄ノ異名ト

爲ス(韓愈詩)

【馬撥】 軍時郵便ノコト、一ニ「馬遞」トモ曰

フ。【辭源】「軍中沿途。分派馬兵。專司遞信。

者。亦曰馬遞。」

【馬尾尺】 馬ノ尾ヲ以テ作リタル度、即チ度

制ノ一起因ヲ成スモノナリ。

【馬復令】 漢制、馬ノ飼養ヲ獎勵スル爲メニ

令ヲ發シテ民ノ馬ヲ養フ者ハ徭賦(丁)ヲ復

(復ハ免)ス。因テ此名アリ。【漢書】西域傳「當

今務在禁苛暴。止擅賦。力本農。修馬復

令。以補缺。師古註「馬復。因養馬。以免徭

賦也。」馬復令ヲ修ストハ已設ノ法令ヲ修復ス

ルノ義、蓋シ漢ノ文帝二年民ノ車騎馬一匹ヲ

有スル者ハ卒三人ヲ復ス。即チ之ヲ修復シタ

ルモノナリ。(漢書文帝紀)

【馬幣】 漢代ノ貨幣ノ名、重六兩金銀鑄ヲ雜

ヘテ白金ト爲シテ鑄造ス。(金石)

【馬郎】 苗族ハ男子ノ未ダ妻ナキ者ヲ指シテ

「馬郎」ト稱ス。女子十歳ニ達スレバ竹樓ヲ野

外ニ設ケテ馬郎ヲ誘ヒ仲春蕙室ヲ吹キテ相和

歌シ情意投合スルトキハ男子、女子ヲ負ヒ、

以テ未來ノ妻ト爲ス。(尤侗外國)

【馬蓋】 馬匹ニ課スル釐金、光緒三十年十月

ヨリ奉順ノ奏議ニ基キテ實施ス。(會典事例)

【馬留】種族ノ名、相傳ヘテ漢ノ馬援將軍ノ後裔ト爲ス。馬援ハ交趾ヲ征伐シテ之ヲ平ゲ銅柱ヲ立テ、其功ヲ表セラル。後又武陵五溪蠻ヲ征討シ遂ニ邊野ニ死ス。(唐書南蠻傳)

【馬流】馬留ニ同ジ。(馬留) (唐書南蠻傳)

【馬埒】馬ノ馳道、馬場ノコトナリ。兩邊ニ界域ヲ設ケテ之ヲ限リ馬ノ外ニ驚ルコトヲ防グ。(道) (土) (部) (頭)

【倍】(部) (首) (頭) (賄) (韻)

【倍蓰】倍ハ一倍、蓰ハ五倍ナリ。【孟子】滕文公篇、夫物不レ齊、物之情也。或倍蓰、或什佰。云云。朱熹註「倍一倍也、蓰五倍也。」

【倍稱】賃借契約ニ於テ二倍ノ高利ヲ取ルノ義ニ用フ。【漢書】龜傳、當其有者半價而賣、亡者收倍價之息。其註「如淳曰「取一倍價」二爲三倍價。師古曰「稱舉也。今俗所謂舉錢者也。蓋シ較アル者ハ價ヲ安クシテ賣リ以テ急用ヲ辦ジ、較ナキ者ハ人ヨリ借リテ加倍ノ高利ヲ出スノ謂ナリ。」(前條ヲ)

【倍稱之息】(見前條)

【倍畔侵陵】倍畔ハ諸侯ガ天子ニ畔クコト、侵陵ハ隣國ヲ侵スコトヲ謂フ。(經記)

【倍文】背書又ハ背誦ト云フニ同ジク、書籍ノ面ニ倍キテ其文句ヲ誦スルガ故ニ此名アリ。即チ暗誦ノ謂ナリ。後世ハ科擧ノトキ之ヲ命ズ。【周禮】大司樂ノ註、倍文曰「誦。不レ面ニ其文ニ而讀レ之也。」

【倍論】賊罪ヲ數回ニ犯シ而モ其種類及ビ賊物ノ多寡同ジカラズ、罪法等シカラザルトキハ重賊ト輕賊トヲ併合シ其總數ヲ二ツニ割リタル數ニ依リテ罪ヲ論ズルコトヲ謂フ。【唐律】名例篇、二罪從重ノ條、若罪法不レ等者、即以二重賊一併ニ滿輕賊、各倍論。其註「倍、謂ニ二尺爲二一尺、不レ等、謂ニ以二強盜在法等賊、併從劫盜受所ニ監臨一之類云云。(同書) (卷六)

【培】(部) (首) (頭) (灰) (韻)

【培薄增卑】隄防ノ薄キ所ヲ培ヒテ厚クシ卑キ所ヲ増シテ高クスルコトヲ謂フ。【六部成語註】隄岸培之使厚、培之使高也。

【媒】(部) (首) (頭) (女) (韻)

【媒】媒ノ言ハ謀ナリ。異類(異姓ノ)ヲ謀合シテ和成セシムルノ義、即チ婚姻ノ媒約ナリ。齊人ハ鮑鮒ヲ名ヅケテ「媒」ト曰フ。是レ鮑ト鮒ト和合シテ酒ヲ成スニ因ルナリ。【周禮註疏】媒氏註「媒之言謀也。謀ニ合異類、使和成ニ者、今齊人名ニ鮑鮒曰「媒」。(九) (卷)

【媒媼】媒約ヲ樂トスル老姥ヲ謂フ。【抱朴子】「求二媒媼之美談。」

【媒介】仲人又ハ紹介人ノ義ニ用フ。【晉書】「秦沈曰、君在二冰上、與二冰下人一語、爲二陽語、陰、媒介事也。【唐書】張行成傳、古今用レ人、必因二媒介、若二行成一者、朕自舉レ之、無二先容一也。」

【媒合容止】袁通ノ手引ヲ爲スヲ媒合ト曰

ヒ、袁通ノ宿ヲ爲スヲ容止ト曰フ。【明律】清律「刑律犯姦篇、犯姦ノ條、若媒合容止、通姦者、各減犯人罪二等。」(明律卷二十五) (清律卷三十一)

【媒官】【周禮】媒氏ノ類ナリ。(下條ヲ) 【禮記註】「高辛氏之世、玄鳥遺卵、鼓簡吞之而生、契、後王以爲二媒官、嘉祥而立二其嗣焉。」

【三國志】錫光爲二交趾、任延爲二九真太守、爲設二媒官、始知二嫁娶。」

【媒氏】婚姻ノ媒約ヲ爲ス官設機關、【周禮】地官司徒ノ屬、媒氏ノ職制、掌三民之例、凡男女自レ成レ名以上、皆書二月日名ニ焉。令二男三十而娶、女二十而嫁。凡娶判妻入子者、皆書レ之。中春之月、令レ會二男女、於是時一也。奔者不レ禁。若無レ故而不用レ令者、罰レ之。云云。(周禮註疏卷十四)

【媒妁】媒ノ言ハ謀、約ノ言ハ酌ナリ。異姓ノ男女兩家ニ就キテ婚姻ヲ謀リ兩家ノ言ヲ斟酌シテ婚儀ヲ成ス者ヲ謂フ。婚姻成立ノ要件ナリ。【孟子】滕文公篇、不レ待二父母之命、媒約

之言、饋元陳一相窺、陰レ繼相從、則父母國人皆賤レ之。

【媒婦】媒約ヲ樂トスル婦人、俗「媒姥」ト稱ス。【青箱記】「使二媒婦通意。」

【媒姥】媒約ヲ樂トスル老姥ナリ。(見前條) (部) (首) (頭) (陰) (韻)

【廢格】天子ノ命令ヲ妨害シテ行ハシメザルノ義ナリ(下條) (參照)

【廢格沮誹】天子ノ命令ヲ妨害シ及ビ上ノ行ヲ所ヲ誹謗シテ行ハシメザルノ義ナリ。【史記】平準書、自公孫弘以二春秋之義、經、臣下、取漢相張湯用二峻文、決理、爲二廷尉、於是見知之法生。廢格沮誹窮治之獄用矣。註「廢格、天子之文法使不レ行也。誹、謂レ非ニ上所レ行。」

【廢居】商品ヲ賣ルコトヲ中止シテ之ヲ貯藏シ利益ヲ得ル時ヲ待ツノ意ニ用フ、所謂「賣惜」ミシノ義ナリ。【漢書】食貨志、富商轉輸百數。廢居居邑。(註參照)

【廢舉】商人ガ物價低キトキハ其物品ヲ貯藏シテ出サズ物價高キトキハ之ヲ出シテ賣却スルノ意ニ用フ。【史記】仲尼弟子傳、子貢好二廢居、與レ時轉二貨貨。其註「廢居、謂二停貯一也。云云。」

【廢錮】刑罰ノ一種、其官ヲ廢シ終身仕官ヲ得シメザルコトヲ謂フ。【漢書】息夫躬傳、躬同族親屬、素所レ厚者、皆免二廢錮。」

【廢疾】一目ヲ瞎(盲)トシ、二肢(手足)ヲ折ルノ類ナリ。【清律】名例篇、老小廢疾收贖ノ條、凡年七十以上、十五以下、及廢疾、云云。其脚註「瞎、目一折、一肢、之類。(同書) (卷四)

【廢奪】官ヲ廢シ職ヲ奪フコト、(見前條)

【廢置】官吏ノ成績ヲ調査シ功アル者ハ其位ニ置キ爵ヲ進メ功ナキ者ハ之ヲ廢スルコトヲ謂フ。【周禮】天官太宰之職、太宰歲終、則令百官府各正二其治、受二其會、聽二其政事、而詔レ王廢置。」

【廢著】 前ノ廢居及ビ廢舉ト同義、商人ガ物價不況ノトキハ貨物ノ出賣ヲ中止シテ蓄藏シ機ニ投ジテ大ニ發賣スルコトヲ謂フ。【家語】「子貢廢著。驚ニ財於曹魯之間。」其註、著。居也。讀如レ貯。

【廢朝】 天子ノ不例、又ハ皇室ノ凶事、元勳者ノ死亡等ニ付キ臨時朝政ヲ廢スルコトヲ謂フ。【晉書】「咸寧二年正月以疾疫廢朝。」【唐書】「貞觀四年七月。太上皇不預廢朝。」一ニ「廢朝」トモ曰フ。

拜 (部首) (卦) (韻)
 【拜位】 祭祀執行ノ際、執事官、分獻官、陪祀官等ノ拜禮ヲ爲ス席次ヲ謂フ。【清會典禮通】

【拜閣】 邦俗ノ「増入」ト云フニ當ル。段成式【婚儀注】「北朝昏禮。增拜閣曰。嫁親婦女畢。各以杖打。爲「戲樂」云云。」
 【拜火教】 波斯ノ宗教「ゾロアストリアン」ノ

コト、其神ヲ「火祇」ト名ヅク。唐時支那ニ入リ稱シテ「妖教」ト曰フ。尙ホ印度ニモ昔時拜火ノ習アリシト云フ。

【拜官】 拜ハ朝廷ヨリ官ヲ授クルノ語、君前ニ拜受スルヨリ來ル。即チ官ニ敍セラレ、コトヲ謂フ。【夢溪筆談】「唐制。丞郎拜官。即龍門一謝。今三司副司已上拜官。則拜三舞于階上。」云云。

【拜見錢】 元ノ末葉ハ官紀紊亂シ官吏錢ヲ貪ルニ至リシガ其種類ニ因リ各名目ヲ異ニス賄賂ノ一種ナリ、(一)屬官ノ新任ニ赴タル者ヨリ受クルヲ「拜見錢」ト曰ヒ(二)令節ニ逢ヒテ受クルヲ「追節錢」ト曰ヒ(三)誕生日ニ祝儀トシテ受クルヲ「生日錢」ト曰ヒ(四)事務ノ管理ニ因リテ受クルヲ「管事錢」ト曰ヒ(五)送迎ニ因リテ受クルヲ「人情錢」ト曰ヒ(六)訴訟事件ニ因リテ受クルヲ「公事錢」ト曰ヒ斯クテ多錢ヲ覓メ得ルヲ「得手」ト曰ヒ、美州ニ赴任スルヲ「好地分」ト曰フ(草木)

【拜愿】 市人五月十三日ニ於テ父母妻子或ハ自身ノ病氣ノ爲メニ香紙牲醴ヲ具シテ城隍廟ニ拜請ヲ爲ス。其際ハ家門ヨリ且ツ行キ且ツ拜シ廟ニ至リテ止ム。之ヲ「拜愿」ト謂フ。(宣府志)

【拜手稽首】 最上ノ敬禮ナリ。先ツ兩手ヲ拱キ下ニサゲテ地ニ至リ乃チ頭ヲ頓レテ手ニ至ルヲ謂フ【書經】「益稷篇。卓陶拜手稽首。夙言。」【書經】「周書召誥篇。錫二周公曰。拜首稽首。云云。」又同書立政篇。周公若曰。拜手稽首。告二嗣天子王矣。」

【拜首】 拜手稽首ノ略語ナリ。(前條ヲ見ヨ)
 【拜親之禮】 義兄弟ノ交ヲ結ビ、雙方ノ父母ニ拜謁ノ禮ヲ爲スコトヲ謂フ。【晉書】荀慈傳。慈父額。羽林右監安陵鄭與王濟何劭爲拜親之友。【梁書】「到洽傳。樂安任昉有知人之鑒。與洽兄沼游。並善。嘗訪洽於田舍。見之歎曰。此子日下無雙。遂申拜親禮。」

【拜除】 官職ヲ拜命スルコト。【後漢書】第五倫傳。刺史太守拜除。京師及道出。洛陽一者。宜二皆召見。」

【拜親】 友人ノ父母ヲ拜スルノ禮。【晉書荀爽傳】

【拜唐阿】 清制、皇帝行幸ノトキ其順路ヲ檢分シ行幸ノ先驅ヲ爲ス者、八旗前鋒校、護軍校、驍騎校等ヨリ選充ス。

【拜堂】 婚禮ハ新婦、夫家ニ入りテ舅姑及ビ夫家ノ親族ニ接見ス。之ヲ「拜堂」ト謂フ。唐代已ニ此禮アリ。(封氏見)【王建、詩】「雙杯行。酒六親善。我家新婦宜拜堂。」

【拜表】 表書ヲ拜奏スルノ義。【晉書】「荀勗。表之任。居二推轂之重。拜表輒行。云云。」

【拜門】 邦俗ノ「増入」ト云フニ同ジ。【暖妹由筆】「今人娶。婦之明日。婿率妻具禮。同至二妻家。拜禮。名二拜門。亦曰二回門。云云。」

【拜領】 人ノ贈物ヲ受クルコトヲ謂フ。【類書纂要】「拜二受人禮。曰二拜領。」

排 (部首) (韻)

【排】 列ブルノ義、安排編排ノ如シ。此ヨリシテ保甲又ハ軍隊ノ名ニ使用ス。清末新軍ヲ設クルニ當リ步兵、砲兵、工兵等各三棚(十四人ト)ヲ以テ一排ト爲シ、騎兵ハ二棚ヲ以テ一排ト爲ス。排ハ我一小隊ニ相當ス。

【排甲】 此ニ云フ排ハ地方組合ノ義、排ハ排ノ長、保甲ノ保長ニ同ジ。(詳細ハ「ソノ部」ト見ヨ)

【排行】 己レト同列ニ在ル親族即チ兄弟、從兄弟、再從兄弟等ヲ一定ノ順序ニ依リテ排列スルコトヲ謂フ。【朱舜水文集】「中國有從兄弟。再從。三從。族兄弟。宗族。兼盛者。恐二上下無別。故用二一二字。以排之。謂二之排行。故曰二行禮。自レ一至百。或有二百外者。一ニ單行ニ作ル。」

【排單】 清制、各省ヨリ官文書ヲ京師ニ送送シ、又ハ各省間ニ交互送送スル場合ニ、差使ニ給スル證明書ヲ謂フ。(會典事例卷)「一說ハ送送ノ公文ニ粘附スル紙片、發送ノ月日ト時刻トヲ註記スルモノト爲ス。」

【排長】 排ノ長ニシテ我小隊長ニ相當ス。(見ヨ)

【排年】 現年ト同義、即チ保甲制ノ十甲ヲ一組トシ其稅銀收集ノ役ニ輪充(順語ニ當リ)シタル者ヲ謂フ。(現年ノ參照)

【排班】 或ル禮式ノ場合ニ官吏ガ一定ノ順序ニ由リテ排列スルコトヲ謂フ。【國史補】宰相有二服。假或問曰。百僚就等。有司設二幕次。排班。」

【排比】 一定ノ順序ニ依リテ配列スルコトヲ謂フ。(唐會要)

【排辦禮信所】 國信所ノ舊名、(「コレノ部」ト見ヨ)

【排門細冊】 鄉民ノ姓名、年貌、住所及ビ身分等ヲ逐一記入スル所ノ帳簿ヲ謂フ。(清會典戶部)

【排門粉壁】 民間各戸ノ人丁及ビ其姓名、職業ヲ白粉ニテ壁ニ書シ、稽察ニ便スルコト

ヲ謂フ。(六部成語註解)

擺 (部首) (蟹)

【擺夷】 蕃族ノ一種、一ニ「契人」トモ曰フ。漢ニ在リテハ「犍爲郡」ト爲シ唐ニ在リテハ「于矢部」ト爲ス。今ノ雲南四川尙ホ此ノ種族アリ貴州亦間間之アリ四川ニ在ル者ヲ「擺夷」ト稱ス。

【擺站】 徒罪犯人ヲ驛站ノ苦役ニ使用スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】徒犯罪。在ニ驛站。充ニ當苦差。曰ニ擺站。

【擺度】 擺ハ開又ハ撥ト義相通ジ度ハ渡ト義相通ズ。即チ撥渡ト云フニ同ジク渡船ヲ前岸ニ放チ渡ス等ノ場合ニ用フ。風浪險惡ノトキハ擺渡ヲ禁ズ。【明律】「清律」兵律關津篇。如過ニ風浪險惡。不許擺渡。

【擺撥】 職務ヲ擱置(サシ)スルノ義ニ用フ。【世説】王劉與ニ林公ニ共看何驛騎。何看ニ文書不顧。王曰。望擺擺。撥當務。應對三元官。

敗 (部首) (卦)

【敗】 他ヲ敗ル場合ハ布怪ノ切音「ハイ」自ラ敗ル、場合ハ薄邁ノ切音「バイ」ナリ。【韻會】及ビ「正韻」布怪切音拜。破他曰敗。前者ニ屬シ「增韻」凡物不ニ自敗ニ敗之。則北邁切。物自毀壞。則薄邁切。後者ニ屬ス。

【敗壞風俗】 (風俗ヲ) 我國法ノ風俗紊亂ト言フニ同ジ。民國三年頒行出版法第十一條第三號ニ依リ斯ル文書圖書ノ出版ヲ禁ジ之ニ違フ者ハ著作人發行人ヲ百五十圓以下十五圓以上ノ罰金ニ處ス。

【敗歲】 氣候不順ニシテ農作ニ害アル歲ヲ謂フ。【春秋繁露】「寒暑移易其時。謂之敗歲。」

【敗露】 非違ノ行爲ノ露顯スルコトヲ謂フ。【金史】「如趙承元。朕聞其無士行。果敗露。」

ヲ證明スル書札ノ義、「信牌」、「火牌」ノ如シ。(三)盾、火炮、火箭ノ類ヲ防禦スル用ニ備フル器具、竹ヲ以テ作ルヲ「竹立牌」ト曰ヒ、木ヲ以テ作ルヲ「木立牌」ト曰フ。(器用部) (四)商家ノ字號即チ商號ナリ。(五)木主、俗ニ「牌位」ト曰フ。邦語ノ「位牌」ナリ。

【牌印】 官吏(節度使製)ノ官職ヲ保障スル印札、【五代史】前蜀世家、令孜夜入二建軍。以節度觀察牌印一授之。

【牌匣】 急要ノ官文書ヲ入ル、匣、千字文順ニ依リテ番號ヲ附ス。【元史】其文字。官司封記。以牌書之。若保邊關急遠公事。用匣子一封。於上重別題號。已上牌匣長闊。俱係營造小尺。上以三十字文爲號。

【牌檄】 官文書ノ名、清代ハ檄遺(官設機)ヨリ府州縣ニ對シテ之ヲ用フ。

【牌券】 驛ヲ發シ使ヲ遣ハストキニ給スル切符、銀牌ト券トノ合稱、唐ハ銀牌ヲ給シ、宋ハ券ヲ給ス。(宋)モ一時銀牌ヲ給シ。(部)「銀」

見ヨ

【牌冊】 後掲ノ牌頭ニハ州縣官ヨリ門牌ト牌冊トヲ給シ、門牌ハ之ヲ各戸ニ分給シ、其家長ノ姓名ト丁男ノ數トヲ記入シテ之ヲ門ニ掲出セシメ、牌ニモ之ト同様ノ事項ヲ記入シテ州縣官ニ呈出セシメ、州縣官ハ之ヲ彙集シテ保甲清冊ヲ編造ス。(清會典)

【牌照】 民國ノ制、特種營業者ニ交付スル營業札略ホ清代ノ執照ニ同ジ。

【牌頭】 保甲制ニ於テハ十家ヲ牌ト爲シ、其長ヲ牌頭ト稱ス。(甲)ヲ見ヨ

【牌榜】 「掲札」又ハ「看板」ノ義ニ用フ。【歐陽脩、詩】「京師諸筆工。牌榜自稱述。」

【牌文】 官文書ノ名、清代ハ六部(吏、戶、禮、兵、刑、工)ノ六部我國)ヨリ道府以下ニ行フモノ、之ヲ「牌文」ト曰フ。

【牌標】 牌榜ニ同ジ。(ヲ見ヨ)

【牌面】 (一)宮殿出入ノ門札、「牙牌」、「鐵牌」

「銅牌」、「木牌」ノ別アリ。文武官以下身分ニ依リテ之ヲ異ニス。(明)律兵律官衛篇(懸) (二)元代中央官廳ヨリ派遣スル使臣ニ給スル證札、後ノ勸合ノ如シ。之ヲ有スル者ハ沿道驛站ノ馬ヲ利用スルコトヲ得、但シ牌面ニ給馬ノ旨ヲ記入セザルモノハ其效力ナシ。【元史】「使臣無牌面文字。始給馬之驛官及元差官。皆罪之。有文字牌面。而不給馬者。亦論罪。」(三)又近代ハ功牌即チ勳章ノ意味ニモ使用ス。但シ此場合ハ「宣敕牌面」ト稱ス。

【罷官】 官職ヲ免ゼラレ間地ニ在ル官吏、開散官吏ノ一種ナリ。(明)律卷二、清律卷二、勞役ニ服スル者ニ對シ其勞役ヲ止メテ各其郷土ヘ遣歸セシムルコトヲ謂フ。【後漢書】陸康傳「發民繕修城郭。康至。皆罷遣。百姓大悅。」

【罷職】 (罷) 官吏私罪ヲ犯シタルトキ其官職ヲ除去シ終身任用セザルコトヲ謂フ。【明

律】「清律」名例篇「除名當差ノ條同文ヲ以テ凡職官犯罪。罷職不叙。」(明)律卷二

【罷職不叙】 (職ヲ罷メ) (罷職) (ヲ見ヨ)

【罷黜】 時ニ害アリテ益ナキ學科ヲ廢シ且ツ之ヲ黜クル等ノ義ニ用フ。【漢書】武帝紀「罷黜百家。表六經。」

【罷民】 一定ノ住居及ビ生業ナキ浮浪ノ民ナリ。【周禮】秋官、大司寇之職「以三閭土。聚教罷民。」賈公彥疏「罷者。謂困窮罷弊。此閭土被囚而役。云云。尙其下項「以嘉石。平罷民。」其疏「嘉石。文石也。中欲使罷民思文。以改悔自修。云云。」此ニ依レバ罷民ハ一種ノ犯罪者ノ如クナルモ實ハ懶惰ノ民ニシテ之ヲ懲戒スルハ其非ヲ改悔自修セシムルヲ目的トス。

【肺石】 赤色ノ石、地方ノ窮民ニシテ冤枉等ノ事アリ。地方長官ガ其訴ヲ受理セザルトキ

ハ京師ニ來リテ申訴スルコトヲ許ス。其場合ハ三日間肺石ノ上ニ立タシメ、其決心ノ如何ヲ試験シ、然ル後ニ其訴ヲ受理ス。【周禮】秋官大司寇「以肺石一達窮民。凡遠近憚獨老幼之欲有復於上。而其長弗達者。立於肺石三日。士聽其辭。以告于王。而罪其長。鄭玄註「肺石。赤石也。買公產疏。必使之坐。赤石一者。使三之赤心不妄言也。現ニ長安ノ故宮前ニハ唐代ノ肺石尙ホ在リ。其制ハ佛寺内ノ擊磬石ノ如ク長八九尺アリ。形垂肺ノ如シト云フ。肺ハ聲ヲ主トス。即チ其充ヲ聲明スルノ義ニ取ルガ如シ。

貝 (部首) (貝) (訓)

【貝】 貝ノ外殻ハ石灰質ニシテ頗ル堅硬ナルガ故ニ古ハ此ヲ以テ貨幣ヲ製ス。王昭禹ノ九府圖法(本條ヲ)ノ解「古者實龜而貨貝。所以交易ニ者惟貝而已。至太公立九府圖法。始用錢代貝。或曰泉。或曰布。云云」【漢書】食貨志ニハ貝貨五品ヲ載ス。(貝貨) (ヲ見ヨ)

【貝貨】 海貝ノ殻ヲ以テ作りタル貨幣【漢書】食貨志記スル所ニ依レバ(一)大貝四寸八分以上二枚ヲ一朋ト爲シ其價、二百十六(二)壯貝三寸六分以上二枚ヲ一朋ト爲シ價五十(三)女貝二寸四分以上二枚ヲ一朋ト爲シ價三十(四)小貝一寸二分以上二枚ヲ一朋ト爲シ價十(五)一寸二分ニ滿タザルモノハ朋ト爲スヲ得ズ。率枚價三錢トス。一朋ハ二貝ヲ一組ト爲スヲ曰フ。是レヲ「貝貨五品」ト爲ス。

【貝子】 (一)清代ノ爵名、宗室(皇族)及ビ滿洲、蒙古出身者並ニ外藩ニ授與ス。其位ハ「貝勒」ニ次ギ鐵國公ノ上ニ在リ。(二)元代雲南ニ於テハ古代ノ如ク海貝ヲ以テ錢ニ代用シ「貝子」ト曰フ。【元史】「定雲南稅賦。以金爲則。以貝子折納。每金一錢。直貝子二十索。明代ニモ雲南ニ限リ其通用ヲ許セリ。(本草)李時珍ノ説

【貝勒】 部長ノ義【金史】「勃極烈」ニ作ル清代ノ制ハ滿洲及ビ蒙古出身者ノ爵號ト爲ス。本來ハ「多羅貝勒」ナルモ略シテ「貝勒」ト稱ス。

其位ハ郡王ノ下、貝子ノ上ニ在リ。

買 (部首) (貝) (訓)

【買休賣休】 買絶賣絶ト言フニ同ジク永久ニ賣買ヲ了シ後日ノ故障ヲ根絶スルノ義ニ用フ。【明律】「清律」犯姦篇「縱容妻妾犯姦」ノ條「若用財買休賣休。和娶人妻二者。本夫本婦及買休人各杖一百。婦人離異歸宗。云云」是レ其用例ナリ。(明律卷二十五)

【買空賣空】 邦俗ノ所謂「空相場」ノ類、法ノ禁ズル所ナリ。清、道光帝ノ上諭「奸商開設大和字號。邀結夥夥。買空賣空。應擬價值。轉相招引。空有二錢。期米期。循環互易行中。藉以抽分。價隨意長。以致糧價日貴。云云。」(宣宗)

【買菜求添】 (菜ヲ買ヒテ) (下條ヲ) (添ヲ求ム) (見ヨ)

【買菜求益】 (菜ヲ買ヒテ) (高士傳)「司徒侯霸。遣二候子道一奉書嚴光。子道求二報書。光口授之。少。光曰。買菜手。求益也。今、僅

語ニ收得ノ多寡ヲ計較スルヲ「買菜求添」ト曰フ。蓋シ、此ニ出ツ。

【買爵】 金錢ヲ以テ官位ヲ買フコト、又之ヲ以テ罪ヲ贖フコトヲ得。【漢書】惠帝紀「民有罪。得買爵三十級。以贖死罪。』【漢書】「龜錯傳「合郡縣之民。得買其爵。以自增至卿。』

【買春錢】 科舉(官吏任)ノ應試者ガ成績不良ノトキ、酒肉料トシテ試験官ニ提供スル錢、

【承平舊纂】「進士不第者。親知供酒肉費。或買春錢。』又單ニ酒ヲ買フコトヲ謂フ。【司空圖詩品】「玉壺買春。實二兩茅屋。』

【買土貨報單】 清制、外商ガ支那内地ノ貨物ヲ買入レ輸出セントスルトキ、領事ニ請求シ、領事ヲ經テ道臺ヨリ給スル證明書ヲ謂フ。(清國關稅手續案内)

【買積還珠】 (積ヲ買ヒテ) 收支相償ハザルコトニ喩フ。【韓非子】「楚人有賣其珠於鄭一者。爲木蘭之櫃。以珠玉。飾以玫瑰。輯以翡翠。鄭人買其櫃。而還其珠。』

【買馬司】 馬ヲ買フコトヲ掌ル官司、宋代ノ創設ニ係ル。(文獻) (通考)

【買辦】 洋行、銀行等交易ノ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ。西洋人ハ之ヲ剛巴度(Comprador)ト謂フ。天津ニテハ之ヲ領事的ト謂フ。又汽船上裝載ノ貨物ヲ管理スル者亦之ヲ「買辦」ト稱ス。

【買補價銀】 軍馬驛馬等ガ倒死シ、一定ノ額數ヲ減ジタルトキ、其不足ヲ補ハンガ爲メニ購買スル馬匹ノ代銀ヲ謂フ。(會典) (事例)

【買路錢】 (一)古ハ葬式ノ通路ヲ買收シテ罪ヲ送ルノ風行ハレシガ其後ハ喪儀ノ通路ニ金銀紙錢ヲ抛ツノ風行ハレ、之ヲ名ツケテ「買路錢」ト曰フ。蓋シ古ノ買路ノ遺意ニ因ルナリ。(留書) (二)盜賊ガ旅人ノ通路ヲ遮リテ切ヲ爲スコト亦之ヲ「買路錢」トモ曰フ。

賣 (部首) (貝) (訓)

【賣債】 賣買ト云フニ同ジ。(周禮) (司市)

【賣荒】 既ニ開墾セル田地ヲ荒蕪地ノ如ク捏造シ免租ノ特典ヲ得タル後、他人ニ賣却スルコトヲ謂フ。(清國行政) (法第四卷)

【賣劍買牛】 (劍ヲ賣リテ) (賣刀買牛) (牛ヲ買フ) (ヲ見ヨ)

【賣券】 賣渡ノ手形ナリ。【晉書】盧循傳「按二賣券。而取之。』

【賣國】 私慾ノ爲メニ自國ヲ以テ他國ノ利益ニ供スルコトヲ謂フ。【史記】蘇秦傳「左右賣國。反覆之臣也。同書、晉世家「鄭人或賣其國於秦。』【宋史】文天祥傳「秦國與人。是賣國之臣也。賣國者有レ所レ利而爲レ之。』

【賣婚】 賣買婚ト云フガ如シ。【史通】「山東尙ニ開闢。嫁娶多取賣。人謂之賣婚。』是レ女家ガ男家ノ富貴ヲ好ミテ多額ノ聘金ヲ求ムルヲ謂フ。(賣買婚) (ヲ見ヨ)

【賣子】 子ヲ賣ルノ風ハ遠ク夏殷ノ時代ヨリ行ハル。【管子】「湯七年旱。禹五年水。人之無糧也。有賣子者。湯以莊山之金一鑄幣。而

【買馬司】 馬ヲ買フコトヲ掌ル官司、宋代ノ創設ニ係ル。(文獻) (通考)

【買辦】 洋行、銀行等交易ノ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ。西洋人ハ之ヲ剛巴度(Comprador)ト謂フ。天津ニテハ之ヲ領事的ト謂フ。又汽船上裝載ノ貨物ヲ管理スル者亦之ヲ「買辦」ト稱ス。

【買補價銀】 軍馬驛馬等ガ倒死シ、一定ノ額數ヲ減ジタルトキ、其不足ヲ補ハンガ爲メニ購買スル馬匹ノ代銀ヲ謂フ。(會典) (事例)

【買路錢】 (一)古ハ葬式ノ通路ヲ買收シテ罪ヲ送ルノ風行ハレシガ其後ハ喪儀ノ通路ニ金銀紙錢ヲ抛ツノ風行ハレ、之ヲ名ツケテ「買路錢」ト曰フ。蓋シ古ノ買路ノ遺意ニ因ルナリ。(留書) (二)盜賊ガ旅人ノ通路ヲ遮リテ切ヲ爲スコト亦之ヲ「買路錢」トモ曰フ。

賣 (部首) (貝) (訓)

【賣債】 賣買ト云フニ同ジ。(周禮) (司市)

贖二人之無糧賣子者。禹以歷山之金一鑄幣。以救二人之困。

【賣爵】 國家が國庫ノ缺乏ヲ補充スル爲メニ國民ニ官爵ヲ賣授スルコトヲ謂フ。『買爵』漢武帝ノ時ニハ軍費ヲ補充スル爲メニ賣爵令ヲ發布シタリ。(漢書武帝紀)

【賣刀買犢】 民間險惡ノ俗ヲ變ジテ農業ニ從事セシムルコトヲ謂フ。『漢書』張敖傳「張敖爲三勃海太守。民有持刀劍者。使賣劍買牛。賣刀買犢。」

【賣妾】 婦女ノ人ニ代リテ物品ヲ賣買スルヲ云フガゴトシ。『周禮』天官小宰「聽賣買以質劑。即商取引ノ義ナリ。二字二分離シテ解スルトキハ「急售爲」出曰賣。入曰買。」トアルガ如ク物ヲ出シテ錢ニ易フルコトヲ賣ト

【賈買】 一語トシテ解スルトキハ猶ホ貿易ト云フガゴトシ。『周禮』天官小宰「聽賣買以質劑。即商取引ノ義ナリ。二字二分離シテ解スルトキハ「急售爲」出曰賣。入曰買。」トアルガ如ク物ヲ出シテ錢ニ易フルコトヲ賣ト

曰ヒ、錢ト易ヘテ物ヲ入ルルコトヲ買ト曰フ。尙ホ賣ニハ他ヲ害シテ己ヲ利スルノ義アリ。『賣友』『賣國』ノ如キ是レナリ。買ニモ虛名ヲ求ムルノ義アリ。『買名』『買譽』ノ如キ是レナリ。

【賣買婚】 男家ガ女家ニ妻ト爲ルベキ女子ノ身價ヲ提供シテ娶ルコト、支那及ビ臺灣ノ下流ニハ今尙ホ此種ノ婚行ハル。(『ソノ』部見)

【賠償】 河防(堤)工事ノ監督ニ當リタル官吏ニ對シテハ相當ノ年限ヲ定メテ其工事ノ完全ヲ保障セシム。之ヲ「保固」ト謂フ。若シ保固期限内(黄河沿岸ハ一年運河)ニ破損シタルキハ、之ガ賠償ノ責ニ任ズ。(『清會典』)

【賠償】 支那法上「賠償」ト曰フハ他人ノ物ヲ損失シタル者ガ其原物ト同一ノ實質ヲ有スル物ヲ以テ償フコトヲ謂フ。『明律』『清律』名例篇「犯罪自首ノ條」上略其損傷於人。於レ物

【賠償】 支那法上「賠償」ト曰フハ他人ノ物ヲ損失シタル者ガ其原物ト同一ノ實質ヲ有スル物ヲ以テ償フコトヲ謂フ。『明律』『清律』名例篇「犯罪自首ノ條」上略其損傷於人。於レ物

不可賠償云云。(『明律卷一』)清末改正ノ新刑律、即チ現行刑律ニ於テハ近世法上ノ賠償ト同義ニ使用ス。

【賠錢貨】 俗ニ女子ヲ指シテ「賠錢貨」ト謂フ。戲曲ノ辭ニ出ヅ。(元曲石君寶)

【賠椿銀】 兵丁ガ官設ノ馬棚ヲ借リテ馬ヲ置キ馬ガ棚ノ木椿ヲ破損シタルトキハ、兵丁ニ其損害ヲ賠償セシムルコトヲ謂フ。(『六部成語註解』)

【賠頭銀】 賠ハ補ノ義、頭ハ項ノ義ナリ。即チ或ル項目ニ對スル豫算額ニ不足ヲ生ジタルトキ其不足ヲ補充セシムル銀兩ヲ謂フ。『六部成語註解』「賠補也。頭項也。應行賠補之官項也。」

【賠累】 應ニ賠償スベキ事類甚ダ多ク、當局者爲メニ累ヲ受クルコトヲ謂フ。『六部成語註解』「應賠之類項太多。以致受累也。」

シ置キテ公衆ニ對シテ法刑ノ畏ルベキヲ示スコトヲ謂フ。(『シノ』部「掌」)

【踏樣巾】 高貴者ノ用ケル冠ノ名、『唐書』中宗紀「中宗又賜百官英王踏樣巾。其製高而踏。帝在藩時冠也。」

【配】 (一)古代ハ流罪ノ異名トシテ用フ。後世ハ犯罪者ノ面ニ入墨シテ遠地ニ場所ヲ指定シテ徒シ勞役ニ服セシムルコトヲ謂フ。蓋シ其一定ノ刑例ト爲リテ現ハレタルハ五代ニ始マル。『事物紀原』「舊云。刻面而配。起於周太祖世宗之代。按王溥五代會要曰。晉天福三年八月。左街從人韓延嗣徒二年中。刻面配。華州發運務。蓋唐雖有配。流嶺南諸州。之文。此始有配法。而刻面。當起於是也。」(『十』(一))

夫婦ノ義ニ用フ。『易經』蒙卦「納婦吉」ノ傳「婦配己而成德者也。」

【配格】 流刑ノ種類ヲ謂フ。『宋史』刑法志記スル所ニ依レバ罪情ニ由リテ其種類ヲ區別

シ。(一)情重(二)稍重(三)稍輕(四)稍輕ノ四等ト爲シ土地ノ遠近ヲ定メテ流配シタリ。

【配享從祀】 文廟(孔子)祭典(釋典)ニ於テ顔子、曾子、子思、孟子ヲ祭ルヲ「配享」ト稱シ其レ以外即チ十哲(十哲ハ時代ニ依リテハ顔子曾子モ十哲ノ中ニ在リタ)以下ヲ祭ルヲ「從祀」ト稱ス。蓋シ宋代以前ハ兩者ノ區別ナク。或ハ配享ト曰ヒ或ハ從祀ト曰ヒタルガ、宋代ニ至リテ始メテ兩者ノ區別ヲ定メ、(『居士集』)三獻官其祭ヲ主トルヲ「配享」ト爲シ、分獻官其祭ヲ主トルヲ從祀ト爲ス。又國家ノ功臣ヲ以テ祖廟ニ從祀スルコト亦之ヲ「配享」又ハ「從祀」ト稱ス。其起原ハ『書經』盤庚篇及ビ

【周禮】夏官司勳ノ制ニアリ。但シ「配享」從祀ノ名ハ唐代ニ始マリ宋代ニ定マル。

【配春】 北齊時代犯罪人ヲ流刑ニ處スル場合ニ老衰其他身體上ノ故障ニテ遠配ニ耐ヘザル者ハ男子ハ長徒(長期)ニ處シ、女ハ一定ノ土地ニ配置シテ米ヲ春タノ勞役ニ服セシム。

【配所】 犯罪者ノ配流セラレタル土地ヲ謂フ。『北史』「元坦配北州營。死配所。」

【配食】 本祭ニ附シテ祭ルコト、附祭ト言フ爲レ體。

之ヲ「配春」ト謂フ。(『隋書刑』)

【配響】 天子祭禮ヲ行フトキ功臣ノ靈ヲ之ニ附シテ祭ルコトヲ謂フ。『資治通鑑』唐高宗紀ノ註「胡三省曰。鄭樵云。盤庚曰。茲予大享于先王。爾祖其從與享之。周制。凡有レ功者。祭于大燕。漢制。祭功臣於庭。生時侍。燕於庭。死則降在庭位。謂之配響。」

【配御】 妃嬪ヲ天子ニ進御スルコトヲ謂フ。『漢書』元后傳「其小婦弟張美人。嘗適人。於レ禮不レ宜。配御至尊。內之後宮。」

【配軍】 軍流(流罪ノ重キモ)ニ處スルコトヲ謂フ。『瑞桂堂暇錄』「東坡入京師。有二相者。云。一雙學士眼。半個配軍頭。」

【配貳】 副貳ト言フニ同ジク、皇太子ノ義ニ用フ。『晉書』「禮志」皇太子配貳至尊。與レ國爲レ體。

【配所】 犯罪者ノ配流セラレタル土地ヲ謂フ。『北史』「元坦配北州營。死配所。」

ニ同ジ。【晋書】陸雲傳、補浩儀令。稱爲神明。百姓思之。圖畫形像。配食縣社。

【配隨船】 海商ニ於テ貨主ガ船船ノ管理人(兼語)ニ貨物販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ「配隨船」謂フ。(臺灣私法) 第三卷

【配錢】 布帛等ヲ上納スベキ場合ニ之ヲ錢ニ換算スルコトヲ謂フ。【唐書】食貨志「百姓本出布帛。而稅反配錢。至三輸時。復取布帛。」

【配帶】 船船積載物中、特殊ノ物ニハ制限ヲ附シ、船又ハ人數ニ割當テテ携帶ヲ許スコトヲ謂フ。【嘉慶會典】兵部附例、出販東洋南洋。大船。准其配帶駁器。每船不超過二位。云云。

【配島】 犯罪ニ因リテ刺面ノ上、遠島ニ地ヲ限リテ流スコト、宋代之ヲ「配島法」ト謂フ。【宋史】馬默傳「沙門島囚衆。官給糧糶三百人。每益數。則投諸海。默以爲殘忍。爲奏請更定配島法。」

【配當】 地方ノ民兵ヲ一定ノ順序ニ依リ部伍ヲ立テテ軍事教育ヲ爲シ、其制當ヲ爲スコトヲ謂フ。【周禮】地官鄉師「修其卒伍。」其疏「百人爲伍。五人爲伍。皆須修治。預爲配當。」

【配流】 一定ノ土地ヲ限リテ犯罪者ヲ流置スルコトヲ謂フ。【遠史】「配流之家七百餘戶。」

【配林】 二説アリ、一ハ林ノ名、泰山ノ從祀(泰山ノ祭ニ附從)ト爲シ、他ノ一ハ流刑ノ一種ト爲ス。【禮記】禮器篇「齊人將有軍事于泰山。必先有配林。」其註「林名。泰山之從祀也。前者ニ屬シ、【韻會】「流刑隸也。」後者ニ屬ス。蓋シ此説ハ林地ニ配スルノ義ト爲スナリ。

【配儼】 配儼ト言フニ同ジ。【雜事秘辛】「不有配儼。易奉天地宗廟。」

【陪位】 或ル儀式ノ場合等ニ於テ後輩ガ先輩ノ列ニ參加スルコトヲ謂フ。【玉海】「明道二年二月十一日。行三籍田禮。貢舉人自請陪位云云。」

【陪嫁】 妻ノ特有財産ナリ。(「陪門」ヲ見ヨ)

【陪哭】 (一)死者ヲ哭スルトキ他人ヲシテ其哭ヲ助ケシムルコトヲ謂フ。【儀禮】士喪禮「代哭不レ以レ官。則使三親疏更迭而哭。」トアルハ其出所ニシテ【禮書】「北魏高祖臨馮誕墓。詔羣臣陪哭。」トアルハ其用例ナリ。(二)主人ガ客ノ哭スルニ參加シテ哭スルコトヲ謂フ。【禮記】檀弓篇「曾子哭。子夏亦哭。」トアルハ其出所【王陽明年譜】「父卒。久哭暫止。有弔客一至。侍者曰宜哭。先生曰客至始哭。則客退不哭。是飾情行詐也。竟不哭。」トアル其非ヲ述ベタルモノナリ。

【陪祭】 皇帝、祭禮ヲ行ハルルトキ、王公大臣側ニ侍シテ禮拜ヲ爲スコトヲ謂フ。【六部成語註解】「皇帝行祭禮時。王公大臣在側。陪行祭禮。謂之陪祭。」

【陪祀】 皇帝祭禮ヲ行ハルルトキハ大臣以上ニ曰ク「司刺。掌三刺三宥三赦之禮。以贊司寇。聽三獄訟。壹刺曰訊。再刺曰訊。三刺曰訊。三刺曰訊。萬民壹宥曰不議。再宥曰過失。三宥曰遺忘。壹赦曰幼弱。再赦曰老旻。三赦曰三憲。以此三憲者。求民情。斷民中。而施上下服之罪。然後刑殺。」

ハ陪祭ヲ聽サルモ、大臣以下ハ上側ニ持スルヲ得ズ。只壇下ニ在リテ禮拜スルコトヲ得、之ヲ「陪祀」ト謂フ。【六部成語註解】「大臣以下官員等不レ得レ侍於上側。只在壇下。禮拜而已。謂之陪祀。」

【陪乘】 卑者(即チ)ガ尊者(即チ)ノ馬車ニ參乘スルコトヲ謂フ。【戰國策】「安陵君遣曰。臣入則編席。出則陪乘。」後漢書「曹節傳」建寧元年。持節侍中黃門虎賁。羽林千人。北迎靈帝。陪乘入宮。

【陪臣】 陪ハ重ナルノ義、天子ノ直臣ハ諸侯其一ナルガ故ニ諸侯ノ臣ハ天子ニ對シテハ陪臣ナリ。以下之ニ準ズ。【禮記】曲禮「列國之大夫。入天子之國。曰某士。自稱曰陪臣某。」【左傳】僖公十二年「王以上卿之禮。饗管仲。管仲辭曰。臣賤有司也。有天子之二守國高在。若節春秋。來承王命。何以禮焉。陪臣敢辭。」其註「諸侯之臣。稱天子曰陪臣。」

【陪審制度】 周禮ノ制、周禮ガ周公ノ作ナ

リヤ否ヤハ此ニ論ゼズ。惟々周代ノ制。多キニ居ルコトハ論ナシ。故ニ須ラク周制トシテ看ルベシ。周禮ニ於テハ重罪犯ニ對シテハ三刺三訊ノ法ヲ設ケテ、法官以外ノ官及ビ人民ヲ陪席セシメ其意見ニ徵シテ罪ヲ決定スルヲ法トス。【周禮】秋官司小司寇「以三刺三訊。三訊。萬民聽民之所刺宥。以施上服下服之刑。壹三刺ノ刺ハ本來ハ死ノ義ナルモ死ノ一義ニ解スベカラズ。賈公彦ノ疏「但所刺。不ニ必是殺。餘四刑。亦當三刺。云云。」蓋シ重犯ハ法官ノ意見ノミニ依リテ決スルコトヲ得ズ天子ニ在リテモ、亦之ヲ獨斷セズシテ、群臣群吏及ビ萬民ニ諮詢シ然ル後ニ刺宥ヲ決ス。即チ一種ノ陪審制度ナリ。但シ萬民ト云フモ敢テ多數ノ者ヲ陪席セシムルニアラズ國民中ヨリ相當見識アル者ヲ選出セシムルニ過ギズ

【陪堂生】 元制、今ノ帝國大學等ノ聽講生ニ當ル。【元史紀事本末】「至大四年上諭朕今親定國子生爲三百人。仍增陪堂生二十人。通三經者。以次補三件讀。著爲式。」(同書) 卷八

【陪都】 國都ノ外ニ更ニ都ヲ設ケルヲ謂フ。周ノ洛陽、明ノ金陵、清ノ奉天ノ如シ。【陪敦】 土地ヲ分與スルトキ其面積ヲ增加スルノ義ナリ。【左傳】定公四年「分之土田。陪

【陪都】 國都ノ外ニ更ニ都ヲ設ケルヲ謂フ。周ノ洛陽、明ノ金陵、清ノ奉天ノ如シ。【陪敦】 土地ヲ分與スルトキ其面積ヲ增加スルノ義ナリ。【左傳】定公四年「分之土田。陪

教。註「陪増也。亦作「倍」。

【陪拜】 天子が或ル儀式ヲ行ハルルトキ、臣僚ノ恩從シテ禮拜スルコトヲ謂フ。【金史】禮志「上拜ニ日於仁政殿。行ニ東向之禮。臣僚並陪拜。今ハ慶弔等ノ儀式ニ主人ガ客ト相並ビテ拜スルコト亦之ヲ陪拜ト曰フ。

【陪門】 妻ノ特有財産、今ハ之ヲ「陪嫁」ト謂フ。【舊唐書】高宗本紀「高宗詔天下嫁女者。所受財。皆充所嫁之女妾裝。其夫家不得得受陪門之財。」

【陪隸】 隸ノ屬ナリ。【後漢書】袁紹傳「臣以二負薪之資。拔ニ於陪隸之中。」

【亡】 (部首) (又廣)

【亡失】 刑律ニ於テハ官吏ガ官ヨリ借用シタル物件ヲ紛失シタル場合等ニ此語ヲ用フ。此場合ハ原物ト同一ノ物ヲ備ヘテ償ハシム。之ヲ「備償如法」ト謂フ。【官物ヲ見ヨ】

【亡匿】 逃亡シテ其身ヲ匿スノ義ナリ。【史記

留侯世家「更ニ姓名ニ亡匿下邳。」

【亡命】 亡ハ逃亡、命ハ名ナリ。其戶籍ノ記名ニ背キテ他國ニ逃亡スルコトヲ謂フ。【急就章】「轉ニ東脫漏亡命流。」「史記」張耳傳「少時嘗亡命游外黃。」「後漢書」王常傳註「命者名也。言背ニ其名籍ニ而逃亡也。」

【亡慮】 無慮ト言フニ同ジク概計ノ義ニ用フ。【漢書】食貨志「天下大抵無慮皆歸ニ金錢一矣。又同書「亡慮萬二千人。」「廣雅」都凡也」

【哀求仕】 (哀ヲ冒シテ) 父母ノ喪中ニ在リテ仕官ヲ求ムルコトヲ謂フ。其居ル所ノ官ヲ免ズ。【唐律】名例篇「府號官稱」ノ條「上略」哀求仕。其疏議「謂父喪未除。及在二心喪內」者。並合免所居之一官。【同書】尙書「漢律考」(樹德著)ニ依レバ「魏律」五刑、唐律ハ徒一年トアリ。該書官吏喪制ノ條「上略」通典引「後魏律」居三年喪。而冒哀求仕者。制五歲刑。唐律冒哀求仕者。徒一年。但シ

冒ニ其名稱ニシテ(哀ヲ冒シテ)父母ノ喪中ニ在リテ仕官ヲ求ムルコトヲ謂フ。其居ル所ノ官ヲ免ズ。【唐律】名例篇「府號官稱」ノ條「上略」哀求仕。其疏議「謂父喪未除。及在二心喪內」者。並合免所居之一官。【同書】尙書「漢律考」(樹德著)ニ依レバ「魏律」五刑、唐律ハ徒一年トアリ。該書官吏喪制ノ條「上略」通典引「後魏律」居三年喪。而冒哀求仕者。制五歲刑。唐律冒哀求仕者。徒一年。但シ

【唐律】ニハ免官ノ外徒刑ノ規定ナシ。

【冒榮】 府號(官職)官稱(官)ト父祖ノ名トガ同字ナルトキハ誣法ニ依リテ其子孫ハ其官職又ハ官職ニ奉職スルコトヲ得ズ之ヲ犯シテ其官職ニ居ルヲ「冒榮」ト曰フ。蓋ニ其榮職ヲ冒スノ義ナリ。【唐律】名例篇「府號官稱」ノ條「諸府號官稱。犯父祖名。而冒榮居之。其疏議」上「假有レ人父祖名。不レ得任ニ太常之官。父祖名。亦不レ合任ニ卿職。若有受此任一者。是謂冒榮居之。【同書】(卷三)

【冒支】 官吏ガ他人ノ名義ヲ冒シテ傳給ノ支給ヲ求受スル等ノ行爲ヲ謂フ。【明律】卷七、清支官糧」ノ條

【冒支銀】 冒ハ假冒ノ義即チ非官吏ニシテ官吏ノ名ヲ假冒シ、又ハ官吏ガ名ヲ公用ニ借リテ公費ヲ私用スル等ノコトヲ謂フ。【六部成語註解】「冒者假冒也。假冒辦公之人。或假冒公事。支銀私用也。」

【冒襲】 他人ノ名義ヲ冒シテ他家ノ後ヲ襲撃スルコトヲ謂フ。【梁書】武帝中「飭選人二文」

【冒姓】 他家ニ養ハレ美家ノ姓ニ從フノ類ヲ謂フ。

【冒籍】 試驗ニ應ズル場合等ニ其本籍ヲ詐リテ甲地ヲ乙地ト爲スコトヲ謂フ。例ヘバ廣東人ニシテ順天府ノ住人ナリト詐稱スルノ類ナリ。【清科場】

【冒楮】 官用文書等ニ於テ事實ヲ捏造スルノ義ナリ。【元典章】戶部給由篇「給由勅傳月日」ノ條「上略其原來解由文字。多有冒楮不實。日月已有事發之人。詳此。云云。【卷十】

【冒度】 關(セキ)及ビ津(シタ)ヲ通過スル者ニハ豫メ通行券ヲ給シ之ヲ所持セシム。貨物其他ノ物ヲ荷ハシムル馬騾類モ豫メ毛色年齒ヲ記シタル券ヲ給ス。其券ハ一般ニ之ヲ「引」ト謂フ。此ノ成規ニ反スル不法ノ行爲ニ數種アリ。冒度ハ其一ニシテ人ニハ引アルモ馬

冒ニ其名稱ニシテ(哀ヲ冒シテ)父母ノ喪中ニ在リテ仕官ヲ求ムルコトヲ謂フ。其居ル所ノ官ヲ免ズ。【唐律】名例篇「府號官稱」ノ條「上略」哀求仕。其疏議「謂父喪未除。及在二心喪內」者。並合免所居之一官。【同書】尙書「漢律考」(樹德著)ニ依レバ「魏律」五刑、唐律ハ徒一年トアリ。該書官吏喪制ノ條「上略」通典引「後魏律」居三年喪。而冒哀求仕者。制五歲刑。唐律冒哀求仕者。徒一年。但シ

【冒認】 故意ニ他人ノ田宅ヲ以テ自己ノ田宅ト爲シ(明律卷五「戶律田宅」)又ハ甲ヲ以テ乙ト爲スコトナリ。【下條】

【冒認良人】 (良人ヲ) 良人トハ雜戶及ビ奴婢ニ對シテ平民ノ通稱ナリ。冒認トハ事實ヲ偽リ良人ヲ以テ奴婢ト爲スコトナリ。【明律】「清律」戶律戶役篇「收留逃失子女」ノ條「上略」若冒認良人ニ爲ニ奴婢者。杖一百徒三年。爲ニ妻妾子孫者。杖九十徒二年半。云云。【明律卷四】

【冒破物料】 (物料ヲ) 物料ハ土木及ビ織造(織)等ノ物件及ビ其材料ヲ總稱ス。冒破ハ富該官吏及ビ職長等ガ破損セザルモノヲ破損セリト偽リテ報告スルコトヲ謂フ。【明律】「清律」工律營造篇「冒破物料」ノ條「多破物料。

入レ己者。計レ贓以ニ監守自盜ニ論。【清律】ノ附註「多破者於ニ合用正數之外。虛冒多開破費財物也。【明律卷二十九】

【冒名】 他人ノ姓名ヲ濫用スルコトヲ謂フ。【明律】兵律、關津篇「私越冒度關津」ノ條「若有二文引。冒名度關津者。杖八十。【卷十】

【冒名頂替】 他人ノ名義ヲ冒用シ他人ニ代ニテ權利義務ヲ行フコトヲ謂フ。【辭源】「凡用ニ他人名。以享ニ其權利。或盡ニ其義務者。皆謂ニ之冒名頂替。」

【冒用】 他人ノ名義ニ係ル物件ヲ自己ノ物件ナリト假稱シテ利用スルコトヲ謂フ。【冒用軍器】ノ類ナリ。

【冒領】 官吏等ガ或ル事件ニ託シテ其經費ヲ受領シ、自己ノ利得ト爲スコトヲ謂フ。【六部成語註解】「假冒事件。以領官款。而入ニ於己也。」

【冒領銀】 前條ニ同ジク或ル名目ヲ冒用シテ、部庫內(金庫)ヨリ其經費ヲ受領スルコ

トヲ謂フ。【六部成語註解】冒レ名向ニ部庫内ニ支ニ領款項一也。

【包刀】(部首)(看)

【包夫】(部首) 包ハ錢ヲ用キテ土ヲ掘ルノ義、參山ニ入リテ人蔭ヲ採取スル人夫ヲ謂フ。(戶部) (則例)

【包衣】(部首)(看) 清制、八旗ノ一種、帝室ト最モ親密ノ關係ヲ有スル者ヲ謂フ。詳シク言ヘバ八旗ヲ分チテ上三旗、下五旗ト爲シ、又各旗ヲ内外ニ分チ、其内部ニ屬スル者ヲ包衣ト爲ス。其帝室トノ關係ハ一般人民ニ於ケル家長ト世僕トノ關係ニ同ジ。包衣「包衣」ハ滿洲語ニシテ特ニ忠實ニシテ奉公スルノ義ナリ。(辭源) 僮僕ノ義) 向ホ包衣ヲ分チテ上三旗包衣、下五旗包衣ノ二ト爲シ、前者ハ內務府ニ屬シ後者ハ王府ニ屬ス。(清國行政) (法第四卷)

【包交】(部首) 包攬交付ノ略語、地方人民ガ稅吏ノ誅求ヲ避ケンガ爲メニ其租稅ヲ府州縣學ノ生員又ハ國子監ノ監生等ノ如キ有力者ニ依リテ代納セシムル等ノ場合ヲ謂フ。生員監生ノ如キモ亦一種ノ金儲方法トシテ之ヲ受託スルノミナラズ却テ委託ヲ強求スルノ例アリ。共ニ法ノ禁ズル所ナリ。(清會典) (清郵政)

【包裏】(部首) 小包郵便ノコトヲ謂フ。(章程)

【包荒】(部首) 荒田ノ租稅ヲ包總シテ上納スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】包ニ納荒田之糧一也。

【包工】(部首) 清礦業條例第七十條等ニ用フルノ語、工夫等勞働者ヲ稱ス。

【包封】(部首) 封シテ人ヲ贖賞(慰勞ノ意)ヲ付スルコトヲ謂フ。俗ニ「門包」又ハ「隨包」トモ謂フ。(宋武林) 北人ハ錢頭ノ額アルモノヲ「包子」ト謂フ。(玉露)

【包兒銀】(部首) 稅金取立テノ爲メニ派遣セラレタル官役(即チ)等ガ滯納者ヲ欺キテ取得スル賄賂ヲ謂フ。清朝「翰林院侍讀王邦憲論積欠文」

「保差下レ懲催徵。輒先飽ニ索賄賂。名曰包兒銀」

錢。

【包稅】(部首) 租稅ヲ上納スル場合ニ里長(即チ)又ハ各行(問屋業)ヨリ取纏メテ一處ニ納付スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】各稅由ニ里長或各行ニ包納者。曰ニ包稅。

【包抄】(部首) 兵法ノ語、兵卒ヲ分チテ兩翼ト爲シ敵兵ノ後ニ出デテ之ヲ包圍スルコトヲ謂フ。

【包彈】(部首) 人ヲ彈劾シテ假借セザルコトヲ謂フ。從ツテ彈劾スベキ瑕疵ナキ者ヲ「沒包彈」ト稱ス。【野外叢書】包拯爲ニ臺官。嚴毅不弛。朝列有レ過。必須三彈擊。故言「事無二瑕疵」者。曰ニ沒包彈。

【包馬】(部首) 驛馬ノ一種、貨物ヲ運送スル馬ヲ謂フ。(全書)

【包賠】(部首) 包ハ總括ノ義、賠ハ補充ノ義、應ニ補充スベキ數項ヲ總括シテ一時ニ補充スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】將ニ應レ賠之項。包總賠補也。

【包庇影射】(部首) 包庇ハ不正ノ行爲ヲ隱蔽スルコト、影射ハ甲ヲ指シテ乙ト爲シ人ヲ惑スノ類、即チ一定人員數ヲ欺瞞スル等ノ場合ニ用フ。【刑案匯覽】司道府廳衙門吏役。不レ准レ過ニ五十名。(中)年終彙報。該管道府具ニ報總督衙門ニ查點。餘皆革退。嗣ニ入里甲ニ當レ差。俟ニ入卯之後。彙ニ彙總冊ニ立案。以杜ニ包庇影射。(道光七年直隸)

【包辦】(部首) 地方商人ガ盤金徵收ノ請負ヲ爲シ、其收額ノ多寡ヲ見積リテ毎年其定數ノ銀ヲ前納スルコトヲ謂フ。一ニ亦「商辦」トモ稱ス。(彙存)

【包攬】(部首) 數箇ノ貨物又ハ稅金等ヲ總括スルノ義、或ハ請負ノ意義ニ使用シ或ハ委託代理等ノ意義ニ使用スト雖モ多クハ豪民查吏又ハ查商等惡意ヲ有スル者ノ行爲トシテ使用ス。【皇朝通考】「豪民查胥包攬分肥。爲ニ民累。」【戶部則例】「各關稅課。均聽ニ商人自行ニ完納。其有ニ

舖戶包攬居奇。及串ニ頭管關人役。苛ニ索商民者。許ニ商職稟ニ究治。」

【卯】(部首)(巧) 卯ハ十二支ノ四位、時刻ニ於テハ朝ノ五時ヨリ七時ニ至ルヲ「卯時」ト爲ス。官署ノ公事ハ卯ノ刻ヲ以テ始マル。故ニ之ヲ「點卯」ト謂ヒ、出勤簿ヲ「卯簿」ト謂フ。【福惠全書】「雜項并卯」トノ見出ヲ置キ其本文ニ「一卯比較」トアルハ諸役一同卯刻ヲ期シ出勤シテ稅務ノ調査ヲ爲スコトヲ謂フ。

【卯時】(部首) 官廳出勤ノ時刻ヲ謂フ。(見ヨ)

【卯票】(部首) 納稅ノ義務ヲ他ニ先ジテ果行シタルコトヲ證明スル爲メニ支給スル證票ヲ謂フ。

【福惠全書】「有能急レ公將ニ本年錢糧一完半者。本縣給ニ與卯票。免ニ今年雜差之中。全完者。今年雜差全免。」

【卯簿】(部首) 官廳ノ出勤簿ヲ謂フ。【刑案匯覽】「司道府廳衙門吏役不レ准レ過ニ五十名。由ニ本官一酌ニ定名數。造ニ立卯簿。云云。」(卯ノ部參照)

坊 (部首) (屬)

【坊】(部首) (一)邑里ノ名、某街某坊ト云フガ如シ。城治ノ區畫モ亦坊ト曰フ。(坊廂)又(二)物ヲ建テテ郷里ノ善人ヲ旌ハス所ヲ坊ト曰フ。忠孝坊、節義坊ノ類ナリ。又(三)場所ノ義ニ用フ。工作ヲ爲ス所ヲ坊ト曰フノ類ナリ。又(四)防ト通ジ堤防ノ義ニ用フ。(玉)

【坊記】(部首) 禮記ノ篇名、即チ皆禮ヲ以テ民ノ非行ヲ坊グノ義ニ取ル。

【坊曲】(部首) 唐制、妓女ノ居ル所ヲ「坊曲」ト曰フ。南曲ト北曲トノ二種アリ。明ノ南京、南院北院ノ如シ。(北里志)

【坊缺】(部首) 清制、官吏ノ階級ヲ指スノ語、贊善(名)ヲ以テ初階ト爲シ、贊善以上總テ「坊缺」ト謂フ。【會典】吏部、翰林院詹事府衙門官一體互相升轉。(中)其由ニ修撰編修檢討ニ升者。以ニ贊善ニ最爲ニ初階。故由ニ贊善ニ而上。統謂ニ坊缺。

【坊市】 市街ト謂フニ同シ。(杜陽雜編)

【坊廂】 城治ノ區畫、城中ヲ坊ト曰ヒ近城ヲ廂ト曰フ。(坊長ノ引)

【坊正】 坊ノ長、坊長ニ同ジ。(坊長ノ引)

【坊場】 今ノ官設市場ニ當ル。【文獻通考】征榷考、按坊場城市也。商稅、酒稅、皆出焉。【宋史】食貨志、侍御史劉摯言、今天下坊場、官收而官賣之。歲計緡錢、無慮數百萬。

【坊長】 坊ノ長即チ街長ナリ。其坊内ノ戶籍其他ノ公務ヲ掌ル。其原ハ【周禮】ニ發ス。自治ノ制ナリ。【大學衍義補】、周制内有三六鄉。外有三六遂。鄉之所置比長。閭者、族師。黨正。遂之所置鄰長。里宰。鄒師。是即漢之亭長。三老。唐之里正。坊正。宋之保長。耆長之任也。我朝稽古定制。於天下州縣。每百一十戶爲一里。十戶爲一甲。每甲有里長。在城謂之坊長。或謂之廂長。在外。謂之里長。或謂之社長。保長。十年而一役之。云云。

【坊本】 官本點本ニ對シテ書肆刊賣ノ本ヲ謂フ。鋪ヲ設ケテ書ヲ賣ルコトハ南宋ニ始マリ世ニ之ヲ坊本ト謂フ。

【報】 (部首) (談) (一)白又ハ告ノ義、故ニ新聞ヲ報ト曰フ。(二)囚人ノ罪ヲ論ズルヲ報ト曰フ。【漢書】張湯傳、受書論訊鞠報。(三)卑屬ガ尊屬ノ妻ヲ姦スルコトヲ謂フ。【左傳】宣公三年、鄭文公報二鄭子妃。曰陳婚。註、鄭子。文公叔父子僕也。又杜註、漢律ヲ引キ、淫ニ季父之妻ニ曰報。(四)赴ト相通ズ。急疾(至急)ノ義ナリ。【禮記】喪服小記、報葬者報。註、報讀爲赴。急疾之義。云云。

【報効】 官吏ガ官廳ニ登リテ執務ニ著手スルトキハ鼓ヲ鳴シテ報ズ。之ヲ「報効」ト謂フ。【金史】今日觀禮。百官既拜之後。始開「開封府報効」。

【報効】 國家ノ恩ニ報フル爲メニ力ヲ効スコトヲ謂フ。

トヲ謂フ。【南史】「荷三國重恩。無二以報効。」私財ヲ國家ニ獻納スルコト亦「報効」ト稱ス。

【報關行】 海關ニ於テ貨主ニ代リテ關稅ノ事ヲ處辦スル者、公許營業ナリ。【辭源】「我國海關初設。英人赫德爲總稅務司。故海關多用英人。書件亦爲英文。報關行因之。以興。商人不能英文者。報數納稅。兼辦提貨轉運等事。取其二應得之關金。通商大埠皆有之。」

【報賽】 農事既ニ畢リテ田祖先農ノ神明ニ對シ祭ヲ行フコトヲ謂フ。【周禮】小祝疏「求福謂之賽。報賽謂之祠。」【詩經】豐年章傳、此秋冬報賽田事之樂歌。蓋祀田祖先農方社之屬也。

【報最】 政治ノ成績ガ第一ニ在ルコトヲ謂フ。(漢書) 注、歲ノ豐熟ニ當リ神ヲ祭リテ報告ヲ爲スコト、【隋書】「是我良田之報最也。」

【報紙】 新聞紙ノコトヲ謂フ。

【報章】 (一)返書ノ義アリ。【杜甫】詩「相憶無二南雁。何時有報章。」(二)今ハ新聞紙ノ義ニ用フ。

【報銷】 收支決算書ノコト、一ニ「報銷冊」トモ稱ス。(柱ノ部) (四)

【報銷冊】 (上條ヲ) (見)

【報罷】 試驗ニ落第スルコトヲ曰フ。【漢書】東方朔傳「其不足采者。輒報罷罷。」師古註「報云天子已聞其所上之書。而罷之令歸。同書梅福傳「條對急政。輒報罷。」此等ハ其出所ナリ。

【報法】 新聞條例ノコト、清朝ニ始マル。

【報聘】 鄰國ノ聘問ニ答フルコトヲ謂フ。【左傳】劉康公來報聘。

【報本反始】 (本ニ報ヒテ) 父祖ノ恩ヲ忘レズ其恩ニ報フルコトヲ謂フ。【禮記】郊特牲篇「社供三稷。所以報本反始也。」

【報命】 「復命」ト言フニ同シ。【史記】自序「南

略二邱平昆明。還報命。」

【報羅】 進士及第者ノ一人ガ其發表前ニ死去スル者アルトキ之ヲ「報羅」ト謂フ。大羅天(天上ノ神)ニ報ズルノ意ニ取ル。【野客叢書】西陽雜俎「報羅」ニ報ズルノ意ニ取ル。【野客叢書】雜說謂。進士放榜。須有二人謝世。名曰「報羅使」。言報羅大羅天也。【世說】又謂。羅貞貞元中及第。開宴曲江。泛舟。玠以溺死。後有二開試前卒者。謂之「報羅」。

【妄】 (部首) (談) 妄(妄) (談) (妄) (談) (妄) (談)

【妄耗在儲物品】 (存儲物品) 保管スベキ物品ヲ不法又ハ不當ニ消費スルコト、民國三年發布ノ海軍懲罰令第十一條十四ニ掲グル犯行ナリ。

【妄冒】 婚姻ヲ約スルトキ女家ガ甲女ヲ以テ乙女ト爲シ或ハ亦男家ガ甲男ヲ乙男ト爲シテ對手方ヲ欺クコトヲ謂フ。【唐律】戶婚篇「爲婚女家妄冒」ノ條「請爲婚。而女家妄冒者。徒一年。男家妄冒者加二。」(同書卷)【明律】

【清律】戶律婚姻篇「男女婚姻」ノ條「若爲婚。」

而女家妄冒者杖八十。云云。清律ノ脚註「謂如下女有二殘疾。却令二姊妹妄冒相見。後却以二殘疾女一成一婚之類。」(明律卷六)

【姘】 (部首) (談) 姘(姘) (談) (姘) (談) (姘) (談)

【姘】 (一)齊戒日ニ妻婢ト姦スルコトヲ曰フ。【漢律】「與妻婢姦。曰姘。」又「齊與姦。罰金四兩。曰姘。」【說文】女部、漢律ヲ引キ「齊、(齊)姦(姦)予妻婢姦曰姘。」(二)男女ノ私合ヲ曰フ。【漢書】蒼頡篇「男女私合。曰姘。」

【寶】 (部首) (談) 寶(寶) (談) (寶) (談) (寶) (談)

【寶銀】 鑄成錠ノ銀塊ナリ。(銀ノ部) (談) 錢ヲ鑄リ文ヲ「寶貨」ト曰フ。(國語ノ註) 大(作)大泉五十ト記) 錢ニ文アルハ此ニ始マル。(及ビ大學衍義補) (二十六)

【寶源局】 (寶泉局) (見) (寶源局) (見) (寶源局) (見)

【寶藏】 (一)礦産ノコトヲ謂フ。【中庸】「寶

【放關】關門ヲ出入スル者ニ對シ一定ノ檢査ヲ施シ然ル後ニ通過ヲ許スコトヲ謂フ。(清律)

【放款】民國三年銀行、勸業銀行條例第六條以下等ニ於テ貸付又ハ投資ノ意義ニ用フルノ語ナリ。

【放債】民間ニ於テ資本ヲ貸與シテ利殖ヲ規ルコトヲ「放債」と曰ヒ、又「生放」とモ稱ス。

【放債人】金銀ノ貸借ニ於テハ債權者ヲ指シテ「放債人」と曰フ。【清律】戶部錢債篇「違禁取利ノ條註釋」乾隆五十年三月奉旨上諭。放債之人。潛赴任所。追索。准該員呈明上司。究辦。(卷十)

【放債人】金銀ノ貸借ニ於テハ債權者ヲ指シテ「放債人」と曰フ。【清律】戶部錢債篇「違禁取利ノ條註釋」乾隆五十年三月奉旨上諭。放債之人。潛赴任所。追索。准該員呈明上司。究辦。(卷十)

【放散官物】(官物ヲ)官物ヲ管理スル官吏ガ官物ヲ出用シテ利ヲ圖リ、又ハ祠祀宴會ニ供スル費用ヲ故ラニ數ヲ多クシテ利ヲ占ムル等ノ場合ニ用フ。贓罪ヲ以テ論ズ。【唐律】贓庫篇「放散官物」ノ條「諸放散官物者。坐贓論。其脚註謂出用官物。有所市作。及供祠祀宴會。剩多之類。」(同書卷)

【放支】發給ト云フニ同ジク、物ヲ給與スルコトヲ謂フ。【明律】清律戶律倉庫篇「那移出納」ノ條「若不給中印勘合。擅出權帖。或給勘合。不立文案。放支。及倉庫不候勘合。或已奉勘合。不附簿放支者。罪亦如之。」(明律卷十一)

【放粥】荒因饑饉ノ歲ハ貧民ヲ救恤スル爲ニ粥廠(粥所)ノ設アリ。清モ其遺制ヲ襲用シ饑饉ノ歲ハ臨時ニ之ヲ設ケ、各其期間ヲ定メ粥廠ヲ施與ス之ヲ「放粥」と謂フ。(清會典)

【放債】田宅等ヲ典シテ錢ヲ借りタル者ガ其債務ヲ辦濟シテ田宅ヲ回得スルヲ「取贖」と曰ヒ、典主ガ價ヲ受ケテ其田宅ヲ返還スルヲ「放贖」と曰フ。【明律】清律戶律田宅篇「典買田宅」ノ條「其所典買田宅園林碾磨等物。年限已滿。業主備價取贖。若典主託故不肯放贖者。笞四十。云云。」(明律卷五)

【放贖】一般貧民又ハ被災民ニ對シ米又ハ銀ヲ施與シ、之ヲ救濟スルコトヲ「放贖」と曰フ。(會典)

【放贖底冊】放贖ノ正確ヲ保持スル爲ニ種ノ手續アリ。放贖底冊トハ州縣官ニ於テ各地委員ヨリノ放贖ニ關スル報告書ヲ總メテ放贖ノ對查ニ備フル臺帳ヲ謂フ。(會典)

【放錢債】放債ノ義(即チ「放債」ニシテ錢ヲ貸スコトヲ謂フ。錢ヲ貸セバ債權ヲ生ズ。故ニ「放錢債」と曰フ。【明律】清律戶律錢債篇「遺禁取利」ノ條「凡私放錢債。及典當財物。每月取利並不不得過三分。云云。」(明律卷十)

【方夏】四方及ビ中國ノ合稱ナリ。【書經】武成篇「誕膺天命。以撫方夏。」其註「以撫四方中夏。」

【方岳】一ニ方嶽ニ作ル。四方ノ高岳、東岳岱山、即チ南岳衡山、西岳華山、北岳恒山ナリ。【書經】周官篇「六年王乃時巡。考制度于四岳。諸侯各朝于方岳。大明。乃天子巡狩。一乃至。其方面ノ諸侯ヲ其岳ノ行ニ朝セシメテ賞罰ヲ行フ例トス。

【方格】方正ナル標準ト云フノ意ナリ。【後漢書】博奕傳「由是朝廷重其方格。」其註「方。正也。格。猶標準也。」

【方軌】兩車ノ並ビ行ク軌道ヲ謂フ。

【方策】方ハ木版、策ハ竹簡、昔時未ダ紙筆ナキトキ之ヲ以テ記錄ノ用ト爲ス。故ニ方策ハ

三

【放代】官物又ハ囚徒等ヲ護送スル任ニ當ル官吏ガ甲乙二人アルトキ、甲獨リ護送シテ乙ヲ留メ、或ハ又乙獨リ護送シテ甲ヲ留ムル等ノ行爲ヲ謂フ。【唐律】職制篇「奉使部送屬寄人」ノ條「即綱典自相放代者。笞五十。取財者坐贓論。其疏議。或綱獨部送。而放代。不取財。或典自領行。而留綱而不取。此爲自相放代。」(同書卷)

【放房錢】(房錢)家賃ヲ免ズルノ義ナリ。【事物紀原】「宋朝會要曰。大中祥符五年正月。以雪寒。應店宅務。免放房錢三日。此兩雪放房錢之始也。云云。」(卷)

【放勝】放勝ニ同ジク試驗及第者ノ氏名ヲ試驗場ノ門前ニ發表スルコトヲ謂フ。唐代ヨリ始マル。當時ハ進士ノ試驗ハ禮部ニ於テ之ヲ行ヒタルガ故ニ、飛白體ノ文字ヲ以テ、禮部貢院ノ四字ヲ大書シタリ。【事物紀原】「世言曰。進士防頭。立粘黃紙四張。以紙筆淡墨一

【旁行斜上】 表式ノコト(史記十二)其書體今ノ洋書ト同ジク横行ニシテ斜出ナリ。故ニ洋書ヲ稱シテ「旁行斜上」ト曰フ。

【旁狎】 初ハ妾ニ服從シ而モ後終ニ抵抗シ或ハ爭訟ヲ爲スコトヲ謂フ。【證記】少儀ノ註「妾相服習。或爭訟。」

【旁戶】 自ラ一戸ヲ獨立スル能ハズ他家ニ隸屬シテ田業ノ小作ニ從事ス。奴隸ノ如キ者ナリ。【宋史】劉師道傳「川陝家民多旁戶。以小民役屬者一爲二佃客。使レ之如奴隸。家或數十戶。凡租調庸數。悉田客承レ之。」

【旁午】 一縱一橫、使者等往來ノ繁キコトヲ謂フ。【漢書】「使者旁午」今ハ事ノ煩雜ナルノ義ニ用フ。

【旁妻】 側室即チ妾ノ別名ナリ。【宋史】劉昌言傳「別娶旁妻。」

【旁死魂】 陰曆毎月ノ初二日ヲ謂フ。【書經】武成篇「惟一月壬辰。旁死魂。其解」初一爲「死魂。初二與之旁近。故曰旁死魂。」

【暴掠】 財物ヲ強奪スルコトヲ謂フ。【唐書】辛靈京傳「回紇恃「舊勳」。每入朝。所在暴掠。」

【暴動】 衆人ヲ聚集シ非法ノ動議ヲ爲スコト例セバ「罷市圍散」「放火」「劫獄」等ノ事皆之ニ屬ス。

【暴掠】 財物ヲ強奪スルコトヲ謂フ。【漢書】劉虞傳「公孫瓚屢違「節度」。又侵「犯」百姓。虞積不能禁。乃陳「其暴掠之罪」。」

【望】 (部首) (韻) 又「深」

【望】 五嶽四瀆ノ屬ヲ祭ルニハ遠ニ之ヲ望ミテ祭ル故ニ「望」ト曰フ。【書經】舜典篇「望于山川」。朱熹註「山川。名山大川。五嶽四瀆之屬。望而祭レ之。故曰望」。蓋シ今ノ遙祭ニ當ル。丘瀆ノ四望ノ解ニ「所謂四望者。蓋以五嶽。四瀆。四瀆。乃天下山川之大者。天子兼有天下之大。不能親臨。其地。故遙望而祭レ之也。」(大學行義補卷) 六十一

【望族】 地方ノ名望家ヲ指稱ス。【秦觀、文】

【旁尊】 旁系ノ尊親、伯叔父ヲ謂フ。【宋書】晉景帝之於三世祖。肅祖之於季武。皆旁尊也。

【旁礫】 雜祭ノ一種、季冬(冬)ノ月、四方ノ門ニ牲ヲ裂キテ之ヲ懸ケ陰氣ヲ禳除スルコトヲ謂フ。【禮記】月令篇「上季冬之月。命有司。大雩。旁礫」。陳澧ノ註「旁礫。謂四方之門。皆披三礫其牲。以禳除陰氣。」(同書)

【旁牌】 武器ノ名、二種アリ。騎兵ノ用ケルハ圓形、歩兵ノ用ケルハ長形ナリ。皆木ヲ以テ作り革ヲ以テ束ネテ之ヲ堅クス。古ノ盾ナリ。或ハ篋ヲ用キテ之ヲ作ル、一ニ「旁排」又ハ「彭排」ニ作ル。

【暴】 (部首) (韻) 又「屋」

【暴行】 邪說暴行ノ語ハ孟子ニ出ヅ、即チ強暴ナル行爲ヲ謂フ。現行刑律ニハ暴行脅迫ノ罪ヲ規定ス。

【暴顯龍門】 (頭) (龍門) 試驗ニ應ジテ落第スルコトニ喻フ。【物類彙編】引三秦記「河津一名龍門。水陸不通。魚鼈之屬。莫能上。江海大魚薄ニ集龍門下。數千不得上。上則爲龍。不レ上者魚。故曰暴顯龍門。」

【暴察】 急速ニ嚴察スルコトヲ謂フ。【荀子】「威有三。有二道德之威。有二暴察之威。有二狂妄之威。」其註「暴察。謂暴急嚴察也。」

【暴室】 織作(オリ)染練(ソメモノ)ヲ掌ル官署ヲ謂フ。【漢書】宣帝紀「既壯。爲取暴室。畜夫許廣漢女。其註「掖庭主。織作染練。謂暴室。取暴室。爲名耳。後漢ニハ官名ニ暴室丞(暴室ノ事務)アリ、官官ヲ以テ之ニ充ツ。凡ソ婦人疾病ニ中ル者ハ暴室ニ就キテ治療セシメ又皇后貴人罪アルトキハ亦此室ニ就カシム。」

【暴室丞】 (前條ヲ)

【暴章】 人ノ罪惡ヲ表暴スルコトヲ謂フ。【漢書】薛宣傳「宣手自暴書。條高二。高陵令陽湛奏賊。封典。湛曰。念十全法重。不レ忍相暴章。故密以手書一相鳴。」

【望秩】 高山大川ヲ遙祭スルコトヲ謂フ。【漢書】郊祀志「望秩山川」。註「望。謂在遠者。望而祭之。秩。次也。」

【望拜】 遙拜ト言フニ同ジ。遠望シテ拜祭スルコトヲ云フ。【漢書】「遠立。后土祠子汾陰。唯上。親望拜如上帝禮。」

【望履】 有道ノ長者又ハ貴顯ノ人ニ拜謁ヲ願フノ謙辭ナリ。【陸游、詩】「袖レ詩叩東府。再拜求望履。」

【榜】 (部首) (韻)

【榜眼】 科舉(官吏登用)時代殿試ニ合格シタル者即チ進士ノ中ヨリ最優等三名ヲ拔キ其第一名ニ「狀元」ヲ賜ヒ第二名ニ「榜眼」ヲ賜ヒ第三名ニ「探花」ヲ賜ハル(以上ハ學位最) 狀元ノ稱ハ唐ノ則天武后ノ時貢士ヲ殿前ニ試驗シ其成績ヲ次第シテ門下省ヨリ上奏セシメ之ヲ奏狀ト爲ス。其第一位ニ在ル者ヲ狀頭又ハ狀元ト稱シタルニ始マル(上奏文ノ首ニ書ス) 榜眼

ノ稱ハ北宋ノ時ニ始マリ探花ノ稱ハ元代ニ始マル。但シ探花ノ故事ハ唐代進士及第者杏園ニ相會スルヲ「探花」ト曰ヒ少俊二人ヲ「探花使」ト爲シ偏々名園ニ遊ビテ名花ヲ探ラシメタルニ因ル(秦中)

【榜女】 舟人ノ女子ヲ謂フ。(王勃)

【榜人】 榜ハ船ヲ進ムルノ義、舟人ノコトヲ謂フ。【廣韻】榜人。舟人也。

【榜楚】 榜ハ管、楚ハ荊、管杖ト云フガ如シ。

【榜掠】 管杖ヲ加フルコトヲ謂フ。【史記】季斯傳「二世使趙高實。斯與三子由謀反。狀。榜掠千餘。不レ勝痛。自誣服。」

【炮】 (部首) (韻) 又「火」

【炮】 凡ソ燒クニ火ヲ以テスルモノハ之ヲ炮ト曰フ。俗ニ砲又ハ礮字ヲ用フ。即チ軍用ノ火器「大砲」ノ知シ。

【炮鳳烹龍】 凡ソ大典禮ヲ行フトキニ用キ

ル最上ノ食物、但シ鳳、龍共ニ美名ヲ假ル。鳳ハ雄雉ヲ用キ、龍ハ白馬ヲ屠殺シテ之ヲ用フ。【酌中志】凡遇大典禮司禮監備三晉光祿寺備辦茶飯。有所謂炮鳳烹龍者。鳳乃雄雉。龍則宰白馬代之也。

【炮烙之刑】殷ノ村王ノ設ケタル慘刑、銅柱ニ膏ヲ塗リ其下ニ炭火ヲ加ヘテ之ヲ燒キ有罪者ヲ其上ヲ歩セシメ滑落シテ燒死ニ致スノ刑ナリ【史記】殷本紀註、紂乃重刑。有炮烙之法。【其註】其後周ノ西伯(即文王)繼西ノ地及ビ赤壤ノ國ヲ殷王ニ獻シテ炮烙ノ刑ヲ解カシム。(韓非子)

【烹醢】(部首) 庖人ヲ殺スルノ義ニ用フ。【史記】魯仲連傳、吾將使秦王烹醢梁王。

【烹刑】(部首) 庖人ヲ殺スルノ刑、漢代屢々行ヘル。所謂「鼎鑊ノ刑」是ナリ。明、釋祿宏著「直道錄」四十一箇條三七二曰ク「嗚呼烹刑。起於何時」

乎。鄭生說「齊王」下之。淮陰進兵。齊王怒烹。鄭生。韓生。譏項王沐猴而冠。項王怒烹。韓生。

【烹鮮】 治國ニ喩フ。【老子】治大國若烹小鮮。註「不擾也」。

【榜】(部首) 擗(部首) 擗相通ズ。擗示ノ札ナリ。【唐書】「擗」擗郡縣。(其他「擗」)

【榜子】(一) 名刺ノ類ナリ。【歸田錄】「曹彬既平江南。回。詣開門。入見。榜子稱。奉勅勸。勿當公事。同。其不伐如此。」【通鑑綱目集覽】「榜子。用紙寬四五寸。書姓名於紙之前邊。反卷如箸大。以紅絨二要之。凡謁人。必先託門者。通之。然後引見。」

【紡】(部首) 紡(部首) 紡ハ絲ヲ紡ギテ之ヲ織ルコト、現時ノ紡績ニ當ル。紡績ハ新語、從來「紡績」ト曰フ。(參照)

【紡績機】 紡績ノ機械、從來紡車ヲ用キタルモ近年蒸氣ヲ以テ原動力ト爲ス。西洋舶來品ニ始マル。

【紡網】 絲織物ノコト、杭縣ヨリ出ヅルモノ品質最モ佳ナリ。之ヲ「杭紡」ト謂ヒ、吳江ノ盛澤鎮ヨリ産スルモノ亦頗ル著名ナリ。之ヲ「盛紡」ト謂フ。皆素地ニシテ衣料ト爲ス。其實薄クシテ輕キモノ亦之ヲ「素紡」ト稱シ普通ハ衣ノ裏ト爲ス。

【苞】(部首) 苞(部首) 苞ノ時ニ用フル草履ヲ謂フ。(記)

【苞苴】 苞ハ包ニ通ジ苴ハ包裹ノ義ナリ。昔時賄賂ヲ贈ルトキ人ノ知ルヲ俾リ外部ヲ包ミテ贈ル。故ニ賄賂ノ意ニ用フ。其源ハ「禮記」曲禮篇、凡以弓劍苞苴饋問レ人者。云云トアルニ出デ、轉ジテ賄賂ノ意ト爲ル。【說苑】君道篇、苞苴行耶。宮室營耶。女謁盛耶。云云ト

【苞符】 河圖洛書ノコトヲ謂フ。(易疏、引)

【褒】(部首) 褒(部首) 褒(部首)

【褒衣博帶】 大裾ノ衣、幅ノ廣キ帶、儒者ノ衣服ヲ謂フ。【漢書】揚不疑傳、褒衣博帶。盛服至門上謁。但シ、單ニ「褒衣」ト曰フトキハ君ヨリ褒賜セラレタル衣ヲ謂フ。【禮記】「諸侯以褒衣冕服辟一復服。」

【褒章】 政府ガ人民ノ公益ヲ計リ又ハ慈善ニ盡シタル者ニ對シ給與シテ其善行ヲ獎勵スル章表ナリ。(褒章條例)

【褒升】 功勞者ヲ賞シテ其位ヲ升スコトヲ謂フ。【白居易、文】「喜其忠効。宜可褒升。」

【褒章條例】 民國政府ノ褒章ニ關スル事項ヲ規定シタル章程ナリ。金質、銀質ノ二種アリ。之ヲ「民國褒章」ト謂フ。又義金ヲ捐出シテ學校ヲ興シタル者等ニ對シテハ金色、銀色ノ褒章ヲ酌與ス。之ヲ「嘉祥章」ト謂フ。

【褒進】 官吏ノ職務勤勉ノ者ヲ獎勵スル爲メニ官等ヲ進ムルノ意ニ用フ。【補宋書食貨志】

「史宣勳有章者。詳加褒進。」(宋書孝武)

【褒成宣尼公】 漢高帝魯ヲ過ギルトキ太半ヲ以テ孔子ヲ祀ル。此レ漢代孔子ヲ祀ルノ始ナリ。平帝ノ元年初メテ孔子ヲ追諡シテ、褒成宣尼公ト曰フ。平帝ノ時ハ政、王莽ヨリ出ヅ、即チ王莽善ヲ假リテ譽ヲ敷ムルノ野心ニ出ヅルナリ。(大學衍義補)

【褒德】 善者ヲ賞シ惡者ヲ懲スコトヲ謂フ。【唐書】呂元膺傳、請明枉直。以顯褒懲。

【褒德侯】 東漢光武帝ノ時ニ設ケタル封爵、卓茂ヲ太傅ト爲シ褒德侯ニ封ジタルヲ始メトス。【資治通鑑】東漢紀、詔曰。夫名冠天下。當受天下重賞。今以茂爲太傅。封褒德侯。

【褒貶】 人ヲ稱揚スルヲ褒ト曰ヒ、非刺スルヲ貶ト曰フ。孔子春秋ノ筆法ナリ。【春秋】杜預序、春秋雖一字一爲褒貶。然皆須數句以成之。【漢書】藝文志、書有褒貶。

【褒賚】 功勞者ニ褒美ヲ賜フコトヲ謂フ。【北

史「褒貶傳、以時褒賚。厲其忠款。」

【褒】(部首) 褒(部首) 褒(部首)

【訪】(部首) 訪(部首) 訪(部首)

【訪議】 諮詢シテ事ヲ議スルコトヲ謂フ。【戰國策】趙武靈王曰。循計之事。佚而不累。訪議之行。窮而不憂。

【訪質】 其人ニ就キテ質問スルコトヲ謂フ。【北史】序傳、李瑛之少。機警善談論。經史百家。無不悉覽。朝廷疑事。多所訪質。

【訪犯】 上司ヨリ密偵ニ牌(證明)ヲ與ヘ罪人ノ名ヲ指摘シテ逮捕セシムルコトヲ謂フ。【福惠全書】「上司衙門密訪。行牌生名擒拿者。謂之訪犯。」

【邦】(部首) 邦(部首) 邦(部首)

【邦交】 國ト國トノ交際ヲ謂フ。【周禮】秋官大行人、凡諸侯之邦交。歲相問。云云。

【邦畿】 天子直轄ノ行政區劃、一ニ「王畿」トモ曰フ。我舊制ノ畿内ト云フニ同ジ。唐虞

三代皆方千里ヲ以テ制トシ中央五百里ヲ王城ト爲シ王城ヲ距ル百里内ヲ「郊」ト爲シ郊ニ六郷ヲ置キ之ニ七萬五千家ヲ配置ス(一郷ハ一萬二千五百)近郊(五十里内)ノ宅田、土田、賈田、遺郊(五十里以外)ノ官田、牛田、牧田ハ其餘地ニ在リ。王城ヲ距ル百里以外二百以内ヲ「甸」ト爲シ甸ニ六遂ヲ置キ之ニ七萬五千家ヲ配置ス(一遂ハ一郷ニ)公邑ハ其餘地ニ在リ。王城ヲ距ル二百里以外三百以内ヲ「家」ト爲シ、大夫及ビ王子弟ノ尤モ疏ナル者ヲ之ニ封ズ。王城ヲ距ル三百里以外四百里以内ヲ「邦」ト爲シ卿及ビ王子弟ノ疏ナル者ヲ之ニ封ズ。王城ヲ距ル四百里以外五百里以内ヲ「邦都」ト爲シ公及ビ王子弟ノ親シキ者ヲ之ニ封ズ。蓋シ郊ノ官ハ交ニシテ公邑ト境ヲ交フルノ義ナリ。甸ハ甸法即チ墾田耕作ノ法ニ在ルヲ以テナリ。甸ハ縣都ノ地ヲ割クヲ以テ名ヅク。縣ハ其上ニ係ルノ義ナリ。都ハ邑都ノ地アルヲ以テナリ。(禮記禮器圖解)

【邦禁】周禮大司寇ノ職制、掌ニ邦禁云云。大司寇ハ法官ノ長ナリ。而モ法若クハ刑ト言ハズシテ禁ト言フハ犯罪ヲ未然ニ禁ズルヲ目的ト爲スニ因ルナリ。蔡沈ノ註「掌刑不レ曰刑。而曰禁者。禁ニ於未然也。」(キリノ部見)

【邦縣】(邦畿) 諸侯ノ國ヲ指稱スルノ語ナリ。大國ヲ邦ト曰ヒ、小國ヲ國ト曰フ。單ニ國トアルトキハ王ノ國ヲ指稱ス。周禮「詛祝ノ職制、註「國謂ニ王之國。邦國諸侯國也。」周禮「天官大宰、掌邦之六典。以佐王治邦國。」其註「大曰邦。小曰國。」

【邦之三典】周禮ノ制、大司寇(法官)ノ國家ノ三典、即チ經典(經法)、中典(中刑)、重典(重刑)ヲ建テテ(經典ハ新國ニ用キ、中典ハ平國ニ用キ、重典ハ亂國ニ用キ)國家ノ秩序ヲ保持スルヲ職トス。周禮「大司寇、掌建邦之三典。以佐王刑邦國。」

【防召命之詐】(召命ノ詐) 天子豫メ群臣ニ身分ヲ證明スル符契ヲ給シ、召集ノ命令ヲ發スルトキ之ヲ携帶セシメ身分ヲ詐ルヲ防グノ用ニ備フルヲ謂フ。大學衍義補「永徽二年。五品以上隨身魚銀帶。以防召命之詐。出内必合之。」(同書卷九十八)

【防範】當然防守スベキ範圍ノ義、兵部ニ於テ云ヘバ或除ノ責任ニ係ル防禦線内ヲ指シ、禮部等ニ於テ云ヘバ國防(國防)ヲ要スル範圍ヲ指ス。(清會典禮部)

【伯】(部首) 伯ハ長ノ義ナリ。故ニ諸侯ノ長ヲ伯ト曰ヒ(見ヨ)己ノ兄ヲ伯ト曰ヒ、父ノ兄ヲ伯父ト曰ヒ、婦人其夫ヲ目シテ伯ト曰ヒ、又夫ノ

四方ノ一曰刑ニ新國ニ用ニ經典。二曰刑ニ平國ニ用ニ中典。三曰刑ニ亂國ニ用ニ重典。

【邦治】邦治ハ邦教、邦禮、邦政、邦禁ニ對シテ民治ノ大極ヲ指ス。綱紀ヲ立テ國家ノ秩序ヲ維持スルノ謂ナリ。要スルニ邦教以下ノ要項皆治ノ中ニ含マル、周禮「天官冢宰ノ職權ニ屬ス。其序官、乃立三天官冢宰、使、帥、其屬、而掌邦治。以佐王均邦國。」冢宰ハ周禮六官ノ首宰、今ノ我内閣總理大臣ニ當ル。

【邦典】國家統治ノ法典、周禮「大司寇ノ職制、凡諸侯之獄訟。以邦典定之。」即チ治典、教典、禮典、政典、事典、刑典ノ六典ヲ總稱ス。(詳細ハ「禮記」ノ部、六)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【邦朋】(八成) 州ノ牧民官、即チ地方長官ヲ謂フ。

【邦伯】(八成) 命ニ庶殷侯甸男邦伯。其註「邦伯、方伯即州牧也。」

【邦濶】官府ノ法規ニシテ官吏ノ節制ニ關スル要件ヲ規定ス。即チ八濶ノ別名ナリ。(八濶ヲ見)

【邦誣】(八成) 布ハ泉布ノ布、即チ錢ノ古稱、國家ノ通貨ヲ「邦布」ト謂フ。周禮「外府、掌邦布之出入。以共百物。而待邦之用。云云。」

【邦令】(八成) 防(部首) (防) (防)

【防護冊】清制、陵廟及ビ祠墓ハ地方官ヲシテ平時防護セシメ時ヲ以テ修理ヲ行ハシムルヲ例トス。其修理ヲ行ヒタル場合ハ簿冊ヲ造リテ工部ニ報明ス。其簿冊ヲ「防護冊」ト稱ス。

【防召命之詐】(召命ノ詐) 天子豫メ群臣ニ身分ヲ證明スル符契ヲ給シ、召集ノ命令ヲ發スルトキ之ヲ携帶セシメ身分ヲ詐ルヲ防グノ用ニ備フルヲ謂フ。大學衍義補「永徽二年。五品以上隨身魚銀帶。以防召命之詐。出内必合之。」(同書卷九十八)

【防範】當然防守スベキ範圍ノ義、兵部ニ於テ云ヘバ或除ノ責任ニ係ル防禦線内ヲ指シ、禮部等ニ於テ云ヘバ國防(國防)ヲ要スル範圍ヲ指ス。(清會典禮部)

【伯】(部首) 伯ハ長ノ義ナリ。故ニ諸侯ノ長ヲ伯ト曰ヒ(見ヨ)己ノ兄ヲ伯ト曰ヒ、父ノ兄ヲ伯父ト曰ヒ、婦人其夫ヲ目シテ伯ト曰ヒ、又夫ノ

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯翁】伯祖即チ祖父ノ兄ヲ謂フ。(宋史及五代史補)

【伯父】 父ノ兄ヲ謂フ。【釋名】父之兄曰伯父。伯把也。把持家政。又古ハ天子同姓ノ諸侯ヲ稱シテ伯父ト曰フ。

【伯母】 父ノ兄ノ妻ヲ謂フ。即チ伯父ノ妻ナリ。刑律ニ「伯叔母(叔母ハ叔トアルハ伯叔父ノ妻ヲ指ス。父ノ姉妹ハ之ヲ姑ト稱ス。清明律圖)

剝 (部) 首 (韻) 剝 (刀) (韻) (覺) (韻)

【剝削】 租税ノ代納ヲ受ケタル者ガ中間ニ於テ其稅物内ヨリ密ニ幾分ヲ分取スルコト、俗語ノ「へツル」ノ意ナリ(ラノ部、攫納ト)

【剝船】 糧船ニ積載セル貨物ヲ分載スル小船ヲ謂フ。【六部成註解】裝載減貨之小船也。

【剝奪】 日本法ニ因ル。犯罪ニ因リテ其公權ヲ取消クコト、支那法ハ「褫奪」ト曰フ。【剝挽】 剝ハ減ズルノ義、挽ハ牽クノ義、重舟ガ水ノ淺キ所ニ坐擱シタルトキ、其積荷ヲ減ジテ牽キ行クコトヲ謂フ。【六部成註解】剝

減也。挽牽也。重舟擱淺。則減去米糧。挽牽而行。

博 (部) 十 (韻) 博 (十) (韻)

【博學鴻詞】 人材登用ノ科目、漢代以降已ニ行ハル。唐開元中陸贄ハ此科ヲ以テ登用セラル。但シ其科舉ノ正式科目ト爲リタルハ宋代ニシテ初ハ(紹聖)「宏詞」科ヲ置キ、後ニ(紹興)「博學宏詞」科ヲ置ク。元ノ如キモ國初此科盛ニ行ハレキ。清朝ニ於テモ康熙、雍正、乾隆ノ三朝均シク之ヲ設ケタリ。其要ハ(一)文選ヲ撰撰シ(二)經史ヲ闡發シ(三)辭章ヲ潤色スルニ在リテ即チ皇帝ノ顧問兼秘書官ヲ得ルノ試験ナリ。之ニ應ズル者ハ必シモ資格ヲ要セズ廣ク人材ヲ集メ皇帝親ラ試験ヲ行フヲ例トス。

【博戲賭財物】 (博戲ニ財) 局戲(碁、將棊、博戲ト云フ。財物ヲ賭シテ勝負ヲ爲スハ法ノ禁ズル所ナリ。但、飲食物ヲ賭スル者ハ坐メズ。【唐書】律律篇「博戲賭財物」ノ條、賭博戲

賭財物者各杖一百。(中)略(賭ニ飲食者不レ坐。)(同書卷二十六)

【博士弟子】 漢武帝博士官ノ下ニ弟子五十人ヲ置キ郡國ヲシテ舉送セシム。當時ノ大學生ニシテ明清時代ニ於ケル貢監生ニ當ル。(博士ノ部、補博士弟子ヲ見ヨ)

【博士】 (一)支那ニ於ケル博士ハ官名ニシテ學位ニアラズ。其職ハ古今ニ通ジ廣ク事物ノ奧理ニ亙リ、之ニ依リテ天子ヲ輔翼スルヲ職トス其官ハ【漢書】百官表「博士。秦官。掌三古今。云云」トアル如ク秦代ニ始マリ漢代以後專門ノ博士ヲ設クルニ至ル。景帝ノトキハ五經博士ヲ置キ晉ハ又國子博士ヲ置キタリ。唐代ニハ大學博士、國子博士、四門博士、律學博士、算學博士、醫學博士等アリ各學教授ノ官ト爲ス。明清ニハ國子博士、太常博士アリ。五經博士ハ聖賢後裔ノ世襲官ト爲ス。(各本條)(一)

江南ノ俗ハ茶ヲ賣ル者ヲ博士ト爲ス。所謂茶博士ナリ。(封氏見)(三)又磨工亦博士ト稱ス。(農記)

【博羅】 (ラノ部、攫納ト) (ラノ部、攫納ト)

幕 (部) 巾 (韻) 幕 (巾) (韻)

【幕友】 昔時ハ軍中參謀ノ稱ナリシモ後世ハ布政使、按察使、督撫ノ如キ地方大官ノ幕下ニ參ジテ、政務ヲ輔佐スル者ヲ謂フ。實際ハ此等大官ノ顧問官ナリ。故ニ亦之ヲ、師爺ト稱ス。師爺ニ二種アリ。法律ヲ主トスル者ハ「刑名師爺」ト稱シ、財政ヲ主トスル者ハ「錢穀師爺」ト稱ス。官制ノ上ニ於テハ幕友ナル者ナシ。要スルニ前掲ノ大官ハ概シテ法律ト數字トノ智識ニ乏シキヲ以テ、自ラ私財ヲ出シテ之ヲ招聘スルヲ例トス。

【幕職】 幕府ノ官職ニ任ズル者ヲ謂フ。【宋史】由「幕職」爲「著作佐郎」者。轉「太子中允」。【幕席】 幕府ニ給事スル者ヲ謂フ。(後山詩話)

【幕府】 軍隊ノ出征スルトキハ一定ノ常所ナシ。幕ヲ張リテ府ト爲シ大將之ニ居ル、故ニ大將軍ヲ稱シテ「幕府」ト曰フ。後世又「元帥」ノ稱ト爲ス。【事物紀原】漢書李廣傳註「晉灼曰。衛青征匈奴大克。就拜大將軍於幕中。故曰幕府。幕府之名始於此也。顏師古曰。幕府者以三軍幕爲義。軍旅無常居止。故以帳幕爲之。廉頗李牧市租皆輸入幕府。此則非因二衛青始有之號矣。又漢文帝問馮唐對。有二上功幕府之說。則上將之稱幕府。其來久矣。今人以稱元帥取諸此。【史記】廉頗聞相如傳。市租皆輸入幕府。同書李將軍傳。大將軍使長史急責廣。之幕府對簿。要スルニ幕府ハ將帥ノ幕營、軍政ノ出ツル所ナリ。宋以後ハ行政官ノ居室亦之ヲ幕府ト稱ス。幕府、一ニ幕府ニ作ル。

【幕僚】 元ト幕府ノ屬僚、【遠史】張儉傳、調三雲州幕官。(中)聖宗張儉中。節度使進曰。臣境無他產。幕僚張儉。一代之寶。願以爲獻。後世ハ

「幕友」ト同ジク、地方長官ノ顧問ヲ稱ス。拍 (部) 手 (韻) 拍 (手) (韻) (陌) (韻)

【拍手】 手ヲ拍ナテ贊成ノ意ヲ表スルコト、【辭源】今人於演說者。示贊成之意者。則拍手以表歡悅。是レ日本語ヲ傳ヘタルモノナリモ、支那ニ於テモ夙ニ此語アリ。【黃潛詩】岸旁羣兒拍拍手。但シ、日本現用ノ「拍手」ハ支那ニ於テハ「鼓掌」ト云フ。

拍 (部) 手 (韻) 拍 (手) (韻) (陌) (韻)

【搏拚】 二義アリ、一ハ搏拚拚拚ノ義即チ強盜ノ所作ト爲シ、一ハ搏拚搏拚ト通ジ、即チ博戲、拚ハ錢ノ屬、博戲ニ依リテ人財ヲ取ルノ義ト爲ス。【漢書】功臣表、元鼎四年。嗣侯蘇辟方坐搏拚。完爲城且。元鼎元年。嗣侯黃遂。坐搏拚奪公主馬。完爲城且。師古ノ註、搏拚。搏拚拚。襲人財。搏或作搏。一曰六博士也。拚意錢之屬。皆謂戲而取人財也。

搏 (部) 手 (韻) 搏 (手) (韻) (陌) (韻)

【搏執】 犯罪人ヲ捕縛スルコトヲ謂フ。【禮記】月令篇「孟秋之月命三有司備三法制。精三園圍。具三經。禁三止姦。慎三罪邪。務三搏執。」【孟子】有故而去。則君搏執之。

【白】 (部首) (頤)

【白】 (一) 白丁ノ古稱。【荀子】王制篇「司馬知三師旅用兵乘白之數。」其註「白謂甸徒。今白丁也。」(見) (二) 白ノ略。音「シ」阿言又ハ告陳ノ意(康熙字典)但シ白又ハ白狀ノ白ハ其罪情ヲ明白ニスルノ義。音「ハク」ナリ。(三) 白己ノ所見ヲ上ニ向ヒテ陳述スルコト即チ建白ノ義ナリ。【浪跡續談】後漢書鍾皓傳。鍾瑾常以三李膺言「白皓。按今人謂陳述事義於上曰「白。是也。」

【白衣】 古ハ未ダ官ニ仕ヘザル者白衣ヲ著ク。故ニ浪人隱者並ニ一般官職ナキ者ノ稱トス。【史記】儒林傳「公孫弘以三春秋白衣。爲三天子三公。」漢書「陳勝傳。聞三之白衣。戒三君莫言。」

【白雲觀】 北京ニアル道教ノ本山。元ノ長春

真人丘處機ノ創設シタルモノニ係ル。(清國法第) 四卷)

【白雲師】 黃帝軒轅氏ノ時代ニ於ケル司法官ノ名ナリ。【史記】五帝本紀「諸侯咸尊軒轅氏爲三天子。代三神農氏。是爲三黃帝。官名皆以三雲命爲三雲師。」其註「黃帝受三命。有「雲瑞」。故以三雲紀三事也。秋官爲三白雲師。」

【白役】 官署ノ差役ニシテ定額以外ニ在ル者ヲ謂フ。

【白河】 運河ノ一。北運河ノコトナリ。一ニ「渭河」トモ稱ス。

【白簡】 官吏ノ彈劾文ヲ起草スル書札【晉書】傅玄傳「傳玄爲三御史中丞。每有「劾奏。或值三日暮。捧三白簡。整三帶。踰三殿。坐以待三且。云云。」

【白銀】 銀ノ別名。鑄本ト雖ニ作ル。錢貫(「ゼ」)ノサ) 錢ヲ數ムル者ハ貫ヲ以テ計ル。【左思賦】「藏三錢巨萬。」其解「白金亦名三白銀。」

【白塔信藏官】 白塔山上ニ大砲ヲ備ヘテ。非常ノ警報ヲ掌ル官吏ヲ謂フ。(清會典) (兵部)

【白奪】 白晝人ノ物ヲ劫奪スルコトヲ謂フ。【大學衍義補】「臣按。萬乘之王。而有三四海之富。乃白三奪貧人之物。以爲三食用。無三以異三於盜賊之白日行劫。」(同書卷) (二十五)

【白晝搶奪】 人ノ不意ニ出デテ物ヲ攫取スルヲ「搶」ト曰ヒ。カヲ用キ互ニ争ヒテ物ヲ取ルヲ「奪」ト曰フ。白晝ハ日中ナリ。日中之ヲ公行スルハ人ヲ畏レザルコト強盜ニ類スト雖モ兇器ヲ持セズ亦人数少ナキヲ以テ其特色トス。故ニ其罪ハ強盜ト劫盜トノ中間ニ在リ。【明律】「清律」刑律賊盜篇ニ規定スル一條ナリ。

【白丁】 無位無官ノ丁年男子ヲ謂フ。【唐律】關防篇「殺傷人」ノ條疏議「白丁。則從三眞殺。若是官品之合レ贖者。云云。」(同書卷) (二十三)

【白狄】 部落ノ名。今ノ陝西省舊延安府ノ境

【白冠整纓】 白冠ハ讀ミテ字ノ如ク白キ冠。纓ハ牛馬ノ尾ヲ以テ製シタル冠ノ紐ナリ。周代禮教ノ最モ盛ナル時代ニ於テハ大夫罪ヲ犯シタルトキハ自ら白冠整纓(即チ死)シテ盤水ニ劍ヲ加ヘテ罪ヲ請ヒ。自裁ヲ求ムルヲ例トシタリ。是レ我邦士風ノ盛ナルトキ士ニシテ罪ヲ犯シタルトキハ特ニ切腹ヲ命ゼラルヲ武士ノ名譽ト爲シタルト同一ナリ。【大戴禮】「其在三五刑之域。者。聞三讞發。則白冠整纓。盤水加レ劍。造三宮闕。而自請罪。云云。」

【白契】 要件ノ記入ナキ契約書即チ白紙ノ契約書ナリ。(清會典) 或ハ曰ク家屋又ハ土地ノ買賣ニ官圖ノ典印ナキモノヲ謂フ。【辭源】「買賣地。其文契未經三地方官蓋印者。」

【白虎觀】 漢代宮殿ノ名。後漢章帝ノ建初四年。博士。議郎。郎官及ビ諸儒諸生ヲ白虎觀ニ召會シテ五經ノ同異ヲ考詳セシメ白虎議奏ヲ作ル令。傳ハル。白虎通「是ナリ。(後漢書章帝補卷九) (十四)

及ビ山西省舊汾州府ノ西境ニ在リ。

【白田】 水田ニ對シテ水ナキ田。國字ノ島ハ此ヨリ取ル。【晉書】傅玄傳「白田收至三丁餘斛。水田至三數十斛。」

【白撞】 搦摸即チ「スリ」。チボレノ類ナリ。(「タ」ノ部) (換) (二十五)

【白波】 盜賊ノ異稱ナリ。【後漢書】靈帝紀「張角反。皇甫嵩討レ之。角餘賊。在三西河白波谷。時俗號三白波賊。」

【白望】 官ヲ任ズルニ。虛名ヲ以テスルコトヲ謂フ。【唐書】上晉元帝疏「選三官用人。不レ料三實德。惟在三白望。」ノ語アリ。又【陳頤與王導之書】「ニモ。中華。所ニ以傾幣。四海所ニ以土崩。者。正以三取レ方失レ所。先三白望。後三實事。云云」ノ語アリ。【大學衍義補】「ニモ。唐德宗以三宦者ニ爲三宮市使。置三白望數百人。云云」ノ語アリ。(同書卷) (二十五)

【白墳】 土質白クシテ地脈ノ沸起スル所ヲ謂

【白罪】 罪狀ノ明白ナルコトヲ謂フ。【漢書】谷永傳「反三陰白罪。」其註「罪之明白者。皆反而除レ之。」

【白粲】 (一) 漢制。婦女ノ犯罪ニ科スル刑。粲記ニ供スル米ヲ擇ビテ純白ニスルコトヲ掌ラシム。刑期三年ナリ。【漢書】惠帝紀ノ註「上。粲者。以爲三刑。擇米也。」【漢書】惠帝紀ノ註「上。擇米使三正白。爲三白粲。皆三歲刑。」同書章帝紀ノ註「女子。爲三白粲。使擇米。白粲粲然。」(二) 米ノ異名。即チ白米ナリ。【明丘瓊山故事必讀成語考集註】「米曰三白粲。又曰三長腰。註漢惠帝紀。鬼薪白粲。其註。令三犯罪者取三薪給三宗廟。爲三鬼薪。擇三米之正而白者。供三祭祀。名曰三白粲。」(下) (卷)

【白事】 「紅事」ノ吉事ナルニ對シテ凶事ヲ「白事」ト謂フ。(光緒會) (典事例)

【白日鬼】 奇蹟ノ徒ヲ謂フ。(遊覽) (志餘)

【白身】 出仕ノ資格ナキ者ヲ謂フ。(唐書選) (舉志)

フ。(周祭地官)
大司徒

【白麻紙詔】 唐代公卿ヲ任用(除拜ト)スルニハ白麻紙ヲ用フ。制書ヨリ以下ハ黃麻紙ヲ用フ。【公文錄起】(董比義書ノ一)「上惟除三拜公卿一用之白麻紙(略)自三制書以下。皆用之黃麻紙云云。」

【白民】 白丁ニ同ジ。【實治通鑑】梁武帝紀「白民謂三郡鎮。胡三省ノ註。身無三官爵。謂之白民。猶言白丁。」

【白龍氏】 伏羲氏時代ニ於ケル司法官ノ名ナリ。【通鑑前編外記】太昊時。有龍馬負圖出三于河之瑞。因而名官。始以龍紀。號曰龍師。又命五官秋官。爲白龍氏。」

【白龍白雲】 白龍ハ前條ノ如ク伏羲時代ノ法官ノ稱。白雲ハ黃帝時代ノ法官ノ稱。合シテ法官ノ稱トス。【唐律】名例篇「昔白龍白雲。則伏羲軒轅之代。」其註「左傳昭公十七年。鄭子曰。昔者太皞氏(即伏羲)以龍紀。故爲龍師。氏也。」

而龍名。黃帝氏以龍紀。故爲雲師。而雲名。又史記曰。黃帝。少典之子。姓公孫。名軒轅。官名雲師。注云。應昭曰。黃帝受命。有雲瑞。故以龍紀事也。春官爲青雲。夏官爲緋雲。秋官爲白雲。冬官爲黑雲。中官爲黃雲。今日白龍白雲者。掌刑之官也。(同書)

【白糧】 清米ノ一種。京師及通州ノ倉ニ入レ。王公百官並ニ各屬邦貢使ノ食料ニ供スルモノヲ謂フ。(清國行政)

【白蓮教】 明代秘密ノ教派。其統ハ佛教ノ白蓮宗ニ出ヅ。是ヨリ先キ晋ノ沙門慧遠白蓮社ヲ結ビ淨土ニ歸依シテ宗ト爲ス。後ノ白蓮宗ハ此ニ本ヅキテ出ヅ。元時最モ盛ニシテ頗ル奸利ニ通ズ。鹽城ノ韓山童白蓮會ヲ設ク。其目的ハ佛教ニ託シ又說符籙(豫言又ハ加)ヲ假リテ衆愚ヲ惑ハスニ在リ。後山童誅セラルルヤ其子林兒亳州ニ據リテ小明王ト稱ス。元末徐壽輝劉福通等ハ皆其黨ナリ。明ノ天啓ノ時蘇州ノ人王森始メテ之ヲ「白蓮教」ト名ヅケ、

又一ニ「焚香教」トモ稱ス。森捕ヘラレ獄中ニ死スルヤ其黨徐鴻儒等隨キテ之ヲ行ヒ、勢益々張ル。其後鴻儒謀反ヲ以テ誅セラル。清ノ乾隆四十年又河南ノ人劉松アリ符呪(マジ)ヲ以テ病ヲ治メ此教ノ領袖ト爲ル。後捕ヘラレテ甘肅ニ遣戍セラル。其徒安徽ノ人劉之協。宗之清等仍ホ各省ニ傳布シ徒黨甚ダ衆シ。其後反ヲ謀ル。湖北、四川、陝西ノ諸省皆其黨多シ(川楚教) 嘉慶以後民間白蓮教ヲ言フヲ諱ム(匪黨) 嘉慶以後民間白蓮教ヲ言フヲ諱ム。此教ノ支流ナリ。(北清事變ノ義和團) 此教ノ支流ナリ。(北清事變ノ義和團)

【白蓮社】 晋ノ高僧慧遠ガ其同志慧永、慧持等ノ諸僧及ビ名儒劉程之等十八人ト社ヲ廬山ノ麓ニ結ビテ名ヲ「白蓮社」ト曰ヒ、亦「蓮社」ト稱ス。今ノ廬山ノ東林寺ハ其地ナリ。

又一説ニハ謝靈運ガ一タビ蓮公ニ見エテ肅然心伏シ乃チ其寺ニ即キテ臺ヲ築キ涅槃經ヲ譯シ池ヲ鑿チテ白蓮ヲ植エル。時ニ蓮公ハ諸賢ト淨土ノ樂ヲ修ム。因リテ「白蓮社」ト號スト

云フ。(蓬社高) 賈傳

【船舶】 (部首) (頭) 船ハ海船ノ義。船舶ハ海商ノコトナリ。【明律】清律「戶律課程ニ船舶運貨ノ條アリ。」

【船舶】 外國ノ舟船ニ依リテ運送セラレタル貨物。我國ノ舶來品ト云フガ如シ。【南史】外國船舶。高涼生口。歲數至。皆外國買人。以通貿易。今ハ我國ノ例ニ倣ヒテ舶來品ト稱ス。

【薄】 (部首) (頭) 薄給ノ官吏ナリ。【南史】顧越傳「臣葉世薄臣。祿不代耕。云云。」

【薄刑】 古代ノ五刑中最モ輕キ刑。即チ墨刑ヲ指ス。【禮記】月令篇「薄刑決小罪。出輕繫。是レ夏漸ク熱スルニ際シ速ニ薄刑小罪ノ裁判ヲ爲シテ無罪ノ者ハ放免シ、又輕微ナル罪ニ繋ガレテ牢内ニ在ル者ハ假出獄ヲ許シ、熱暑ノ苦痛ヲ免カレシムルノ主義ナリ。蓋シ、後世熱毒ノ由リテ起ル所ナリ。」

【薄官】 薄給ノ官吏ナリ。【南史】顧越傳「臣葉世薄臣。祿不代耕。云云。」

【薄田】 薄田ト云フニ同ジ。【三國蜀史】諸葛亮傳「成都郡有桑八百株。薄田十五頃。」

【駁】 (部首) (頭) 駁馬ノ義。駁行「清制、地方官ヨリ運送スル彈劾上奏文ニ於テ成例ニ合セザルモノアルトキハ吏部ヨリ其理由ヲ書シタル文書ヲ附シテ之ヲ却下スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】吏部參奏之件。或有不合例者。則由部行駁之。」

【駁回】 (一) 清制、各官廳ノ上申書ヲ吏部ニ於テ駁議シ事理ニ合セザルモノハ原官廳ニ却下シテ訂正セシムルコトヲ謂フ。【六部成語註解】部議不合事。皆駁回原處。令其改正。(二) 新刑事訴訟律第三百七十六條第三百八十三條ニ於テ訴訟ノ不受理又ハ棄却ノ意義ニ用フ。

【駁審】 清制、下級裁判所ノ擬律ニ不當ノ事實アルトキハ上級裁判所ヨリ其理由ヲ舉ゲテ原裁判所ヘ返付シ再審セシムルコトヲ謂フ。

【駁正】 上司ガ下司ノ上申ニ於テ不當ナルモ

ノハ却下シテ改正セシム。之ヲ「駁正」ト謂フ。(スレノ部) (隨事) 駁正ヲ見ヨ

【駁實】 法官ノ審判精詳ナラザルコト、即チ審判ニ缺點アルコトヲ謂フ。【福惠全書】「依律例ニ以斷罪。辨論精詳。使無駁實。能事畢矣。」

【八】 (部首) (點) 八家一井ノ義。井ハ井田ナリ(井ノ部) 井一里四方ノ面積ニシテ九百畝アリ八家各百畝ヲ領シテ私田ト爲シ之ヲ耕作シ中央ノ百畝ヲ公田ト爲シ之ヲ共同シテ耕作シ其收穫ヲ以テ地租ノ代リニ上納ス。【說文】「八家一井象井形。蓋シ其起原ヲ按ズルニ黃帝ノ時八家ヲ井ト爲シ四道ヲ開キテ八宅ヲ分チ井ヲ其中ニ鑿ツ。是レ實ニ井田ノ始ナルガ如シ。(杜氏通)

【八旗】 清制、八旗ハ滿洲人、蒙古人、漢人ヲ以テ組織セル軍隊ニシテ旗色ニ依リ之ヲ

(一) 鑲黃(二) 正黃(三) 正白(四) 鑲白(五) 正紅

(六) 鎮紅 (七) 正藍 (八) 鑲藍ノ八旗ニ分ツ。故ニ八旗ノ稱アリ。

【八旗義學】 旗人ノ共同經營ニ係ル學校ニシテ私學ノ一種ナレドモ、其教授ハ官ヨリ任命シ、其俸給モ官ヨリ支給シ、殆ド官學ト異ナル所ナシ。是レ旗人タル特殊ノ身分ニ伴ハル結果ニシテ即チ其智識ヲ啓發シ、國家有用ノ材ヲ養成スルコトヲ期ス。(會典禮部)

【八旗宗學】 清制、宗室ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。(會典禮部)

【八旗官學】 在京八旗ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。國子監ニ附屬ス。(會典禮部)

【八旗公產】 犯罪其他ノ原因ニ由リテ入官シタル土地ヲ以テ八旗ノ公產ト爲シ其租銀ヲ分給シテ養贖ニ當ツルモノナリ。(會典禮部)

【八旗井田】 雍正二年新城固安二縣ニ在ル內務府及比戸部所屬ノ土地二千餘畝ヲ以テ井田ト爲シ、旗人中ニ産業ナキ者百戸ヲ選派シテ私田各百畝ヲ給シ、八家ヲシテ公田ヲ共同耕作シ其收穫ヲ上納セシムルコト周ノ井田ノ如シ。(會典事例)

【八旗僧綱】 八旗中ノ僧官、盛京禮部其任免ヲ掌ル。(禮部)

【八議】 【周禮】秋官司小司寇ニ載スル「八辟」ニ出ツ。(見ヨ) 蓋シ八辟ヲ改メテ八議ト爲シタルハ漢代ナルコト【後漢書】應劭傳「陳忠不レ詳制刑之本、而信二時之仁、遂廣引八議、求三生之端、夫親、故、賢、能、功、貴、勤、質、豈有二次玉當レ罪之科哉。」トアルニ徴シテ知ル

【八旗覺羅學】 覺羅ハ清朝ノ准宗室(即チ其子弟ヲ教育スル學校ナリ)。(會典禮部)

【八旗官學】 在京八旗ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。國子監ニ附屬ス。(會典禮部)

【八旗公產】 犯罪其他ノ原因ニ由リテ入官シタル土地ヲ以テ八旗ノ公產ト爲シ其租銀ヲ分給シテ養贖ニ當ツルモノナリ。(會典禮部)

【八旗宗學】 清制、宗室ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。(會典禮部)

【八旗官學】 在京八旗ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。國子監ニ附屬ス。(會典禮部)

【八旗公產】 犯罪其他ノ原因ニ由リテ入官シタル土地ヲ以テ八旗ノ公產ト爲シ其租銀ヲ分給シテ養贖ニ當ツルモノナリ。(會典禮部)

【八旗覺羅學】 覺羅ハ清朝ノ准宗室(即チ其子弟ヲ教育スル學校ナリ)。(會典禮部)

【八旗義學】 旗人ノ共同經營ニ係ル學校ニシテ私學ノ一種ナレドモ、其教授ハ官ヨリ任命シ、其俸給モ官ヨリ支給シ、殆ド官學ト異ナル所ナシ。是レ旗人タル特殊ノ身分ニ伴ハル結果ニシテ即チ其智識ヲ啓發シ、國家有用ノ材ヲ養成スルコトヲ期ス。(會典禮部)

【八旗宗學】 清制、宗室ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。(會典禮部)

【八旗官學】 在京八旗ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。國子監ニ附屬ス。(會典禮部)

【八旗公產】 犯罪其他ノ原因ニ由リテ入官シタル土地ヲ以テ八旗ノ公產ト爲シ其租銀ヲ分給シテ養贖ニ當ツルモノナリ。(會典禮部)

ベシ。然ルニ漢律ハ夙ニ亡佚シテ傳ハラザルガ故ニ其内容ヲ詳ニスルヲ得ズ。【唐律】ニハ名例篇ニ「八議」ト題シテ「八辟」ト略ボ同條ノ規定アリ左ニ掲出ス。

一曰議親 謂皇帝祖免以上親。及太皇太后皇太后。皇后。皇孫以上親。皇后小功以上親。

二曰議故 謂三故。謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

三曰議賢 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

四曰議能 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

五曰議功 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

六曰議貴 謂三職事官三品以上。散官二品以上。及爵一品者。

七曰議勤 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

八曰議貧 謂承先代之後。爲三國賓者。

【明律】ハ唐律ニ因ルモ唐律ノ第五ノ「議功」ヲ第三ニ置キ、第七ノ「議勤」ヲ第六ニ置キ其順位ヲ改ムルト共ニ其脚註ヲ詳ニス、左ノ如シ。

一曰議親 謂皇祖家免以上親。及太皇太后皇太后。皇后。皇孫以上親。皇后小功以上親。

二曰議故 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

三曰議賢 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

四曰議能 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

五曰議功 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

六曰議貴 謂三職事官三品以上。散官二品以上。及爵一品者。

七曰議勤 謂有三大。謂有三大。謂有三大。謂有三大。

八曰議貧 謂承先代之後。爲三國賓者。

【八刑】 八刑ハ【周禮】地官大司徒ノ職制、以ニ郷八刑。糾三萬民。トアルノ八刑、教化ノ普及ヲ補助スル目的ヲ以テ設ケタルモノナリ。一「不孝ノ刑」ト爲シ、二「不睦ノ刑」ト爲シ、三「不親ノ刑」ト爲シ、四「不弟ノ刑」ト爲シ、五「不任ノ刑」ト爲シ、六「不恤ノ刑」ト爲シ、七「造言ノ刑」ト爲シ、八「亂民ノ刑」ト爲シ。蓋シ不睦ノ刑トハ親族相親マザル者ニ科スルノ刑、不任ノ刑トハ朋友ノ相救ハザル者ニ科スルノ刑、不恤ノ刑トハ鄰里相恤マザル者ニ科スルノ刑、造言ノ刑トハ無根ノ事ヲ捏造シテ、人ヲ惑ハシ教化ヲ妨グル者ニ科スルノ刑ナリ。(同書注)

【八計】 【詩】ノ部、豳。爲シ(一)ハ黍、稷、稻、粱、禾、麻、菽、麥ト爲シ(二)ハ稻、黍、大麥、小麥、大豆、小豆、粟、麻ト爲ス。(共ニ「小學紺珠」ニ出ツ)

【八蜡】 古ニ八蜡ノ祭アリ。蜡ハ歲終報田

皇太子妃大功以上親。

二曰議故 謂皇家故舊之人素得三特見。特蒙恩待。日久者。

三曰議功 謂能斬將奪旗。灌鋒萬里。或率衆來歸。擊三濟一時。或開拓疆宇。有大勳勞。

四曰議賢 謂有大德行。之賢人君子。其言行可爲法則者。

五曰議能 謂有大才業。能整軍旅。治政事。爲帝王之輔佐。人倫之師範者。

六曰議勤 謂有大將吏。謹守官職。早夜奉公。或出使遠方。經涉艱難。有大勳勞者。

七曰議貴 謂爵一品。及文武職事官三品以上。散官二品以上者。

八曰議貧 謂承先代之後。爲三國賓者。

【清律】ハ之ヲ襲用シテ改ムル所ナシ。

【八科】 唐代士ヲ取ル科目(官任用試)甚ダ多シ。(一)秀才(二)明經(三)開元禮(四)三傳(五)史(六)進士(七)明法(八)書學(九)算學(十)童子等ノ科アリ。此中ヨリ八科ヲ選ビテ科ス。陸元方、崔融、陽峯等ハ八科ニ舉ゲラレ

〔農事ノ終ルコ〕ノ祭ナリ。毎歲建亥ノ月八神トヲ報ズル祭。之ヲ「八蜡」ト謂フ。八神ハ一ハ先帝、神農ノ類、二ハ司農即チ后稷三ハ農、古ノ田畯、(老農ノ)民ニ功アル者ヲ謂フ。四ハ郵表、田畯ノ百姓ヲ井間ノ處ニ督約スル者ヲ謂フ。故ニ亦之ヲ祭ル。五ハ猛虎、其野鼠野獸ヲ食ヒテ以テ苗ヲ保護スルガ爲ナリ。六ハ坊、即チ隄防ナリ。七ハ水庸即チ溝ナリ。八ハ昆蟲、螟蠶ノ類、即チ之ヲ祝リテ害ヲ爲ス勿ラシムルモノナリ。

〔八座〕 漢ハ六曹尙書、並ニ一令、一僕射ヲ以テ八座ト爲シ、魏ハ五曹、外一令二僕射ヲ以テ八座ト爲シ、隋唐ハ左右僕射及ビ六尙書ヲ以テ八座ト爲ス。(杜氏通典)

〔八座尙書〕 隋唐ハ六部尙書ニ左右僕射ヲ加ヘテ「八座尙書」ト爲ス。【事物紀原】禮受ニ命於君前ニ以テ笏。三代之制也。古者貴賤通用。書ニ君上政令。後世惟八座尙書執之。其餘公卿

執手板ニ主レ敬。云云。(一)

〔八材〕 工匠ノ用キル八種ノ材料、珠、象牙、玉、石、木、金、革、羽ナリ。之ヲ細工スルニ付キテハ珠ヲ切ト曰ヒ象ヲ鑿ト曰ヒ玉ヲ琢ト曰ヒ石ヲ磨ト曰ヒ木ヲ刻ト曰ヒ金ヲ鑄ト曰ヒ革ヲ制ト曰ヒ羽ヲ翫ト曰フ。(職方外紀)

〔八作〕 唐玄宗ノ時置ク所ノ官名、宮中ノ用ヲ辨ズル使者ノ役ナリ。故ニ「内八作使」ト曰フ。【事物紀原】續事始曰。唐玄宗置内八作使。宋朝會要曰。舊八作。太平興國二年分東。西。馮鑑又引李肇國史補云。玄宗開元初至天寶末。所置使。有内八作使。(六)

〔八子〕 漢代ノ女官ノ秩ニハ「八子」「七子」ノ名アリ、八子ノ位ハ千石ニ視レ、爵ハ中更ニ比ブ。七子ノ位ハ八百石ニ視レ、爵ハ右庶長ニ比ブ。(漢書注)

〔八字〕 人ノ生年月日及ビ其時ヲ書シ其干支ニ直ル所ヲ以テ其人ノ禍福生死ヲ推斷ス。之ヲ

「八字」ト謂フ。【文海披沙】「李虛中。以人生年月日所書直干支。推二人禍福生死。百不誤。一。初不レ用。自宋而後。乃并其時。參三合之。謂之八字。」【舊唐書】呂才傳。彼祿命。引漢武故事。謂帝以三乙酉之歲。七月七日。平旦。生。是年月日並舉。トアルニ依レバ。唐代既ニ此說アリタルガ如シ。南方支那及ビ臺灣等ニ於テハ八字ヲ以テ男女ノ相性ヲ推知スルモノト爲シ其授受ヲ以テ婚約成立ノ要件ト爲ス。

〔八字之義〕 (字之義ヲ見ヨ)

〔八銖錢〕 秦代ノ錢、重八銖(銖ハ本條)アリ故ニ「八銖錢」ト曰フ(大學衍義補)

〔八水〕 涇水、渭水、洛水ヲ關中ノ三川ト爲シ渭水、灃水、滸水、汾水、潯水、澧水、瀧水ヲ關中ノ八水ト爲ス(關中記)

〔八成〕 二種アリ、一ツ官府ノ八成ト爲シ、二ツ士ノ八成ト爲ス。左ノ如シ。

〔一〕官府ノ八成【周禮】天官小宰職。以官府之八成。經三邦治。トアルモノ是ナリ。一ツ「聽ニ

政役ニ以テ比居。ト爲シ、二ツ「聽ニ師田ニ以テ簡稽。ト爲シ、三ツ「聽ニ閭里ニ以テ版圖。ト爲シ、四ツ「聽ニ稱實ニ以テ傳別。ト爲シ、五ツ「聽ニ祿位ニ以テ禮命。ト爲シ、六ツ「聽ニ取予ニ以テ書契。ト爲シ、七ツ「聽ニ賈買ニ以テ質劑。ト爲シ、八ツ「聽ニ出入ニ以テ要會。ト爲ス。即チ政役ヲ聽クニ比居ヲ以テストハ政役即チ賦役ニ關スル事ヲ指ス。五家ヲ比ノ戸籍ニ據リテ聽斷スルノ義、師田ヲ聽クニ簡稽ヲ以テストハ軍旅兵役ニ關スル事ヲ指ス。士卒兵器等ノ數目ヲ記セル帳簿ニ照シテ聽斷スルノ義、(簡ノ義)閭里ヲ聽クニ版圖ヲ以テストハ村落ニ於ケル土地境界等ノ訴訟ハ戸籍及ビ地圖ニ依リテ曲直ヲ聽斷スルノ義、(版ハ戶籍ノ義キタル)稱實ヲ聽クニ傳別ヲ以テストハ民間ノ貸借ニ關スル事ヲ指ス。取予ニ據リテ聽斷スルノ義、(傳別ハ券書ノ義)祿位ヲ聽クニ禮命ヲ以テストハ秩祿又ハ位階ニ關スル事ヲ指ス。取予ニ據リテ聽斷スルノ義、(禮命ハ命ヲ指ス)要會ヲ以テストハ

此一項ハ直接民事ニ關係ナキモ、支那ハ四民平等主義ナルガ故ニ庶民出身者ニシテ此等ノ事ヲ取予ニ聽クニ書契ヲ以テストハ官物ノ出入受ニ關スル事ヲ指ス。質劑ニ關スル事ヲ指ス。一札ヲ左右斷スルノ義、(質劑ハ契約書ノ義)一札ヲ左右斷スルノ義、(二券ト爲シ、中央ヲ割キテ各其一ヲ分持ス、長ヲ質)出入ヲ聽クニ要會ヲ以テストハ官府財用ノ出納ニ關スル事ヲ指ス。要トハ每月末出入ヲ計算シテ記入スルコトヲ指ス。要トハ每月末出入ヲ計算シテ記入スルコトヲ指ス。(二)士ノ八成ハ【周禮】秋官司師職ニ「掌士之八成。一ノ八成ニシテ一ヲ邦治。ト曰ヒ、二ヲ邦賊。ト曰ヒ、三ヲ邦諜。ト曰ヒ、四ヲ邦誅。ト曰ヒ、五ヲ邦捕。ト曰ヒ、六ヲ邦盜。ト曰ヒ、七ヲ邦朋。ト曰ヒ、八ヲ邦誣。ト曰フ。即チ邦治ハ國家ノ機密ヲ酌シ(酌ハ酌ト)取リテ之ヲ他ニ漏スノ義、邦賊ハ逆亂

ヲ爲スノ義、邦諜ハ他國ノ爲メニ間諜ヲ爲スノ義、犯邦令ハ讓ミテ字ノ如ク國家ノ法令ヲ犯スノ義、捕邦令ハ國家ノ法令ヲ僞造スルノ義、邦盜ハ國家ノ寶物ヲ竊取スルノ義、邦朋ハ朋黨ヲ組ミテ國憲ヲ妨害スルノ義、邦誣ハ無實ノ言ヲ構ヘテ君臣ノ間ヲ惑亂スルノ義ナリ。(周禮注疏)

〔八政〕 【書經】洪範篇「一曰食。二曰貨。三曰祀。四曰司空。五曰司徒。六曰司寇。七曰賓。八曰師。」トアルモノ是ナリ。食ハ農ニ務メ食物ヲ豐ニスルノ謂、貨ハ貨財ノ通行ヲ阜ニスルノ謂、祀ハ父祖ノ祭祀ヲ爲シ本ニ報ジ始メニ反ヘルノ謂ヒ司空ハ土地人民ニ關スルコトヲ掌ル。司徒ハ教官ノ長、五教ヲ布キ人倫ヲ明ニスルコトヲ掌ル。司寇ハ法官ノ長、法ヲ立テ姦ヲ懲スコトヲ掌ル。(詳細各本)賓ハ賓客、之ヲ優待懷柔スルノ謂、師ハ軍旅、殘ヲ除キ暴ヲ禁ズルノ謂、以上八項ニ關スル政務ヲ八政ト曰フ。(傳說)

【八節】一ツ冬至ト爲シニ夏至ト爲シ三ツ春分ト爲シ四ツ秋分ト爲シ五ツ立春ト爲シ六ツ立秋ト爲シ七ツ立夏ト爲シ八ツ立冬ト爲ス。(史記曆書及七) (晉書律曆志注)

【八大王】清制、太祖ノ封爵ヲ世襲シテ、累世替ルナキ者ヲ謂フ。即チ禮親王ヨリ克勤親王マデノ六親王及ビ二郡王家ノ如キ是ナリ。(東華錄及) (比會典)

【八寶】天子御印ノ總稱、凡テ八種アルガ故ニ八寶ト曰フ。唐律「詐僞爲僞造皇帝寶」ノ條、諸僞造皇帝八寶者斬。其疏儀ニ依レバ八寶ハ傳國神寶、受命寶、及ビ皇帝寶三、天子寶三ノ八ト爲ス。其内容ハ公式令ニ依ルニ神寶ハ所謂寶ニシテ使用セズ。受命寶ハ封禪(本條ヲ)ノ祭ヲ行フトキニ用キ、皇帝行寶ハ王公以下ニ報ズルニ文書ヲ以テスルトキニ用キ、皇帝寶ハ王公以下ヲ慰勞スルニ文書ヲ以テスルトキニ用キ、皇帝信寶ハ王公以下ヲ徵召スルニ文書ヲ以テスルトキニ用キ、天子行

寶ハ蕃國ニ報ズルニ文書ヲ以テスルトキニ用キ、天子寶ハ蕃國ヲ慰勞スルニ文書ヲ以テスルトキニ用キ、天子信寶ハ蕃國ノ兵馬ヲ徵召スルニ文書ヲ以テスルトキニ用フ。皆白玉ヲ以テ爲ル。寶ハ印ナリ。印ハ信ナリ。八寶ノ由来ヲ按ズルニ秦ガ下和ノ寶ヲ以テ傳國玉璽ヲ造リタルニ始マリ。三世子嬰之ヲ漢ノ高祖ニ捧ゲテ軼道ニ降リ漢ハ符璽令(官)ヲ置キテ之ヲ掌ラシメ増シテ六璽ト爲ス。晋惠帝北征ノ時六璽ヲ亡失シ石季龍之ヲ得、其文ヲ改メテ「天命石氏」ト曰フ。傳ハリテ唐ニ至リ八寶ト爲ル。五代唐末帝亂ニ遭ヒ携ヘテ自焚ス。後、郭周重ホテ之ヲ造リ宋ニ傳ハル。(宋趙升撰) (朝野類要)

【八房租】康熙五十五年以來臺灣等道府縣各衙門ニ吏房、戶房、禮房、兵房、刑房、水磨房、工房、稅房ノ八房ヲ設置シ各一定ノ事務ヲ分掌セシム。當初道府ノ長官解任ノ時部下ノ成績ヲ調査シ、慰勞銀一千六百元ヲ給シタルム八房ノ吏之ヲ以テ埔地(本條ヲ)ヲ贖ヒ、佃戶

【八閩】閩ハ福建省ノ古名稱、元代分チテ福州、興花、建寧、延平、汀州、邵武、泉州、漳州ノ八路ト爲シ明改メテ八府ト爲ス。一ニ之ヲ「八閩」ト云フ。(明一統志) (及ビ其詳)

【八分】清制、天命年間ニ八和碩貝勒(封爵)ヲ立テテ共ニ國政ヲ議セシメ、各官屬ヲ置クコトヲ許ス。之ヲ「八分」ト爲ス。後ニ封爵ヲ定メ貝子以上皆八分ニ入ル。鎮國公、輔國公ハ八分ニ入ル者ト入ラザル者トアリ。即チ天聰以後宗室內ニ特恩ヲ以テ公ニ封セラレタル者、及ビ親王ノ餘子公ヲ授ケラレタル者ハ八分ニ入ルコトヲ許サズ。前者ハ「八分公」ト曰ヒ後者ハ「不入八分公」ト曰フ。(嘉慶會典卷二) (同事例卷二)

【八柄】八箇條ノ權柄、群臣ヲ制取スルノ要件ナリ。【周禮】天官大宰、以ニ八柄ニ詔レ王。取群臣。一曰「爵」。以取其貴。二曰「祿」。以取其富。三曰「予」。以取其事。四曰「錫」。以取其行。五曰「生」。以取其福。六曰「奪」。以取其責。七曰「廢」。以取其罪。八曰「誅」。以取其過。凡ソ取ト

爲シ、六ヲ「官屬」以正邦治。ト爲シ、七ヲ「官刑」以糾邦治。ト爲シ、八ヲ「官計」以察邦治。ト爲ス。(一)ノ官屬云云ハ六官(六官ヲ)ノ屬官タル六屬ガ其長官ヲ輔佐シテ事務ノ成績ヲ舉グベキコトヲ謂フ。(二)ノ官職云云ハ六屬ノ職制ヲ定メテ邦治事務ヲ辦理セシムルコトヲ謂フ。(三)ノ官聯云云ハ小事ハ各之ヲ辦ズルモ、大事ハ聯合シテ之ヲ辦ズベキコトヲ謂フ。(四)ノ官常云云ハ官職ニ對シ、六屬ノ日常行フベキ一定ノ職掌ヲ謂フ。(五)ノ官成云云ハ事務處辦ノ方式ヲ定メタルモノニシテ、即チ近世ノ處務細則ノ類ヲ謂フ。(七)ノ官刑云云ハ職務違反其他ノ不法行爲ヲ糾治スルコトヲ謂フ。(八)ノ官計云云ハ一定ノ時期ニ於テ官吏ノ成績ヲ考察シ、其進退ヲ定ムルコトヲ謂フ。

【八蠻】南方ノ蠻族、其種類ハアヲ。之ヲ「八蠻」ト曰フ。是レ【周禮】職方氏ノ載スル所ナリ。【爾雅】李巡ノ註、一天竺、二岐首、三僂僂、四肢腫、五穿胸、六僂耳、七狗軀、八旁春。

ヲ招徠シ、田園ヲ開墾シテ租穀ヲ徵收ス。之ヲ稱シテ「八房租」ト謂フ。(臺灣私法) (第一卷)

【八枋】枋ハ柄ニ同ジク權柄ナリ。八枋ハ爵、祿、予、奪、生、殺、廢、置ノ八權ヲ指ス。【周禮】春官內史、掌三王八枋之法。云云。註、謂ニ爵祿予奪生殺廢置也。

【八法】清制、八法ハ官吏ノ成績ヲ調査シ其不成績ヲ發見シタルトキ之ヲ彈劾スル要件ナリ。一ヲ「不謹」ト爲シ、二ヲ「罷軟無爲」ト爲シ、三ヲ「浮躁」ト爲シ、四ヲ「才力不及」ト爲シ、五ヲ「年老」ト爲シ、六ヲ「有疾」ト爲シ、(以上)之ニ「貪」ト「酷」トヲ加ヘテ八法ト爲ス。然ルニ嘉慶ニ入り食ト階トノ二項ヲ削リテ六法ト爲セリ。(乾隆會典吏部) (嘉慶會典吏部)

【八瀆】八瀆(瀆ハ法)ハ周禮天官大宰職、以ニ八瀆ニ治官府。トアルノ八瀆、一ヲ「官屬」以舉邦治。ト爲シニヲ「官職」以辨邦治。ト爲シ、三ヲ「官職」以會官治。ト爲シ、四ヲ「官常」以聽官治。ト爲シ、五ヲ「官成」以經邦治。ト

曰フハ福リテ之ヲ善ニ納ムルコトヲ謂フ。爵ハ位ニシテ内ハ(一)公(二)卿(三)大夫(四)士外ハ(一)公(二)侯(三)伯(四)子(五)男ノ五等ヲ曰フ。貴ハ有爵者ヲ曰ヒ、祿ハ仕フル者ノ俸ヲ曰ヒ予ハ之ニ予フルニ財ヲ以テスルヲ曰ヒ幸ハ恩賜ニ出ヅルヲ曰ヒ、置ハ之ヲ位ニ置クヲ曰ヒ、行ハ實行アルヲ曰ヒ、生ハ猶ホ養フト言フガ如シ。福ハ福ヲ子孫ニ及ボヌヲ曰ヒ奪ハ罪アル者ハ爵祿ヲ奪フヲ曰ヒ、貧ハ其有スル所ヲ奪フヲ曰ヒ、廢ハ之ヲ遠ニ放ツヲ曰ヒ誅ハ言ヲ以テ譴責スルヲ曰ヒ、過ハ過失アルヲ曰フ。(周禮註) (疏卷一)

【八辟】八辟ハ特定ノ品位アル者ニ對スル裁判上ノ特例ニシテ、周代ニ始マル。後世ハ八辟ヲ改メテ八議ト爲ス。(八議)辟ハ罪ノ義一ヲ「議親之辟」ト爲シ、二ヲ「議故之辟」ト爲シ、三ヲ「議賢之辟」ト爲シ、四ヲ「議能之辟」ト爲シ、五ヲ「議功之辟」ト爲シ、六ヲ「議貴之辟」ト爲シ、七ヲ「議勤之辟」ト爲シ、八ヲ「議貧之

辟^ハト爲ス。親ハ皇室ノ親戚、故ハ故舊、賢ハ賢者、能ハ藝能アル者、功ハ勳功アル者、貴ハ貴族、勳ハ勳勞アル者、賓ハ國賓即チ夏殷二代ノ子孫ノ如キ者ヲ曰フ。此等ノ者ガ罪ヲ犯シタルトキハ、法官ハ其事實ヲ審議シテ、刑ノ適用ヲ擬定スルニ止マリ罪ヲ定メテ刑ヲ加フルコトヲ得ズ。是レ一ハ從前ノ特別ナル關係又ハ其功績ニ對シテ、普通人ト其取扱ヲ異ニス、一ハ國家ノ體面ヲ重ンジ、此特例ヲ設ケタルモノナリ。【周禮】秋官司寇職、以ニ八辟^ハ二罪^ハ邦^ハ。一曰^ハ議親^ハ之^ハ罪^ハ。二曰^ハ議故^ハ之^ハ罪^ハ。三曰^ハ議賢^ハ之^ハ罪^ハ。四曰^ハ議能^ハ之^ハ罪^ハ。五曰^ハ議功^ハ之^ハ罪^ハ。六曰^ハ議貴^ハ之^ハ罪^ハ。七曰^ハ議勤^ハ之^ハ罪^ハ。八曰^ハ議賢^ハ之^ハ罪^ハ。【八面桿】清制、皇帝ヨリ各省總督巡撫ニ賜フ旗牌、旗ニ四桿アリ。牌ニ四面アリ。故ニ八面桿ト稱ス。旗牌ノ上ニ聖旨ノ二字ヲ大書ス。軍國緊急大事アルトキハ旨ヲ請フニ及バズ、此旗牌ヲ以テ命ヲ傳フルコトヲ得。【成語】

【伐】(部首)(月) 正堂堂ノ師ヲ作シテ征伐スルコト、故ニ師ニ鐘鼓ヲ用キルヲ「伐」ト曰ヒ用キザルヲ「伐」ト曰フ。【詩經】小雅「薄伐^ハ玁狁^ハ」【左傳】莊公二十九年、凡師有^ハ二鐘鼓^ハ曰^ハ伐。無^ハ曰^ハ侵。【史記】功績ヲ明ニスルコトヲ謂フ。【史記】功臣侯表「古者人臣功有五等。明^ハ其功^ハ曰^ハ伐。云云。」

【伐閱】伐ハ閱ニ通ズ。閱閱^ハ又ハ門閱ト云フニ同ジ。【史記】功臣侯表「古者人臣功有五品。以^ハ德^ハ立^ハ宗廟^ハ曰^ハ勳。以^ハ言^ハ曰^ハ勞。用^ハ力^ハ曰^ハ功。明^ハ其等^ハ曰^ハ伐。積^ハ日^ハ曰^ハ閱。【漢書】車千秋傳「無^ハ他材能術學^ハ。又無^ハ伐閱^ハ功勞^ハ。後世門閥ヲ「伐閱」ト爲ス。所謂「門閥」(イハ)ノ義ナリ。

【伐交】兵法ノ語、敵國ト戰フニ當リテ先ヅ敵國ノ友國ヲ伐チテ其勢力ヲ殺グコトヲ謂フ。【伐謀】(見イ)

【伐冰之家】卿大夫以上ノ家ヲ指ス。【大戴禮】「伐冰之家。不^ハ畜^ハ牛羊^ハ。」大夫以上ハ喪祭ニ冰ヲ用フ。故ニ此名アリ。

【伐謀】兵法ノ語、敵國ノ計畫ヲ破ルコトヲ謂フ。【孫子】「上兵伐^ハ謀^ハ。其次伐^ハ交^ハ。」

【拔】(部首)(點) 拔野古

【拔曳】(見イ)

【拔解】唐代、地方官ガ試験ヲ用キズ其地方ノ秀才ヲ拔擢シテ中央政府ヘ進貢スルコト、解ハ發送ノ義ナリ。唐代ニ始マル。【發解】(見イ) 隨國隨筆「外府不^ハ試而貢者。曰^ハ拔解。見^ハ國史補。大抵即免解也。」又單ニ地方官ガ受驗者ヲ京師ニ送ルコト亦之ヲ「拔解」ト謂フ。【發解】(見イ)

【拔葵】官ニ居テ民ト利ヲ爭フベカラザルコトヲ謂フ。【史記】董仲舒傳「公侯子相魯^ハ之^ハ其家。見^ハ織^ハ帛^ハ。怒^ハ而出^ハ其妻^ハ。食^ハ于^ハ舍^ハ而茹^ハ葵。愠^ハ而拔^ハ其葵^ハ。曰^ハ吾已食^ハ味^ハ。又奪^ハ國夫紅

女利^ハ乎^ハ。【拔貢】清制、十二年毎ニ學政使ガ府州縣學ノ學生(即チ生員)中ヨリ文藝ノ優秀ナル者ヲ選抜シテ京師ニ送リ、國子監ニ入學セシムルコト、拔貢生ハ會試ヲ經ズ、直ニ朝考(朝廷ノ特)ニ應ズルコトヲ得、合格スレバ一等ハ七品小京官ニ任ゼラレ、二等ハ知縣ニ任ゼラレ、三等ハ教職ニ任ゼラレ。不合格者ハ罷歸サル。之ヲ廢貢ト謂フ。【會典禮部、同國子監、禮部、科場條例】

【拔貢生】(見イ)

【拔擢】分散スルノ義ナリ。(王褒)

【拔舍】軍隊ガ地ヲ清メテ止宿スルコトヲ謂フ。【左氏傳】僖公十五年「秦獲^ハ晉侯^ハ。以^ハ歸。大夫反^ハ首^ハ拔^ハ舍^ハ。從^ハ之^ハ。註「拔^ハ草也。舍^ハ止也。」

【拔萃】才能ノ優レタル者ヲ拔擢シテ採用スルコト。【孟子】「公孫丑篇」出^ハ於^ハ其類^ハ。拔^ハ乎^ハ其萃^ハ。是^ハレ其出所ナリ。

【拔釘錢】五代ノ時、趙在禮ガ任ニ宋州ニ在ル

ヤ州人尤モ之ヲ苦ム。已ニシテ罷メ去ルヤ州人喜ビテ曰ク「眼中釘ヲ拔ク豈ニ樂シカラズヤ」ト、既ニシテ復タ詔ヲ受ケテ職ニ就クヤ、乃チ管内ノ戸口ヲ籍シテ一口ニ付キ錢一千ヲ課シ自ラ號シテ「拔釘錢」ト曰フ。(五代史趙匡胤傳)

【拔茅連茹】賢者ノ同類ヲ引キ進ムルコトヲ謂フ。【易經】泰卦初九「拔^ハ茅茹^ハ。以其^ハ彙^ハ。」是^ハレ其出所ナリ。

【拔野古】種族ノ名、敕勒諸部ノ一、東魏驍^ハ騎^ハニ屬ス。一ニ亦「拔曳」ニ作ル。

【撥】(部首)(見イ)

【撥協銀】撥ハ分ノ義、協ハ助ノ義即チ甲ノ用ニ當テタル經費不足ヲ生ジタルトキ、乙ノ用ニ當テタル經費ヲ分撥シテ之ヲ補助スル銀兩ヲ謂フ。【六部成語註解】「撥分也。協助也。此所^ハ用款不足。由^ハ他^ハ所^ハ分^ハ撥^ハ款項^ハ。以^ハ協^ハ助^ハ之^ハ。」

【撥結】清制、試験ノ答案ヲ調査スルニ當リ一方ニ佳卷(良キ)多ク他方ニ少ナキ場合ニ其

多キ方ヨリ少ナキ方ヘ分給シテ權衡ヲ取ルコトヲ謂フ。【科場條例】「將^ハ佳卷多者^ハ撥^ハ結佳卷少者^ハ。」

【撥冊】各省ノ收支決算ヲ報告スルトキ、戶部ニ提出シテ檢閲ニ供スル簿冊ヲ謂フ。【清國法第^ハ六^ハ卷^ハ】

【撥賜公田】功臣ニ對シテ朝廷ヨリ下賜スル田地、納稅及ビ差役ノ義務ヲ免ズ。【明律】「清律」戶律田宅篇「功臣田土^ハノ條^ハ、凡^ハ功臣之家^ハ。除^ハ撥^ハ賜^ハ公田^ハ外^ハ。但有^ハ二田^ハ土^ハ。從^ハ管^ハ莊^ハ人^ハ盡^ハ數^ハ報^ハ官^ハ。入^ハ籍^ハ納^ハ糧^ハ當^ハ差^ハ。云云。」(四清律八卷)

【撥什庫】撥什庫ハ滿洲語ナリ。漢譯シテ之ヲ「領催」ト爲ス。即チ兵丁甲ニ於テ其會計ヲ掌ル者ヲ謂フ。【六部成語註解】「撥什庫。滿洲語。漢譯ニ之領催。乃兵丁中之會計者也。」

【撥儲】清制、各省兵備道庫其他ニ於テ、關係官ヨリ發給スル銀糧ヲ保管スルコトヲ謂フ。【清國行政法第^ハ六^ハ卷^ハ】

【發補】 甲ノ用ニ當テタル經費ニ不足ヲ生ジタル場合、乙ノ用ニ當テタル經費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「分發此款以補彼款之不足也。」

【撥亂反正】 亂世ヲ治メテ正道ニ復スルコトヲ謂フ。【公羊傳】哀公十四年「撥亂世、反正。」莫近於春秋。【漢書】高帝紀「帝起微細撥亂世、反之正。平定天下。」

【發】 (一)唐代ノ制書、敕ノ別名、簡ヲ用フ。竹ヲ以テ製ス。【石林燕語】「唐中書制詔有レ四。封拜冊書。用レ簡。以レ竹爲レ之。畫レ旨而施行者。曰レ發。曰レ敕。【公文總起】又(二)犯罪發覺ノ義ニ用フ。【唐律】名例篇「犯罪已發、ノ條及ビ、犯罪未發、自首ノ條アリ。【前漢書】卷四「明律」清律亦其用例ヲ一ニス。【後漢書】卷五「清律」亦其用例ヲ一ニス。【名例】

【發運使】 五代晉ノ天福中韓延嗣、華州ノ發運使ニ配セラレ。此ニ始メテ「發運」ノ名ヲ見ル。乾德二年(宋太祖)何幼冲ヲ以テ京畿東西水陸發運使ニ充ツ。此ニ始メテ「發運使」ノ官アリ。至道元年(宋太宗)始メテ王子與等ニ命ジテ江淮兩浙ノ發運使ト爲シ制置茶鹽ノ事ヲ兼掌セシム。尋テ淮南ニ局ヲ置ク。咸平四年發運使ノ上ニ「都大」ノ二字ヲ加フ。景德三年馮亮ヲ以テ淮南江浙荆湖「制置茶鹽」ノ官ト爲シ「都大發運使」ヲ兼ネシム。是ヨリ使ノ名始メテ定マル。又「三門白波發運使」アリ。然ルニ【唐書】李傑傳ニ傑ヲ以テ陝州刺史兼水陸發運使ニ遣ムノ記アリ。蓋シ此ヲ以テ發運使ノ始ト爲ス。【事物紀原】卷六

【發解】 解ハ本、文狀ノ名、送ノ義ニ用フ。例セバ州縣ヨリ京師ノ試驗ニ應ズル者ヲ京師ニ發送スル等ノ場合ニ用フル類ナリ。【盡管誌】「解。本文狀之名。唐時舉子赴京。本州給解。故謂之投解。發解。其名類謂之解額。云云。【發興】 軍務ヲ舉ゲルコトヲ謂フ。【漢書】宣

帝紀「大發興。調關東輕車健卒。云云。」【發覺】 密謀又ハ罪跡ノ暴露スルコトヲ謂フ。【漢書】高祖紀「事發覺。夷三族。」又同書「史有レ罪。未發覺。者赦レ之。【唐律】及ビ「明律」清律ハ「單」ニ「發」ト曰フヲ用例トス。【三律皆名例篇】(其用例アリ)【發貨單】 清制、貨物ノ送狀、印紙ヲ貼用スルコトヲ要シ、價格合制錢十文以上印紙稅二十文トス。【清國新法令】【發遣】 (一)一般ニ人ヲ他ニ差遣スルコトヲ謂フ。(二)清代刑律ノ特定語ニシテ、流刑ノ特ニ重キ者ヲ吉林、黑龍江、伊犁、烏魯木齊等ノ邊地ニ放チテ、勞役ニ服セシムルコトヲ謂フ。【會典刑部】【發策】 猶ホ策問ト云フガ如シ。天子親ラ時務策ニ關スル問題ヲ出シテ其意見ヲ徵スルコトヲ謂フ。【漢書】公孫弘傳「上使朱買臣等雜弘。置明方之便。發二十策。弘不得レ一。」

【發祥】 始メテ帝業ヲ起シタル土地又ハ生長ノ處ヲ謂フ。【詩經】商頌「濬哲維商。長發其祥。」【東華錄】「我朝先世。發祥於長白山。」

【發辰旬稽】 官文書ノ校閱官ガ各種ノ官文書ヲ開封シテ檢閲ヲ爲スコトヲ謂フ。【部】「檢勾之官」ヲ見ヨ。

【發賑】 饑饉等ノ場合ニ倉米ヲ發シテ窮民ヲ賑恤スルコトヲ謂フ。【清會典戶部】

【發冢】 冢ハ高墳即チ墓ノ高大ナルモノ、棺槨ヲ埋ムル所ナリ。冢ヲ發クハ死者又ハ其子孫ニ遺恨ヲ有スル者或ハ器物盜取ノ目的ニ出ツルコトアリ。其何レヲ問ハズ發キテ棺槨ニ至ルヲ「發撤」ト爲シ之ヲ「加役流」(流ノ最重、減)ニ處ス。已ニ棺槨ヲ開キタル者ハ絞ニ處シ、發キテ未ダ撤セザル者ハ徒三年ニ處ス。發冢ノ罪ヲ重クスルハ人ノ遺骸ヲ辱シメ其靈魂ヲ潰スニ因ル。故ニ招魂シテ葬ムル者ハ遺骸ヲ殮葬スルト同一ニ看做スモ冢ノミ先ツ穿チ

テ未ダ殮埋セズ單ニ屍骸ノミヲ盜ム者ハ徒二年半ニ處シ衣服ヲ盜ム者ハ一等ヲ減ジ器物版ヲ盜ム者ハ凡テ盜ヲ以テ論ズ。【唐律】卷十九「冢」ノ條【發塚】 發冢ニ同ジ。葬法ニ於テハ高キ者ヲ墳ト曰ヒ封ズル者(土ヲ蔽)ヲ塚ト曰ヒ平ナル者ヲ塚ト曰フ。此ニ言フ塚ハ之ヲ隳毀スルモノナリ。發ハ發掘ノ略語、開クヲ發ト曰ヒ穿ツテ掘ト曰ヒ。【明律】「清律」刑律賊盜篇「發塚」ノ條、同文ヲ以テ「凡ハ棺槨見レ屍者絞。發者杖一百流三千里。已開棺槨見レ屍者絞。發而未至棺槨者杖一百徒三年。云云」ト規定ス。【明律】卷二十四

【發摘】 森ヲ發シ伏ヲ摘スルノ意、即チ罪惡ヲ摘發スルコトヲ謂フ。【後漢書】王渙傳「能以二語數。發摘姦伏。」【發撤】 人ノ冢ヲ發キテ棺槨ニ至ルヲ「發撤」ト爲シ發冢罪ヲ構成ス。【唐律】賊盜篇「發冢」ノ條「諸發冢者。加役流。其脚註「發撤即座。」【發瘋院】 瘋病患者又ハ其子孫ノ未ダ發病セザル者ヲ收養スル病院ヲ謂フ。【著支那】(クレイ氏)【發副】 宋太宗至道元年楊允恭ヲ以テ江淮兩浙ノ發運副ト爲シ提賊制置茶鹽公事ヲ兼ネシム。略シテ「發副」ト曰フ。景德(眞宗)ノ後亦副使アリ共ニ發運使ノ副官ナリ。【事物紀原】卷六

【發兵符】

兵卒ヲ發遣スルトキニ給スル符、銅ヲ以テ作ル。左右兩符アリ。左符ハ內府ニ進メ右府ハ州府監及ビ提兵鎮等應ニ符ヲ執ルベキ官吏ニ給ス。

【發票】

客商(他國ノ)ノ買入レタル貨物ニ對スル發送料ヲ謂フ。(光緒新)

【罰】

(一)罪ノ小ナル者、其字ハ刀ニ从ヒ言ニ从フ。未ダ刀ヲ以テ賊スルニ至ラザルノ象即チ罰ノ字ハ刀ト屬トノ二字ヲ以テ構成セラレ、刀ヲ持シテ言ルノ義、小罪ニ對スル制裁ナリ。【說文】、率之小者。从刀从言。未以刀有也所賊。但持刀屬言。則應レ罰。【春秋元命包】、罔言爲言。刀言爲言。罰之言。罔。罔子害。【二】金ヲ出シテ罪ニ代フルコト即チ罰金ナリ。【書經】呂刑篇、五刑不備。正于五罰。【三】撻擊スル刑、即チ笞杖ヲ加フコトヲ曰フ。【周禮】地官司徒ノ職制、凡民之有ニ表惡一者。三

讓而罰之。其註、罰謂撻擊也。

【罰殛】

國家ノ命令ヲ用キザル者ハ大ニ罰スルニ應即チ死刑ヲ以テスルノ義ナリ。【書經】多方篇、我惟時其殺之。我惟時其殺要囚之。至三子再。至三子三。乃有不用。我降爾命。我乃大罰之。云云。

【罰金】

漢制、五刑以外ノ刑罰、體刑ニ代フルニ金ヲ以テス。即チ所謂罰金刑ナリ。【漢書】哀帝紀ノ註、如淳令甲ヲ引キテ曰ク、諸侯在國。名ニ田他縣。罰金二斤。同書張釋之傳、釋之奏。此人犯罪。當罰金。民國現行刑律ハ刑罰ノ最モ輕キモノヲ罰金刑ト爲シ、最低額ヲ一圓トシ各本條ニ之ヲ定ム。

【罰款】

民國三年頒行民業鐵路條例第五十七條等ニ用キル所、現款ヲ徵發スル行政罰ノ一種ナリ。

【罰鍰】

(一)一定ノ金ヲ納レテ罪ヲ贖ハシムルコトヲ謂フ。【書經】呂刑、量罪輕重。其罰百鍰。鍰ハ六兩ナリ。後世、罰款ヲ稱シテ罰鍰ト

爲ス。(二)現行訴訟律ニ於テハ證人鑑定人又ハ通譯等正當ノ理由無ク出廷、宣誓又ハ供述ヲ肯ゼザル場合ニ科シテ現款ヲ徵收スル財産刑、刑事罰タル罰金ト混淆スルコトヲ避ケ其秩序罰タルヲ示ス爲メ特ニ「罰鍰」ト曰フ。

【罰權】

民國二年頒行、陸軍懲罰令第三章ニ附シタル名稱、本管長官ノ部下ニ對スル懲罰權限ノ謂ナリ。

【罰作】

漢代ノ輕罪ニ科スル勞役刑ノ總稱ナリ。【周禮】秋官司園ノ鄭註「凡害レ人者。不レ使冠飾。任之。以事。若今時罰作。」【史記】淮南王安傳ノ註「一歲爲罰作。」

【罰餉】

民國二年頒行、京師警察廳改訂管理清道規則ノ中ニ認ムル所ノ秩序罰ノ一種、夫頭ニハ一角以上三角以下、清道夫ニハ五分以下二角以下ノ範圍内ニ於テ手當ヲ減少スル制度ナリ。一角ハ銀元十分ノ一、我國ノ約十錢ニ相當ス。

【罰弗及嗣】

(罰ハ嗣ニ)【尙書】大禹謨ニ出ヅルノ語、罰ハ其本人ニ科スル制裁ナルガ故ニ父祖ノ罰ハ子孫ニ及バズトノ義、是レ王道仁愛ノ本義ナリ。

【罰俸】

官吏ノ公務上ノ犯罪ニ對スル制裁、其俸給ヲ奪取スルノ罪ナリ。【隨園隨筆】「唐制品官。犯二流罪以下一聽レ贖。由二管十二贖銅一斤。遞加而增。但云レ贖不レ云レ罰也。亦有二云レ罰者。唐元和五年房式有ニ不法事。罰俸召還。宋史刑法志有ニ奪俸一月之說。金史刑志載ニ罰俸一月。遼志則云ニ奪俸兩月三月。明史曰。祖制。凡朝會失儀者。下二額撫司獄。杖之。萬曆時改爲二罰金。清制ノ制ハ【會典】吏部(吏部以外)ニ官吏罰トシテ規定ス。

【罰例】

宣統二年頒行著作權律第四十條至第五十條等ニ於テ該律違反ノ罰則ノ意義ニ用キタル語ナリ。

【法】

法ニハ廣狹兩意義アリ。廣義ノ法ハ諸

子百家ノ書ニ所謂先王ノ法ニシテ、唐虞三代ノ經典即チ禮樂刑政ニ外ナラズ。狹義ノ法即チ法律ニ於テモ實體法アリ形式法アリ公法アリ私法アリ各其性質ヲ異ニシ、從テ其意義亦同ジカラズト雖モ其根本義ハ自ラ共通シテ一ナリ。(一)法ノ根本義【說文】「灋。刑也。平之如水。从水。灋。所以觸不直者去之。从去。即チ法ハ正直公平ノ義ヲ有ス。尙ホ灋ノ字原ニ就キテ按ズルニ灋ハ應ニ作ル。應ハ正ヲ欣ビ不正ヲ惡ム獸ノ名、人君ノ刑罰中ヲ得レバ朝廷ニ生長スト云フ。又昔時訟獄ヲ聽斷スル場合ニ罪ノ疑ハシキ者ハ之ヲ其身ニ觸レシメテ以テ罪ノ有無ヲ察ス。即チ之ヲ不直ノ者ニ觸レシムルトキハ怒リテ其形ヲ變ズト云フ。【廣雅】「應。法也。又獸名。其解ニ「應似鹿而一角。人君刑罰得中。則生ニ於朝廷。」又王充撰【論衡】「灋者一角。羊性。知レ罪。卓陶治レ獄。其罪疑者。令ニ羊觸之。」【說文】ノ解「灋獸也。似ニ山羊一角。古者決訟。令レ觸不直。象

形。此等ノ說ニ依ルモ灋ノ字ガ正義又ハ公平ノ觀念ヲ基礎トシテ構成セラレタルコト明ナリ。【孟子】法儀篇ノ註【說文】ヲ引キ灋ヲ時シテ法度ノ義ニ使用スルコトヲ説明ス。曰ク「說文云。灋刑也。平之如水。从水。灋。所以觸不直者去之。法今文省レ此借爲法度之義。即チ法律ハ正直公平ヲ基礎ト爲スコトヲ知ルベシ。(二)一般法ノ意義【釋名】「法。儀也。儀而使レ有レ所レ限也。トアリ。此ニ依ルトキハ法ハ人ノ行爲ヲ制限スルニ一定ノ準則ヲ以テシ之ニ由ラシムルノ義ナリト解スベシ。元來人類天賦ノ權利ハ平等タルベキモ既ニ國憲ノ下ニ棲息シ既ニ社會ノ一分子トシテ生活スル以上ハ國家ノ秩序、社會ノ平和ヲ保持スルノ必要上個人天賦ノ權利ハ道德上、法律上ノ制限ヲ受クルハ當然ノ理ナリ。此場合ニ於ケル個人ノ權利ハ制限セラレタル權利ニシテ天賦ノ權利ニ非ズ。國家ノ一員、社會ノ一分子トシテ國法上ヨリ認メラレタル權利ナリ。【釋

名「法」係也。偏而使有レ所限也。トハ此謂ナリ。一面ヨリ觀レバ人ノ行爲ヲ制限スルノ意ナルモ他面ヨリ觀レバ法律ニ依リテ保障セラレル所ノ權利ナリ。故ニ支那法ニ於テモ法律ナル文字ハ羅旬語ノ「ノムス」(Nomos) 佛語ノ「ドローア」(Draoi) 獨語ノ「ノモス」(Gesetz) ナル文字ガ共ニ正義、權利、法律等ノ意義ヲ有スルガ如ク正直、公平、權利等ノ意義ヲ含有スルモノト爲スコトヲ得ベシ。世人動モスレバ支那法ヲ以テ絕對的權力規定ニシテ個人ノ權利自由ヲ認メズト爲ス者アリ。是レ未ダ其建國ノ大本ガ仁道博愛(即チ王道主義)ニ在ルコトヲ知ラザルノ致ス所ナリ。之ヲ東西ノ歴史ニ徵スルモ博愛主義ハ個人ノ權利自由ヲ尊重シ個人ヲ以テ社會ノ基礎ト爲スニ因リテ起レルモノナリ。舜ガ威嚇主義ヲ排斥シテ博愛主義ヲ採用シテ刑ヲ公示スルト共ニ民命欽卹ノ意ヲ表明シタルハ即チ個人ノ權利自由ヲ尊重シタル顯證ナリ。法律ニ於テモ單ニ國民ノ行爲ヲ制限スル

ノミナラズ君主モ亦法律ヲ以テ行爲ノ準則ト爲シ其拘束ヲ受クベキモノトセリ。【淮南子】「法者。非天墮。非地生。發於人間。而自反。」(中)是故人主立法。先自爲檢式儀表。故令行於天下也。トアルハ是ナリ。

(三) 刑法ノ意義、古來支那法ハ總テ科刑法ノ性質ヲ有シ、法ニハ必ず刑罰之ニ伴フテ通例トス。故ニ刑法ノ意義ニ付キテ一言スルヲ要ス。刑法ハ之ヲ「律」ト稱シ罪情ノ輕重ヲ量リ科刑ノ尺度ヲ定ムル權衡度量ノ意義ヲ有ス。

【淮南子】「法者天下之度量。而人主之準繩也。易坎卦主權。權者皆所以益量輕重也。ト曰ヒ『大學衍義補』「律之言。昉於虞書。蓋度量衡。受二法於律。積ノ乘以盈。無二錯。殊爽。凡度之長短。衡之輕重。量之多寡。莫不於此取正。律以著法。所以裁制群情。斷定諸罪。亦猶三六律正度量衡也。故制刑之書。以律名焉。」(卷百)ト曰フハ是ナリ。要スルニ刑法

ハ犯罪者ニ對スル刑ノ尺度ヲ定ムルモノニシテ即チ犯罪者ニ對シテ刑罰ヲ科スルコトヲ屬亦ハ坐ト稱スルハ犯罪ト科刑トノ尺度合致シテ寸分違ハザルコトヲ意義ス。(各本項)

【法院】 廣義ニテハ我裁判所ト檢察局トニ相當スル審判廳ト檢察廳トヲ併セテ言ヒ狹義ニテハ審判廳ノミヲ指シテ言フ。

【法院編制法】 清末制定ノ裁判所構成法ナリ。

【法官】 九流ノ一、(「流」ヲ見ヨ) 史家ノ命名スル所ニシテ刑名法術ノ徒ヲ指稱ス。其名稱ハ戰國時代ヨリ起ル。其最モ著名ナル者ヲ李悝、商鞅、申不害、韓非等ナリトス。

【法駕】 天子ノ車駕ヲ謂フ。天子ノ齒簿ニ(一)大駕(二)法駕(三)小駕ノ三種アリ。儀衛ノ繁簡ヲ以テ之ヲ區別ス。(班固)

【法貨】 國家法令ヲ以テ發行スル貨幣ナリ。

【法冠】 法官ノ冠、一ニ「柱後」又ハ「獬豸冠」ト稱ス。

トモ稱ス。【事物紀原】後漢輿服志曰。法冠一名「柱後」。惠文或謂之獬豸冠。云云。(三卷)

【法經】 戰國魏ノ文侯ノ師タル李悝(李一ニ作)ガ文侯ノ命ヲ承ケ諸國ノ法刑ヲ參酌シテ編纂シタル刑書ノ名ナリ。六篇ヨリ成ル。第一篇ヲ盜法ト曰ヒ、第二篇ヲ賊法ト曰ヒ、第三篇ヲ囚法ト曰ヒ、第四篇ヲ捕法ト曰ヒ、第五篇ヲ雜法ト曰ヒ、第六篇ヲ具法ト曰フ。故ニ之ヲ「法經六篇」ト謂フ。【唐律疏議】魏文侯師ニ於李悝。集諸國刑典。造「法經」六篇。一盜法。二賊法。三囚法。四捕法。五雜法。六具法。

(卷一)【晉書】刑法志「悝撰「次諸國法」著「法經」。以爲王者之政。莫急於盜賊。故其律始於盜律。盜賊須三劾捕。故著「捕法」二篇。其輕狡越城。博戲。借假。不廉。淫侈。踰制。以爲「雜律」一篇。又以「具律」具其加減。是故所著六篇而已。【大學衍義補】「丘接。刑法之著爲書。始於此。成周之時。雖有「禁法」著于周官。然皆官守之事。分繫於其所「職掌」。未レ有「成書」也。然五刑

之目。其目各有多少。五等之刑。各以類而相從焉。著之篇章。分共事類。以爲註次。則於此乎始焉。(卷百)

此ニ依リテ觀レバ法經ハ李悝ガ戰國時代諸國ニ行ハルル法刑ヲ參酌編次シテ六篇ト爲シタルモノニシテ必シモ其獨創的新作ニアラズ。然モ刑法典ノ形式ヲ以テ現ハレタルハ之ヲ以テ初メトス。其盜賊二篇ヲ篇首ニ並置シタルハ刑法ハ奸宄ヲ膺懲シ犯罪ヲ撲滅シ以テ社會ノ安寧ヲ保持スルニ在ルガ故ナリ。囚捕二篇ヲ其次ニ並置シタルハ盜賊ハ必ず之ヲ劾捕糾治スルヲ要スルニ因ル。雜法ハ以上四篇内ニ編入スベカラザル雜多ノ事項ヲ網羅セルガ故ニ此名ヲ附ス。具法ハ此等ノ犯罪ニ對スル法例、刑例、及ビ加減例等ヲ規定シタルモノニシテ後ノ名例篇ニ當リ、近世法ノ總則篇ニ當ル。昔時ニ在リテハ總則的ノ規定ハ大概之ヲ篇末ニ置クテ通例トシタリ。曹魏ニ及ビテ具法ヲ改メテ刑例ト爲スト同時ニ其位置ヲ上下シテ

篇首ニ置キ、北齊ニ及ビテ始メテ「名例篇」ト稱スルニ至ル。(唐律)此ヨリ以後之ヲ例トス。

李悝ガ法經六篇ヲ造リタルハ戰國ノ初、周ノ威烈王ノ十九年ニシテ我神武紀元二百五十四年(孝昭天皇)西曆紀元前四百七年ニ當ル。是實ニ支那刑法典ノ起原ヲ成スモノニシテ後世歷朝ノ刑法典ハ何レモ之ヲ以テ母法ト爲ス。其全文亡逸シテ傳ハラザルハ遺憾ニ堪ヘザルモ【晉書】刑法志ニ摘載セル魏新律序略ニハ其沿革ヲ敘シテ要ヲ得タリ。又漢學堂叢書内(子史鈞沈逸書)ニハ「李悝法經」ト題シテ各篇全文ヲ登載ス。然モ大體ニ於テ唐律ノ條目ト同一ニシテ其内容ノ事例及ビ文體ニ徵スルモ後人ノ假托ニ出ツルコトハ疑ナシ。

【法庫】 地名、即チ法庫門ノコト、一ニ「發庫」ニ作ル。邊牆十二門ノ一ニシテ内外蒙古ノ貿易場タリ。清代ハ廳ヲ置キテ盛京奉天府ニ屬セシメタルモ民國ニ及ビテハ縣ニ改メテ奉

天洗昌道ニ屬セシム。

【法故】 法律及び故事ヲ謂フ。【禮記】月令篇「黜敝文章。必以法故。」

【法語之言】 正當ナル警告、理ヲ明ニシテ正シク之ニ告グルノ謂ナリ。【論語】子罕篇「子曰。法語之言。能無從乎。」程子及朱子ハ單ニ「正言」之也。ト註シ、張南軒ハ「明レ義而正告」之。ト註ス(論語大)

【法曹】 (一) 法官ノ稱【事物紀原】漢公府掾史有「法曹掾」。主「刑法曹」之任也。歷代皆有。或爲「法曹」。云云。【唐書】法曹司「法」。參「軍事」。掌「鞠」獄。置「法」。督「盜賊」。知「賍賂」。沒入。【(一)後漢】法曹アリ。郵驛科程等ノ事ヲ主トル(後漢)

【法三章】 漢ノ高祖國(秦ノ都長安ハ四方ニ)曰「(一)入りテ秦ノ社稷ヲ覆ス。ヌサ。秦ノ酷法慘刑ヲ撤廢シ。父老ト約スルニ法。三ヶ章ヲ以テス。」「(二)曰ク人ヲ殺ス者ハ死ス。」「(三)曰ク人ヲ傷

ケ、及び盜スル者ハ罪ニ抵ス。然モ約法三章ニ就キテハ右ノ解釋以外ニ一異説アリ。即チ其説ハ煩苛ノ法ヲ省約シテ法三章ト爲スノ義ト爲ス。【史記】高祖本紀「與父老約。法三章。殺人者死。傷人及盜。抵罪。【史記】ハ其前句ニ「吾與諸侯約。先入レ闕者王レ之。」「トアルガ故ニ約ヲ父老又ハ諸侯トノ約束ノ義ニ解スベキモ【漢書】刑法志「漢興。高祖初入レ闕。約三法三章。一曰。殺人者死。傷人及盜。抵罪。二曰。約。三曰。此約ハ父老トノ約ニアラズ。法ヲ省約スルノ義ニ解スルヲ至當トスベシ。

【法酒】 (一) 朝廷正式ノ宴會ヲ謂フ。【史記】漢七年長樂宮成。諸侯群臣皆朝。十月(中)禮畢。復置「法酒」。トアルハ其一例、(二)一定ノ法則ニ依リテ釀造スル酒ヲ謂フ。【宋明會要】「周太祖平河中。得「酒工王恩」。善造「法酒」。因「法酒庫」置「使」。

【法酒庫丞】 酒庫ヲ監督スル補助官ヲ謂フ。【事物紀原】通典曰。梁有「酒庫丞」。云云

不害ハ術ヲ言ヒ公孫鞅ハ法ヲ爲ルト言フ所以ナリ。而シテ法術ノ區別即チ術ノ何者ニシテ法ノ何者タルカハ前掲ノ説明ニ依リテ略ボ之ヲ推知スルヲ得ベキモ尙ホ其建言ニ説明スル所。要ヲ得タルモノアリ。故ニ之ヲ左ニ掲出スベシ。

人主ノ大物。非レ法則術也。法者編著之圖籍。設之於官府。而布之於百姓者也。術者。藏之於胸中。以備衆端。而潛御群臣者也。故法莫レ如「顯」。而術不レ欲レ見。是以明主言「法」。則境內卑賤莫レ不レ聞知也。用「術」。則親愛近臣。莫レ不レ得レ聞也。

此ニ依リテ觀レバ法ハ國家ノ成文法規ニシテ之ヲ國民ニ公示シ萬民ヲシテ遵由スル所ヲ知ラシムルヲ要トシ、術ハ胸中ノ祕術ニシテ機ニ臨ミ變ニ應ジテ措置其宜シキヲ得ルヲ要トス。乃チ法ト術トノ運用其宜ヲ制スルヲ以テ人主ノ祕訣ト爲スト共ニ其祕訣ニ曉通シ人主ヲ輔ケテ之ヲ活用スル者ヲ法術ノ士ト爲スナ

【法術】 法術ノ語ハ【韓非子】各篇ニ散見スル所ニシテ戰國ノ時ニ起ル。【史記】韓非傳「韓非者。韓之諸公子也。喜「刑名法術」之學。其註「新序」曰。申子之書。言人主當レ執「術」與「刑」。因循以督「實臣」下。其責深刻。故號曰「術」。商鞅所レ爲書號曰「法」。皆曰「刑名」。故號曰「刑名法術」之書。【辭源】ハ「後漢書」ニ「儒商鞅之法術」云。機「韓非」之説論。トアルヲ引用シテ「法術」。法家之學術也。如「刑名」之類。ト記ス。韓非ハ「黃老」ヲ崇拜スルト共ニ(法家ハ概シテ「黃老」ヲ宗トス。故以テ本)商鞅及ビ申不害ニ私淑シタリ。而シテ商鞅ト申不害トハ共ニ法ト術トヲ以テ其君ヲ輔翼シテ富國強兵ノ實績ヲ擧ゲタル者ナリ。韓非ノ所謂法術ノ士ナル者ハ主トシテ商鞅ト申不害トヲ指ス。然レドモ單ニ法術ナル語ハ法律ト之ヲ活用スル心術トヲ意義シ人主治國ノ要件ニ屬ス。法術ノ士ハ法術ノ方法ヲ人主ニ注入スル者ナリ。今、法術ノ意義如何ニ就

【法術之士】 大體前項記スルガ如シ。尙ホ【韓非子】孤憤篇「法術之士。欲レ干上者。非レ有所「信愛」之親。習故之澤也。又將以「法術」之言一矯。主阿諛之心。云云。又「明「法術」。而逆「主上」者。不レ懼。於吏誅。必死於私劍」矣。云云。即チ商鞅申不害ノ徒ヲ指スコトヲ知ルベシ。然レドモ韓非ハ未ダ兩者ノ事業ヲ以テ最全ヲ盡シタルモノト爲サズ定法篇ノ末尾ニ「二子」之於「法術」。皆未レ盡レ善也。ト記ス。(新韓非子解) 話卷十七)

【法制】 法律制度ノ合稱。【禮記】月令篇「命ニ有司。修「法制」。辨「國圖」。」

【法星】 星ノ名。天帝ノ座傍ニ侍シテ法刑ヲ司ル星ト爲ス。故ニ司直ノ官ニ喻フ。【唐律疏議】ノ進表「臣聞三才既分。法星著於玄象。其解「易」說卦。立「天」之道。曰「陰陽」。立「地」之道。曰「柔剛」。立「人」之道。曰「仁義」。兼「三才」而兩之。普「天文」志。太微帝座南蕃中二星間

キテ按ズルニ【韓非子】定法篇ニ左ノ如ク記ス申不害言「術」。而公孫鞅爲「法」。術者。因「任」而授「官」。循「名」而責「實」。操「殺生」之柄。課「群臣」之能者也。此人主之所「執」也。法者。憲令著於官府。刑罰必於民心。賞存乎「慎」。法。而罰加乎「姦」。令者一也。人主之所「師」也。

申不害ハ本ト鄭ノ賤民ニシテ術(案隱ニハ術法術ナリ)ヲ學ビ以テ韓ノ昭侯ニ説キ其信用スル所ト爲リ終ニ宰相ニ任ゼラレ、内ハ政教ヲ修メ外ハ諸侯ニ應ジ在職前後十有五年國治マリ兵強ク申子ノ身ヲ終ルマテ韓ヲ侵ス者ナキニ至ル。公孫鞅ハ即チ商鞅ニシテ衛ノ公孫ナルガ故ニ公孫ヲ姓トス。幼ヨリ刑名ノ學ヲ好ミ魏ニ往キテ李悝ノ法制ヲ研究シ後秦ノ孝公ニ事ヘテ變法自強ノ策ヲ斷行シ秦帝業ノ基礎ヲ成シタル者ナリ。兩者ガ刑名法術ノ士タルコトハ同一ナルモ申不害ハ多ク術即チ心術ノ機微ヲ利用ス。商鞅ハ四面攻撃ノ衝點ニ立チテ舊制ヲ破廢シ新令ヲ斷行シタルガ故ニ申

曰「端門」東曰「左執法」廷尉之象也。西曰「右執法」御史大夫之象也。(中)此言「自天地人既分之後。則「刑法」之星。上著於天文也。」

【法治】法ヲ以テ國ヲ治ムルノ義、【禮記】先王之爲樂也。以レ法治。トアルハ其出所ナリ。今ハ法治國ノ法治ノ義ニ使用ス。

【法杖】犯人ガ其事實ヲ自白セザルトキハ一定ノ手續ヲ經テ拷問ヲ爲スコトヲ得ルモ拷問ハ每拷二十日ヲ隔テ、之ヲ行ヒ、且ツ三度ニ過グルヲ得ズ。又其加フル所ノ杖數ハ總テ二百ニ過グルヲ得ズ。之ヲ「法杖」ト謂フ。若シ濫ニ二百ヲ過ギタルトキハ「法杖外」ト稱ス之ヲ犯ス者ハ杖一百ニ處シ、杖數過グル者ハ其剩ス所ヲ以テ反坐ス。【唐律】斷獄篇「拷囚不得過三度」ノ條、略若拷過三度。及杖外以ニ他法「拷掠者。杖一百。杖數過者。反坐所剩。以レ故致死者。徒二年。其疏議、杖外以ニ他法「拷掠。謂拷囚於法杖之外。或以繩懸縛。或用棒撻打。但應「行杖外。悉爲他法。云云」

(同書卷二十九)

【法杖外】(法杖)ヲ見ヨ

【法定果實】支那民國ノ民律草案ニ於テハ「法定利息」ノ語ヲ用キテ法定果實ノ語ヲ用キザルモ該地法律家ノ間ニ於テハ法定果實ノ語ヲ使用ス。其意義ハ我民法上ニ謂フ所ト異ナルナシ。【辭源】對「天然果實」而言。謂「法律上應受之租金利息也。如以下以「房屋」借レ人。則其應受之法定果實爲「租金」。以「銀錢」借レ人。則其應受之法定果實爲「利息」等是。

【法定滋實】新民法ノ用語、法定果實ト云フニ同ジ。(實)ヲ見ヨ

【法度】(一)「定則」ト謂フガ如シ。即チ準據スベキ法則ヲ謂フ。【書經】大禹謨「敬」戒無虞。罔レ失「法度」。(二)「法」ハ程式、度ハ尺度ヲ謂フ。【漢書】律曆志「謹」權量。審「法度」。顏師古ノ註

ヒ、又郭璞ノ註ニ「禮律皆輕重ヲ度量スル所以ナリ」ト曰フハ法ト律トハ元ト別物ナルモ其公平、正義ヲ基礎トシ罪ノ輕重ヲ量ルヲ本義トスル點ニ於テハ一ナリトノ義ナリ。但シ法ハ一般法規ノ總稱ナリ。故ニ一文一條ノ法ト雖モ猶ホ之ヲ法ト稱スルモ律ハ專ラ刑法典ヲ指シ、一文一條ノ法ハ律ト稱スルコトナシ。是レ注意スベキ點ナリ。(但シ、清末改正新)

【法例律】晉、賈充等ニ命ジテ漢魏律ヲ增損シ晉律ヲ編成セシムルヤ魏ノ刑名律内ヨリ法例ニ關スル事項ヲ分出シテ一篇ヲ増シ之ヲ稱シテ「法例律」ト爲ス。【唐律】名例篇「晉命賈充等。增損漢魏律。爲二十篇。於魏刑名律中。分爲三法例律。(同書)北齊ニ至リ刑名及比法例ノ二律(此ニ言フ律)ヲ合シテ名例ト爲ス。名例ハ則チ近世法ノ總則ニ當ル。(部)刑名ヲ見ヨ

【法令】法ハ法規ノ總稱、令ハ行政ニ關スル單獨法、戶令、婚姻令等ノ如シ。(各本文)今ハ

「謂「法度」丈尺。」

【法之經也】法ハ時ノ宜シキニ應ジテ活用スルヲ要トスルモ一定ノ原則ハ之ヲ棄ルヲ得ズ。之ヲ法ノ經ト謂フ。【書經】呂刑篇「刑罰。世輕世重。惟齊非齊。有倫。有要。蔡沈註「惟齊非齊者。法之權也。有倫有要者。法之經也。」

【法之權也】法ハ時ノ宜シキニ應ジテ活用スルコトヲ要ス。之ヲ法ノ權ト謂フ。權ハ權宜、又ハ權法ノ權ナリ。【書經】呂刑篇「刑罰。世輕世重。惟齊非齊。云云。蔡沈ノ註「惟齊非齊者。法之權也。」

【法馬】天祥ヲ以テ物ヲ衡ルニ用フル物、一ニ「砝碼」ニ作ル(キ)ノ部「砝」ニ「砝碼」ニ作ル(碼)ヲ見ヨ

【法網】刑法ノ精密ナルコト羅網ノ如キヲ謂フ。【宋史】太祖紀「太祖曰。堯舜之罪四凶。止從「投竄」何近代法網之密乎。」

【法門】天子諸侯ノ南方ノ門、法令ヲ宣布スル所ナリ。【穀梁傳】「南門者。法門也。」其註「法

門。謂「天子諸侯皆南面而治。法令之所。出入。故謂之「法門」。」

【法律】法律ノ語ハ既ニ戰國時代ヨリ用キラル。【莊子】徐無鬼篇「法律之士。廣治。」【韓非子】飾邪篇「舍「法律。而言「先王。云云。」(同書)卷五)【淮南子】主術訓「法律度量者。人主之所「以執」下。然ルニ法律ノ語ハ法ト律トヲ合シタルモノニシテ各其義ヲ異ニス。【管子】「夫法者。所以興レ功懼レ暴也。律者。所以定レ分止レ爭也。尙ホ秦ノ商鞅ガ魏ノ李悝ガ法經六篇タル六法ヲ改メテ六律ト爲シ漢ノ蕭何ガ此ニ基キテ九章律ヲ制シテ以來律ハ國家ノ刑法ヲ意義スルニ至ルト共ニ法ト律トノ區別益々明ト爲レリ。法ハ廣ク諸般ノ法規ヲ指シ律ハ專ラ刑法ヲ指スニ至ル。【唐律】名例篇「疏議」律者訓レ證。訓レ證也。其註「律之與「法。文雖有殊。其義一也。爾雅釋言曰。坎。律證也。郭璞注云。易坎卦主レ繩。繩律。皆所以證ニ量輕重也。蓋シ疏議ニ「文殊ナルアリト雖モ其義一ナリ」ト曰

ヒ、又郭璞ノ註ニ「禮律皆輕重ヲ度量スル所以ナリ」ト曰フハ法ト律トハ元ト別物ナルモ其公平、正義ヲ基礎トシ罪ノ輕重ヲ量ルヲ本義トスル點ニ於テハ一ナリトノ義ナリ。但シ法ハ一般法規ノ總稱ナリ。故ニ一文一條ノ法ト雖モ猶ホ之ヲ法ト稱スルモ律ハ專ラ刑法典ヲ指シ、一文一條ノ法ハ律ト稱スルコトナシ。是レ注意スベキ點ナリ。(但シ、清末改正新)

法令ヲ法律命令ノ義ニ用フ。

【伴食】官職ヲ有スルモ其能力ナキ者ヲ謂ルノ語ナリ。【舊唐書】盧懷慎傳「開元三年。懷慎與「姚崇」對「李峴」密。懷慎自以爲「吏道不及峴。每事皆推「讓」之。時人謂「之伴食宰相。」宋胡銓上「高宗」封事「伴食中書。漫不可「事」之。」

【伴檔】一ニ「伴當」ニ作ル。奴僕ト言フガ如シ。徽州寧國等ニ此稱アリ。亦「編民」トモ稱ス。清、雍正五年ニ此稱ヲ除ク。

【伴讀】(一)「官名、宋時「南北院伴讀」アリ、宗室ノ子弟ノ教育ヲ掌ル。(二)「元制、大學等ノ聽講生ニ當ル。(陪堂生)ヲ見ヨ

【判】(一)「判ハ判決ノ義、故ニ訟獄判決ノ文ヲ判ト曰フ。【文獻通考】選舉考「唐取レ人之法(中)吏部則試以「政事。故曰「身。曰「言。曰「書。曰「判」トアルノ「判」ハ此義ナリ。(參照)

八六一

【判】 職司ノ稱、大ヲ以テ小ヲ兼スルヲ判ト曰フ。唐代宰相ヲ以テ六軍十二衛事ヲ判シ、宋代宰相ヲ以テ樞密院ヲ判シタルノ類ナリ。

【判押】 文字ヲ書シテ記號ト爲スコトヲ謂フ。宋史「陳恕傳」恕至三都第一請判押。

【判官】 唐代節度、觀察、防禦諸使ノ屬官トシテ判官ヲ置キ之ヲ節度判官、觀察判官ト曰フ。杜氏通典「節度使有二判官二人。分判倉庫、兵、刑、四曹事。采訪使有二判官二人。分判倉庫、六行、及州縣簿書。宋代ハ節度、觀察、防禦、團練、宣撫、安撫、制置、轉運、提刑、掌平ノ諸使皆判官アリ以テ公事ヲ判ス。元以後之ヲ置カズ。(歴代職官表)

【判決】 裁判ヲ爲シ其曲直ヲ決定スルコトヲ謂フ。【清律】刑註「制斷其事曰判。論其罪曰判決。」

【判戸部】 戸部ノ判事、唐代ニ於テハ頗ル勢力ヲ有シ、度支使、鹽鐵使ト共ニ相稱シテ之ヲ「三司」ト謂フ。(歴代職官表)

【判語】 判決文ヲ謂フ。湖山野錄「張忠定公詠。每斷事。必有判語。讀以示之。」

【判妻入子】 判妻ハ人ニ出サレタル妻(即離婚セラ)ヲ娶リテ妻ト爲スコトヲ謂フ。【周禮】義舉要「判妻入子所出之妻。」入子ハ婦女再嫁ノトキ其女子ヲ携ヘテ後夫ノ家ニ入りタル者ヲ謂フ。同書「判妻入子其女入子後夫之家者。」(同書)

【判書】 判書ハ「周禮」秋官司士職、凡有責者。有判書。以治則聽。トアルニ出ヅルノ語。金錢ノ貸借ニ關スル證書ノコトヲ謂フ。其判ト云フハ判ハ半ト同義即チ一札ヲ二券ニ作り其中央ヲ割キテ各其一ヲ所持スルヲ以テナリ。(判書ノ部、質)

【判署】 官文書ニ年月日ヲ書シ署名捺印スルコトヲ謂フ。【明律】「清律」吏律公式篇、同僚判署文案ノ條、凡應行官文書。而同僚官代判署者。杖八十。云云。(明律卷三)【清律】ハ

特ニ判署ニ對シ「判日署書名」ト脚註ヲ附ス。

【判署刑殺】 判署ハ審判署理ノ義、即チ度典祭禮ヲ舉グル日ニハ判署ヲ審斷シ刑罰ヲ執行スルコトヲ禁ズルヲ法トス。(下條ヲ)

【判署刑殺文書】 (刑殺ノ文書) 刑ハ五刑(但シ、死)殺ハ死刑ナリ。即チ刑殺執行ニ關スル文書ニ署名捺印シテ刑殺ノ執行ヲ請フコトヲ謂フ。令祭日ニハ刑殺ヲ行フコトヲ禁ズルノミナラズ、其文書ニ署名捺印スルコトヲモ之ヲ禁ズ。(明律卷十一、清律卷十五、禮律祭享ノ條)

【判正】 是非曲直ヲ斷定スルコトヲ謂フ。【後漢書】其有爭訟。輒求判正。

【半印勸合】 判印ヲ捺シテ兩分シタル書札

【半衣】 婦人ノ服ヲ謂フ。古ハ婦女ノ衣服ハ衣裳相連リタルガ秦ノ始皇帝宮人ニ詔シテ皆彩衣ヲ服セシム。之ヲ「半衣」ト謂フ。(中華古)

【反異】 被告人ガ前ノ口供ヲ變更スルコトヲ謂フ。【明律】「清律」刑律斷獄篇、主守教因反異ノ條同文ヲ以テ、凡司獄官獄卒。教令罪囚。因反異。變亂事情。及與通傳言語。有所增減其罪。者。以故出入人罪論。(明律卷二十四)

【反間】 兵法上ノ用語、二義アリ。一ハ敵ノ間諜ヲ利用スルコトヲ謂フ。【孫子】用間篇、反間者。因其敵間而用之。其註「杜牧曰。敵有間來窺之。我必先知之。或厚賄誘之。反爲我間。或伴爲不覺。示以僞情。而縱之。則敵人之間。反爲我間也。」(尙子孫子ハ間ニ五ノ間、反間、死間) 他ノ一ハ僞リテ敵國ニ降リ歸シ其國ノ用ヲ爲シ陰ニ自國ノ爲メニ其内情ヲ報道スルコトヲ謂フ。【史記】燕世家「說王仕レ齊爲反間。欲以亂齊。」

【反拷】 告發ニ因リテ被告人ヲ訊問シ自白セザルトキハ拷問ヲ爲スコトヲ得ルモ拷問ニハ

兩者ヲ對査スルノ用ニ備フ。(カレノ部、勘合ヲ見)

【半斤八兩】 輕重相等シキコトヲ謂フ。【五燈會元】秤頭半斤。秤尾八兩。又一箇重半斤。一箇重八兩。

【半子】 女婿ノコトヲ謂フ。【唐書】德宗詔「威安公主下嫁。可汗上書恭甚。言昔爲兄弟。今爲半子。」

【半刺】 郭佐ノ屬、長史通判ノ如キ均シク、半刺ト稱ス。【杜甫詩】諸侯非棄擲。半刺已翻翔。

【半牀】 北齊ハ一夫一妻ヲ以テ、一牀ト爲シ、一牀ノ租調ヲ納メシメ未ダ娶ラザル者ヲ「半牀」ト爲シ、半牀ノ租調ヲ納メシム。(杜氏通典)

【半稅單】 清、咸豐八年及同十一年ニ各國通商章程ヲ訂正シ、内貨外貨トテ問ハズ、各國ニテ稅ヲ納ムルノ類ヲ避ケントスル者ハ一時ニ每百兩ノ貨物ニ付キテ銀二兩五錢ヲ納ムベキモノト爲シ、之ヲ名ヅケテ「子口半稅」ト曰ヒ、其納稅者ニ給スル證明書ヲ「半稅單」ト

曰フ。(清國行政第六卷)

【半丁】 晉制、庶民年十六歲以上ヲ「全丁」ト爲シ十三歲以下ヲ「半丁」ト爲ス。

【半分佐領】 壯丁ヲ處理スル軍隊、世管佐領、公中佐領、合管佐領、五管佐領、滋生佐領等ノ別アリ。中ニモ滋生佐領ハ戶口ノ増加ニ因リテ編成スル佐領ナルガ故ニ若シ其壯丁ノ數定員ニ滿タズ、一佐領ヲ編成スルニ至ラザルトキハ之ヲ「半分佐領」ト稱ス。(清國行政第六卷)

【半分莊】 莊園ノ一種別、面積ノ最モ小ナルモノヲ謂フ。(清國行政第五卷)

【半兩】 秦代ノ錢ノ名、重サ半兩、故ニ文ニ「半兩」ト書ス。秦ノ下幣ナリ。(清國行政第五卷)

【半踏打尖】 普通人ガ旅行又ハ遠足等ヲ爲シ中途ニ於テ食事ヲ爲ス所ヲ謂フ。(皇朝政考、中伏ノ部)

一定ノ制限アリ限滿チテ自白セズ犯罪ノ證據ナキトキハ保證人ヲ立テ被告人ヲ放免シ、其告發人ヲ誣告反坐ニ處シ、尙ホ被告人ニ加ヘタル拷狀ヲ發告人ニ加フ。之ヲ「反拷」ト謂フ。【唐律】斷獄篇「拷囚限滿不首」ノ條「諸拷囚限滿而不首者。反拷告人。」(同書卷二十九)

【反裘負薪】(裘ヲ反ヘシ)賦稅ヲ食リテ民ヲ苦ムルコトニ喩フ。【大學衍義補】魏文侯時。租賦増ニ倍于常。或有二賈者。文侯曰。今戶口不加。而租賦歲倍。此由二課多也。夫食ニ其賦稅。不レ愛レ人。此虞人反裘而負薪也。徒惜其毛。而不レ知二皮盡而毛無レ所傳。(同書卷二十二)

【反逆】 刑律十惡罪ノ謀反、謀大逆ノ二罪ヲ合稱ス。罪惡ノ最モ大ナルモノナリ。(ノ部)【謀反】及ビ【謀大逆】ヲ見ヨ

【反逆縁坐】 謀反、大逆ヲ犯シタル者ノ家族及ビ親族ニ罪ヲ及ボシテ之ヲ坐スルヲ「反逆縁坐」ト謂フ。其範圍ハ【明律】【清律】刑律賊盜

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

有ニ反站。晉氏亦有ニ反站。云云

【反服】 尊長(尊屬)ガ卑幼(卑屬)ノ死亡シタルトキ服スル喪服、是レ卑幼ガ尊長ノ爲メニ服スル喪ニ報フルナリ。故ニ法例ノ上ニテハ「報服」ト曰フヲ例トス。(明律清律)

【叛】 (部首) (韻) 離叛ノ義、本國ニ畔キテ他國ニ奔ルコト。又本國ニ背キテ反旗ヲ翻ヘス等亦叛ナリ。【說文】「半也。从レ半。反聲。離叛也。」「廣韻」「奔、他國也。又畔ト通ズ。背叛ノ義ナリ。」「漢書」高帝紀「漢王并三關中。而齊梁畔之。」「叛漢」背叛離散ノ謂ナリ。【陳書】「文註判漢。」

【叛亂罪】 民國五年三月十九日政府公報登載陸軍刑事條例第二編第一章ニ掲グル罪、即チ國憲ヲ紊亂スルノ罪ナリ。

【斑】 (部首) (韻) 斑銅鏡

【斑銅鏡】 礦物學上ノ名詞、銅鏡ノ一種、惟

【斑】 (部首) (韻) 斑銅鏡

【斑銅鏡】 礦物學上ノ名詞、銅鏡ノ一種、惟

【斑】 (部首) (韻) 斑銅鏡

【斑銅鏡】 礦物學上ノ名詞、銅鏡ノ一種、惟

【斑】 (部首) (韻) 斑銅鏡

【斑銅鏡】 礦物學上ノ名詞、銅鏡ノ一種、惟

【反在室】 斬衰三年ノ喪ハ五服中最モ重キ喪服、子女共ニ父母ノ爲メニ服ス。女既ニ出嫁スレバ「齊衰不杖期」ニ服ス。出嫁ノ女離婚シテ實家ニ復歸シタル者、之ヲ「反在室」ト謂ヒ、復タ斬衰三年ノ喪ニ服ス。(清律)

【反殺】 既ニ一人ヲ殺シ更ニ其子弟ヲ殺シテ後患ヲ絶ツコトヲ謂フ。【周禮】調人ノ制「凡殺レ人者。有ニ反殺者」其註「反。復也。復殺レ之者。此欲ニ除レ害弱也。」

【反正】 (撥亂反正) (ヲ見ヨ)

【反道】 (記掃反道) (ヲ見ヨ)

【反站】 諸侯ガ和會シテ宴ヲ備ストキハ兩楹(二柱)ノ間ニ土ヲ積ミテ造リタル爵ヲ置ク事アリ、之ヲ「站」ト謂フ。酒ヲ飲ミ獻酬ノ禮ヲ行ヒテ之ヲ畢レバ爵ヲ其上ニ收ム、之ヲ「反站」ト謂フ。【論語】「八佾舞。邦君爲ニ兩君之好。」

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

【反逆縁坐流】 (坐流ヲ見ヨ)【反獄】 在獄犯人ガ強ク恃ミ來ヲ恃ミテ兇暴ヲ逞クシ監守ヲ奮撃シテ公然牢舎ヲ破出スルコトヲ謂フ。【明律】刑律、捕亡篇「獄囚脫監及反獄在逃」ノ條「若罪囚反獄。在逃者。皆斬。」【清律】ノ附註「若被禁罪囚。有恃強恃來逞兇奮擊。公然奪門自出。反出。云云。」(明律卷二十七清律卷三十三)

【反坐】 他人ヲ誣告シタル者ハ被誣告者ニ科スル罪ヲ以テ之ニ科スルコトヲ謂フ。【唐律】開除篇「誣告反坐」ノ條アリ。【諸語】告人ノ者。反坐。ト規定ス。(同書卷二十三)【明律】ハ誣告ハ其罪ノ種類ニ因リテ誣告者ア二等又ハ三等ヲ加ヘテ罰スルガ故ニ「反坐」ノ二字ヲ除キテ刑律

篇「謀反大逆」ノ條ニ同文ヲ以テ「祖父。父。子。孫。兄弟。及同居人不レ分ニ異姓。及伯叔父。兄弟之子。不レ限ニ籍同異。年十六以上。不レ論ニ篤疾廢疾。皆斬。云云」ト規定ス。(明律卷十八清律卷二十二)

ダ古銅ニ比シテ色少シク赤ク、褐色ノ斑紋アリ、故ニ「斑銅鏡」ト曰フ。製銅ノ原料トシテ黃銅鏡ニ亞グモノナリ。

【斑白】 斑ハ雜色即チ頭髮ノ黑白相雜ハルコト、六十前後ノ老人ヲ謂フ。【禮記】王制篇「斑白者。不レ提挈。」【孟子】梁惠王篇「斑白者。不レ負。戴道路。」

【斑礪石】 礪石ノ一種、黑白斑紋ノ岩石ナリ故ニ此名アリ。一ニ赤、飛白岩トモ稱ス。

【板】 (部首) (韻) 木板ニ刻シ印刷スルコトヲ謂フ。(下條「板本」引用書ヲ見ヨ)

【板官】 列任官ト云フガ如シ。晋宋ノ時代ハ大臣皆自リ屬官ヲ任用スルコトヲ得、其際ハ板(札)ヲ以テ之ヲ召ス。故ニ之ヲ「板官」ト謂フ。(丹鉛總錄)

【板子】 竹片ヲ以テ作りタル刑具、拷問ノ用ニ供ス。【六部成語註解】竹片。以擊レ人之刑也。

【板責圈禁】 清制、宗室覺羅ノ犯罪ニシテ刑律ニ照シ枷徒以上軍流ニ該當スルトキハ之ニ代フルニ此刑ヲ以テスルモノニシテ、即チ板子ヲ以テ之ヲ擊チ、然ル後ニ監禁スルコトヲ謂フ。(清律刑律附例及比會典刑部)

【板本】 木板ノ印刷本、唐代ニ始マル。【事物紀原】筆談曰。板ニ印書籍。唐代尙未ニ盛爲レ之。自馮道始印五經之後。典籍皆爲レ板本。即唐始爲レ板印一矣。五代會要曰。後唐長興三年二月。中書門下奏請。依三石經文字。刻二九經印板一也。(四)

【板輿】 乘物ノ名、【資治通鑑】梁紀「章叡每戰。常乘レ板輿。」後世ハ在官者ガ其親ヲ迎ヘテ養フノ詞ト爲ス。【岑參詩】「榮祿上及レ親。之官隨レ板輿。」トアルニ取ル。

【板釐】 藥材ニ課スル釐金、(リ)ノ部「釐」又之ヲ「藥材釐金」トモ謂フ。(清國行政法第六卷)

泮（部首）（韻）

泮ハ半又ハ頻ニ通ズ。

【泮宮】 一ニ頻宮ニ作ル。周代ニ於ケル諸侯ノ國學（國都ノ學校）ナリ。【禮記】王制篇、大學

在郊。天子曰泮宮。諸侯曰泮宮。諸侯ハ國

學トシテハ泮宮ノ外設立スルコトヲ得ザリシ

モ、魯ノミハ周ノ王室ト特別ノ關係ヲ有シタ

ルガ故ニ、泮宮ノ外「米廩」「虞庠」ノ二學ヲ設

立スルコトヲ得タリ。（杜氏通典及ビ）

汙（部首）（韻）

【汙祭】 人ヲ招キテ食饗ヲ開クトキハ先ツ祭

ヲ行ヒテ之ヲ爲ス。是レ祭ヲ先ニスルコトヲ

示スナリ。汙祭ハ其祭ノ場所ヲ遠ク離ル、コ

ト、即チ不恭ノ意ナリ。【左傳】襄公二十八年

「叔孫穆子食封慶。封慶汙祭。」其註「禮食有

祭。示レ有レ所レ先也。汙祭遠ニ故所ニ祭。不レ共。

共ハ古ノ恭字ナリ。

【汙掃】 儀式ヲ舉グルニ際シ廣ク式場ヲ掃除

スルコト即チ大掃除ノ謂ナリ。【禮記】小儀篇

「汙掃曰掃。其疏ニ汙廣也。大賓來。主人宜

廣掃之。但シ、異説アリ。（下條ヲ）

【汙掃反道】 祭祀ヲ行フトキ、先ツ水ヲ洒

ギテ後ニ掃フコトヲ「汙掃」ト曰ヒ、道路ノ古

土ヲ割リテ新ナル清土ヲ其上ニ置クヲ「反道」

ト曰フ。（禮記郊特牲及ビ）

【汙拜】 特拜（各人ガ各自ニ）ニ對スル語、或

ル儀式ノ席上ニ於テ大夫内子（大夫）及ビ士ノ

妻ガ衆賓ニ向ヒテ一齊ニ拜禮ヲ爲スコトヲ謂

フ。【禮記】大夫内子。士妻。特ニ拜命婦。汙拜

之。汙ニ拜衆賓。謂レ不レ特。

燔（部首）（韻）

【燔柴】 天ヲ祭ルトキノ儀式、燔ハ燂クナリ。

柴ヲ壇上ニ積ミ牲玉ヲ柴下ニ加ヘテ柴ヲ燂キ

其氣ヲ天ニ達セシムルヲ謂フ。【禮記】祭法篇

「燂ニ柴於壇上。祭レ天也。」陳澧ノ註「燂。燂也。

種ニ柴於壇上。加ニ牲玉於柴上。乃燂レ之。使ニ氣

達ニ於天。此祭レ天之禮也。」

【燔黍】 穀食ハ黍ヲ燔キテ食スルニ始マリ、

禮ハ又飲食ニ始マル。飲食儀式ノ開始ノ義ナ

リ。【禮記】夫禮之初。始ニ諸飲食。其燔黍稷

豚。云云。

【燔燎】 庭火ヲ燔キテ天ヲ祭リ天ニ告グルコ

トヲ謂フ。【後漢書】光武傳「燔燎。告レ天。禮ニ子

六宗。望ニ子孫神。」

版（部首）（韻）

【版】 （一）竹篋ヲ以テ作りタル板、携問ノ用

ニ供スル刑具ナリ。（二）戶籍ヲ版ト曰フ。【周

禮】天官小宰「八成略三聽三閱里。以ニ版圖。」註

版。戶籍也。又、宮伯「掌王宮之士庶子凡在版

者。註「版。名籍也。」

【版位】 神位ヲ謂フ。位牌ト云フニ同ジ。（宋

要會）

【版尹】 戶籍ヲ掌ル官吏ヲ謂フ。【柳宗元、文】

「其下有二胥吏。又其下皆有二胥夫版尹。以就

役。

【版克】 今ノ銀行業ヲ謂フ。

【版使】 戶部ノ官吏ヲ謂フ。（嘉話）

【版籍】 一家ノ存立ヲ證明スル簿冊、即チ戶

籍ノコトヲ謂フ。【唐書】「今日口多少。不レ減ニ

元嘉。而版籍頓闕。」

【版圖】 版ハ戶籍ノ義、圖ハ地圖ノ義ナリ。

民間ニ於テ土地ノ争訟起リタルトキハ、其所

有者ノ戶籍ト土地ノ面積トヲ明ニセル地圖ト

ニ就キテ聽斷シタリ。【周禮】小宰職「聽三閱里

以ニ版圖。」

【版法】 行政ニ關スル要點ヲ版ニ刻シテ常法

ト爲シタルモノヲ謂フ。【管子】第二卷ニ版

法篇アリ。其註「謂レ遺ニ擇政要。載ニ之。以

爲ニ常法。」

【版簿】 戶籍簿ノコトヲ謂フ。【事物紀原】「周

禮司民。掌レ登ニ萬民之數。自レ生レ齒以上。皆書ニ

於版。大宰聽三閱里。以ニ版圖。今州縣有ニ丁戶版

簿。即此蓋始ニ於周也。」（卷）

犯（部首）（韻）

【犯姦】（姦ヲ）支那法ニ於テ姦ト言フハ夫婦

以外ノ男女ノ姦淫ヲ總稱ス。姦淫ニ數種アリ。

和姦、強姦、刁姦、調姦、欺姦、相姦、輪姦等

（各本條）是レナリ。刑律ハ之ヲ總稱シテ「犯

姦」ト曰フ。（明律卷三十五）

【犯姦者無首從】（犯姦者ハ）凡ソ共犯ハ皆

首從ヲ分チテ其罪ヲ定ムルヲ通則トスルモ惟

ダ犯姦ノミハ首從ヲ分タザルヲ原則トス。【讀

律提綱】「凡科罪皆分首從。惟犯姦。則無首

從之分。蓋既姦汚婦人。或輪姦一婦。或姦二

婦。均此姦罪。何首從之有。即先後同姦一婦。

亦各科各罪。不レ分首從。」（學海叢刊）

【犯姦及殺傷人者不准首】（姦ヲ犯シ及

シタル者ハ）凡ソ十惡以外ノ犯罪ハ皆自首ス

レバ刑ノ減免ヲ准シ、又犯人ノ親族家族ニシ

テ容隱（本條ヲ）ヲ得ル者代リテ自首スレバ本

人ノ自首ト同一ノ效力ヲ認ムルモ犯姦及殺

傷罪ヲ犯シタル者ハ自首ヲ准サズ。首ハ自首

ノ首ナリ。【讀律提綱】「凡犯罪皆得ニ自首。或親

屬得ニ相容隱之人。代爲ニ之首。雖ニ盜賊一亦得

以自首減免。惟犯姦及殺傷人者。不レ准レ首。云

云。（學海堂叢）

【犯諱】（諱ヲ）（ハノ部）（廟）

【犯罔禁罪】（罔禁罪）清制、宗室覺羅ニシテ

罔禁罪（禁レテ見ヨ）ヲ犯シタルトキハ直ニ

其頂戴（冠ノ）ヲ革去ス。（清律卷三三例、應

【犯罪私完】 番例條款三十三條ニ定ムル

所、凡ソ犯罪ノ發覺シタル時ハ私議スルコト

ヲ得ズ。私議シテ完結スルヲ「犯罪私完」ト曰

ヒ之ヲ謂ス。

【犯罪存留養親】 犯人ノ外ニ親ヲ養フ者ナ

キトキハ刑ノ執行ヲ猶豫シテ親ヲ養ハシムル

コトヲ謂フ。是レ支那法特色ノ一ニシテ【唐

律】「明律」及ビ「清律」共ニ名例篇ニ規定スル

所ナリ。

ル者ニ對シ其身分用等ヲ訊問シ更ニ其荷物ヲ検査スルコトヲ謂フ。(清律兵部)

【盤查】 盤檢ト同義ナレドモ盤查ノ語ハ多ク米穀等ヲ検査スル場合ニ使用ス。(清戶部)

【盤水加劍】 (盤水劍) 【大戴禮】ニ載スル所ニシテ、周代ニ於テハ大夫罪ヲ犯セバ法ノ制裁ヲ待タズ(刑律ニハ其罪) 自ラ死裝束ヲ爲シ盤ニ水ヲ入レ、之ニ劍ヲ加ヘテ開ニ至リ、自裁シテ罪ヲ謝センコトヲ謂フ例トシタリ。

【盤纏】 旅費ト云フガ如シ。

【盤剝】 大船ニ重載セル米ヲ卸シテ小船ニ分載スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「取下之意。將大重載之米。取出分載於小船之上。」

【盤費】 旅費ノ義ナリ。但シ盤費ハ盤脚費ノ略語ナルガ故ニ、宿泊料等ニ要スル費用ヨリモ主トシテ脚夫等ニ支給スル費用ヲ指スベシ。

【鑿】 (部首) (元韻)

【鑿石】 明鑿ノコトヲ謂フ。(鑿石)

【鑿稅】 明鑿ニ課スル稅ヲ謂フ。

【鑿石】 六角系ノ結晶體ニシテ白、黃、赤等ノ色アリ。火山石ニ産ス。此ヲ以テ明鑿ヲ燒製ス。山西省ノ壽陽、山東省ノ益都、湖南省ノ瀏陽、河南省ノ彰德等ノ處ニ産出ス。

【鑿利】 明鑿ノ利殖ヲ謂フ。唐ハ晋州ニ平陽院ヲ置キテ鑿利ヲ收メ開成三年之ヲ罷メテ鑿山ヲ州縣ノ管理ニ屬セシム。宋ノ太祖ノ時ハ晋州ニ鑿務ヲ置キ商人ニ金帛、絲、綿茶及ビ綿錢ヲ輸セバ官鑿ヲ以テ之ヲ償フコトヲ許ス。蓋シ宋ノ太祖ガ鑿禁ヲ設ケタルハ契舟ノ侵害ヲ防グ爲メナリ。其後鹽酒ヲ并セテ鑿(官ノ)シタルハ其本意ニアラズ。(大率行二十)

【鑿】 (部首) (元韻)

【鑿】 (下條ヲ)

【鑿】 (見ヨ)

【繁纓一就】 繁ハ馬ノ腹帶、纓ハ鞅(ムナ)ナリ。就ハ路馬ノ飾ニシテ五色ヲ匝スルヲ一就ト曰フ。【禮記】禮器篇「大路。繁馬腹帶。纓鞅也。一就。五色一匝曰就。」陳澧ノ註「繁纓。在馬腹前。染絲而織以爲鞅。繁。別。纓。皆以此爲之。」云云。丘濬ノ解「就者。言路馬之飾也。周禮巾車。言繁纓。禮記左傳。皆作繁纓。云云。(大學衍義補)

【繁冠】 武冠ノ別名、一ニ「大冠」トモ稱ス。武人之冠也。

【繁劇】 多忙ニシテ且ツ責任ノ重キ官職ヲ謂フ。郭璞、文「以無用之才。管繁劇之任。」

【繁缺】 職務繁劇ナル官職ヲ謂フ。(清國行政法)

【繁利息】 (利息ノ部) 複

【范宣子之刑書】 范宣子ノ刑書ハ其内容ヲ傳フルモノナキモ【左傳】昭公二十九年「晉趙

鞅有實。帥師城汝濱。遂賦晉國一鼓鐵。以錫刑鼎。著范宣子所爲刑書一矣。」トアルニ依リテ其刑書アリシコトヲ推知スベシ。魯昭公ノ二十九年ハ晉ノ頃公ノ十三年ニ當リ、范宣子ヲ距ル既ニ久シ。且ツ范宣子ノ事蹟ニ徴スルニ刑書ヲ作りタルコトナシ。此間ノ消息甚ダ不明ナルモ、范宣子ノ祖范武子ハ公族ヲ以テ晉ノ大傳タリシ人ニシテ、趙盾以後ノ國政ハ范武子及ビ其子孫ニ依リテ執行セラル。殊ニ范宣子ハ晉ノ厲公ノ時(魯成公)ヨリ平公ノ十年(魯ノ襄公ノ二十年ニ當ル)マデ晉ノ國政ヲ執ルコト前後殆ド三十年ノ久シキニ互ル。(厲公ノ時ハ周ノ簡王ノ時代ニシテ)故ニ前代ノ法制ハ其執政時代ニ修正セラレタルモ少カラズ、成公十八年ノ傳「使淵濁爲大傳。使傅范武子之法。」トアルハ其一例ナリ。然レドモ【左傳】ノ註「范宣子。制刑書。施於晉國。自使朝廷承用。未嘗宣示下民。」トアルニ依レバ范宣子ノ手ニ成リタル刑書アリ

シコトヲ知ルベシ。

【范鎔】 金錢ヲ鑄造スルコトヲ謂フ。【唐書】百官志「少府監掌治鑄。掌范鎔金銀銅鐵。」

【萬葉】 萬世、又ハ萬代ト云フニ同ジ。【晉書】武帝紀「見土地之廣。謂萬葉而無疆。」

【萬歲】 本ハ巫祝ノ祝詞、君ノ長壽ヲ祈ルニ用フ。【韓非子】「巫祝之祝之曰。使君千秋萬歲。」漢以後ハ專ラ天子ノ壽ヲ賀スルノ詞ト爲ル。【漢書】武帝紀「史卒成問呼萬歲者。云云。【無門關】宋、釋、慧開ノ序「印行拈提佛祖機緣四十八則。祝延今上皇帝聖躬萬歲萬歲萬歲萬歲。云云。」清末以後ハ亦普通祝詞ノ詞ト爲ル。

【萬歲後】 死後ト云フノ謂ナリ。【史記】高祖紀「吾雖都關中。萬歲後。吾魂魄猶樂思沛。」

【萬歲】 壽人萬歲千秋之後。誰與此樂一矣。此等天子自ラ言フナリ。【漢書】禮方進傳「禮尊以三星變。實三方進。云。萬歲之期近。慎朝暮。是レ方進ノ死ヲ指スナリ。

【萬歲三呼】 萬歲ハ三呼ヲ以テ式トシ且ツ山上ニ登リテ高唱スルヲ例トス。(山呼)

【萬歲萬歲萬歲】 (萬歲後)

【萬壽節】 本ハ汎ク天子ノ壽ヲ稱シテ萬壽節ト爲ス。【詩經】ノ「萬壽無疆」ノ義ニ取ル。唐開元以後始メテ天子誕生ノ令節ニ用フ。我天長節ニ當ル。

【萬乘之君】 (下條ヲ)

【萬乘之國】 乘ハ兵車ノ一對、(正車、副車ト曰)畿内ハ地方千里、戰時ニハ兵車萬乘ヲ出ス。(天子)故ニ其國ヲ「萬乘之國」ト曰ヒ、又其君ヲ「萬乘之君」ト曰フ。【孟子】梁惠王篇「萬乘之國。試其君者。必千乘之國。云云。」又同書公孫丑篇「不レ受ニ於楊寬博。亦不レ受ニ於萬乘之君。云云。」【漢書】東方朔傳「蘇秦張儀。一萬乘之主。而都二卿相之位。澤及後世。云云。」(其制ノ詳細ハ孟子大全卷一補註ニアリ茲ニ略ス)

【萬世不易】 永遠變ラザルコトヲ謂フ。荀子正論篇、士大夫以爲道。百姓以爲成俗。萬世不能易也。『六韜』萬代不易。

【萬里之任】 遠方ノ國ヲ治ムルノ任、即チ地方長官ノ任ナリ。『魏文帝文』授之以萬里之任。任之以一方之事。

【萬里侯】 王城ヨリ遠ク離レタル地方ニ封ゼラレタル諸侯ヲ指稱ス。『漢書』班超傳、燕領虎頭。飛而食レ肉。萬里侯之相也。

【蕃夷】 番夷ニ通ズ。『番夷』(部參照) 同(元)。

【蕃樂】 凶年ノ時ニ際シ、樂器ヲ閉テ用キザルコトヲ謂フ。『周禮』(政ノ一) 藩、息ムナリ。

【蕃割】 蕃界ニ出入シテ生蕃ト物品ヲ交換スルコトヲ業トスル者ヲ謂フ。『私法』(臺灣)。

【蕃酋】 蠻族部落ノ長。『宋史』李參傳、蕃酋藥家作亂。討平之。

【蕃餉】 清國時代、臺灣府ガ蕃人ニ對シテ課シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【藩屏】 一ニ蕃屏ニ作ル。主國ノ藩籬ト爲リテ之ヲ擁護スルコトヲ謂フ。『左傳』僖公二十四年「封建親戚。蕃屏周」。蓋シ此語ハ「詩經」大雅、板篇「价人維藩。大師維垣。大邦維屏。云云」ニ本ヅクナリ。

【藩籬】 柴竹ヲ編ミテ宮室ノ屏蔽ト爲スコト、因テ防護ノ義ト爲ス。『左傳』(疏)。

【販易備作】 『生戸』ヲ見ヨ。『販仔』 一ニ走水ト稱シ、卸賣業者ヨリ商品ヲ買入レテ小賣業者ニ販賣スル行商ヲ謂フ。『私法』(臺灣)。

【販賣罌粟種子罪刑令】 民國三年十二月二十三日政府公報ニ登載スル法令、罌粟種子ハ「ケシ」ノ種ナリ。是レ亞片製造ヲ禁ズル必要ニ因リテ發シタル法令ナリ。違フ者ハ五等有期徒刑、拘役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス。『販賣煙酒特許牌照稅條例』 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【販賣煙酒特許牌照稅條例】 民國三年

【蕃兵】 宋ノ太宗及ビ眞宗ノ時塞下内(國境)ノ諸部落ニ屬スル兵隊ヲ謂フ。

【藩籬】 柴竹ヲ編ミテ宮室ノ屏蔽ト爲スコト、因テ防護ノ義ト爲ス。『左傳』(疏)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

【蕃租】 南方支那ヨリ臺灣へ移住シタル者ガ、土著蕃人(熟)ト協約シテ其占有ニ係ル土地ノ給出ヲ受ケ、開墾後其報償トシテ年年支拂フ所ノ租穀ヲ謂フ。故ニ其關係ハ普通ノ墾戶(地主)ト佃戶(小作)トノ關係ニ異ナル理ナキモノ種ニ優劣ノ差アル結果、蕃人ノ墾戶ハ漢人ノ墾戶ニ比シ早ク其實權ヲ失ヒ、佃戶タル漢人ハ佃チニシテ業主ノ權利ヲ獲得シ蕃人シタル人頭稅、今其由來ヲ按ズルニ、蘭人時代蕃社ニ對シ、鹿皮其他ノ物品ヲ貢獻スベキ義務ヲ負ハシタルヲ初トシ、鄭氏時代亦之ヲ變用シ、稀ニ米穀ヲ徵收シタリ。清國時代ニ於テハ蕃社内ノ人口ヲ計リ、壯蕃、少壯蕃、壯蕃婦ニ分チ、之ニ對シテ毎年數ヲ按シテ米ヲ徵收シ雍正四年米ヲ銀ニ折シテ徵收シ、乾隆二年以後改メテ「蕃丁銀」ト爲シタリ。『府誌』(福建)。

【蕃薯】 甘藷ノ別名ナリ。明ノ萬曆中國人(福建)之ヲ外國ヨリ得テ瘠土ニ播殖スルモノニ係ル(國小)。

二(七)ノ部

分夫婦之駒一者。游牧之馬。至是別之。止其妊育。

【頰白】 症又ハ斑ニ通ズ。斑白ニ同ジ。(白) 斑ヲ見

【飯】 (部首) (頤)

【飯玉】 喪禮ノ一、玉ヲ碎キテ米ヲ雜ヘ之ヲ死者ノ口中ニ納レルコトヲ謂フ。(周禮)

【飯銀】 官吏俸給ノ一種、養廉銀ノコトヲ謂フ。(清會典)

【飯銀庫】 清制、内閣分課ノ一、滿洲侍讀、典籍中書内ヨリ若干名ヲ派シ、内閣ノ會計ヲ掌ラシムル所ナリ。

【飯廠】 粥ヲ煮テ貧民ニ給與スル所ヲ謂フ。明代ヨリ既ニ其設アリ。清代之ニ因ル。(平略)

【飯用米貝】 飯玉ニ同ジ。(飯玉) (卷五、下)

【備】 (部首) (頁)

【備安庫】 平時ニ米穀ヲ儲蓄シテ荒凶ノ年ニ備フル倉庫ヲ曰フ。【宋史】 辛亥疾知福州。積錢至五十萬緡。防曰備安庫。謂閩中土狹民稠。歲凶則糴於廣。今幸連稔。米出即糶之。候秋價賤。以備安錢糶二萬石。則有備無患矣。

【備恪】 前朝ノ後嗣ニ爵位ヲ賜フコトヲ謂フ。【清會典】 五日備恪。以彰勝國。其附例、雍正二年詔訪明代後嗣。得二顯白旗漢軍知府朱之蓮等六人。引見奉旨。封朱之蓮爲一等侯。世襲。

【備償】 他人ノ物件ヲ毀損若クバ紛失シタルトキ、其原物ト同一ノ實質形體ヲ備ヘタル物件ヲ得テ賠償セシムル義ニ使用ス。【唐律】 名例篇「犯罪未發自首」ノ條、於物不可備償。(卷五、下)

【備償如法】 (備償法ノ) 官吏ガ官物ヲ備用シテ之ヲ亡失シタルトキハ原物ト同様ノ物ヲ備ヘテ賠償セシムル之ヲ「備償如法」ト謂フ。【唐律】 厩庫篇「假請官物不還」ノ條「若亡三失所假者。自言三所司。備償如法。云云」(卷十)

【備取】 試験ノ成績ヲ調査シ、及第者ヲ選取スルトキ、先づ優等者ヲ取り之ヲ「正取」ト稱シ、其殘部ヨリ幾人ヲ抜キテ及第者事故缺乏等ノ場合ノ豫備ト爲ス之ヲ「備取」ト稱ス。(清科場)

【備贖沒入物】 (没入之物) (見)

【備設】 清朝ノ荒政、荒凶ノ歲「乾隆會典」十二目ヲ定メ卷十九ニ規定ス。【嘉慶會典】 又別ニ十二目ヲ定ム。備設ハ其第一目ナリ。(十)

【備身府】 官署ノ名、清代初メ左右備身府ヲ

二(八)ノ部

【卑】 (部首) (頁)

【卑幼】 古代五刑ノ一、鼻ヲ切ルノ刑。【書經】 呂刑篇「制罪之屬千」。漢文帝ノ時之ヲ廢シテ代フルニ笞三百ヲ以テス。景帝五年減ジテ二百ト爲シ中六年又減シテ一百ト爲ス。(紀同書景帝)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

【卑幼】 (部首) (頁)

ト改ム。(フノ部「編」)

【悲田養病坊】(フ見ヨ)

【未】(部首)(未)

【未嘗】物ト其價ト相等シキヲ「嘗」ト曰ヒ物

ヲ賣リテ價ニ及バザルヲ「未嘗」ト曰フ。唐律

釋文「物與價等。謂之嘗。」(卷二)又、同書未

嘗ノ解「賣物不レ及レ價。」(卷一)

【未入流】官吏ノ官等ガ未ダ九品(品ハ我國

品ヲ最下トス。從九)ニ至ラザルモノヲ曰フ。猶ホ

唐制「流外」ノ如シ。此制ハ開始メテ此級ヲ置

ク。清ハ之ニ因ルナリ。(官ヲ見ヨ)

【未了公案】公務ヲ決スルニ甲乙二説ヲ爲

シ即時ニ一決セザルノ稱ナリ。【方回可言集

考】文公成「公。於ニ思無邪。各爲一説。前輩

謂之未了公案。」(備考)(フ見ヨ)

【柴蘇】(蘇ヲ柴)刑罰ノ目的ハ民ヲシテ其常

性ノ美ヲ幫助セシムルニ在ルノ謂ナリ。【書

經】呂利爲「穆穆在レ上。明明在レ下。灼ニ于四方。

罔レ不レ惟德之勳。故乃明ニ于刑之中。事ニ又于

民。樂レ蘇。蔡沈註「故士師明ニ于刑之中。使レ

無ニ過不及之差。率ニ又于民。輔ニ其常性。所謂刑

罰之精華也。」

【柴凡】野杉ヲ以テ作リタル机。【晉書】王羲

之傳「嘗造ニ門生家。見ニ柴凡滑淨。因書レ之。眞

草相半。復其父誤刮ニ去之。門生驚惶累日。」

【比】(部首)(紙)

【比】(一)裁判已結ノ事例。正律ニ正條ナキ

トキハ之ニ依リテ推斷ス。後世ノ例即チ判決

例ニ當ル。【禮記】王制篇「必察ニ大小之比。以

成レ之。」鄭玄註「已行故事曰レ比。例也。」

【漢書】刑法志「其後查猾巧法。轉相比況。林同

漢書。律令凡三百五十九章。大辟四百九條。千

八百八十二事。決事比萬三千四百七十二事。文

書盈ニ於几閣。典者不レ能ニ編諸。是以郡國承用

者。駁或罪同而論異。姦吏因緣爲レ市。所レ欲レ

コトヲ謂フ。比ヲ受クル者ハ皆在官人役ニシ

テ名ヲ卯簿(官署ノ公務ハ卯ノ刻ヨリ始マ

リス。故ニ「卯比」ト曰フナリ。

【比附】事ノ律文ニ專條ナク、其事情ニ相近キ

モノヲ舉ゲテ比擬ヲ爲シ其事件ニ附スルコト

ヲ謂フ。是レ漢代ノ比附ニ始マル。【明律】清

律ノ如キハ皆卷末ニ比引律條ヲ附録トス。

【比部】魏尙書ニ比部曹アリ。晉之ニ因ル。

宋ハ比部法制ヲ主ル。北齊ニ及ビテハ詔書律

令勾檢等ノ事ヲ掌リ都部尙書ニ屬ス。隋ハ都

官ヲ改メテ刑部ト爲シ比部ヲ以テ之ニ屬シ文

帳ヲ勾稽シ百司給授ノ多寡ヲ周知スルコトヲ

掌ラシム。歷代之ニ因ル。明ニ及ビテ之ヲ廢

ス。

【比閭】周代ニ於テハ地方區劃ヲ定ムルニ、

戶籍ヲ以テ基礎ト爲シ、五家ヲ以テ比ト爲シ、

五比ヲ以テ閭ト爲シ、四閭ヲ以テ族ト爲シ、五

族ヲ以テ黨ト爲シ、五黨ヲ以テ州ト爲シ、五

【比周】比ハ小人ノ相親ムコトヲ謂ヒ、周ハ

君子ノ廣ク相親シムコトヲ謂フ。【論語】爲政

篇「君子周而不レ比。小人比而不レ周。」然レドモ

單ニ比周ト云フトキハ親厚ノ義ナリ。【左傳】

「頑而不レ友。是與比周。」

【比卯】期限ヲ立テ、官員ノ錢糧ヲ徵比スル

留備考。或有萬無不可引者。然後引用者。若

既有定例。則用レ例。不レ用レ律也。(清律卷二)

【比擬之際】法官ガ裁判ヲ爲スノ例ヲ對比

務ヲ管掌セシメタリ。(參照)

【比閭族黨】周代地方區劃ノ制ハ郊(近郊

百里)ノ内外ニ由リテ一國ヲ二大別シ郊内

ヲ郷ト爲シ郊外ヲ遂ト爲シ其數各六アリ。而

シテ其區劃ヲ編制スルニハ一ニ戶數ヲ以テ基

礎トス。五家ヲ比ト爲シ五比ヲ閭ト爲シ、四

閭ヲ族ト爲シ五族ヲ黨ト爲シ五黨ヲ州ト爲シ

五州ヲ郷ト爲ス。比ニハ比長アリ閭ニハ閭胥

アリ族ニハ族師アリ黨ニハ黨正アリ州ニハ州

長アリ郷ニハ郷大夫アリ各其管内ノ政令ヲ掌

ル。是レ郷ノ制ナリ。(周禮地官郷大夫)

【比閭鄰里】遂ノ制ハ(前條ト對)五家ヲ鄰

ト爲シ五鄰ヲ里ト爲シ四里ヲ贊ト爲シ五贊ヲ

鄰ト爲シ五鄰ヲ縣ト爲シ五縣ヲ遂ト爲ス。鄰

ニ鄰長アリ里ニ里宰アリ贊ニ贊長アリ縣ニ縣

師アリ縣ニ縣正アリ遂ニ遂人アリ各其管内ノ

政令ヲ掌ル。是レ郷ニ對シテ遂ノ制ナリ。

(周禮地官)

【疔】(部首) (紙韻)

【疔瘡】 疔ハ頭瘡、現代ノ所謂「禿頭病」俗ニ「瘡癩」ニ當ル。瘡ハ身瘡ナリ。【周禮】天官醫師、凡邦之有疾病者、疔瘡者造焉。註、疔、頭瘡。亦謂禿。身傷曰瘡。

【疲】(部首) (支韻)

【疲勳】 二字トモ「ツカル」ノ義、費用多端、獨力之ヲ辨ズ。疲レ苦シムコトヲ謂フ。【蘇軾】文、方營ニ新居。費用百端。獨力幹辦。尤爲二疲勳。

【疲癘】

漢代兵役ノ法ニ於テハ身長六尺ニ滿タザル者ハ採用セズ。六尺ニ滿タザルコト、二尺以下(即チ四)ノ者ヲ「疲癘」ト爲ス。後世ノ殘疾ニ當ル。「疾」ヲ見ヨ。「(二)勞瘁ノ疾、【史記】平原傳、臣不幸。有二疲癘之疾。【辭源】「疲癘老疾」ト解ス。蓋シ其正ヲ得ザルガ如シ。

【皮相】(部首) (支韻)

外貌ノミヲ觀テ輕ニ判斷スルコト

【史記】鄭生傳、足下以目皮相。恐失天下士。

【皮臟變價銀】 倒死セシ馬又ハ驢ノ皮及ビ厥ヲ價格ニ見積リタルモノヲ謂フ。(清會典) (戶部)

【皮張鬃尾】 皮張ハ六畜ノ皮、鬃ハ馬ノ立鬃、尾ハ馬牛ノ尾ナリ。官設牧場ニ於テ其養畜ノ死シタルトキハ直ニ之ヲ官ニ納メザルベカラズ。(明清律兵律院牧備牧) (養畜產不如法ノ條)

【碑】(部首) (支韻)

【碑碣】 石ニ文字ヲ鐫ミテ其來歴及ビ功德ヲ頌ス。方ナルヲ碑ト爲シ圓ナルヲ碣ト爲ス。唐代ニ於テハ五品以上ニハ碑ヲ立ツルコトヲ聽シ七品以上ニハ碣ヲ立ツルコトヲ聽セリ。(唐律卷二十七雜律) 蓋シ碑碣ハ無懷氏泰山ヲ封(祭ノ)シタルトキ石ニ刻ミテ功ヲ紀シタルニ始マルガ如キモ其名稱ハ秦漢ヨリ始マルガ如シ。碑ハ悲ノ義ニ取ル。【事物紀原】管子曰。無懷氏封泰山。刻石紀功。秦漢以來始謂之刻石曰碑。蓋因二喪禮豐碑之制也。(略) (陸龜

蒙叢目書曰。碑悲也。古者懸而窆。用木書之。以表其功德。因留之不忍去。碑之名。由是而得。自秦漢一以降。生有二功德政事者。亦碑之。而又易之。以石。失其稱矣。此又德政有碑之起也。陸法言廣韻曰。碑碣李斯造。疑始於罽山之刻。爾。釋名曰。本非時所設。臣子追述君父之功。以戴其上。也。(卷)【文心雕龍】自漢以來碑碣並起。才鋒所斷。莫不稱焉。然碑之起也。漢代ヨリ遠碑ノ風盛ニ起リシモノト知ルベシ。

【碑榜】 碑ハ石碑、榜ハ門榜即チ掛札ノ類ナリ。書家ヲ擇ビテ之ニ書セシムルヲ例トス。

【周書】藝術傳、道文深。少學二楷隸。雅有二鐘王之則。筆勢可觀。碑榜惟文深及龔儁而已。【宣和書譜】「米芾寸紙數字。人爭售之。以爲珍玩。至於請二求碑榜。戶外之履常滿。」

【碑版】 碑誌ノ類ヲ稱ス。【圖書見聞志】「柳公權壯二書學。不能治生。爲二勳戚家二書二碑版。云云。」

【秘】(部首) (眞韻)

【秘閣】 宋代書庫ノ名。【大學衍義補】「宋初有二書萬餘卷。其後則二平諸國。收其圖書。」(中)別爲二書庫。名曰「秘閣。」(卷九)

【秘書】

二義アリ。(一)ハ「秘密」ノ書ニシテ其類三アリ。(イ)圖書得難キモノヲ稱ス。歷朝秘書省ヲ置キテ之ヲ掌ラシム。(ロ)禁書ノ書ヲ稱ス。所謂「禁書」ノ類ナリ。(ハ)「秘要」ノ文書ヲ稱ス。魏書令ヲ置キテ之ヲ掌ラシム。清代、參政院各部外省各官署皆秘書長、秘書ノ官アルハ是ナリ。(二)ハ官名、其類亦二アリ。(イ)圖書ヲ掌ルノ官、漢以來ノ「秘書監、秘書郎」皆是ナリ。(ロ)「單」ニ文書ヲ掌ルノ官、各官廳ノ官房置ク所ノ秘書ノ如シ。

【秘書監】

(一)圖書ヲ掌ルノ官、漢代以來、秘書監、秘書郎アリ。隋ハ秘書省ヲ置キ監ヲ以テ長ト爲シ少監ヲ以テ次ト爲ス。唐宋之ニ因ル。唐ノ貞觀中ニハ魏徵、虞世南、顏師古等相繼テ秘書監タリ。元ハ秘書監ヲ以テ官廳ノ

名ト爲シ卿ヲ以テ長官ト爲シ、大監、少監、監丞等之ニ屬ス。明以後之ヲ置カズ。

【秘書省】 圖書ヲ掌ルノ官廳、漢桓帝ノ時、秘書監ヲ置キ禁中ノ圖書及ビ秘書ヲ掌ラシメ、魏武帝ノ時、秘書令ヲ置キテ尙書奏事ヲ典ラシム。文帝秘書ヲ分チテ中書ヲ立テ監、令ヲ置ク。而シテ別ニ他官ヲ以テ秘書監ヲ領セシム。晉ハ秘書寺アリ、中書ト相統攝セズ。梁ハ改メテ「秘書省」ト爲ス。隋ハ秘書ノ外、尙書、門下、內史、殿中ヲ以テ五省ト爲ス。唐ハ大體之ニ因ル。宋ハ秘書ヲ以テ「寄祿官」ト爲シタルガ後、崇書院ヲ易ヘテ秘書省ト爲シ、概シテ唐制ニ因ル。【事物紀原】漢藝文志曰。武帝建二藏書之府。置二寫書之官。天下文籍。悉在二天祿石渠園。廣內二祕室之書。故曰「祕書」。後漢有「蘭臺」。東觀漢記。李愼始置「祕書監」。而不以名。其省。至「梁」始曰「祕書省」也。唐六典曰。祕書省中外三閣。掌二圖書。古今文字皆在二禁中。宋朝神宗改二官制。易「崇書院」曰「祕書省」。復「唐制」

也。是レ其大要ヲ示ス。元ハ秘書監ト曰フ。明清此官ナシ。圖書ハ皆內府ニ藏ス。

【秘書丞】 漢獻帝秘書令丞二人ヲ置ク。魏文帝秘書ヲ分チテ別ニ書籍ヲ掌ラシム。自ラ丞一人ヲ置ク。是レ書籍ヲ掌ル專官ヲ置クノ始メナリ。或ハ曰ク、魏武帝之ヲ置クト。【事物紀原】「齊職儀曰。漢獻帝置二秘書令丞二人。魏文帝分二秘書二別掌二書籍。自置二丞一人。此蓋置レ官之始也。或曰魏武帝置也。」

【秘書郎】 後漢馬融秘書郎ト爲ル。是レ其官名ノ始メナリ。魏書令分チテ特ニ書籍ヲ掌ラシム。當時、秘書郎中ト稱シタルガ宋ニ及ビテ中字ヲ除キ、秘書郎ト爲ス。【事物紀原】「通典曰。後漢馬融爲二秘書郎。當ニ是其官自漢置也。職林曰。魏官也。初置二秘書郎。蓋中書之任。魏分二秘書一掌二書籍。爲二秘書郎中。宋除二中字。云云。」

【罷】(部首) (支韻)

【罷玩】 精力疲勞シ職務ヲ怠ルコトヲ謂フ。

怒スルヲ本則トス。【書經】呂刑篇「天齊于民。俾我一日。非終惟終。在レ人。爾尙敬述天命。以奉一人。云云。」(【書】部「恪終」)

【非背惟終】(【書】部「恪終」) 背ハ過失罪、終ハ再犯、支那法ハ背ハ宥恕シ、終ハ重ク刑スルヲ原則トス。非終惟背決ノ反ナリ。【書經】廉諸篇「王曰。嗚呼封。敬明ニ乃罰。人有二小罪。非背乃惟終。自作ニ不典。式爾。有二厥罪。小。乃不可レ不殺。乃有二大罪。非終。乃惟背災適爾。既道極ニ厥辜。時乃不可レ殺。」(【書】部「背災肆赦」ヲ見)

【非錢不行】(【錢】部「非背」) 官規ノ窳亂スルヤ、事ヲ爲サントスル者ハ當局者ニ賄賂ヲ贈ラザレバ目的ヲ達シ得ズトノ義ナリ。【朝野僉載】「鄭愔爲吏部侍郎。掌選。賦汚風藉。有二選人。繫二百錢於鞶帶上。借問。故。答曰。當今之選。非錢不行。惜歎而不言。」

【飛禍】意外ノ災禍ヲ曰フ。【後漢書】周榮傳「常勸二妻子。若卒遇二飛禍。無二殯殮。」

【飛酒】一ニ飛酒ニ作ル。其義ハ下解ノ通りナルガ其外自己ノ負擔スベキ賦役ノ義務ヲ他人ニ散移スルノ義ニモ用フ。【清律】戶律「戶役當賦役不均ノ條轉註。放レ富差。貧。是不差。富者。將二富者之差。皆飛酒於貧者也。」(【七】卷【六部成語註解】ハ「奸吏ガ或費目内ノ官金ヲ族」)

【飛灑詭寄】自己ノ土地ノ稅糧ヲ分チテ徵數ト爲シ之ヲ他人ノ土地稅糧中ニ加入スルヲ「飛灑」ト曰ヒ、自己ノ稅糧ヲ以テ詭寄テ他人ノ土地ノ稅糧中ニ加フルコトヲ「詭寄」ト曰フ。

【飛錢】唐憲宗ノ時商賈ノ京師ニ至ル者ニ對シ便宜上錢ヲ諸路ノ進奏院及ビ諸軍諸使富家ニ委託シ受託者ヨリ券ヲ領受シ輕裝ヲ以テ四方ニ趨キ券ヲ合シテ錢ヲ取ルコトヲ得シメタルモノ、即チ手形ノ一種ナリ。【唐書】食貨志「憲宗以三錢少。復禁用二銅器。時商賈至京師。一委二錢諸道進奏院及諸軍諸使富家。以二輕裝。一趨四方。合券乃取之。號二飛錢。明丘滂曰。此精法所以蘇而起也。然委二錢而合券以取。而錢與券二物。非若今之鈔。即以鈔爲錢而用之也。」(【大率衍義補】卷二十七)

【飛文】匿名ニシテ無根ノ說ヲ流布スル文書

【匹】一ニ匹ニ作ル。(二)布帛ノ數ヲ計ルノ名、昔時ハ四丈即チ四十尺ヲ一匹ト爲ス。【漢書】食貨志「布帛廣二尺二寸爲幅。長四丈爲匹。唐代ニハ賦罪(強盜盜其他)ハ總テ絹一匹ヲ時價ニ換算シテ之ヲ標準ト爲シ罪ノ輕重ヲ定ムルヲ法トス。例セバ【唐律】計レ賦一匹。答十。五匹。加二一。等。ノ類ナリ。(【唐律】卷二爲奴婢)【明律】及ビ【清律】之ニ因ル。(一)馬ハ一頭ヲ一匹ト曰フ。馬影ノ長四尺、故ニ匹字ヲ借用ス。(【正】)【三】單獨ノ者亦之ヲ匹ト謂フ。匹夫匹婦ノ如キ是ナリ。(【孟子】萬)【四】偶亦ハ配ノ義ニ用フ。匹敵、匹儔ノ如キ是ナリ。

【匹士】士ノコトヲ謂フ。【禮記】「匹士太牢而祭。謂二之撰。」疏「匹士。士也。言其微賤不レ得二

【匹庶】庶人ノコト、數ノ多キ義ニ取ル。【後漢書】祭祀志「皇天降二顯皇帝。以二匹庶。受レ命中。樂。」

【匹夫】一夫ト言フニ同ジ、亦庶人ノ意ニ用フ。【論語】子罕篇「豈若匹夫匹婦之爲也。」ト曰ヒ、疏ニ「匹夫匹婦。謂二庶人。」トアリ。蓋シ庶人ヲ謂フトアルハ士以上ハ正妻ノ外ニ妾ヲ娶ルヲ法トシタルモ庶人ハ一夫一婦ヲ原則トシタルニ因ルナリ。

【評】(【部】首) (【庚】) (【訓】)

【評價】物價ヲ評定スル義ナリ。(【評物價】) (【見】) (【見】)

【評議】公平ニ事ノ是非ヲ論議スルコトヲ謂フ。【魏書】「今宜依レ舊詔。百寮ニ評議。」トアルハ其一例ナリ。

【評決】罪科ヲ評議シテ決定スルノ義ナリ。

【評事】漢代ニハ廷尉平ヲ置キ刑獄ヲ平決セ

【評品】人品ノ高下ヲ公平ニ評論スルコトヲ謂フ。【元史】寶賦傳「平居未嘗評二品人物。」ト云。與久居。溫然儒者也。」

【評物】猶ホ估物ト言フガ如ク市場ノ物價ヲ評定スルコトヲ謂フ。【唐律釋文】「上書平。猶二估物也。」(【卷二】) (【十六】)

【評物價】(【物價】) 評ハ公平ニシテ公平ニ物ノ眞價ヲ議スルノ義アリ。唐代ニ於テハ專官(【市司】)ヲ置キ公私市場ノ物價ヲ評定スルコトヲ掌ラシム。【唐律】雜律篇「市司評物價。ノ條。市司評二物價。不レ平者。計レ所二貴賤。坐レ贓論。」(【卷二】) (【十六】)

【百】(【部】首) (【陌】) (【韻】)

【百揆】諸政ヲ揆スルノ義、堯舜時代ニ於ケ

ル宰相ノ稱ナリ。堯初メ舜ヲ擧ゲテ百揆ニ納レ、舜帝位ニ即クヤ禹ヲシテ百揆ノ事ヲ兼掌セシメタルハ其實例ナリ。(尙書堯例セバ「書經」舜典「舜曰。咨四岳。有能奮庸熙帝之載。使シ宅ニ百揆。亮采惠疇。兪曰。伯禹作三司。空云云。)

【百揆四岳】百揆ハ百官ノ長ニシテ内百官ヲ統ブ。(前註ヲ)四岳ハ諸侯ノ監督官ニシテ外州牧ヲ統ブ。「書經」周官篇「内有百揆四岳。外有二州牧侯伯云云。要スルニ百揆ハ首相ニシテ四岳ハ今ノ内務大臣ニ當ル。

【百貨統稅】清制、百貨釐金ニ對シ、貨物ノ生産地若クバ到着地ニ於テ課稅スルモノヲ曰フ。普通釐金ノ如ク中間ノ局カニ於テ稅ヲ課セズ。中間ニ於テハ只ダ證明書ヲ檢査スルニ止メ其課稅ヲ一所ニ統ベテ徵收スルガ故ニ此名アリ。(清國行政法卷六)

【百貨釐金】釐金(リシノ部)ハ百般ノ貨物ヲ治ムルノ命、大任ヲ宣義ス。【論語】秦伯當「可ヨ以寄ニ百里之命。」

【百六會】凡ソ一百六年毎ニ厄歲アリト稱ス。故ニ厄歲ニ會フコトヲ「百六會」ト曰フ。「漢書」谷永傳「遭ニ无妄之卦。運直ニ百六之災厄。」

【冰翁】(部首) (韻) 妻ノ父ヲ謂フ。「晉書」衛玠傳「婦公冰清。女壻玉潤」ノ語ニ取ル。(游宦)「一ニ、冰叟」トモ稱ス。(蘇軾)

【冰敬】不正官吏ガ彈劾權ヲ有スル上官ノ庇護ヲ求メンガ爲メニ贈ル賄賂ナリ。夏季ニ贈ルヲ「冰敬」ト曰ヒ、冬季ニ贈ルヲ「炭敬」ト曰フ。(清國行政法第一卷)

【冰蠶】「拾遺記」員嶠山中ニ冰蠶ヲ産ス。長七寸、藍色、鱗角アリ、霜雪之ヲ覆ヒテ始メテ繭ヲ成ス。色五彩ナリ。織リテ文錦ヲ爲ル。水ニ入レテ濡ハズ火ニ投ジテ燉ケズ。云云。

ニ對シ其運搬中途ノ局カニ於テ貨物ノ價格ニ應ジテ一定ノ稅銀ヲ賦課スルモノ、故ニ之ヲ「百貨釐金」ト謂フ(上)

【百工】元之ヲ置ク、術所ノ官ナリ。兵百人ヲ掌ル。明之ニ因ル。其官ト兵トハ世襲スル者多シ。(一)民生日用ノ器具ヲ作成スル職人ノ稱、【周禮】考工記「國有ニ六職。百工與居レ一焉。(中)審ニ曲而執。以飭ニ五材。以辨ニ民器。謂ニ之百工云云。又同書大宰「以九職一任萬民。(中)五日。百工飭ニ化八材。丘濟曰ク「工而謂ニ之百。不止ニ一工也。」(大學衍義)「(二)衆官ノ義ナリ。【書經】「允釐百工。」

【百司】百官ト云フニ同ジキモ凡ソ司ト云フハ專官ノ義、有司ノ司ト同様ナリ。【書經】立政篇「百司庶府云云。」

【百城】禮書ニ富ム者ヲ謂フ。一ニ、「坐擁百城」トモ曰フ。【北史】「李謐言。大夫擁ニ書萬卷。何假南ニ百城。」

【冰蠶絲】「樂府雜錄」「康老子老龜ノ錦褥ヲ持チテ貨賣スルニ遇フ。即チ半千ヲ以テ之ヲ獲。波斯人見テ曰ク此レ冰蠶絲ニテ織ル所、暑月座ニ置ケバ滿室冰涼ナリト。」(同書)「杜陽雜編」ニモ、元和八年大軫神錦義ヲ貢ス。冰蠶絲ニテ織ル所ナリ。方二尺、厚一寸、其上ニ龍紋鳳彩アリ。殆ド人工ニ非ズ。亦之ヲ「靈泉絲」ト謂フ。水ニ遇ヘバ即チ舒ビ火ニ遇ヘバ則チ縮マル。上水ヲ以テ一タビ噴スレバ即チ方二丈、五色煥爛トシテ往時ニ逾ルト云フ。(同書)

【冰人】謀約人ノコトヲ謂フ。「晉書」索紞傳「令狐策夢テ立ニ冰上ニ與ニ冰下人ニ語。紞曰。冰上爲陽。冰下爲陰。陰陽事也。君在ニ冰上。與ニ冰下人ニ語。爲ニ陽語陰。謀介事也。君當ニ爲レ人作謀。」

【冰叟】(部首) (韻) 妻ノ父ノ稱ナリ。

【百乘】周制、大夫ノ領地ハ方十里ニシテ兵車百乘ヲ出ダス。故ニ大夫ヲ百乘ノ家ト稱ス。【孟子】梁惠王篇「千乘之國。賦ニ其君一者。必百乘之家。」(詳細ハ「ハノ部」)【大學】「百乘之家不レ畜ニ聚斂之臣。」

【百孫院】唐玄宗ノ諸子同ジク大宅ヲ爲リ又百孫院ヲ置キ禁中ニ維城庫ヲ置キテ諸子ニ月俸ヲ給ス。(錦字箋)

【百畝之田】周制、一家受クル所ノ土地面積「增補四書人物考」金仁山曰。古者六尺爲レ步。步百爲レ畝。一夫一婦。受ニ四百畝。又受ニ田廬之地ニ畝半。邑居ニ畝半。田以ニ九百畝。爲ニ一井。八面皆百畝。八家受レ之。内一百畝爲ニ公田。又有ニ公田之内除ニ二十畝。爲ニ廬舍。八家則每家得ニ二畝半。邑屋所レ受。亦如レ之。云云。(卷八)

【百里之命】(一)地方百里ハ周制諸侯國ノ面積、命ハ君ノ命令、即チ君命ヲ承ケテ諸侯國其註、今文焉

【冰厨】夏日屋内飲食スル處ヲ謂フ。(越絶) 品(部首) (韻) 猶ホ法度ト言フガ如シ。【唐律】名例篇「大則亂ニ其區字。小則廢ニ其品式。」其註「漢宣紀贊。樞機周密。品式具備。品式。猶言ニ法度一也。」(卷一)

【品秩】品ハ一品二品ノ品、我邦ノ一位二位ノ位ニ當ル。秩ハ秩祿即チ俸給ナリ。【事物紀原】「自ニ太昊以レ龍紀ロ官。唐虞建レ官惟百。未レ分ニ品秩。周官以ニ九儀ニ正ニ邦國。自ニ一命ニ至ニ九命。漢自ニ中二千石。止ニ二百石。一皆有。北魏文帝延康元年陳羣立ニ九品官人ノ法。後魏文有ニ從品。孝武自ニ四品ニ已下每品爲レ階。北齊九品各分ニ正從。則品秩之原。肇ニ於魏陳羣一也。」(四)

【殯】(部首) (韻) 周制、大夫、士、庶人死スルヤ三日ニ

シテ其ノ屍ヲ棺ニ入レ(棺ニ入レ)ル前ノ禮)次ニ置キテ之ヲ塗ル。之ヲ殯(假葬)ト謂フ。後世ハ此禮ナシ。死後三日大斂ノ後棺ニ入レル之ヲ殯ト爲ス。【禮記】王制篇「大夫。士。庶人。三日而殯三月而葬。丘濬ノ註「古者置棺于坎。而塗之。謂之殯。後世無所謂塗之者。三日大斂之後。入棺謂之殯。殯ハ屍ヲ實ニスルノ義ニ取ル。

【殯殮】屍ヲ假葬ス之ヲ「殯」ト曰ヒ、服ヲ著タル之ヲ「小殮」ト曰ヒ、棺ニ入レル之ヲ「大殮」ト謂フ。(唐律釋文)

【緇】(部首) (韻) 眞(元) 糸ノ部。又、先。

【緇】 錢ノ賈、(錢ヲ賈ク) 絲ヲ以テ作ル。【前漢書】武帝紀「初算緇錢。其註「緇、絲也。以賈錢也。」

【緇錢】 絲ニ賈キタル錢、(前條ヲ) 一釐ヲ單位トス。【蘇軾文】「均輸立法之初。其說尙淺。(中) 然而廣置官屬。多出緇錢。」(大學衍義 補卷二十五)

貧 (部首) (韻) 眞

【貧子院】 貧民ヲ救療スル病院、唐代ニ始マル。一ニ「悲田院」又ハ「養病院」トモ曰フ。概シテ僧寺ニ附設ス。宋代ハ一ニ「福田院」トモ稱ス。【事物紀原】「事始曰。開元二十四年。斷京城乞兒。官置病坊。給糜食。亦爲「悲田院」。或曰「養病院」。記レ之爲「其所始」。按唐會要曰。開元五年宋曠奏。悲田院變病。從長安以來。置使專知。所稱悲田。乃開元釋教。此是僧尼職掌。至二十三年。乃分置於諸寺。推長安中初置使之文。則知其前有一矣。而事始所記乃給糜食。所始謂「故事之起於此」。非也。宋朝又因之。以「僧院」名「福田」。今亦曰「悲田」也。(七)

【貧道】 (一) 晉宋ノ間佛教初メテ行ハル日猶ホ淺ク、宋ダ僧稱アラズ、通シテ「道人」ト曰ヒ自ラ稱シテ「貧道」ト曰ヘリ。(石林) 今ハ道士自ラ貧道ト稱ス。又(二) 貧乏道樂ノ義ニ使用也。(七)

八十。(明律卷二十六) 清律卷三十二

【不應爲官】 (應ニ官ト爲) 罪證ニ因リテ免職セラレタル者ハ一定ノ年限ヲ經由スルニアラザレバ任用スルコトヲ得ズ、例セバ除名(本文ヲ) セラレタル者ハ六年、免官ノ者ハ三年、免所居官者(本文ヲ) ハ八年即チ一年ヲ經過シタル後ニアラザレバ任用ヲ聽ヤズ。即チ其年限未滿ノ者ヲ「不應爲官」ト謂フ。(唐律卷人官ノ條疏議)

【不應禁】 (應ニ禁ズ) 監禁スベカラザルノ義、法官ガ監禁スベカラザル者ヲ監禁シタル場合ヲ指ス【明律】「清律」斷獄篇「囚應禁而不禁」ノ條、其不應禁而禁。及不應枷鎖而枷鎖者。各杖六十。(明律卷二十四)

【不應得爲】 (應ニ爲スコト) 律令ニ於テ禁止ノ明文ナキモ推理上爲スベカラザル事ヲ指シテ「不應得爲」ト謂フ。【唐律】雜律篇「不應得爲」ノ條「不應得爲。而爲レ之者。答四十。事

スルノ例アリ。(世)

【貧富相耀】 貧富相和セズ、兩者互ニ外面ヲ衝フニ至ルノ謂、漢武帝ノ時、嚴安上書シテ曰ク「上 臣願爲民制度。以防其淫。使貧富不三相耀。以和其心。」云云。(大學衍義補 卷八十二)

【貧民教養院】 老幼癡疾者等自存スルコト能ハザル者ヲ收容スル處ニシテ、京師内城ニ在リ。其傍ニ瘋人院一處ヲ附設シ、瘋疾者ヲ收容セシメタリ。是レ清末ノ創設ニ係ル。今存スルヤ否ヤハ明ナラズ。

【貧民習藝所】 貧民ヲ收容シテ手藝ヲ練習セシムル所ニシテ、奉天省城ニ在リ、十三歲以上四十歲以下ノ貧民三百名ヲ以テ定員トセリ。(宣統元年二月二十四日政治官報)

【頻犯】 (部首) (韻) 眞(元) 頁ノ部。又、先。

【頻犯】 二箇以上同一ノ罪ヲ同日亦ハ同時ニ犯スコトヲ謂フ。例セバ一日中ニ三處ニ於テ收賄シ、或ハ三人ヨリ同時ニ收賄シタル等ノ類ナリ。此場合ハ累計シテ其罪ヲ科ス。【唐律】

理重者杖八十。(卷二十七)

【不應律】 法律ニ正條ナク、罪名不明ナル犯罪ニ對シテ、適用スル司法處分ヲ謂フ。蓋シ、不應、重若クハ不應爲罪等ノ義、即チ人命飲恤ノ法意ニ出ツ。故ニ本律ハ殺人罪ノ如キ重犯ニハ適用セズ。重犯ニ對シテハ「唐、明、清律」共ニ「斷罪無正條」ノ規定ヲ適用ス。不應律ノ意義ニ就キテハ「大清律例」ノ輯註「律於二重大罪犯。莫レ不詳備。而細小事理。不能窮盡人情。各立一法。恐因律無正條。而附會隨斷。輕則縱奸。重則傷和。致三太過不及。故補此不應。得爲一律。云云。即チ大罪ニ就キテハ法律ノ規定詳備セルモ、細小ノ事件ニ就キテハ、盡ク之ヲ網羅スルコトヲ得ズ。是ガ爲ニ法官私情ヲ弄スルノ弊アルガ故ニ、不應重ヲ原則トシテ、條理判斷ヲ聽シタルナリ。【六部成語註解】「除殺人等案之外。凡一切雖レ以二名稱一之罪。概名レ之曰「不應」。【不拘此律】 (拘ラズ) 軍事上其他臨機ノ處

名例篇「二罪從重」ノ條「即以レ賊致罪。頻犯者。並累科」其疏議「假有受レ所ニ監聽。一日之中三處受二緇一十八匹。或三人共出二十八匹。同時發者。各倍爲二九匹。而斷。此名ニ以レ賊確レ罪。頻犯者累科。(六)

【頻煩】 頻繁ト相通ズ。屢次ト云フニ同ジ。【三國志】「頻煩至矣。」

ふ (フ) ノ 部

不 (部首) (韻) 有、尤 (又) 物、月

【不爲奴】 (奴ト爲) 【周禮】ノ制ニ於テハ(一) 有爵者(二) 七十者(三) 未亂者(齒未ダ替ラハ罪ヲ犯スト雖モ奴ト爲スコトヲ免ズ。之ヲ「不爲奴」ト謂フ。(亂者「未」)

【不應爲】 法令ニ於テハ禁止ノ明文ナキモ推理ニ於テ爲スベカラザル行爲ヲ謂フ。【明律】「清律」雜律篇「不應爲」ノ條アリ。同文ヲ以テ「凡不應得爲。而爲レ之者。答四十。事理重者。杖

置ヲ爲スベキ事件ハ常律ノ規定ニ拘泥スルヲ要セズトノ意、即チ此限ニ在ラズト言フニ同ジ。【唐律】擅興爲「征人稽留」ノ條、略、若用捨從、權、不拘此律。トアルハ其一例ナリ。

【不孝流】

十惡ノ一タル不孝罪ニ照シテ流刑ニ處スルコトヲ謂フ。【唐律】名例篇、應議請減、ノ條疏議、不孝流。謂、聞ニ父母喪、匿不舉、哀流。云云。(二)卷十

【不合衆心】

漢制、大官ノ行動、衆心ニ適合セザルノ義、免職ニ處セラル。【漢書】外戚恩澤侯表、高安侯董賢。元壽二年。坐、爲大司馬。不合衆心。免。自殺。同書、何武傳、哀帝亦欲改易大臣。遂策免武。曰。君舉錯煩苛。不令合衆心。

【不干礙人】

無干繫人(無關係)ト言フニ同ジ。【明律】刑律、斷獄篇、史典代寫招草ノ條、若犯人果不讓學。許令不

干礙人代寫。(明律卷二十八) 清律卷三十五

【不簡】

簡字ナラザルノ義ナリ。(五)辭簡

【不刊之制】

不刊ハ磨滅セザルノ義、永遠不朽ヲ意義ス。【唐律】戶婚篇、有妻更娶ノ條疏議、一夫一婦。不刊之制。有妻更娶。本不成。妻。一三。蓋シ、一夫一婦ハ支那婚姻法ノ原則、已ニ婚禮ヲ行ヒ夫婦ト爲リタル以上ハ僧老同穴ヲ本義トスルノ謂ナリ。

【不軌】

邪道ヲ以テ人ヲ害スルノ義ニ用フ。即チ軌道ヲ脫スルノ行爲ナリ。(三)見ヨ

【不享】

享ハ朝享、即チ朝廷へ來享ノ禮ヲ缺グコトヲ謂フ。【史記】五帝紀、習用干戈。以征不享。

【不舉樂】

周代婚ヲ娶リタル家ハ三日間音樂ヲ舉ゲザルヲ禮トス。是レ男女室家ヲ成スハ父母ニ代リテ一家ノ責任ヲ負フノ端ニシテ父母ノ隱退近キニ在ルヲ以テナリ。(禮記會子問篇)

【不飲其祀】

宗廟ノ祭ハ其血統ノ子孫之ヲ行フヲ法トシ、其血統ニアラズシテ祭ルハ諛ト爲ス。鬼神其祭ヲ納レズ。之ヲ不飲其祀ト謂フ。【左傳】上、齊武子不曰。鬼神非其族類。不飲其祀。云云。

【不俱戴天】

俱ニ天ヲ(戴カズ) 周代禮教盛ニシテ士氣壯ナルトキハ臣子タル者ハ君父ノ爲メニ替テ復スルヲ以テ男子ノ美事トセリ。此語ハ必ズ復讐ノ舉ニ出デ仇敵ト共ニ天地ヲ同ジクシテ生存ヲ共ニセズトノ義ナリ。但シ、此レハ父ノ復讐ヲ主トス。君ニモ君ノ子アリ。臣タル者ハ之ヲ輔佐シテ其目的ヲ達セシムルヲ分トス。【禮記】曲禮篇、父之讐。弗與共戴天。云云。(戴天ニテ見ヨ) 是レ其出所ナリ。

【不會】

漢制、大臣列侯應ニ出席スベキ會場、即チ朝廷ノ賀筵等ニ出席セザルトキハ「不會罪」ニ問ハレ其官職ヲ免ゼラル。【漢書】王子侯表、建成侯拾。元鼎二年。坐。十月不會。免。註、師古曰。時以十月二爲歲首。有

賀。而不及會也。【唐律】ハ應ニ集會スベクシテ至ラザル者ハ笞五十ニ處ス。(唐制)

【不敬】

漢制、人ノ臣タル者、君主ニ對シテ禮ヲ虧キ節ヲ廢スルヲ謂フ。【晉書】刑法志「引張斐律表曰。虧禮廢節。謂之「不敬」。【漢書】灌夫傳、勸灌夫罵。坐不敬。繫居室。師古曰。於大坐中罵。爲不敬。ノ條參照。

【不穀】

不善ノ義、(一)四夷ノ君長自稱ノ號詞、【禮記】其在東夷北狄西戎南蠻。雖大曰天子。於內自稱曰不穀。(二)王侯自ラ賤スルノ稱、【左傳】王使來告。雖曰不穀不德。天子凶服降名禮也。【老子】侯王自稱孤寡不穀。

【不茹於市】

市ニ茹(市ニ粥) 法度及ビ理宜ニ反スル器物並ニ食物ハ市ニ茹クコトヲ得ザルノ謂ナリ。【禮記】王制篇、用器不中禮度。不茹於市。兵車不中禮度。不茹於中。布帛精麤不中禮數。幅廣狹不中禮量。不茹於市。姦色亂

正色。不茹於市。五穀不熟。果實未熟。不茹於市。木不中伐。不茹於市。禽獸魚鼈不中殺。不茹於市。

【不實不盡】

己レノ犯シタル罪ヲ自首スル者ハ事實ノ全部ヲ陳述スルヲ要ス。虛偽ノ陳述ヲ爲スヲ「不實」と曰ヒ、全部ヲ陳述セザルヲ「不盡」と曰フ。新ニ其罪ヲ構成ス。之ヲ「不實不盡之罪」と謂フ。(唐律卷五海律卷四名例篇)

【不准首】

自首スルコトヲ准サザルノ謂ナリ。(八)部、犯姦及殺

【不署紙尾】

紙尾ニ(署セズ) 典書セザルノ義、即チ保障ヲ避クルノ謂ナリ。【錦字箋】「宋蔡廓通史書之徐漢之謂傳亮曰。黃門以下。悉委蔡。已上固宜共參。同異。廓聞之曰。我不能下爲徐漢之署。紙尾。遂辭不拜。(同書)

【不如法】

法ノ如ク(クセズ) (一)凡テ一定ノ法例ニ依ラザル行爲ヲ「不如法」と謂フ。【唐律】斷獄篇、決罰不如法ノ條、決罪不如法者。管三

十(中)即杖編細長短。不如法者。罪亦如之。(十九)(二)國家法度ヲ設立ス、一事一物皆一定ノ方式アリ。然モ之ヲ遵守セズ自己ノ私意ヲ以テ事ヲ行フコトヲ謂フ。(一)於於不如法。

【不正決】

法官ガ八議者(八議ノ部)ノ罪ヲ議シテ奏請スルトキハ律文ニ照シテ刑ノ適用ヲ擬定スルモ之ニ科スル刑ヲ確言セザルヲ法トス。之ヲ「不正決」と謂フ。例ハ死罪犯ニ在リテモ單ニ律ニ依リテ死ニ當スト云フニ止マリ較ニ處スベキカ斬ニ處スベキカノ區別ヲ明ニセザル如キヲ謂フ。【唐律】名例篇、八議者ノ條註、稱「定刑之律。而不正決之」。疏議、稱「定刑之律。而不正決之者。謂「奏狀之内。惟云准犯依律合死。不取正言校斬。故不正決之」。(二)卷十

【不積缺】

毎月官吏ヲ補任スルコトヲ「月選」と曰ヒ、其場合ニ在職年限ヲ積算スル者ヲ「積缺」と曰ヒ積算セザル者ヲ「不積缺」と曰

フ。即選者、排選者、生選者ハ皆之ニ屬ス。但シ抵選者ハ仍ホ其原班ヲ以テ積算ス。【嘉慶會典】吏部ノ附例、毎月所選之缺。(中)即選者、排選者、生選者、皆不ニ積算、仍以ニ原班ニ積算。要スルニ不積算ハ在職年限ニ拘ハラズ選任スルモノニ屬ス。

【不息燭】周代ハ女ヲ出嫁セシメタル家ハ三日間燭ヲ息メザルヲ例トセリ。是レ相離ル、ヲ思ヒ、又其前途ヲ憂ヒテ安眠セザルノ情ヲ表スルナリ。(禮記會子問)

【不逮】意、及バザルノ義、犯罪ヲ構成セズ。【大學衍義補】丘濬曰ク、欲ニ羅ニ元元之不逮者、所謂不逮者、解者謂不逮。言ニ意、讓所不及也。云云。(卷百)

【不道】道理ニ背キ區道ニ反スルノ罪、刑律十惡ノ一ナリ。(惡レノ部、十)【漢書】王商傳「左將軍丹奏、商執左道、以亂政、爲臣罔上不道。同書、嚴延年傳、坐怨望非訪政治、不道。案市。【晉書】刑法志、張斐表曰、逆レ節絶レ

理。謂之之「不道」。

【不庭】庭ハ廷ニ通ズ。來朝セザルコトヲ謂フ。【詩經】大雅韓奕篇、韓不庭方。以佐戎辟。【左傳】隱公十一年、以王命討不庭。一ニ「弗庭」ニ作ル。【書經】周官篇、惟周公攝萬邦。巡三侯田、四征「弗庭」。殷「厥兆民」。

【不逞】(一)志望ヲ達ウセザルコト、故ニ輕キハ不逞足ノ義ニ用キラル、モ(二)重キハ不平ノ徒、進ミテ亂民ノ義ト爲ス。【左傳】十一年「鬼神實不逞于許君」。前者ノ一例又同書、「故五族聚、鄆不逞之人。因公子之徒、以作亂。【唐律釋文】謂行惡逆之心也。後者ノ一例ナリ。

【不引】(引ヲ引)引ハ營業ノ免許證札、即チ「鹽引」茶引ノ如シ。然レドモ引引ノ引ハ輸送貨物ノ證明書(官ヨリ)ノ義、引ハ懸ケルノ義、即チ客商ガ貨物ヲ運ビテ關門ニ入ルトキハ其證明書ヲ關門ニ懸ケテ關吏ノ閱ニ供ス。今ノ「貨提單」ニ當ル。其手續ヲ爲サマル

ヲ「不引」ト曰フ。【明律】清律「戶律課程篇」「課稅」ノ條、入門不引引。同「課稅法」。(律卷八清律)

【不同居繼父】(サレノ部、三父)【八母」ヲ見ヨ】

【不憶仔】外港ニ碇泊スル遠洋航行船舶貨物積卸ニ從事スル大形ノ船ヲ謂フ。(海關私法)【不入八分】清制、宗室ノ封爵ハ十四等アリ。(一)和碩親王(二)世子(三)多羅郡王(四)長子(五)多羅貝勒(六)固山貝子(七)奉恩鎮國公(八)奉恩輔國公ノ八爵ヲ以テ八分ト爲シ、以下六爵ヲ不入八分ト爲ス。即チ(一)不入八分鎮國公(二)不入八分輔國公(三)一、二、三等鎮國將軍(四)一、二、三等輔國將軍(五)一、二、三等奉國將軍(六)奉恩將軍是ナリ。

【不豫】國君病アルヲ「不豫」ト曰フ。【孟子】梁惠王篇「吾王不豫。吾何以助。一、二、弗豫」ニ作ル。【書經】金縢篇「王有病弗豫」。【音義】「天子病アルヲ「不豫」ト曰フ。諸侯病アルヲ「不

惡ト曰ヒ大夫ヲ「犬馬」ト曰ヒ士ヲ「負薪」ト曰フト記ス。

【不與百姓爭利】(百姓ト利)王道ハ民ヲ安ンズルヲ以テ要義トス。政府ガ濫ニ有利ノ事業ヲ官營ト爲シ、民ノ營業ヲ禁ズルハ霸道ノ事ニ屬ス。【禮記】王制篇、天子不レ言「有無」。諸侯不レ言「多少」。食祿之家。不レ與「百姓」爭利。即チ一定ノ官祿ヲ食ム者ハ營利ノ事業ヲ爲シテ民ト利ヲ爭ハザルヲ本義ト爲ス。

【不用此律】(此律ヲ)或ル犯罪ニ對シテハ此法ノ規定ヲ適用セズトノ謂、例セバ「十惡」ノ如キ重罪犯ニハ刑律名例篇ノ「議者」即チ八議者ノ宥恕法ヲ用キザルノ類ナリ。【唐律】名例篇「議者」ノ條、流罪以上減三一等。其犯二十惡者。不レ用「此律」。

【不留獄】(獄ニ留)メシノ部「明償」用刑ヲ見ヨ】

【不祿】(一)士ノ死ヲ「不祿」ト曰フ。士ハ俸祿ヲ食ムノ義務ニ報フルヲ要義トス。不祿トハ其義務ヲ全ウセズシテ死スルノ謂ナリ。【禮

記曲禮篇「士曰不祿。【白虎通】「士曰不祿。失其忠節。不忠終君之祿。祿爲言消也。自消名彰」。(二)大夫ノ早死ヲ曰フ。【禮記】曲禮篇「壽考曰卒。短折曰不祿」。(三)諸侯死ヲ他國ニ告グルノ謂ナリ。【禮記】曲禮篇「君計他國之君。寡君不祿。政告ニ於執事」。

【不枉法】法官ガ被告人又ハ被告人ノ親族等ヨリ收賄シテ法ヲ枉ゲ其罪ヲ減免スルヲ「枉法」ト曰ヒ收賄スルモ法ヲ枉ゲザルヲ「不枉法」ト曰フ。【唐律】名例篇「姦盜略人受財」ノ條「受財而不枉法。是レ其用例ナリ」。(卷三)

【不枉法賊】法官ガ被告人若クハ被告人ノ親族等ヨリ收賄ヲ爲シ、而モ敢テ法ヲ枉ゲザルトキハ「不枉法賊」ノ罪ヲ構成ス。(「正賊」ヲ見)

付(部首) (遇) (訓)

【付勘完備】吏部ニ於テ官吏ノ成績ヲ調査スルトキ各官吏ヨリ由帖(本條ヲ)吏部ニ提

出シ吏部其下司タル考功司ノ勘査ニ付シ五日以内ニ審査ヲ爲シ、之ヲ完了セシムルコトヲ謂フ。【明律】吏部職制篇「官吏給由」ノ條、凡各衙門官吏。給由到吏部。限五日。付勘完備。同書卷二、復律(明律國字解參照)

【付丙】(丙ニ)丙ハ火ノ義、火中ニ投ズルコトヲ謂フ。故ニ近來秘密ヲ要スル書類ニハ其結尾ニ「付諸丙」又ハ「付諸丙丁」ノ字ヲ附記スルヲ例トス。

傳(部首) (遇) (訓)

【傳】三公ノ一、大傳ノ略ナリ(サレノ部、三)又三孤ノ一、小傳ノ略ナリ。(孤」ヲ見ヨ)【傳御】國王ヲ輔ケテ政事ヲ掌スル者、即チ家宰ナリ。【詩經】大雅「王命「傳御」。【傳會】附會ト同義ナリ。【漢書】「難レ不好レ學。亦善傳會」。(附會」ヲ見ヨ)

【傳生議】(生議ヲ)法官ガ收賄ニ因リテ死罪